

独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告  
第3冊

# 旧練兵場遺跡Ⅲ

第一分冊

2013.2

香 川 県 教 育 委 員 会  
独立行政法人国立病院機構善通寺病院



S区全景 北から



G・H区 全景 南から



U・W区 全景 北から



O・P区 全景 西から



U区 SH5011 全景 東から



I-4区 SH4002・4003・4007 全景 南西から



II区 全景 西から



Ⅱ - 3区 全景 西から



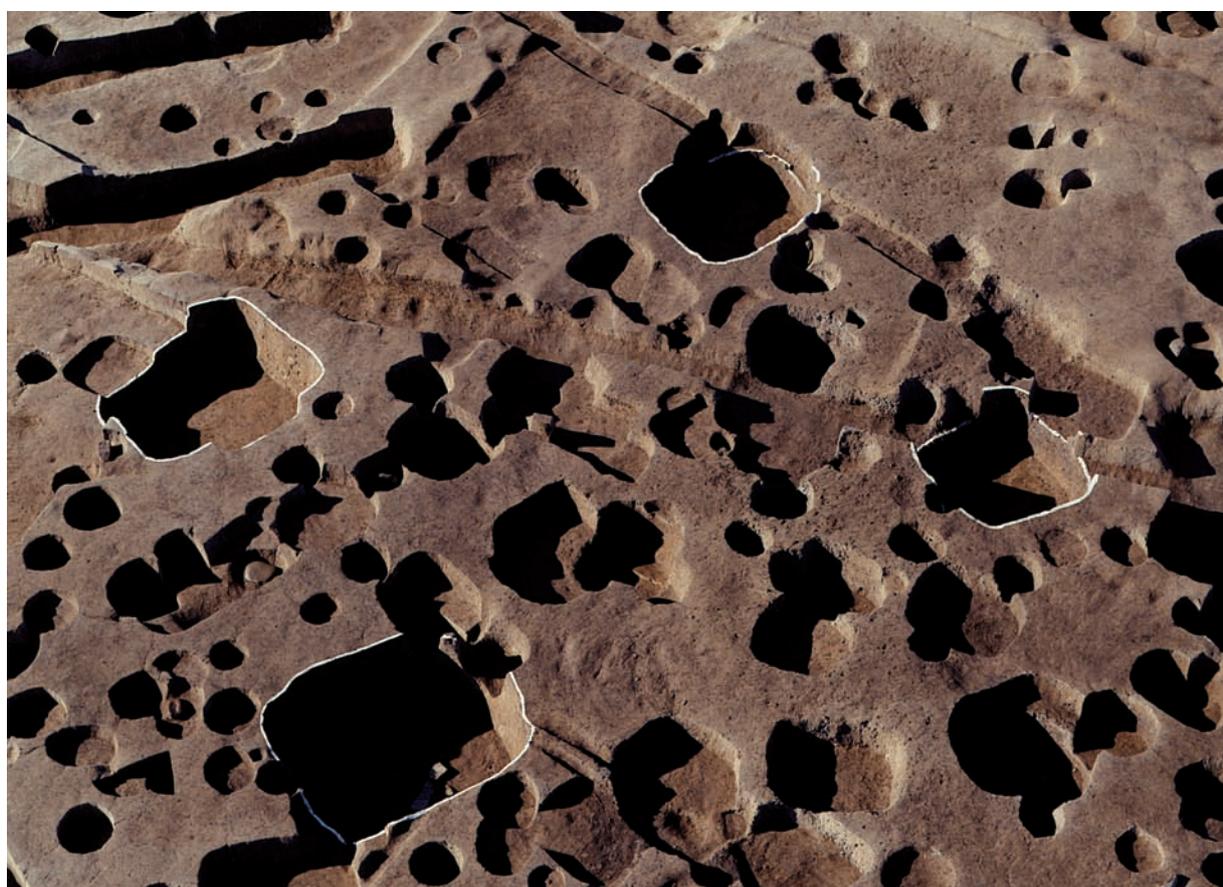
Ⅱ - 3区 竪穴住居群 全景 南から



Ⅰ - 4区 SB4001 全景 北から



Ⅱ - 1 区 弥生中期 掘立柱建物群 全景 南から



Ⅱ - 1 区 SB1004 全景 南から



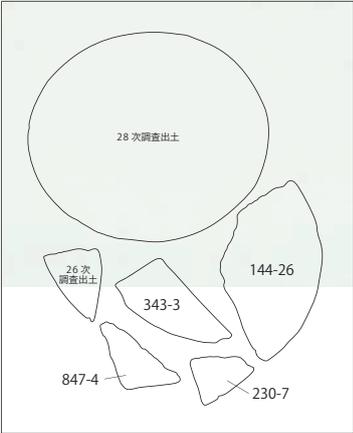
勾玉 (弥生時代)



管玉・ガラス小玉（弥生時代）



扁平紐式 銅鐸 (片)



舶載鏡(片)・仿製鏡(片)



銅鏃・小銅鐸・鏡(片)



滑石製模造品



琀玉・管玉・勾玉・白玉（古墳時代）



焼成破裂土器・土器片（弥生時代中期後半）



焼成破裂土器・土器片（弥生時代～古墳時代前期）



旧練兵場遺跡を中心とした丸亀平野南西部の備中西部・備後系土器



搬入土器（弥生時代後期）



内面朱付着土器（弥生時代後期）



サヌカイト板状素材



石棒



製塩土器（古墳時代前期～後期前葉）



製塩土器（古墳時代後期後葉～飛鳥時代）



鞆羽口（古墳時代後期後葉～飛鳥時代）

# 序 文

本書に報告する発掘調査は、「独立行政法人国立病院機構善通寺病院」統合事業に伴うもので、旧練兵場遺跡の中でも西側の部分です。平成8年度より開始し約9年の期間を要した旧練兵場遺跡調査の総面積は約27,000㎡、出土遺物はコンテナ約10,000箱に及び、本書はその第3冊目の発掘調査報告書となります。

今回の報告する箇所の発掘調査では、縄文時代後期から中世にわたり密集する数多くの遺構と遺物を確認しました。中でも弥生時代中期から古墳時代前期、古墳時代後期から古代にかけての集落構成やその機能を明らかにする貴重な成果を挙げることができました。弥生時代中期から古墳時代前期の集落は、西日本でも屈指の大規模なものであり、鏡や銅鏃などの青銅器や様々な地域から搬入された土器などは、人とモノが参集した交易の結節点としての集落の機能を物語っています。また、集落の継続期間が弥生時代から古墳時代への変成期にあたり、本書で収録した大規模集落の構造と変遷は当時の社会構成を復元する上で重要な資料となるものです。

最後に、今回の発掘調査および整理作業にご理解とご協力を頂いた独立行政法人国立病院機構本部、独立行政法人国立病院機構善通寺病院をはじめとする関係機関各位に感謝申し上げますとともに、今後とも埋蔵文化財の保護について、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年2月

香川県埋蔵文化財センター  
所長 藤好 史郎

# 例 言

1. 本書は、香川県善通寺市仙遊町に所在する旧練兵場遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に収録した調査は、平成14・15年度は厚生労働省四国厚生支局、平成16年度以降は独立行政法人国立病院機構善通寺病院から香川県教育委員会へ委託され、平成14、15年度については香川県教育委員会から再委託された財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、整理作業を含む平成16年度以降については香川県埋蔵文化財センターが調査担当として実施した。調査・報告書作成に伴う費用は、平成14・15年度分を厚生労働省四国厚生支局と独立行政法人国立病院機構本部が、平成16年度分については独立行政法人国立病院機構善通寺病院がそれぞれ負担した。
3. 現地での発掘調査は、平成14年8月1日から順次実施し、平成16年3月31日に終了した。整理作業は、香川県埋蔵文化財センターにて平成21年度4月1日から平成24年3月31日まで実施し、平成25年2月28日、本書の刊行を以って完了した。
4. 現地での発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成14年度	平成15年度	平成16年度
文化財専門員 森下英治	文化財専門員 森下英治	文化財専門員 片桐孝浩
文化財専門員 宮崎哲治	文化財専門員 宮崎哲治	文化財専門員 福家正人
主任技師 松岡 晶	主任技師 黒木康弘	主任技師 信里芳紀
主任技師 黒木康弘	主任技師 松井和久	主任技師 細川健一
調査技術員 森麻子	調査技術員 森麻子	調査技術員 森麻子
調査技術員 中里伸明	調査技術員 加納裕之	調査技術員 中嶋将史
	調査技術員 中里伸明	
5. 調査の実施にあたっては、善通寺市教育委員会、地元自治会をはじめとして、下記の方々にご指導・ご教示を賜った。記して謝意を表したい。(順不同・敬称略)  
大久保徹也(徳島文理大学)、石黒立人・永井宏幸(公益財団法人愛知県埋蔵文化財センター)、栗林誠治・近藤 玲(公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター)、柴田昌兎(公益財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター)、藤田三郎(田原本町教育委員会)、寺前直人(駒沢大学)、濱田延充(寝屋川市教育委員会)、三好孝一(公益財団法人大阪府文化財センター)、中村 豊(徳島大学埋蔵文化財調査室)、石丸恵利子(熊本大学埋蔵文化財調査室)、瀬宜田佳男(文化庁)、林 大智(公益財団法人石川県埋蔵文化財調査センター)、田崎博之・村上恭通・吉田 広(愛媛大学)
6. 本書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
7. 本書で用いる遺構名は、基本的に現地調査で使用したものを踏襲するが、報告書作成作業で欠番に

なったものや、新たに確認されたことにより追加したものが含まれる。

8. 標高は全て T.P（東京湾平均海面）による表示を行った。
9. 本書で使用する測地系は、既往の調査区との統合を図ることを目的として日本測地系平面直角座標系第Ⅳ系を使用したので、注意されたい。また、本書で使用する方位は、国土座標における座標北を示す。
10. 本書に収録した実測図や自然科学的分析については、下記のように委託を行った。  
土器実測委託（株式会社九州文化財研究所）、土器実測委託・遺物トレース（株式会社アコード）、株式会社イビソク（遺物デジタルトレース・鍛冶関連遺物の金属学的分析）、土器胎土分析・管玉石材同定・赤色顔料同定（株式会社パレオ・ラボ）
11. 本書に掲載した遺構写真は各担当者が撮影し、遺物写真の一部は岡村印刷工業に委託した。
12. 本書の執筆及び総編集は信里が行った。
13. 現地調査及び整理作業で作成した実測図・写真記録等は全て香川県埋蔵文化財センターで保管しているので、広く活用されることを希望する。

地図は国土地理院地形図を使用しました。

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過とその問題点	1
第3節 整理作業の経過と報告手順	2
第2章 遺跡の立地と環境及び既往調査の概要	
第1節 遺跡の立地	6
第2節 歴史的環境	9
第3節 既往調査の概要	12
第3章 調査の成果	
第1節 層序	19
第2節 縄文後期から弥生前期の遺構・遺物	27
第3節 弥生中期後半期の遺構・遺物	35
第4節 弥生後期前半期から古墳前期前半期の遺構・遺物	120
第5節 古墳時代中期から後期の遺構・遺物	1
第6節 古代から中世の遺構・遺物	265
第7節 柱穴出土遺物と遺構に伴わない遺物	398
第4章 自然科学分析	
第1節 平成21年度埋蔵文化財整理業務(旧練兵場遺跡)に係る青銅器鉛同位体比分析	1
第2節 埋蔵文化財整理業務(旧練兵場遺跡)に係る鍛冶関連遺物の金属学的分析委託業務	17
第3節 旧練兵場遺跡出土管玉の材質分析およびX線透過撮影	55
第4節 香川県旧練兵場遺跡出土木製品の樹種調査結果	69
第5節 旧練兵場遺跡出土土器胎土分析	91
第5章 総括	
第1節 周辺の考古資料から見た遺跡の立地と環境	113
第2節 竪穴住居の変遷	118
第3節 土器胎土分析と土器焼成関連資料	121
第4節 備中西部・備後系土器と対外交渉	135
第5節 青銅器	145
第6節 縄文後期から古墳前期の遺構変遷とその特徴	152
第7節 古墳時代中期以降の遺構変遷	189
第8節 古墳時代中・後期における製塩土器の搬入様相－丸亀平野を中心に－	206
第9節 旧練兵場遺跡22・23・24次調査出土の動物遺存体と動物資源利用の様相	212

# 挿図目次

図1	調査区割	5	図58	U区 SB5505	平・断面・出土遺物	71	
図2	遺跡の位置(その1)	6	図59	V区 SB6001	平・断面・出土遺物	72	
図3	遺跡の位置(その2)	7	図60	W区 SB4001	平・断面・出土遺物	73	
図4	微地形分類	8	図61	M・Z・I区	平面	74	
図5	遺跡分布(縄文後期～古墳前期)	9	図62	I-1区 SB1001	平・断面・出土遺物	75	
図6	既存の調査区	16	図63	I-2区 SB2001	平・断面	76	
図7	遺構平面(全時代)	18	図64	I-2区 SB2001	出土遺物	77	
図8	壁1・2	21	図65	I-2区 SB2002	平・断面	78	
図9	壁3	22	図66	I-2区 SB2002	出土遺物	79	
図10	壁4・5	23	図67	I-2区 SB2003	平・断面	79	
図11	壁6	24	図68	I-2区 SB2003	出土遺物	80	
図12	壁7	25	図69	I-4区 SB4002	平・断面・出土遺物	81	
図13	壁8	26	図70	I-4区 SB4003	平・断面	82	
図14	第2節遺構配置(縄文後期～弥生前期)	28	図71	I-4区 SB4003	出土遺物	83	
図15	J区 SR4002	平・断面・出土遺物	30	図72	I-4区 SB4004	平・断面・出土遺物	83
図16	弥生前期溝(1)	32	図73	I-4区 SB4005	平・断面・出土遺物	84	
図17	弥生前期溝(2)	33	図74	部分平面図		85	
図18	弥生前期溝(3)	34	図75	II-1区 SB1001	平・断面	86	
図19	遺構配置(弥生中期後半)	36	図76	II-1区 SB1001	出土遺物	86	
図20	G・H・I・J・K区	平面	38	図77	II-1区 SB1002	平・断面・出土遺物	87
図21	H区 SH1003	平・断面・出土遺物	39	図78	II-1区 SB1003	平・断面・出土遺物	88
図22	I区 SH2004	平・断面・出土遺物	40	図79	II-1区 SB1004	平・断面	89
図23	J区 SH4004	平・断面・出土遺物	41	図80	II-1区 SB1004	出土遺物	90
図24	K区 SH3001	平・断面・出土遺物	42	図81	II-1区 SB1005	平・断面・出土遺物	91
図25	M区 SH6038	平・断面・出土遺物	43	図82	II-1区 SB1006	平・断面・出土遺物	92
図26	M区 SH6039	平・断面・出土遺物	44	図83	II-1区 SB1008	平・断面・出土遺物	92
図27	O区 SH8006	平・断面・出土遺物	44	図84	II-2区 SB2004	平・断面・出土遺物	93
図28	O区 SH8008	平・断面・出土遺物(1)	45	図85	II-2区 SB2006	平・断面・出土遺物	94
図29	O区 SH8008	出土遺物(2)	46	図86	II-4区 SB4003	平・断面・出土遺物	95
図30	S区 SH1064	平・断面・出土遺物	47	図87	II-4区 SB4010	平・断面	96
図31	S区 SH1080	平・断面	48	図88	II-4区 SB4010	出土遺物	97
図32	S区 SH1081	平・断面・出土遺物	48	図89	II-4区 SB4011	平・断面	97
図33	S区 SH1084	平・断面・出土遺物	49	図90	II-4区 SB4012	平・断面・出土遺物	98
図34	S区 SH1085	平・断面・出土遺物	50	図91	G区 SK0003	平・断面・出土遺物	100
図35	T区 SH1096	平・断面・出土遺物	51	図92	O区 SK8001	平・断面・出土遺物	101
図36	U区 SH5004	平・断面・出土遺物	52	図93	S区 SK1009	平・断面・出土遺物	101
図37	V区 SH6014	平・断面・出土遺物	52	図94	W区 SK4003	平・断面・出土遺物	101
図38	V区 SH6017	平・断面・出土遺物	53	図95	W区 SK004・4005	平・断面・出土遺物	102
図39	V区 SH6023	平・断面・出土遺物	54	図96	W区 SK4007	平・断面・出土遺物	102
図40	W区 SH4009	平・断面・出土遺物	55	図97	Z区 SK7003	平・断面・出土遺物	102
図41	I-3区 SH3019	平・断面・出土遺物	56	図98	Z区 SK7005	平・断面	104
図42	H区 SB1004	平・断面・出土遺物	57	図99	O区 SX8207	平・断面・出土遺物	104
図43	H区 SB1006	平・断面	58	図100	V区 SX6008	平・断面・出土遺物	104
図44	H区 SB1008	平・断面・出土遺物	59	図101	I-4区 SK4010	平・断面・出土遺物	105
図45	H区 SB1009	平・断面・出土遺物	60	図102	I-4区 SX4003	平・断面	106
図46	L区 SB5008	平・断面・出土遺物	61	図103	溝の分布(弥生中期後半)		108
図47	M区 SB6003	平・断面・出土遺物	62	図104	G区 SD0009	平・断面	109
図48	M区 SB6004	平・断面・出土遺物	63	図105	N区 SD7303	平・断面・出土遺物	110
図49	M区 SB6005	平・断面・出土遺物	64	図106	O区 SD8001	平・断面	111
図50	M区 SB6006	平・断面・出土遺物	65	図107	O区 SD8001	出土遺物(1)	112
図51	M区 SB6008	平・断面・出土遺物	65	図108	O区 SD8001	出土遺物(2)	113
図52	O区 SB8001	平・断面・出土遺物	66	図109	O区 SD8001	出土遺物(3)	114
図53	S区 SB1104	平・断面・出土遺物	67	図110	O区 SD8001	出土遺物(4)	115
図54	S区 SB1108	平・断面・出土遺物	68	図111	O区 SD8002	断面・出土遺物	115
図55	S区 SB1109	平・断面・出土遺物	69	図112	T区 SD1023	平・断面・出土遺物	116
図56	S区 SB1110	平・断面・出土遺物	70	図113	U区 SD5005	平・断面・出土遺物	117
図57	U区 SB5503	平・断面・出土遺物	71	図114	V区 SD6005	平・断面・出土遺物	118

図 115	Z 区	SD7001	平・断面・出土遺物	119	図 175	N 区	SH7004	平・断面・出土遺物 (1)	180
図 116			遺構配置 (弥生後期)	122	図 176	N 区	SH7004	出土遺物 (2)	181
図 117			遺構配置 (弥生終末期～古墳前期)	124	図 177	N 区	SH7004	出土遺物 (3)	182
図 118	G 区	SH0001	平・断面・出土遺物	128	図 178	N 区	SH7004	出土遺物 (4)	183
図 119	G・H・J・K 区		平面	129	図 179	N 区	SH7005	平・断面	184
図 120	G 区	SH0003	平・断面・出土遺物	130	図 180	N 区	SH7005	遺物出土状況・出土遺物 (1)	185
図 121	H 区	SH1001	平・断面・出土遺物 (1)	131	図 181	N 区	SH7005	出土遺物 (2)	186
図 122	H 区	SH1001	出土遺物 (2)	132	図 182	N 区	SH7005	出土遺物 (3)	187
図 123	H 区	SH1001	出土遺物 (3)	133	図 183	N 区	SH7305	平・断面	188
図 124	H 区	SH1002	平・断面・出土遺物 (1)	134	図 184	N 区	SH7305	出土遺物 (1)	189
図 125	H 区	SH1002	出土遺物 (2)	135	図 185	N 区	SH7306	平・断面・出土遺物 (1)	190
図 126	H 区	SH1004	平・断面・出土遺物 (1)	135	図 186	N 区	SH7306	出土遺物 (2)	191
図 127	H 区	SH1004	出土遺物 (2)	136	図 187	N 区	SH7310	平・断面・出土遺物	191
図 128	H 区	SH1005	平・断面	137	図 188	O 区	SH8005	平・断面・出土遺物 (1)	192
図 129	H 区	SH1005	出土遺物	138	図 189	O 区	SH8005	出土遺物 (2)	193
図 130	H 区	SH1006	平・断面	139	図 190	O 区	SH8007	平・断面・出土遺物	194
図 131	H 区	SH1006	出土遺物	140	図 191	O 区	SH8009	平・断面・出土遺物	195
図 132	H 区	SH1007	平・断面	141	図 192	O 区	SH8203	平・断面・出土遺物 (1)	197
図 133	H 区	SH1007	出土遺物 (1)	142	図 193	O 区	SH8203	出土遺物 (2)	198
図 134	H 区	SH1007	出土遺物 (2)	143	図 194	O 区	SH8206	平・断面・出土遺物	199
図 135	H 区	SH1007	出土遺物 (3)	144	図 195	P 区	SH9003	平・断面・出土遺物	200
図 136	H 区	SH1007	出土遺物 (4)	145	図 196	P 区	SH9004	平・断面・出土遺物	201
図 137	H 区	SH1008	平・断面・出土遺物 (1)	145	図 197	P 区	SH9005	平・断面・出土遺物	202
図 138	H 区	SH1008	出土遺物 (2)	146	図 198	P 区	SH9006	平・断面・出土遺物	203
図 139	H 区	SH1008	出土遺物 (3)	147	図 199	P 区	SH9301	平・断面	204
図 140	H 区	SH1011	平・断面	148	図 200	P 区	SH9301	出土遺物	205
図 141	H 区	SH1011	出土遺物	149	図 201	P 区	SH9302	平・断面・出土遺物 (1)	206
図 142	H 区	SH1013	平・断面・出土遺物	149	図 202	P 区	SH9302	出土遺物 (2)	207
図 143	I 区	SH2002	平・断面	150	図 203	P 区	SH9306	平・断面・出土遺物	207
図 144	I 区	SH2002	出土遺物	151	図 204	Q 区	SH0007	平・断面・遺物出土状況	208
図 145	J 区	SH4001	平・断面・出土遺物 (1)	152	図 205	Q 区	SH0007	出土遺物 (1)	209
図 146	J 区	SH4001	出土遺物 (2)	153	図 206	Q 区	SH0007	出土遺物 (2)	210
図 147	J 区	SH4001	出土遺物 (3)	154	図 207	Q 区	SH0016	平・断面・出土遺物	211
図 148	J 区	SH4002	平・断面・出土遺物	155	図 208	R 区	SH3006	平・断面・出土遺物	212
図 149	J 区	SH4003	平・断面・出土遺物 (1)	156	図 209	R・S・T 区		平面	213
図 150	J 区	SH4003	出土遺物 (2)	157	図 210	R 区	SH3010	平・断面・出土遺物	214
図 151	L 区	SH5003	平・断面・出土遺物	158	図 211	R 区	SH3012	平・断面・出土遺物 (1)	215
図 152	L・M・O・P 区		平面	159	図 212	R 区	SH3012	出土遺物 (2)	216
図 153	L 区	SH5005	平・断面・出土遺物	160	図 213	R 区	SH3012	出土遺物 (3)	217
図 154	L 区	SH5010	平・断面・出土遺物	161	図 214	R 区	SH3305	平・断面・出土遺物	218
図 155	L 区	SH5016	平・断面・出土遺物	162	図 215	R 区	SH3307	平・断面・出土遺物	219
図 156	L 区	SH5017	平・断面・出土遺物	163	図 216	S 区	SH1038	平・断面・出土遺物 (1)	220
図 157	L 区	SH5020	平・断面	164	図 217	S 区	SH1038	出土遺物 (2)	221
図 158	L 区	SH5021	平・断面・出土遺物	164	図 218	S 区	SH1040	平・断面・出土遺物 (1)	223
図 159	M 区	SH6004	平・断面・出土遺物 (1)	165	図 219	S 区	SH1040	出土遺物 (2)	224
図 160	M 区	SH6004	出土遺物 (2)	166	図 220	S 区	SH1044	平・断面	225
図 161	M 区	SH6006	平・断面・出土遺物	166	図 221	S 区	SH1044	出土遺物	226
図 162	M 区	SH6007	平・断面・出土遺物	167	図 222	S 区	SH1047	平・断面・出土遺物	227
図 163	M 区	SH6009	平・断面・出土遺物	168	図 223	S 区	SH1052	平・断面・出土遺物 (1)	228
図 164	M 区	SH6020	平・断面・出土遺物	169	図 224	S 区	SH1052	出土遺物 (2)	229
図 165	M 区	SH6032	平・断面・出土遺物	170	図 225	S 区	SH1057	平・断面	229
図 166	M 区	SH6033	平・断面・出土遺物	171	図 226	S 区	SH1057	出土遺物 (1)	230
図 167	N 区	SH7001	平・断面	171	図 227	S 区	SH1057	出土遺物 (2)	231
図 168	N 区	SH7001	出土遺物	172	図 228	S 区	SH1058	平・断面	232
図 169	N 区	SH7003	平・断面	173	図 229	S 区	SH1058	出土遺物 (1)	233
図 170	N 区	SH7003	出土遺物 (1)	174	図 230	S 区	SH1058	出土遺物 (2)	234
図 171	N 区	SH7003	出土遺物 (2)	175	図 231	S 区	SH1060	平・断面	235
図 172	N 区	SH7003	出土遺物 (3)	176	図 232	S 区	SH1060	出土遺物 (1)	236
図 173	N 区	SH7003	出土遺物 (4)	177	図 233	S 区	SH1060	出土遺物 (2)	237
図 174	N 区	SH7003	出土遺物 (5)	178	図 234	S 区	SH1061	平・断面・出土遺物 (1)	238

图 235	S 区	SH1061	出土遺物 (2) ······	239	图 295	I -2 区	SH2005	平·断面·出土遺物 ······	294
图 236	S 区	SH1063	平·断面 ······	240	图 296	I -2 区	SH2009	平·断面·出土遺物 ······	295
图 237	S 区	SH1063	遺物出土狀況 ······	241	图 297	I -2 区	SH2010	平·断面 ······	295
图 238	S 区	SH1063	出土遺物 (1) ······	242	图 298	I -3 区	SH3002	平·断面·出土遺物 ······	296
图 239	S 区	SH1063	出土遺物 (2) ······	243	图 299	I -3 区	SH3007	平·断面·出土遺物 ······	297
图 240	S 区	SH1065	平·断面·出土遺物 ······	244	图 300	I -3 区	SH3008	平·断面·出土遺物 ······	298
图 241	S 区	SH1066	平·断面·出土遺物 (1) ······	245	图 301	I -3 区	SH3009	平·断面·出土遺物 ······	299
图 242	S 区	SH1066	出土遺物 (2) ······	246	图 302	I -3 区	SH3010	平·断面·出土遺物 ······	300
图 243	S 区	SH1068	平·断面 ······	247	图 303	I -3 区	SH3017	平·断面·出土遺物 ······	301
图 244	S 区	SH1068	出土遺物 (1) ······	248	图 304	I -4 区	SH4002	平·断面·出土遺物 (1) ····	302
图 245	S 区	SH1068	出土遺物 (2) ······	249	图 305	I -4 区	SH4002	出土遺物 (2) ······	303
图 246	S 区	SH1068	出土遺物 (3) ······	250	图 306	I -4 区	SH4002	出土遺物 (3) ······	304
图 247	S 区	SH1069	平·断面 ······	251	图 307	I -4 区	SH4003	平·断面·出土遺物 (1) ····	305
图 248	S 区	SH1069	出土遺物 (1) ······	252	图 308	I -4 区	SH4003	出土遺物 (2) ······	306
图 249	S 区	SH1069	出土遺物 (2) ······	253	图 309	I -4 区	SH4004	平·断面·出土遺物 (1) ····	307
图 250	S 区	SH1069	出土遺物 (3) ······	254	图 310	I -4 区	SH4004	出土遺物 (2) ······	308
图 251	S 区	SH1070	平·断面·出土遺物 ······	254	图 311	I -4 区	SH4004	出土遺物 (3) ······	309
图 252	S 区	SH1072	平·断面·出土遺物 ······	255	图 312	I -4 区	SH4007	平·断面 ······	310
图 253	S 区	SH1076	平·断面·出土遺物 ······	256	图 313	I -4 区	SH4007	出土遺物 ······	311
图 254	S 区	SH1077	平·断面·出土遺物 ······	257	图 314	II 区 平面	·····	·····	312
图 255	S 区	SH1078	平·断面 ······	258	图 315	II -1 区	SH1001	平·断面 ······	313
图 256	S 区	SH1083	平·断面·出土遺物 ······	258	图 316	II -1 区	SH1001	出土遺物 (1) ······	314
图 257	S 区	SH1089	平·断面·出土遺物 ······	259	图 317	II -1 区	SH1001	出土遺物 (2) ······	315
图 258	S 区	SH1090	平·断面·出土遺物 ······	260	图 318	II -1 区	SH1005	平·断面·出土遺物 (1) ····	316
图 259	T 区	SH1008	平·断面 ······	261	图 319	II -1 区	SH1005	出土遺物 (2) ······	317
图 260	T 区	SH1008	出土遺物 ······	262	图 320	II -1 区	SH1006	平·断面 ······	317
图 261	T 区	SH1019	平·断面·出土遺物 ······	263	图 321	II -1 区	SH1006	出土遺物 (1) ······	318
图 262	T 区	SH1022	平·断面 ······	264	图 322	II -1 区	SH1006	出土遺物 (2) ······	319
图 263	T 区	SH1022	出土遺物 ······	265	图 323	II -1 区	SH1007	平·断面·出土遺物 ······	321
图 264	T 区	SH1023	平·断面·出土遺物 ······	266	图 324	II -1 区	SH1008	平·断面·出土遺物 ······	322
图 265	T 区	SH1024	平·断面·出土遺物 ······	267	图 325	II -1 区	SH1009	平·断面 ······	323
图 266	T 区	SH1028	平·断面·出土遺物 (1) ······	268	图 326	II -1 区	SH1009	出土遺物 ······	324
图 267	T 区	SH1028	出土遺物 (2) ······	269	图 327	II -1 区	SH1010	平·断面·出土遺物 ······	325
图 268	T 区	SH1028	出土遺物 (3) ······	270	图 328	II -1 区	SH1017	平·断面·出土遺物 ······	326
图 269	T 区	SH1030	平·断面·出土遺物 ······	271	图 329	II -1 区	SH1024	平·断面·出土遺物 ······	327
图 270	W·U·V 区	平面	·····	272	图 330	II -1 区	SH1026	平·断面·出土遺物 ······	328
图 271	U 区	SH5002·SH5009	平面 ······	273	图 331	II -2 区	SH2001	平·断面 ······	329
图 272	U 区	SH5002·SH5009	断面·出土遺物 (1) ····	274	图 332	II -2 区	SH2001	出土遺物 ······	330
图 273	U 区	SH5002·SH5009	出土遺物 (2) ······	275	图 333	II -2 区	SH2002	平·断面 ······	330
图 274	U 区	SH5006	平·断面·出土遺物 ······	277	图 334	II -2 区	SH2005	平·断面·出土遺物 ······	331
图 275	U 区	SH5007	平·断面·出土遺物 ······	278	图 335	II -4 区	SH4001	平·断面 ······	332
图 276	U 区	SH5011	平·断面 ······	279	图 336	II -4 区	SH4001	烱跡平·断面·出土遺物 (1) ····	333
图 277	U 区	SH5011	断面 ······	280	图 337	II -4 区	SH4001	出土遺物 (2) ······	334
图 278	U 区	SH5011	遺物出土狀況 ······	281	图 338	II -4 区	SH4001	出土遺物 (3) ······	335
图 279	U 区	SH5011	出土遺物 (1) ······	282	图 339	II -4 区	SH4001	出土遺物 (4) ······	336
图 280	U 区	SH5011	出土遺物 (2) ······	283	图 340	II -4 区	SH4001	出土遺物 (5) ······	337
图 281	U 区	SH5011	出土遺物 (3) ······	284	图 341	II -4 区	SH4002·SH4029	平·断面·出土遺物 (1) ····	338
图 282	U 区	SH5011	出土遺物 (4) ······	285	图 342	II -4 区	SH4002	出土遺物 (2) ······	339
图 283	U 区	SH5011	出土遺物 (5) ······	286	图 343	II -4 区	SH4003	平·断面·出土遺物 (1) ····	340
图 284	U 区	SH5017	平·断面·出土遺物 ······	287	图 344	II -4 区	SH4003	出土遺物 (2) ······	341
图 285	V 区	SH6013	平·断面·出土遺物 ······	287	图 345	II -4 区	SH4004	平·断面·出土遺物 ······	341
图 286	V 区	SH6020	平·断面 ······	288	图 346	II -4 区	SH4005	平·断面·出土遺物 ······	342
图 287	W 区	SH4005	平·断面·出土遺物 ······	288	图 347	II -4 区	SH4006	平·断面 ······	343
图 288	W 区	SH4010	平·断面·出土遺物 ······	289	图 348	II -4 区	SH4006	出土遺物 ······	344
图 289	W 区	SH4012	平·断面·出土遺物 ······	290	图 349	II -4 区	SH4012	平·断面 ······	346
图 290	W 区	SH4013	平·断面·出土遺物 ······	290	图 350	II -4 区	SH4012	出土遺物 ······	347
图 291	I 区	平面	·····	291	图 351	II -4 区	SH4017	平·断面 ······	348
图 292	I -1 区	SH1001	平·断面·出土遺物 ······	292	图 352	II -4 区	SH4017	出土遺物 (1) ······	349
图 293	I -1 区	SH1002	平·断面 ······	292	图 353	II -4 区	SH4017	出土遺物 (2) ······	350
图 294	I -2 区	SH2002	平·断面·出土遺物 ······	293	图 354	II -4 区	SH4019	平·断面 ······	351

图 355	II-4 区	SH4020	平·断面·出土遺物	351	图 415	L 区	SH5009, Q 区	SH0004	平·断面	15
图 356	II-4 区	SH4021	平·断面·出土遺物	352	图 416	L 区	SH5009, Q 区	SH0004	出土遺物	16
图 357	II-4 区	SH4025	平·断面·出土遺物	353	图 417	L 区	SH5012	平·断面·出土遺物	17	
图 358	II-4 区	SH4026	平·断面·出土遺物	354	图 418	L 区	SH5013	平·断面·出土遺物	18	
图 359	II-4 区	SH4027	平·断面	355	图 419	L 区	SH5014	平·断面·出土遺物	19	
图 360	II-4 区	SH4027	出土遺物	356	图 420	L·M·O·P 区	平面		20	
图 361	II-4 区	SH4033	平·断面·出土遺物	357	图 421	M 区	SH6001	平·断面·出土遺物	21	
图 362	II-4 区	SH4036	平·断面·出土遺物	357	图 422	M 区	SH6002	平·断面·出土遺物	22	
图 363	G 区	SB0005	平·断面·出土遺物	359	图 423	M 区	SH6003	平·断面·出土遺物	23	
图 364	H 区	SB1012	平·断面·出土遺物	359	图 424	M 区	SH6011	平·断面·出土遺物	24	
图 365	J 区	SB4001	平·断面·出土遺物 (1)	360	图 425	M 区	SH6012	平·断面·出土遺物	25	
图 366	J 区	SB4001	出土遺物 (2)	361	图 426	M 区	SH6013	平·断面·出土遺物 (1)	26	
图 367	J 区	SB4002	平·断面·出土遺物	362	图 427	M 区	SH6013	出土遺物 (2)	27	
图 368	L 区	SB5007	平·断面·出土遺物	363	图 428	M 区	SH6014	平·断面·出土遺物 (1)	28	
图 369	M 区	SB6001	平·断面·出土遺物	364	图 429	M 区	SH6014	出土遺物 (2)	29	
图 370	M 区	SB6002	平·断面·出土遺物	365	图 430	M 区	SH6015	平·断面·出土遺物 (1)	30	
图 371	M 区	SB6007	平·断面·出土遺物	366	图 431	M 区	SH6015	出土遺物 (2)	31	
图 372	N 区	SB7001	平·断面·出土遺物	367	图 432	M 区	SH6018	平·断面·出土遺物	32	
图 373	N 区	SB7002	平·断面·出土遺物	368	图 433	M 区	SH6021	平·断面·出土遺物 (1)	33	
图 374	O 区	SB8002	平·断面·出土遺物	369	图 434	M 区	SH6021	出土遺物 (2)	34	
图 375	O 区	SB8004	平·断面·出土遺物	369	图 435	M 区	SH6023	平·断面·出土遺物	35	
图 376	T 区	SB1114	平·断面·出土遺物	370	图 436	M 区	SH6024	平·断面·出土遺物	36	
图 377	U 区	SB5501	平·断面·出土遺物	371	图 437	M 区	SH6025	平·断面·出土遺物 (1)	37	
图 378	U 区	SB5502	平·断面·出土遺物	373	图 438	M 区	SH6025	出土遺物 (2)	38	
图 379	U 区	SB5504	平·断面	373	图 439	M 区	SH6026	平·断面·出土遺物	39	
图 380	U 区	SB5506	平·断面·出土遺物	374	图 440	M 区	SH6027	平·断面·出土遺物 (1)	40	
图 381	U 区	SB5507	平·断面·出土遺物	375	图 441	M 区	SH6027	出土遺物 (2)	41	
图 382	V 区	SB6002	平·断面·出土遺物	376	图 442	M 区	SH6028	平·断面·出土遺物	42	
图 383	W 区	SB4002	平·断面·出土遺物	377	图 443	M 区	SH6029	平·断面·出土遺物	43	
图 384	I-3 区	SB3001	平·断面·出土遺物	377	图 444	M 区	SH6030	平·断面·出土遺物	44	
图 385	I-4 区	SB4001	平·断面	378	图 445	M 区	SH6040	平·断面·出土遺物	45	
图 386	I-4 区	SB4001	出土遺物	379	图 446	N 区	SH7002	平·断面·出土遺物	46	
图 387	II-2 区	SB2002	平·断面·出土遺物	380	图 447	N 区	SH7311	平·断面·出土遺物	47	
图 388	II-2 区	SB2007	平·断面·出土遺物	381	图 448	O 区	SH8001	平·断面·出土遺物 (1)	48	
图 389	II-4 区	SB4004	平·断面·出土遺物	382	图 449	O 区	SH8001	出土遺物 (2)	49	
图 390	II-4 区	SB4005	平·断面	383	图 450	O 区	SH8002	平·断面·出土遺物	50	
图 391	II-4 区	SB4006	平·断面·出土遺物	384	图 451	O 区	SH8207	平·断面·出土遺物 (1)	51	
图 392	N 区	SK7301	平·断面·出土遺物	385	图 452	O 区	SH8207	出土遺物 (2)	52	
图 393	S 区	SK1014	平·断面·出土遺物 (1)	386	图 453	P 区	SH9002	平·断面·出土遺物 (1)	53	
图 394	S 区	SK1014	出土遺物 (2)	387	图 454	P 区	SH9002	出土遺物 (2)	54	
图 395	W 区	SK4006	平·断面·出土遺物	388	图 455	P 区	SH9304	平·断面·出土遺物	54	
图 396	M 区	SK6001	平·断面·出土遺物	388	图 456	Q·R·S·T 区	平面		55	
图 397	M 区	SK6005	平·断面·出土遺物	389	图 457	Q 区	SH0001	平·断面·出土遺物 (1)	56	
图 398	Z 区	SK7002	平·断面·出土遺物	389	图 458	Q 区	SH0001	出土遺物 (2)	57	
图 399	II-4 区	SK4003	平·断面·出土遺物	390	图 459	Q 区	SH0008	平·断面·出土遺物 (1)	58	
图 400	K 区	ST3001·ST3002	平·断面	390	图 460	Q 区	SH0008	出土遺物 (2)	59	
图 401	K 区	ST3001·ST3002	出土遺物	391	图 461	Q 区	SH0302	平·断面	60	
图 402	O 区	SX8201	平·断面·出土遺物	392	图 462	Q 区	SH0302	出土遺物 (1)	61	
图 403	S 区	SX1032	平·断面·出土遺物	393	图 463	Q 区	SH0302	出土遺物 (2)	62	
图 404	V 区	SX6006	平·断面·出土遺物	393	图 464	Q 区	SH0303	平·断面·出土遺物	63	
图 405	T 区	SD1025, II-2 区	SD2002 断面·出土遺物	394	图 465	Q 区	SH0306	平·断面·出土遺物	64	
图 406	遺構配置 (古墳中期~後期)			6	图 466	Q 区	SH0307	平·断面	65	
图 407	I·Q·L 区	平面		7	图 467	Q 区	SH0307	出土遺物	66	
图 408	I 区	SH2001	平·断面·出土遺物	8	图 468	R 区	SH3001	平·断面	67	
图 409	I 区	SH2003	平·断面·出土遺物	9	图 469	R 区	SH3001	出土遺物	68	
图 410	L 区	SH5001	平·断面·出土遺物	10	图 470	R 区	SH3003	平·断面·出土遺物 (1)	69	
图 411	L 区	SH5002	平·断面·出土遺物	11	图 471	R 区	SH3003	出土遺物 (2)	70	
图 412	L 区	SH5004	平·断面·出土遺物	12	图 472	R 区	SH3008	平·断面·出土遺物	70	
图 413	L 区	SH5006	平·断面·出土遺物	13	图 473	R 区	SH3301	平·断面	71	
图 414	L 区	SH5007	平·断面·出土遺物	14	图 474	R 区	SH3301	竈平·断面·出土遺物 (1)	72	

图 475	R 区	SH3301	出土遺物 (2) ······	73	图 535	Z 区	SH7008 · SH7009	平 · 断面 · 出土遺物 ···	128
图 476	R 区	SH3303	平 · 断面 · 出土遺物 ······	74	图 536	Z 区	SH7013	平 · 断面 · 出土遺物 ······	129
图 477	R 区	SH3304	平 · 断面 · 出土遺物 ······	75	图 537	I -2 区	SH2001	平 · 断面 ······	130
图 478	R 区	SH3013	平 · 断面 · 出土遺物 ······	76	图 538	I -2 区	SH2001	竈平 · 断面 · 出土遺物 ······	131
图 479	S 区	SH1032	平 · 断面 · 出土遺物 ······	77	图 539	I -2 区	SH2003	平 · 断面 · 出土遺物 ······	132
图 480	S 区	SH1033	平 · 断面 ······	78	图 540	I -2 区	SH2004	平 · 断面 · 出土遺物 ······	133
图 481	S 区	SH1033	竈平 · 断面 ······	79	图 541	I -2 区	SH2006	平 · 断面 · 出土遺物 ······	134
图 482	S 区	SH1033	出土遺物 (1) ······	80	图 542	I -2 区	SH2007	平 · 断面 ······	134
图 483	S 区	SH1033	出土遺物 (2) ······	81	图 543	I -2 区	SH2008	平 · 断面 ······	135
图 484	S 区	SH1034	平 · 断面 ······	82	图 544	I 区	平面 ······	136	
图 485	S 区	SH1034	出土遺物 (1) ······	83	图 545	I -3 区	SH3001	平 · 断面 ······	137
图 486	S 区	SH1034	出土遺物 (2) ······	84	图 546	I -3 区	SH3001	出土遺物 ······	138
图 487	S 区	SH1035	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ······	85	图 547	I -3 区	SH3003	平 · 断面 · 出土遺物 ······	139
图 488	S 区	SH1035	出土遺物 (2) ······	86	图 548	I -3 区	SH3004	平 · 断面 · 出土遺物 ······	140
图 489	S 区	SH1037	平 · 断面 ······	87	图 549	I -3 区	SH3005	平 · 断面 ······	140
图 490	S 区	SH1037	出土遺物 (1) ······	88	图 550	I -3 区	SH3011	平 · 断面 · 出土遺物 ······	141
图 491	S 区	SH1037	出土遺物 (2) ······	89	图 551	I -3 区	SH3012	平 · 断面 · 出土遺物 ······	142
图 492	S 区	SH1045	平 · 断面 · 出土遺物 ······	89	图 552	I -3 区	SH3013	平 · 断面 ······	143
图 493	S 区	SH1050	平 · 断面 · 出土遺物 ······	90	图 553	I -3 区	SH3014	平 · 断面 ······	143
图 494	S 区	SH1071	平 · 断面 ······	91	图 554	I -3 区	SH3015	平 · 断面 · 出土遺物 ······	144
图 495	S 区	SH1074	平 · 断面 · 出土遺物 ······	91	图 555	I -3 区	SH3016	平 · 断面 · 出土遺物 ······	144
图 496	S 区	SH1079	平 · 断面 · 出土遺物 ······	92	图 556	I -4 区	SH4001	平 · 断面 ······	145
图 497	S 区	SH1087	平 · 断面 · 出土遺物 ······	93	图 557	I -4 区	SH4001	土層注記 · 出土遺物 (1) ····	146
图 498	S 区	SH1091	平 · 断面 · 出土遺物 ······	93	图 558	I -4 区	SH4001	出土遺物 (2) ······	147
图 499	S 区	SH1092	平 · 断面 · 出土遺物 ······	94	图 559	I -4 区	SH4001	出土遺物 (3) ······	148
图 500	T 区	SH1009	平 · 断面 ······	95	图 560	II -1 区	SH1003	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ····	149
图 501	T 区	SH1009	出土遺物 (1) ······	96	图 561	II -1 区	SH1003	出土遺物 (2) ······	150
图 502	T 区	SH1009	出土遺物 (2) ······	97	图 562	II 区	平面 ······	151	
图 503	T 区	SH1011	平 · 断面 · 出土遺物 ······	98	图 563	II -1 区	SH1004	平 · 断面 ······	152
图 504	T 区	SH1013	平 · 断面 ······	99	图 564	II -1 区	SH1004	出土遺物 ······	153
图 505	T 区	SH1013	出土遺物 ······	100	图 565	II -1 区	SH1013	平 · 断面 · 出土遺物 ······	154
图 506	T 区	SH1018	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ······	101	图 566	II -1 区	SH1014	平 · 断面 · 出土遺物 ······	155
图 507	T 区	SH1018	出土遺物 (2) ······	102	图 567	II -1 区	SH1018	平 · 断面 ······	156
图 508	T 区	SH1020	平 · 断面 ······	103	图 568	II -1 区	SH1020	平 · 断面 ······	157
图 509	T 区	SH1020	出土遺物 ······	104	图 569	II -1 区	SH1020	出土遺物 ······	158
图 510	T 区	SH1093	平 · 断面 · 出土遺物 ······	105	图 570	II -1 区	SH1021	平 · 断面 ······	158
图 511	T 区	SH1094	平 · 断面 · 出土遺物 ······	105	图 571	II -1 区	SH1023	平 · 断面 · 出土遺物 ······	159
图 512	V · U · W · Z 区	平面 ······	106	图 572	II -1 区	SH1027	平 · 断面 ······	159	
图 513	U 区	SH5001	平 · 断面 · 出土遺物 ······	107	图 573	II -1 区	SH1028	平 · 断面 · 出土遺物 ······	160
图 514	U 区	SH5005	平 · 断面 · 出土遺物 ······	108	图 574	II -1 区	SH1029	平 · 断面 ······	160
图 515	U 区	SH5008	平 · 断面 · 出土遺物 ······	109	图 575	II -1 区	SH1030	平 · 断面 · 出土遺物 ······	161
图 516	V 区	SH6003	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ······	110	图 576	II -2 区	SH2003	平 · 断面 · 出土遺物 ······	161
图 517	V 区	SH6003	出土遺物 (2) ······	111	图 577	II -2 区	SH2004	平 · 断面 · 出土遺物 ······	162
图 518	V 区	SH6005	平 · 断面 · 出土遺物 ······	112	图 578	II -3 区	SH3001	平 · 断面 ······	163
图 519	V 区	SH6006	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ······	113	图 579	II -3 区	SH3001	出土遺物 (1) ······	164
图 520	V 区	SH6006	出土遺物 (2) ······	114	图 580	II -3 区	SH3001	竈平 · 断面 · 出土遺物 (2) ···	165
图 521	V 区	SH6007	平 · 断面 · 出土遺物 ······	115	图 581	II -3 区	SH3002	平 · 断面 ······	166
图 522	V 区	SH6008	平 · 断面 · 出土遺物 ······	116	图 582	II -3 区	SH3002	出土遺物 ······	167
图 523	V 区	SH6009	平 · 断面 · 出土遺物 ······	117	图 583	II -3 区	SH3004	平 · 断面 · 出土遺物 ······	168
图 524	V 区	SH6010	平 · 断面 · 出土遺物 ······	118	图 584	II -3 区	SH3008	平 · 断面 ······	169
图 525	V 区	SH6015	平 · 断面 · 出土遺物 ······	119	图 585	II -3 区	SH3008	出土遺物 ······	170
图 526	V 区	SH6021	平 · 断面 · 出土遺物 ······	119	图 586	II -3 区	SH3009	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ····	171
图 527	W 区	SH4001	平 · 断面 · 出土遺物 ······	120	图 587	II -3 区	SH3009	出土遺物 (2) ······	172
图 528	W 区	SH4004	平 · 断面 · 出土遺物 ······	121	图 588	II -3 区	SH3010	平 · 断面 · 出土遺物 ······	173
图 529	W 区	SH4007	平 · 断面 · 出土遺物 ······	122	图 589	II -3 区	SH3011	平 · 断面 ······	174
图 530	Z 区	SH7002	平 · 断面 · 出土遺物 ······	123	图 590	II -3 区	SH3011	竈平 · 断面 · 出土遺物 (1) ···	175
图 531	Z 区	SH7004 · SH7007	平 · 断面 · 出土遺物 ···	124	图 591	II -3 区	SH3011	出土遺物 (2) ······	176
图 532	Z 区	SH7005	平 · 断面 · 出土遺物 (1) ······	125	图 592	II -3 区	SH3012	平 · 断面 · 出土遺物 ······	177
图 533	Z 区	SH7005	出土遺物 (2) ······	126	图 593	II -3 区	SH3013	平 · 断面 · 出土遺物 ······	178
图 534	Z 区	SH7006	平 · 断面 · 出土遺物 ······	127	图 594	II -3 区	SH3018	平 · 断面 ······	179

図 595	II -3 区	SH3019	平・断面・出土遺物	179	図 656	G 区	SD0005	出土遺物 (18)	230	
図 596	II -4 区	SH4007	平・断面・出土遺物	180	図 657	G 区	SD0005	出土遺物 (19)	231	
図 597	II -4 区	SH4008	平・断面・出土遺物	181	図 658	G 区	SD0005	出土遺物 (20)	232	
図 598	II -4 区	SH4010	平・断面・出土遺物	182	図 659	G 区	SD0005	出土遺物 (21)	233	
図 599	II -4 区	SH4011	平・断面・出土遺物 (1)	183	図 660	G 区	SD0005	出土遺物 (22)	234	
図 600	II -4 区	SH4011	出土遺物 (2)	184	図 661	G 区	SD0005	出土遺物 (23)	235	
図 601	II -4 区	SH4022	平・断面・出土遺物	185	図 662	G 区	SD0005	出土遺物 (24)	236	
図 602	II -4 区	SH4024	平・断面・出土遺物	186	図 663	G 区	SD0005	出土遺物 (25)	237	
図 603	II -4 区	SH4028	平・断面・出土遺物	187	図 664	G 区	SD0005	出土遺物 (26)	238	
図 604	II -4 区	SH4031	平・断面・出土遺物	187	図 665	G 区	SD0005	出土遺物 (27)	239	
図 605	II -4 区	SH4034	平・断面	188	図 666	G 区	SD0005	出土遺物 (28)	240	
図 606	II -4 区	SH4035	平・断面・出土遺物	189	図 667	G 区	SD0005	出土遺物 (29)	241	
図 607	II -4 区	SH4037	平・断面	189	図 668	G 区	SD0005	出土遺物 (30)	242	
図 608	II -4 区	SH4038	平・断面・出土遺物	190	図 669	G 区	SD0005	出土遺物 (31)	243	
図 609	I 区	SB2003	平・断面・出土遺物	192	図 670	G 区	SD0005	出土遺物 (32)	244	
図 610	L 区	SB5004	平・断面・出土遺物	193	図 671	G 区	SD0005	出土遺物 (33)	245	
図 611	L 区	SB5005	平・断面・出土遺物	194	図 672	G 区	SD0005	出土遺物 (34)	246	
図 612	M 区	SB6009	平・断面	194	図 673	G 区	SD0005	出土遺物 (35)	247	
図 613	N 区	SB7006	平・断面・出土遺物	195	図 674	G 区	SD0005	出土遺物 (36)	248	
図 614	O 区	SB8005	平・断面・出土遺物	195	図 675	G 区	SD0005	出土遺物 (37)	249	
図 615	V 区	SB6003	平・断面・出土遺物	196	図 676	G 区	SD0005	出土遺物 (38)	250	
図 616	Z 区	SB7701	平・断面・出土遺物	197	図 677	J 区	SD4006, J 区	SD4002, J 区	SD4004,	
図 617	II -2 区	SB2001	平・断面	198		K 区	SD3004	平・断面	251	
図 618	II -2 区	SB2001	出土遺物	199	図 678	J 区	SD4002	出土遺物 (1)	252	
図 619	II -2 区	SB2005	平・断面・出土遺物	199	図 679	J 区	SD4002	出土遺物 (2)	253	
図 620	II -4 区	SB4001	平・断面・出土遺物	200	図 680	J 区	SD4002	出土遺物 (3)	254	
図 621	II -4 区	SB4002	平・断面・出土遺物	201	図 681	J 区	SD4002	出土遺物 (4), K 区	SD3004	
図 622	II -4 区	SB4008	平・断面・出土遺物	202		出土遺物 (1)			255	
図 623	G 区	SK0004	平・断面・出土遺物	202	図 682	J 区	SD3004	出土遺物 (2)	256	
図 624	P 区	SK9001	平・断面・出土遺物	202	図 683	J 区	SD3004	出土遺物 (3)	257	
図 625	P 区	SK9002	平・断面・出土遺物	203	図 684	S・T 区	SD1027・SD1029・SD1030・SD1033・			
図 626	T 区	SK1001	平・断面・出土遺物	203		SD1036	平・断面・出土遺物		258	
図 627	T 区	SK1002	平・断面・出土遺物	204	図 685	S・T 区	SD1027・SD1029, II -3 区	SD3004,		
図 628	T 区	SK1004	平・断面・出土遺物	204		I -3 区	3005	出土遺物	259	
図 629	W 区	SK4002	平・断面・出土遺物	204	図 686	S・T 区	SD1027・SD1029	出土遺物	260	
図 630	W 区	SK4009	平・断面・出土遺物	205	図 687	溝の分布 (古墳住居関連小溝)			262	
図 631	II -3 区	SK3002	平・断面・出土遺物	205	図 688	G 区	SD0006, L 区	SD5003,		
図 633	J 区	SX4012	平・断面・出土遺物	206		M 区	SD6001・SD6003・SD6007・SD6013,			
図 634	T 区	SX1011	平・断面・出土遺物	207		P 区	SD9003・SD9005, I -3 区	SD3002・SD3004,		
図 635	I -4 区	SX4011	平・断面・出土遺物	207		II -2 区	SD4003	断面・出土遺物	263	
図 636	NZR3	SX	出土遺物	208	図 689	M 区	SD6007, I -3 区	SD3002	出土遺物	264
図 637	大溝の分布			210	図 690	遺構配置 (古代~中世)			266	
図 638	G 区	SD0005	平・断面	212	図 691	L 区	SH5008	平・断面・出土遺物	268	
図 639	G 区	SD0005	出土遺物 (1)	213	図 692	L 区	SH5011	平・断面・出土遺物 (1)	270	
図 640	G 区	SD0005	出土遺物 (2)	214	図 693	L 区	SH5011	出土遺物 (2)	271	
図 641	G 区	SD0005	出土遺物 (3)	215	図 694	L 区	SH5015	平・断面・出土遺物	272	
図 642	G 区	SD0005	出土遺物 (4)	216	図 695	L 区	SH5018	平・断面・出土遺物	273	
図 643	G 区	SD0005	出土遺物 (5)	217	図 696	L 区	SH5019	平・断面・出土遺物	273	
図 644	G 区	SD0005	出土遺物 (6)	218	図 697	Q 区	SH0003	平・断面・出土遺物	274	
図 645	G 区	SD0005	出土遺物 (7)	219	図 698	Q 区	SH0005	平・断面	275	
図 646	G 区	SD0005	出土遺物 (8)	220	図 699	Q 区	SH0301	平・断面	276	
図 647	G 区	SD0005	出土遺物 (9)	221	図 700	Q 区	SH0301	出土遺物	277	
図 648	G 区	SD0005	出土遺物 (10)	222	図 701	R 区	SH1053	平・断面・出土遺物	278	
図 649	G 区	SD0005	出土遺物 (11)	223	図 702	R 区	SH3002	平・断面・出土遺物	279	
図 650	G 区	SD0005	出土遺物 (12)	224	図 703	S 区	SH1039	平・断面・出土遺物	280	
図 651	G 区	SD0005	出土遺物 (13)	225	図 704	S 区	SH1041	平・断面・出土遺物	281	
図 652	G 区	SD0005	出土遺物 (14)	226	図 705	S 区	SH1056	平・断面・出土遺物	282	
図 653	G 区	SD0005	出土遺物 (15)	227	図 706	S 区	SH1067	平・断面・出土遺物	283	
図 654	G 区	SD0005	出土遺物 (16)	228	図 707	S 区	SH1075	平・断面・出土遺物	284	
図 655	G 区	SD0005	出土遺物 (17)	229	図 708	S 区	SH1088	平・断面・出土遺物	284	

図 709	T 区	SH1012	平・断面・出土遺物	285				
図 710	T 区	SH1016	平・断面・出土遺物	286				
図 711	U 区	SH5012・SH5015	平・断面	287				
図 712	U 区	SH5012・SH5015	竈平・断面	288				
図 713	U 区	SH5012・SH5015	出土遺物	289				
図 714	V 区	SH6001	平・断面・出土遺物 (1)	290				
図 715	V 区	SH6001	出土遺物 (2)	291				
図 716	V 区	SH6004	平・断面・出土遺物	292				
図 717	W 区	SH4002	平・断面・出土遺物	293				
図 718	W 区	SH4006	平・断面・出土遺物	294				
図 719	Z 区	SH7003	平・断面・出土遺物	294				
図 720	Z 区	SH7010	平・断面・出土遺物	295				
図 721	Z 区	SH7011	平・断面・出土遺物	296				
図 722	Z 区	SH7012	平・断面・出土遺物	297				
図 723	II -1 区	SH1002	平・断面・出土遺物	298				
図 724	II -1 区	SH1016	平・断面	299				
図 725	II -1 区	SH1016	出土遺物	300				
図 726	II -1 区	SH1022	平・断面・出土遺物	300				
図 727	II -3 区	SH3005	平・断面・出土遺物	302				
図 728	II -3 区	SH3006	平・断面・出土遺物	303				
図 729	II -3 区	SH3007	平・断面・出土遺物	304				
図 730	II -4 区	SH4009	平・断面・出土遺物	305				
図 731	II -4 区	SH4013	平・断面・出土遺物	305				
図 732	II -4 区	SH4014	平・断面・出土遺物	305				
図 733	II -4 区	SH4015	平・断面・出土遺物	306				
図 734	G・H・J・K 区	平面		307				
図 735	G 区	SB0001	平・断面・出土遺物 (1)	309				
図 736	G 区	SB0001	出土遺物 (2)	310				
図 737	G 区	SB0002	平・断面・出土遺物	311				
図 738	G 区	SB0003	平・断面・出土遺物 (1)	312				
図 739	G 区	SB0003	出土遺物 (2)	313				
図 740	G 区	SB0004	平・断面・出土遺物	314				
図 741	G 区	SB0006	平・断面・出土遺物	315				
図 742	G 区	SB0007	平・断面・出土遺物	316				
図 743	H 区	SB1001	平・断面・出土遺物	317				
図 744	H 区	SB1002	平・断面・出土遺物	318				
図 745	H 区	SB1003	平・断面・出土遺物	319				
図 746	H 区	SB1005	平・断面・出土遺物	320				
図 747	H 区	SB1007	平・断面・出土遺物	321				
図 748	H 区	SB1010	平・断面・出土遺物	322				
図 749	H 区	SB1011	平・断面・出土遺物	323				
図 750	I 区	SB2001	平・断面・出土遺物	323				
図 751	K 区	SB3001	平・断面・出土遺物	324				
図 752	K 区	SB3002	平・断面・出土遺物	325				
図 753	K 区	SB3004	平・断面・出土遺物	326				
図 754	L 区	SB5002	平・断面・出土遺物	327				
図 755	L 区	SB5006	平・断面・出土遺物	328				
図 756	N 区	SB7003	平・断面・出土遺物	329				
図 757	N 区	SB7005	平・断面・出土遺物	330				
図 758	R 区	SB3301	平・断面・出土遺物	331				
図 759	R・S・T 区	平面		332				
図 760	R 区	SB3302	平・断面	333				
図 761	R 区	SB3302	出土遺物	334				
図 762	R 区	SB3303	平・断面・出土遺物	335				
図 763	R 区	SB3304	平・断面・出土遺物	336				
図 764	S 区	SB1101	平・断面・出土遺物	337				
図 765	S 区	SB1105	平・断面・出土遺物	338				
図 766	S 区	SB1106	平・断面	339				
図 767	S 区	SB1106	出土遺物	340				
図 768	S 区	SB1111	平・断面・出土遺物	341				
図 769	S 区	SB1112	平・断面・出土遺物 (1)	342				
図 770	S 区	SB1112	出土遺物 (2)	343				
図 771	S 区	SB1113	平・断面・出土遺物	344				
図 772	T 区	SB1115	平・断面・出土遺物	345				
図 773	U 区	SB5508	平・断面・出土遺物	346				
図 774	U・W・V・Z 区	平面		347				
図 775	U 区	SB5509	平・断面・出土遺物	348				
図 776	W 区	SB4004	平・断面・出土遺物	349				
図 777	I -1 区	SB1002	平・断面・出土遺物	350				
図 778	II -1 区	SB1007	平・断面・出土遺物	351				
図 779	II -3 区	SB3001	平・断面・出土遺物	352				
図 780	II -3 区	SB3002	平・断面・出土遺物	353				
図 781	H 区	SK1001	平・断面	354				
図 782	H 区	SK1002	平・断面	354				
図 783	R 区	SK3001	平・断面・出土遺物	354				
図 784	V 区	SK6001	平・断面・出土遺物	355				
図 785	II -1 区	SK1003	平・断面・出土遺物	356				
図 786	II -2 区	SK2001	平・断面・出土遺物	356				
図 787	II -2 区	SK2002	平・断面・出土遺物	357				
図 788	II -2 区	SK2004	平・断面・出土遺物	357				
図 789	II -4 区	SK4001	平・断面・出土遺物	357				
図 790	II -4 区	SK4002	平・断面・出土遺物	358				
図 791	W 区	SK4001・V 区	SK6002 出土遺物	358				
図 792	G 区	SX0002	平・断面・出土遺物	359				
図 793	G 区	SX0005	平・断面・出土遺物	360				
図 794	H 区	SX1001	平・断面・出土遺物	361				
図 795	H 区	SX1002	平・断面・出土遺物	362				
図 796	H 区	SX1003	平・断面・出土遺物	363				
図 797	H 区	SX1005	平・断面・出土遺物	364				
図 798	H 区	SX1006	平・断面・出土遺物	365				
図 799	U 区	SX5001	平・断面・出土遺物	365				
図 800	T 区	SX1008, S 区	SX1024 出土遺物	366				
図 801	II -2 区	ST2001	平・断面・出土遺物	366				
図 802	溝の分布 (8 世紀前葉～中葉)			368				
図 803	H 区	SD1012, J 区	SD4007, I -3 区	SD3001, II -4 区 SD4002・SD4005	370			
断面・出土遺物				370				
図 804	条里坪界溝の分布 (古代)			372				
図 805	H 区	SD1009	断面	373				
図 806	H 区	SD1009	出土遺物	374				
図 807	I 区	SD2013・2014, T 区	SD1014・1016, V 区	SD6002・SD6003 断面・出土遺物	375			
図 808	K 区	SD3001・SD3005	断面・出土遺物	376				
図 809	中世条里坪界溝の分布 (中世)			378				
図 810	V 区	SD6001, H 区	SD1001 断面・出土遺物	379				
図 811	T 区	SD6001	断面	380				
図 812	T 区	SD6001	出土遺物	381				
図 813	I 区	SD2001～SD2013	平・断面	382				
図 814	I 区	SD2001	出土遺物	383				
図 815	I 区	SD2001～SD2003	出土遺物	384				
図 816	I 区	SD2001・SD2002	出土遺物	385				
図 817	II -2 区	SD2001	平・断面	386				
図 818	II -2 区	SD2001	出土遺物 (1)	387				
図 819	II -2 区	SD2001	出土遺物 (2)	388				
図 820	条里坪界関連小溝 (中世) の分布			390				
図 821	G 区	SD0001・SD0002・SD0003, H 区	SD1002・SD1005・SD1008・SD1010, J 区	SD4005・SD4008, M 区	SD6005・SD6008, P 区	SD9001・SD9002, Q 区	SD0301 断面	391
図 822	G 区	SD0001・SD0002・SD0003,						391

H 区 SD1002・SD1005・SD1008・SD1010,	図 875 銅鐸片 1-4 分析用試料の XRF スペクトル	6
M 区 SD6005・SD6008, G 区 SD0003 出土遺物	図 876 銅鐸片 1-5	7
図 823 K 区 SD3006, P 区 SD9001・SD9002・SD9004,	図 877 銅鐸片 1-5 分析用試料の XRF スペクトル	7
Q 区 SD0301, S 区 SD1031, II -1 区 SD1007,	図 878 銅鐸片 1-6 (左: 試料採集前, 右: 試料採集後)	8
II -3 区 SD3002, II -4 区 SD4008 出土遺物	図 879 銅鐸片 1-6 分析用試料の XRF スペクトル	8
図 824 R 区 SD3001, T 区 SD1002・SD1003・SD1007・	図 880 銅鐸片 1-7 (左: 試料採集前, 右: 試料採集後)	9
SD1008・SD1009・SD1010・SD1021, U 区 SD5004,	図 881 銅鐸片 1-7 分析用試料の XRF スペクトル	9
R 区 SD3001 断面, R 区 SD3301 平・断面	図 882 銅鐸片 1-8	10
図 825 R 区 SD3001・SD3301, T 区 SD1002・SD1003・	図 883 銅鐸片 1-8 分析用試料の XRF スペクトル	10
SD1004・SD1007・SD1009・SD1010 出土遺物	図 884 香川県旧練兵場遺跡から出土した銅鐸片と	
図 826 S 区 SD1031, T 区 SD1003・SD1008・SD1009・	銅鏃の鉛同位体比 (A 式図)	15
SD1010・SD1024, U 区 SD5004 出土遺物	図 885 香川県旧練兵場遺跡から出土した銅鐸片と	
図 827 I -2 区 SR2001 断面・出土遺物	銅鏃の鉛同位体比 (B 式図)	15
図 828 柱穴出土遺物 (1)	図 886 今回測定した銅鐸片と銅鏃とこれまでに測定した	
図 829 柱穴出土遺物 (2)	銅鏃 (A 式図)	16
図 830 柱穴出土遺物 (3)	図 887 今回測定した銅鐸片と銅鏃とこれまでに測定した	
図 831 柱穴出土遺物 (4)	銅鏃 (B 式図)	16
図 832 柱穴出土遺物 (5)	図 888 FeO-SiO <sub>2</sub> -TiO <sub>2</sub> 系鉄滓の平衡状態図	24
図 833 柱穴出土遺物 (6)	図 889 鉄滓の T.Fe と TiO <sub>2</sub> 濃度	24
図 834 柱穴出土遺物 (7)	図 890 製錬滓と鍛冶滓の分類	25
図 835 柱穴出土遺物 (8)	図 891 砂鉄系鍛冶滓と鉍石系製錬滓の分類	25
図 836 柱穴出土遺物 (9)	図 892 外観写真 1 (試料 No.1)	26
図 837 柱穴出土遺物 (10)	図 893 外観写真 2 (試料 No.2)	27
図 838 柱穴出土遺物 (11)	図 894 外観写真 3 (試料 No.3)	28
図 839 柱穴出土遺物 (12)	図 895 外観写真 4 (試料 No.4)	29
図 840 柱穴出土遺物 (13)	図 896 試料切断位置と切断面写真 1 (No.1)	30
図 841 柱穴出土遺物 (14)	図 897 試料切断位置と切断面写真 2 (No.2)	31
図 842 柱穴出土遺物 (15)	図 898 試料切断位置と切断面写真 3 (No.3)	32
図 843 柱穴出土遺物 (16)	図 899 試料切断位置と切断面写真 4 (No.4)	33
図 844 柱穴出土遺物 (17)	図 900 鉄滓顕微鏡組織 1-1 (No.1)	34
図 845 遺構に伴わない遺物 (1)	図 901 鉄滓顕微鏡組織 1-2 (No.1)	35
図 846 遺構に伴わない遺物 (2)	図 902 鉄滓顕微鏡組織 2-1 (試料 No.2)	36
図 847 遺構に伴わない遺物 (3)	図 903 鉄滓顕微鏡組織 2-2 (試料 No.2)	37
図 848 遺構に伴わない遺物 (4)	図 904 鉄滓顕微鏡組織 3-1 (試料 No.3)	38
図 849 遺構に伴わない遺物 (5)	図 905 鉄滓顕微鏡組織 3-2 (試料 No.3)	39
図 850 遺構に伴わない遺物 (6)	図 906 鉄滓顕微鏡組織 4-1 (試料 No.4)	40
図 851 遺構に伴わない遺物 (7)	図 907 鉄滓顕微鏡組織 4-2 (試料 No.4)	41
図 852 遺構に伴わない遺物 (8)	図 908 マクロ写真 1	42
図 853 遺構に伴わない遺物 (9)	図 909 マクロ写真 2	43
図 854 遺構に伴わない遺物 (10)	図 910 硬度測定写真 1	44
図 855 遺構に伴わない遺物 (11)	図 911 硬度測定写真 2	45
図 856 遺構に伴わない遺物 (12)	図 912 ポイント分析チャート 1-1・2	46
図 857 遺構に伴わない遺物 (13)	図 913 ポイント分析チャート 2-1・2	47
図 858 遺構に伴わない遺物 (14)	図 914 ポイント分析チャート 3-1・2	48
図 859 遺構に伴わない遺物 (15)	図 915 ポイント分析チャート 3-1・2	49
図 860 遺構に伴わない遺物 (16)	図 916 ポイント分析チャート 4-1・2	50
図 861 遺構に伴わない遺物 (17)	図 917 マッピング分析結果 1	51
図 862 遺構に伴わない遺物 (18)	図 918 マッピング分析結果 2	52
図 863 遺構に伴わない遺物 (19)	図 919 マッピング分析結果 3	53
図 864 遺構に伴わない遺物 (20)	図 920 マッピング分析結果 4	54
図 865 遺構に伴わない遺物 (21)	図 921 分析した管玉試料	62
図 866 遺構に伴わない遺物 (22)	図 922 管玉試料の元素マッピング図	63
図 867 遺構に伴わない遺物 (23)	図 923 核管玉の X 線透過撮影写真	64
図 868 銅鐸片 1-1	図 924 各管玉の X 線透過撮影写真	65
図 869 銅鐸片 1-1 分析用試料の XRF スペクトル	図 925 管玉表面の蛍光 X 線スペクトル図	66
図 870 銅鐸片 1-2 (左: 試料採集前, 右: 試料採集後)	図 926 管玉表面の蛍光 X 線スペクトル図	67
図 871 銅鐸片 1-2 分析用試料の XRF スペクトル	図 927 管玉表面の蛍光 X 線スペクトル図	68
図 872 銅鐸片 1-3	図 928 旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 1	73
図 873 銅鐸片 1-3 分析用試料の XRF スペクトル	図 929 旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 2	74
図 874 銅鐸片 1-4 (左: 試料採集前, 右: 試料採集後)	図 930 旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真 その 3	75

図 931	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 4	76	図 966	丸亀平野における焼成破裂・破損土器 (弥生後期後半～終末期 すべて胎土 b 類以外)	133
図 932	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 5	77	図 967	西白方瓦谷遺跡の備中西部・備後系土器	136
図 933	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 6	78	図 968	稲木遺跡・川津一ノ又遺跡・下川津遺跡の備中西部・ 備後系土器	137
図 934	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 7	79	図 969	旧練兵場遺跡の備中西部・備後系土器 (1)	138
図 935	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 8	80	図 970	旧練兵場遺跡の備中西部・備後系土器 (2)	139
図 936	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 9	81	図 971	丸亀平野における箱形石棺と備中西部・ 備後系土器の分布	140
図 937	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 10	82	図 972	墓域の構成	142
図 938	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 11	83	図 973	搬入土器・箱形石棺・刺突漁具からみた 交易ルート概念図	143
図 939	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 12	84	図 974	銅鐸及び鏡 (片) (旧練兵場遺跡周辺資料含む)	147
図 940	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 13	85	図 975	銅鍬集成 (帰属時期が判明する個体に限る)	149
図 941	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 14	86	図 976	銅鍬集成 (帰属時期不明確)	150
図 942	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 15	87	図 977	全体図縄文後期～弥生前期	156
図 943	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 16	88	図 978	全体図弥生中期後半古段階	158
図 944	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 17	89	図 979	全体図弥生中期後半中段階	160
図 945	旧練兵場遺跡出土木製品の顕微鏡写真	その 18	90	図 980	全体図弥生中期後半新段階	162
図 946	胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・ 岩石の出現図 (分析 No.1～10)		103	図 981	全体図弥生後期前半古段階	164
図 947	胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・ 岩石の出現図 (分析 No.11～20)		104	図 982	全体図弥生後期前半中段階	168
図 948	胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・ 岩石の出現図 (分析 No.21～30)		105	図 983	全体図弥生後期前半新段階	170
図 949	胎土中の砂粒分の粒度組成図 (分析 No.1～10)		106	図 984	全体図弥生後期後半古段階	172
図 950	胎土中の砂粒分の粒度組成図 (分析 No.11～20)		107	図 985	全体図弥生後期後半新段階	174
図 951	胎土中の砂粒分の粒度組成図 (分析 No.21～30)		108	図 986	全体図弥生終末期古段階	176
図 952	香川県の領家帯地質概略図 (日本の地質 『四国地方』編集委員会編、1991 より引用)		109	図 987	全体図弥生終末期中段階	178
図 953	顕微鏡写真		110	図 988	全体図弥生終末期新段階	180
図 954	顕微鏡写真		111	図 989	全体図古墳前期古段階	182
図 955	顕微鏡写真		112	図 990	全体図古墳前期新段階	184
図 956	遺跡周辺の環境 (弥生中期後半)		114	図 991	遺構群の分布及び機能分掌の変遷	187
図 957	遺跡周辺の環境 (弥生後期後半～古墳前期前半)		116	図 992	全体図古墳古墳中期末～後期前葉	192
図 958	住居の変遷と外来系住居 (堅穴住居 S=1:250)		119	図 993	全体図古墳古墳後期中葉	194
図 959	胎土分析資料 (1)		122	図 994	全体図古墳古墳後期後葉	196
図 960	胎土分析資料 (2)		123	図 995	全体図古代第 1 段階	198
図 961	旧練兵場遺跡の弥生中期後半期の土器焼成関係資料 (O区 SD8001)		125	図 996	全体図古代第 2 段階	200
図 962	旧練兵場遺跡の土器焼成関連資料の分布 (弥生中期後半)		126	図 997	全体図古代第 3 段階	202
図 963	奥白方中落遺跡の土器焼成関連資料		127	図 998	全体図中世	204
図 964	旧練兵場遺跡の土器焼成関連資料の分布 (弥生後期後半～終末期)		129	図 999	旧練兵場遺跡出土製塩土器の概要と関連資料	207
図 965	丸亀平野における胎土 b 類の分布と旧練兵場遺跡 における焼成破裂土器の二者		132	図 1000	動物遺存体 map	217
				図 1001	旧練兵場遺跡動物遺存体写真 1	220
				図 1002	旧練兵場遺跡動物遺存体写真 2	221
				図 1003	旧練兵場遺跡動物遺存体写真 3	222
				図 1004	旧練兵場遺跡動物遺存体写真 4	223

## 表目次

表 1	発掘調査面積・期間・体制一覧	3	表 13	堅穴住居跡一覧	2
表 2	整理作業期間・体制一覧	4	表 14	掘立柱建物跡一覧	192
表 3	丸亀平野遺跡動態	10	表 15	土坑一覧	203
表 4	既往の調査一覧	13	表 16	溝状遺構一覧	211
表 5	堅穴住居跡一覧	39	表 17	堅穴住居跡一覧	269
表 6	掘立柱建物跡一覧	58	表 18	掘立柱建物跡一覧	308
表 7	土坑一覧	99	表 19	土坑一覧	353
表 8	溝状遺構一覧	109	表 20	溝状遺構一覧	369
表 9	堅穴住居跡一覧	125	表 21	分析試料一覧	1
表 10	掘立柱建物跡一覧	358	表 22	分析試料から検出された元素とその強度 (cps)	2
表 11	土坑一覧	385	表 23	香川県旧練兵場遺跡出土銅鐸片と銅鍬の化学組成	14
表 12	溝状遺構一覧	394	表 24	香川県旧練兵場遺跡から出土した銅鐸片と銅鍬の	

鉛同位体比	14	表 35	胎土分析を行った土器とその詳細	91
表 25	これまでに測定された香川県旧練兵場遺跡から 出土した銅鏃の鉛同位体比	表 36	胎土分析を行った土器とその詳細	95
表 26	分析試料一覧	表 37	薄片試料観察結果	97
表 27	鉄滓の顕微鏡鉍物組織とその観察状況	表 38	旧練兵場遺跡及び周辺の青銅器埋納地	113
表 28	調査試料と調査項目	表 39	雲母土器集計表	131
表 29	鉄滓の化学成分分析結果 (%)	表 40	製塩土器集成	208
表 30	硬度試験結果	表 41	旧練兵場遺跡 22・23・25 次調査出土の 動物遺存体種名一覧	213
表 31	材質分析・X線透過撮影を行った管玉試料	表 42	旧練兵場遺跡動物遺存体同定表	224
表 32	蛍光X線分析を行った管玉の岩石学的および 化学組成的な特徴と岩石	表 43	出土土器観察表	1
表 33	管玉表面の蛍光X線分析による点分析結果	表 44	出土石器観察表	168
表 34	香川県旧練兵場遺跡出土木製品同定表	表 45	出土金属器観察表	176
		表 46	出土玉類観察表	177

## 図版目次

巻頭図版 1	S区 全景 北から	巻頭図版 20	内面朱付着土器 (弥生時代後期)
巻頭図版 2	G・H区 全景 南から	巻頭図版 21	サヌカイト板状素材 石棒
巻頭図版 3	U・W区 全景 北から	巻頭図版 22	製塩土器 (古墳時代前期～後期前葉)
巻頭図版 4	O・P区 全景 西から U区 SH5011 全景 東から	巻頭図版 23	製塩土器 (古墳時代後期後葉～飛鳥時代)
巻頭図版 5	I-4区 SH4002・4003・4007 全景 南西から II区 全景 西から	巻頭図版 24	鞆羽口 (古墳時代後期後葉～飛鳥時代)
巻頭図版 6	II-3区 全景 西から	図版 1	遺跡の遠景 南から 遺跡の遠景 南東から
巻頭図版 7	II-3区 竪穴住居群 全景 南から I-4区 SB4001 全景 北から	図版 2	遺跡の全景 (垂直) 調査区の全景 西から
巻頭図版 8	II-1区 弥生中期 掘立柱建物群 全景 南から II-1区 SB1004 全景 南から	図版 3	調査区の全景 (垂直)
巻頭図版 9	勾玉 (弥生時代)	図版 4	G・H区 G・H区 全景 南から
巻頭図版 10	管玉・ガラス小玉 (弥生時代)	図版 5	G・H区 G・H区 全景 (垂直)
巻頭図版 11	扁平紐式 銅鐸 (片)	図版 6	G・H区 G・H区 下層遺構 全景 (中央に SD0007) 西から
巻頭図版 12	舶載鏡 (片)・仿製鏡 (片)	図版 7	G・H区 G・H区 全景 北から G・H区 全景 東から
巻頭図版 13	銅鏃・小銅鐸・鏡 (片)	図版 8	G・H区 G・H区 全景 東から G区 全景 西から
巻頭図版 14	滑石製模造品	図版 9	H区 H区 SH1001 全景 南から H区 SH1002・1005・1008 全景 西から
巻頭図版 15	棗玉・管玉・勾玉・白玉 (古墳時代)	図版 10	H区 H区 SH1005・1002・1008 調査状況 西から H区 SH1003 完掘全景 西から H区 SH1005 全景 東から H区 SH1005 西から H区 SH1005 (K1) 断面 南から
巻頭図版 16	焼成破裂土器・土器片 (弥生時代中期後半)	図版 11	H区 H区 布掘遺構 SX1008・1010・1012 全景 南から
巻頭図版 17	焼成破裂土器・土器片 (弥生時代～古墳時代前期)		
巻頭図版 18	旧練兵場遺跡を中心とした丸亀平野南西部の備中西部・備後系土器		
巻頭図版 19	搬入土器 (弥生時代後期)		

H区 布掘遺構 SX1008・1010・1012 調査状況 西から  
図版 12 G・H区  
H区 SB1004 全景 西から  
G区 古代期遺構 全景 西から  
図版 13 H区  
H区 古代期遺構 全景 西から  
図版 14 H区  
H区 SB1001 全景 西から  
H区 SB1002 全景 西から  
H区 SB1003 全景 東から  
図版 15 G区  
G区 SD0005 全景 東から  
G区 SD0005 断面 南から  
図版 16 G・H区  
G区 SD0005 土器出土状況 南から  
G区 SK0003 土器出土状況 北から  
G区 西壁 東から  
G区 SD0005 土器出土状況 北東から  
H区 SP1480 韃羽口出土状況 南から  
図版 17 G・H・I・J・K区  
G・H・I・J・K区 全景 西から  
J・K区 全景 西から  
図版 18 G・H・I・J・K区  
G・H・I・J・K区 全景 南東から  
図版 19 I・J・K区  
I・J・K区 全景 (垂直)  
図版 20 I区  
I区 全景 南から  
I区 全景 (下層) 南から  
図版 21 I区  
I区 SH2001 南から  
I区 SH2001・2002・2003 検出状況 東から  
図版 22 I区  
I区 SH2002 完掘状況 東から  
I区 SH2002 炉 (SK2002) 西から  
I区 SH2002 炉 (SK2004) 焼土検出状況 東から  
図版 23 I区  
I区 SH2002 炉 (SK2002) 小型仿製鏡 (片) 出土状況 南から  
I区 SH2003 完掘状況 東から  
図版 24 I区  
I区 SD2001 全景 南から  
I区 SD2002 上層五輪塔 出土状況 東から  
I区 SD2002 上層五輪塔 出土状況 北から  
図版 25 I・J・K区  
I区 北壁 南から  
J・K区 全景 (中央に SD3004・4002) 北西から  
図版 26 J区  
J区 SH4003 全景 北から  
J区 SH4004 炉 (K1) 遺物出土状況 北から  
図版 27 J区  
J区 SB4001 全景 西から  
J区 SB4001 (SK4001) 断面 北から  
J区 SB4001 (SK4001) 断面 北から  
図版 28 J区  
J区 SR4001 全景 北東から  
J区 SB4002 全景 東から  
図版 29 J区  
J区 SR4002 断面 南東から  
J区 SR4002 断面 南から  
図版 30 J区  
J区 SR4002 全景 北から  
J区 SR4002 断面 南から  
図版 31 K区  
K区 SH3001 全景 北西から  
K区 ST3001 断面 南から  
K区 ST3001 検出状況 北西から  
図版 32 K区  
K区 北壁 南から  
K区 SD3004・4002 全景 西から  
図版 33 K区  
K区 SD4002 遺物出土状況 東から  
K区 SD3004 遺物出土状況 北西から  
K区 SD4002 遺物出土状況 東から  
図版 34 L区  
L区 北部全景 西から  
図版 35 L区  
L区 全景 北から  
L区 全景 北西から  
図版 36 L区  
L区 全景 北西から  
図版 37 L区  
L区 SH5002 全景 西から  
L区 SH5005 完掘 北から  
L区 SB5007 全景 北西から  
図版 38 L区  
L区 SH5010 炉 (SK5010) 検出状況 東から  
L区 SH5010 炉 (SK5010) 断面 南東から  
L区 SB5008 柱痕下の炭化物 東から  
図版 39 L区  
L区 SH5010 土器出土状況 南から  
L区 北東 北壁 南から  
L区 東壁 西から  
図版 40 L区  
L区 東壁 西から  
L区 東壁 西から  
L区 作業風景 北から  
図版 41 L・M・O区  
L・M・O区 全景 北東から  
図版 42 M区  
M区 全景 北から  
図版 43 L・M区  
L・M区 全景 北西から  
M区 全景 北から  
図版 44 M区  
M区 全景 西から  
図版 45 M区  
M区 SB6003・6004・6005 全景 東から  
図版 46 M区  
M区 南部全景 北から  
M区 南東部断面 南から  
図版 47 M区  
M区 中央部断面 南から  
M区 中央部 古墳時代堅穴住居群 検出状況 北から  
図版 48 M区  
M区 SH6012・6014 全景 北から  
M区 SH6021・6025 全景 北から  
図版 49 M区  
M区 SH6013・6015・6014 全景 北から  
M区 SH6014 全景 北から  
M区 SH6021 全景 南から

図版 50 M 区

- M 区 SB6002 全景 東から
- M 区 SB6006・6007 全景 西から

図版 51 M 区

- M 区 SH6001・6002 全景 南から
- M 区 SH6004 全景 南から
- M 区 SH6007 床面検出状況 東から
- M 区 SD6015 断面 北から
- M 区 SH6001 床面検出状況 北から
- M 区 SH6006・6007 全景 南から
- M 区 SH6011 全景 西から
- M 区 SD6015 全景 東から

図版 52 M 区

- M 区 SB6002 (SP6067) 断面 東から
- M 区 SB6004 (SP6104) 断面 東から
- M 区 SB6006 (SP6359) 断面 東から
- M 区 SB6008 (SP6437) 柱痕検出状況 西から
- M 区 SB6004 (SP6104) 断面 東から
- M 区 SB6005 (SP6072) 遺物出土状況 南から
- M 区 SB6007 (SP6367) 断面 東から
- M 区 SB6008 (SP6437) 全景 西から

図版 53 N 区

- N 区 東半部全景 北から

図版 54 N 区

- N 区 SH7001 床面検出状況 東から
- N 区 SH7001 検出状況 東から
- N 区 SH7003 床面検出状況 西から

図版 55 N 区

- N 区 SH7003 断面 南から
- N 区 SH7003 焼土・炭化物 検出状況 北から
- N 区 SH7003 土層土器群 検出状況 西から

図版 56 N 区

- N 区 SH7004 炉跡断面 北から
- N 区 SH7004 炉跡 検出状況 南東から
- N 区 SH7004 (SP7359) 東から

図版 57 N 区

- N 区 SH7005 炉跡断面 東から
- N 区 SH7005 断面 東から
- N 区 SD7305 断面 東から

図版 58 O・P 区

- O・P 区 全景 北から
- O・P 区 全景 北から

図版 59 O・P 区

- O・P 区 全景 西から
- O・P 区 全景 北から

図版 60 O 区

- O 区 全景 南から
- O 区 SH8008 全景 東から

図版 61 O 区

- O 区 西半部 全景 北から

図版 62 O 区

- O 区 SH8203 全景 北から
- O 区 SH8206 壁溝検出状況 西から
- O 区 SH8206 床面検出状況 北から

図版 63 O 区

- O 区 SH8206 全景 南から
- O 区 SH8204・8207 全景 南から
- O 区 遺構検出状況 北から
- O 区 SH8001 全景 南から
- O 区 SD8001 全景 西から

- O 区 SD8001 断面 西から

図版 64 O 区

- O 区 SD8001 中位遺物出土状況 その1 西から
- O 区 SD8001 中位遺物出土状況 その2 北西から
- O 区 作業風景 北から

図版 65 O・P 区

- O 区 SH8203, P 区 SH9301・9302 全景 北から
- P 区 SH9003・9004・9005 全景 東から

図版 66 P 区

- P 区 全景 北から
- P 区 III層 上面検出状況 北から

図版 67 P 区

- P 区 SH9003・9004・9005 全景 東から
- P 区 SH9005 土器出土状況 東から
- P 区 SH9301 全景 北から

図版 68 P 区

- P 区 SH9302 焼土・炭化物 出土状況 北から
- P 区 SH9302 床面検出状況 北から
- P 区 SH9302 全景 北から

図版 69 G 区

- Q 区 南部 竪穴住居群 検出状況 東から
- Q 区 南部 全景 東から

図版 70 Q 区

- Q 区 全景 (垂直)
- Q 区 全景 西から

図版 71 Q 区

- Q 区 北部 全景 東から
- Q 区 III層 上面遺構検出状況 東から
- Q 区 SH0001 全景 南東から

図版 72 Q 区

- Q 区 SH0001 竈 全景 東から
- Q 区 SH0001 竈 縦断面 南から
- Q 区 SH0001 竈 横断面 南東から

図版 73 Q 区

- Q 区 SH0007 炉 (SK0001) 遺物出土状況 北西から
- Q 区 SH0301 全景 西から
- Q 区 SH0302 竈 断面 東から

図版 74 Q 区

- Q 区 SH0302 竈 検出状況 西から
- Q 区 SH0302 竈 検出状況 北から
- Q 区 作業風景 東から

図版 75 R・S 区

- R・S 区 東部 全景 北西から

図版 76 S 区

- S 区 西部 全景 北から
- S 区 中央部 全景 北から

図版 77 S 区

- S 区 中央部 全景 北から

図版 78 S・T 区

- S 区 西部, T 区 東部 全景 南から

図版 79 R・S 区

- S 区 IV層 上面の全景 北から
- R 区 III層 上面 検出状況 南から

図版 80 R 区

- R 区 SH3003 全景 南東から
- R 区 SH3012 全景 北から
- R 区 SH3002 全景 南東から

図版 81 R・S 区

- R 区 SH3301 竈 検出状況 南東から
- R 区 SH3304 全景 南から

- S区 SH1033 全景 東から  
R区 SH3305 炉検出状況 北から  
S区 SH1033 竈 土師器高杯 転用支脚 北から
- 図版 82 S区  
S区 北東部 遺構検出状況 東から  
S区 SH1034・1037 全景 東から
- 図版 83 S区  
S区 SH1035 壁溝上面 遺物出土状況 南から  
S区 SH1037 竈 検出状況 東から  
S区 SH1038 床面 土器出土状況 南から  
S区 SH1037 竈 土器出土状況 西から  
S区 SH1037 竈 断面 北から
- 図版 84 S区  
S区 SH1063 全景 西から  
S区 SH1063 焼土・炭化材 検出状況 西から  
S区 SH1063 焼土・炭化材 検出状況 南から
- 図版 85 S区  
S区 SH1058 全景 北から  
S区 SB1109・1110 全景 北西から
- 図版 86 S区  
S区 SB1111・1112 全景 北から  
S区 SD1029 断面 西から  
S区 SK1014 断面 北から  
S区 III層 上面の柱穴群 東から  
S区 SD1029 銅鐸出土状況 西から
- 図版 87 T区  
T区 全景 東から  
T区 遺構全景 西から
- 図版 88 T区  
T区 全景 西から
- 図版 89 T区  
T区 全景 北から  
T区 東半部 全景 北から
- 図版 90 T区  
T区 西半部 全景 北から  
T区 III層 上面検出状況 北西から
- 図版 91 T区  
T区 SH1008 全景 南東から  
T区 SH1009 全景 東から  
T区 SH1012 全景 西から
- 図版 92 T区  
T区 SH1019 全景 北から  
T区 SH1020 全景 西から  
T区 SH1020 竈燃焼部遺物出土状況 南から
- 図版 93 T区  
T区 SH1022 全景 南から  
T区 SH1028 全景 北から  
T区 SD1001 断面 西から
- 図版 94 T区  
T区 SD1014 断面 東から  
T区 SD1025 断面 東から  
T区 SH1020 銅鐸身部片 出土状況 北西から
- 図版 95 U・V・W・Z区  
U・V・W・Z区 全景 北から
- 図版 96 U・V・W区  
U・V・W区 全景 南から
- 図版 97 U・V・W・Z区  
U・V・Z区 全景 東から  
U・V・W区 全景 南東から
- 図版 98 U・V・W区  
U・V・W区 全景 北西から
- 図版 99 N・U・V区  
U・V区 全景 西から  
N・U・V区 全景 東から
- 図版 100 U・W区  
U・W区 全景 北東から  
U・W区 全景 (中央にSH5011) 南東から
- 図版 101 U・Z区  
U・Z区 全景 南東から  
U区 全景 西から
- 図版 102 U区  
U区 南部 全景 (中央にSH5011) 東から
- 図版 103 U区  
U区 全景 北から  
U区 SH5011 全景 東から
- 図版 104 U区  
U区 SH5002 全景 南から  
U区 SH5004 全景 南西から  
U区 SH5011 床面検出状況 南東から  
U区 SH5002・5009 全景 西から  
U区 SH5009 床面検出状況 南から
- 図版 105 U・Z区  
U区 SH5011 炉 (K-1・K-2) 全景 南から  
U区 SH5012 竈全景 南から  
U区 SH5012 竈・鞆羽口 南から  
U区 SR5001 断面 南から  
U区 SH5011 炉 (K-1・K-2) 土器出土状況 北から  
U区 SH5012 竈検出状況 南から  
Z区 SH7004 全景 北から  
U区 作業風景 東から
- 図版 106 V区  
V区 全景 北から  
V区 SH6001・6003 全景 北から
- 図版 107 V・W区  
V区 SH6017 全景 北から  
V区 北壁 南から  
W区 中央部全景 東から  
V区 SD6002・6003・6004 検出状況 東から
- 図版 108 W・Z区  
W区 西壁 東から  
Z区 全景 東から  
W区 SK4006 全景 南東から
- 図版 109 Z区  
Z区 全景 西から
- 図版 110 Z区  
Z区 SH7005 周辺の全景 西から  
Z区 SH7005 床面検出状況 南から
- 図版 111 I-1・3区  
I-1区, I-3区 全景 南から  
I-1区, I-3区 南西部 完掘状況 北西から
- 図版 112 I-2区  
I-2区 全景 南から  
I-2区 全景 南から
- 図版 113 I-2・3・4区  
I-2・4区 全景 北から  
I-3・4区 全景 南東から
- 図版 114 I-3・4区  
I-3・4区 全景 北から  
I-4区 全景 北から
- 図版 115 I-2・3区

- I -2 区 SH2001 全景 西から  
I -2 区 SH2001 壁材痕跡 検出状況 西から  
I -3 区 SH3001 全景 南から  
図版 116 I -3 区  
I -3 区 SH3001 竈 検出状況 南から  
I -3 区 SH3002 全景 東から  
I -3 区 SH3009 全景 北東から  
図版 117 I -3・4 区  
I -3 区 SH3002 炉 (SP3057・3027) 全景 北東から  
I -3 区 SH3017 炉 (SP3157) 断面 北東から  
I -4 区 SH4002・4003・4007 検出状況 西から  
I -3 区 SH3017 炉 (SP3157) 全景 東から  
I -3 区 SH3009 炉 (SP3028) 断面 北から  
図版 118 I -4 区  
I -4 区 SH4001・4002・4003・4004 全景 南から  
I -4 区 SH4001 全景 西から  
図版 119 I -4 区  
I -4 区 SH4001 検出状況 西から  
I -4 区 SH4001 壁材痕跡 検出状況 北から  
I -4 区 SH4001 壁材痕跡 検出状況 東から  
図版 120 I -4 区  
I -4 区 SH4001 ベッド内側 小溝検出状況 東から  
I -4 区 SH4001 炉 断面 南から  
I -4 区 SH4001 炉 断面 (下層はSH4007) 南から  
図版 121 I -4 区  
I -4 区 SH4002・4003・4007 全景 西から  
I -4 区 SH4002・4003・4007 全景 南西から  
図版 122 I -4 区  
I -4 区 SH4002 全景 南から  
I -4 区 SH4002 炉 (SK4007・SK4008) 断面 南西から  
I -4 区 SH4002 炉 (SK4008)  
ガラス製管玉 (304-3) 出土状況 南東から  
図版 123 I -4 区  
I -4 区 SH4001 (SP4074) 遺物出土状況 南から  
I -4 区 SH4003 検出状況 北から  
I -4 区 SH4007 炉 (SK4009) 全景 西から  
図版 124 I -4 区  
I -4 区 SH4004 全景 北から  
I -4 区 SH4007 検出状況 西から  
図版 125 I -2 区  
I -2 区 SB2001 全景 北から  
I -2 区 SB2001 (SP4169) 断面 南東から  
I -2 区 SB2001 (SP4169) 断面 北東から  
図版 126 I -2・II -1 区  
I -2 区 SB2003・2004 全景 東から  
I -2 区 SB2002・2003, II -1 区 SB1002 全景 西から  
図版 127 I -2・3 区  
I -2 区 SB2003 (SP1387) 断面 東から  
I -2 区 SB2002 (SP1379) 断面 南西から  
I -2 区 SB2003 (SP1374) 断面 南西から  
I -2 区 SB2003 (SP1371) 断面 南東から  
I -3 区 SB3001 (SP3108) 土層断面 南から  
図版 128 I -4 区  
I -4 区 SB4001 全景 北から  
I -4 区 SB4001 (SP4001) 柱痕のあたり 北東から  
I -4 区 SB4001 (SP4002) 断面 北から  
I -4 区 SB4001 (SP4003) 断面 南西から  
I -4 区 SB4001 (SP4003) 断面 南西から  
図版 129 I -4 区  
I -4 区 SB4002・4003・4004 全景 北から  
I -4 区 SB4002・4003 全景 西から  
図版 130 I -4 区  
I -4 区 SB4004 全景 南から  
I -4 区 SX4003 全景 西から  
図版 131 I -4 区  
I -4 区 SK4010 断面 東から  
I -4 区 SK4010 断面 東から  
I -4 区 SK4010 遺物出土状況 北東から  
図版 132 I -1・4 区  
I -4 区 SD4002 断面 北から  
I -1 区 SR2001 断面 西から  
図版 133 II -1 区  
II -1 区 全景 西から  
II -1 区 東部全景 東から  
図版 134 II -1・2 区  
II -1 区 東部全景 南から  
II -2 区 全景 北から  
図版 135 II -3 区  
II -3 区 全景 西から  
図版 136 II -3 区  
II -3 区 全景 南から  
II -3 区 古墳後期～古代堅穴住居群 全景 北西から  
図版 137 II -3 区  
II -3 区 古墳後期～古代堅穴住居群 全景 南東から  
II -3 区 III層 上面検出状況 南東から  
図版 138 II -1・4 区  
II -4 区 全景 南から  
II -1・4 区 全景 南西から  
図版 139 II -3 区  
II -3 区 古墳後期～古代堅穴住居群 検出状況 南東から  
II -3 区 古墳後期～古代堅穴住居群 検出状況 西から  
図版 140 II -1 区  
II -1 区 SH1004<sup>1008</sup> 全景 南から  
II -1 区 SH1004<sup>1008</sup> 全景 南東から  
図版 141 I -2 区, II -1 区  
II -1 区 SH1001 全景 北から  
II -1 区 SH1002 全景 南西から  
I -2 区 SH2002 全景 南西から  
図版 142 II -1 区  
II -1 区 SH1003 全景 南から  
II -1 区 SH1004 全景 西から  
II -1 区 SH1004 炉断面 西から  
図版 143 II -1 区  
II -1 区 SH1005・1006 検出状況 南から  
II -1 区 SH1005 全景 南から  
II -1 区 SH1005 焼土・炭化物 検出状況 南東から  
図版 144 II -1 区  
II -1 区 SH1006 全景 南から  
II -1 区 SH1007 全景 南から  
II -1 区 SH1009 全景 南から  
図版 145 II -1 区  
II -1 区 SH1010 全景 南から  
II -1 区 SH1010 (SP1180) 断面 西から  
II -1 区 SH1016 全景 南から  
図版 146 II -1・2 区  
II -1 区 SH1017 全景 北東から  
II -1 区 SH1020 全景 南東から  
II -2 区 SH2001 全景 東から  
図版 147 II -3 区  
II -3 区 SH3001 全景 南から

- II -3 区 SH3001 竈 全景 南から  
 II -3 区 SH3003 全景 南から  
 図版 148 II - 3 区  
 II -3 区 SH3004 全景 南から  
 II -3 区 SH3008 全景 南から  
 II -3 区 SH3009 全景 南から  
 図版 149 II - 3 区  
 II -3 区 SH3010 全景 南西から  
 II -3 区 SH3011 全景 南から  
 II -3 区 SH3013 全景 南西から  
 図版 150 II - 4 区  
 II -4 区 SH4001・4006 検出状況 東から  
 II -4 区 SH4001 全景 南から  
 図版 151 II - 4 区  
 II -4 区 SH4001 炉 遺物出土状況 北西から  
 II -4 区 SH4006 遺物出土状況 西から  
 II -4 区 SH4007 全景 西から  
 図版 152 II - 4 区  
 II -4 区 SH4011 全景 東から  
 II -4 区 SH4024 全景 南から  
 II -4 区 SH4026 (SP4272) 検出状況 南東から  
 図版 153 II - 1 区  
 II -1 区 SB1001 全景 東から  
 II -1 区 SB1004 付近 掘立柱建物群 全景 南から  
 図版 154 II - 1・4 区  
 II -1 区 SB1004 全景 南東から  
 II -1 区 SB1004 全景 南から  
 図版 155 II - 1 区  
 II -1 区 SB1004 (SP1518) 断面 南から  
 II -1 区 SB1004 (SP1097) 断面 南から  
 II -1 区 SB1004 (SP1046) 断面 南から  
 図版 156 II - 1 区  
 II -1 区 SB1006・4010 全景 東から  
 II -1 区 SB1002 (SP1428) 断面 南から  
 II -1 区 SB1002 (SP1448) 断面 北から  
 II -1 区 SB1002 (SP1435) 断面 南から  
 II -1 区 SB1008 (SP1506) 断面 南から  
 図版 157 II - 1・4 区  
 II -1 区 SD4002 全景 南から  
 II -1 区 SB4016 (SP1493) 横木 検出状況 南から  
 II -4 区 SB4010 (SP1390) 断面 南から  
 図版 158 II - 1 区  
 II -1 区 SD4002 断面 南から  
 II -1 区 南壁 北西から  
 図版 159 II - 2 区  
 II -2 区 SD2001 礫群検出状況 東から  
 図版 160  
 弥生中期土器  
 図版 161  
 S 区 SH1069 出土土器 (弥生後期後半古段階)  
 図版 162  
 S 区 SH1069 出土 絵画土器 (舟)  
 図版 163  
 S 区 SH1068 出土土器 (弥生終末期古段階)  
 図版 164  
 U 区 SH5011 出土 把手付広片口皿  
 図版 165  
 弥生土器  
 図版 166  
 分銅型土製品  
 図版 167  
 土師器 (古墳中期～後期前葉)  
 図版 168  
 G 区 SD0005 出土 須恵器・土師器 (古墳後期後葉～古代)  
 図版 169  
 磨製石斧  
 図版 170  
 磨製石斧  
 図版 171  
 打製石庖丁  
 図版 172  
 打製・磨製石庖丁  
 図版 173  
 鉄器  
 図版 174  
 銅鏃  
 図版 175  
 銅鏃  
 図版 176  
 鏡 (片)  
 図版 177  
 扁平紐式 銅鏡 (片)  
 図版 178  
 扁平紐式 銅鏡 (片)  
 勾玉・管玉 (弥生後期～古墳前期)  
 図版 179  
 勾玉・管玉 (古墳後期)  
 滑石製 模造品

## 付図目次

付図 旧練兵場遺跡Ⅲ 遺構平面図 (S=1/250)

## CD-ROM 目次

旧練兵場遺跡Ⅲ 出土遺物観察表  
 旧練兵場遺跡Ⅲ 遺構平面図

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

新病院統合事業は、善通寺病院の敷地の西部にあった臨床研修研究棟及び機能訓練棟、南西部にあった屋内体育館及び看護学校教場棟等を解体・撤去して、新病棟等を建設するという事業計画である。

このうち、看護学校については、平成8・9年度に用地の発掘調査を実施し、平成13年度までに新しい施設が建設された。

その他の施設については、平成10年度に厚生労働省四国厚生支局（旧厚生省四国医務支局）から香川県教育委員会に対して、用地内の埋蔵文化財の有無及び取扱い等についての照会が行われ、両者間での本格的な調整作業が開始された。

調整に際しては、病院敷地全体が周知の埋蔵文化財包蔵地という特殊な環境であるため、香川県教育委員会では事業予定地における試掘調査を実施することで、遺構・遺物の存否を確認し、保護措置の方法についての判断を行った。

上記の試掘調査の結果にもとづいて、より詳細な調整が行われ、掘削工事等によって埋蔵文化財に影響を及ぼす箇所について、発掘調査を行うことで合議に至った。

## 第2節 発掘調査の経過とその問題点

### 1. 発掘調査の経過

発掘調査は、平成13年4月1日から平成17年3月31日までの期間で実施し、本書で報告する箇所は、第22.23.25次調査として平成14年度下半期から平成16年度に現地調査を完了した12,017㎡の箇所である。

発掘調査の実施機関は、平成14年度から平成15年度までは、香川県教育委員会から再委託された財団法人香川県埋蔵文化財調査センターであり、平成16年度は、同年度から香川県の直営機関となった香川県埋蔵文化財センターである。

発掘調査の対象範囲は、調査着手時に新病院の基本設計及び実施設計が完了していない状況であったため、関係機関と協議の結果、建築予定地の全域にわたって全面調査を実施した。

平成14年度下半期から平成15年度の22・23次調査対象地は、遺構検出面が既存建物の建設等により攪乱を受けていたものの遺構密集度が高く、作業は難航を極めた。特に平成15年度23次調査S区は弥生前期から古代の遺構密集度が高く銅鐸片や鏡片の出土等が相次ぎ、今後の調査工程に大きな遅延を生じかねない状態にあった。この点を踏まえ、平成15年度末に各関係機関で協議した結果、平成15年度までの調査実績を踏まえて調査歩掛の変更を行った。平成16年度25次調査以降は、約1,000㎡以上の発掘調査面積において遺構密集度によりAA区分（70㎡）、A区分（120㎡）、B区分（150㎡）、C区分（220㎡）の調査歩掛を適用することで合意した。この協議の結果、平成16年度は円滑な工程管理が図れるようになり、調査精度の一定の確保が可能となった。

なお、調査範囲内の遺構は記録作成を行った後、ほぼ全て消滅した。

### 第3節 整理作業の経過と報告手順

#### (1) 整理作業の経過

整理作業は、平成20年度に開始した19次調査分の終了後に継続して実施しているが、主として平成21年度下半期から平成23年度に実施したものである。平成21年度下半期から平成22年度上半期は報告遺構の整理と遺物接合を行い、平成22年度下半期から平成23年度は遺物実測・浄書及び編集作業を行っている。また、実測対象遺物点数が多量となったため、平成22.23年度に遺物実測作業、平成23年度に遺物浄書を外部委託し、円滑な整理作業の実施に努めた。

本書は、当該事業に係る第3冊目の発掘調査報告書であり、22.23次調査のG～Z区、25次調査のI・II区の成果を収録している。今後、平成21年度から平成23年度の調査成果を収録する第4冊目以降の報告書を、平成24年度以降の整理作業が終了した区画毎に刊行して行く予定である。

#### (2) 報告手順

報告を行うに当たって、調査の成果については原則として時代別に記述を進めることとし、説明の都合上、時代区分等により6節に分割した。平成14年度下半期から開始した22次調査から平成15年度の23次調査までは、平成13年度の19次調査の地区名を踏襲しGからZ区までの調査区名を付与したが、平成16年度の25次調査ではI・II区といった調査区名称を与えている。これは、当センターに複数年度に亘る大規模調査における統一的な調査区呼称法を定めた調査マニュアルが存在しておらず、各担当者の判断によって別に付与した結果である。本来的には、報告書作成時に整理・統合した上で提示すべきところではあるが、未掲載の遺物ラベルや写真記録等の注記をも変更する膨大な作業が必要となることから、本書では現地調査段階での調査区割名を踏襲した。

遺構番号は、現地調査段階で付与したものを優先したが、整理作業の結果、欠番となったものや復元の結果、新たに付与した番号も存在する。また、時代別に報告する都合上、遺構番号が必ずしも連番になっていない。

各節内においては、竪穴住居(SH)・掘立柱建物(SB)・土坑(SK)・墓(ST)・溝(SD)・不明遺構(SX)の順序で、第1・2分冊に掲載している。また、当センターでは、SH等遺構略号を使用して調査・報告を行っているが、略号を与えた遺構がその後の調査の進捗に伴い異なる機能をもつ点が多岐にわたるものも多く存在する。これは、現地調査において安易に略号を付与した結果であり、反省すべき点であるが、調査区名称と同様に写真・図面等の調査記録や遺物の取り上げラベルの変更に伴う作業が膨大となるため、現地調査の略号を踏襲して提示することとした。

現地調査では、基本的に、基本層序IV層とするシルト層の上面に相当する単一遺構検出面上において、弥生時代前期から中世に亘る長期間の遺構を検出し、切り合い等の先後関係に応じて下位へ向かって調査を進めた。上位遺構に下位遺構からの遺物の混入がみられたり、またその逆で上層からの掘り込みに気付かず、調査を進めた結果下位遺構への遺物の混入をきたした事例も多く見られ、現地調査で遺構の時期決定が難航した。この状況は、報告書作成時の竪穴住居や掘立柱建物に関わる報告対象遺物の抽出にも支障を来たすものであった。また、現地調査では組み合わせを把握できていない遺構の存在も多く予想されたため、報告遺物の抽出については、整理作業が滞ることを承知した上で、すべての柱穴や土坑など建物を構成する可能性があるすべての遺構からの出土資料を点検・抽出し、確定が行えた資料か

ら図化を進めた。その結果として、建物等の帰属時期を直接表さない多量の遺物を図化することとなったが、同一地点で遺構形成が継続する本遺跡の特徴を表すと考えて、そのまま提示することとした。

委託により実施した理化学的分析等の成果は第3分冊に収録している。遺構・遺物写真については、第5分冊に収録した。

遺物観察表については、挿図・図版対照用の情報を記載した略表を第4分冊に収録しており、詳細については、付録のCDROMに収録している。

全ての遺構名称を記載した全体平面図については、検出された遺構数や重複が多いことから、付録のCDROMにaiとepsのデータ形式で収録しているので、活用願いたい。

年 度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
面積 (㎡)	4,854	3,616	3,547
期 間	平成 14 年 4 月 1 日～ 平成 15 年 3 月 31 日	平成 15 年 4 月 1 日～ 平成 16 年 3 月 31 日	平成 16 年 4 月 1 日～ 平成 17 年 3 月 31 日
体 制	(総 括) 課 長 北原和利 課長補佐 渡邊勇人 (総務・芸術文化グループ) 主 任 香川浩章 主 査 須崎陽子 主任主事 亀田幸一 (文化財グループ) 副 主 幹 大山真充 主 任 片桐孝浩 文化財専門員 古野徳久 文化財専門員 佐藤竜馬	(総 括) 課 長 北原和利 課長補佐 森岡 修 (総務・芸術文化グループ) 主 任 香川浩章 主 査 須崎陽子 主任主事 八木秀憲 (文化財グループ) 副 主 幹 大山真充 主 任 片桐孝浩 文化財専門員 佐藤竜馬 主任技師 松本和彦	(総 括) 課 長 北原和利 課長補佐 森岡 修 (総務・芸術文化グループ) 主 任 香川浩章 主 査 堀本由紀 主任主事 八木秀憲 (文化財グループ) 課長補佐 大山真充 主 任 山下平重 文化財専門員 佐藤竜馬 主任技師 松本和彦
	(総 括) 所 長 小原克己 次 長 渡部明夫 (総務係) 参 事 河野浩征 副 主 幹 野保昌弘 係 長 多田敏弘 主 査 山本和代 主任主事 高木康晴 (調査係) 参 事 梅木正信 主任文化財専門員 藤好史郎 文化財専門員 森下英治 主任技師 黒木康弘 調査技術員 森 麻子	(総 括) 所 長 中村 仁 次 長 渡部明夫 (総務係) 参 事 河野浩征 副 主 幹 野保昌弘 係 長 多田敏弘 主 査 塩崎かおり 主 査 田中千晶 (調査係) 主任文化財専門員 藤好史郎 文化財専門員 森下英治 文化財専門員 宮崎哲治 主任技師 松井和久 主任技師 黒木康弘 調査技術員 森 麻子 調査技術員 加納裕之 調査技術員 中里伸明	(総 括) 所 長 中村 仁 次 長 渡部明夫 (総務課) 課 長 野保昌弘 係 長 松崎日出穂 主 査 塩崎かおり 主 査 田中千晶 (調査課) 参 事 河野浩征 課 長 藤好史郎 文化財専門員 片桐孝浩 文化財専門員 福家正人 主任技師 細川健一 主任技師 信里芳紀 調査技術員 森 麻子 調査技術員 中嶋将史

表 1 発掘調査面積・期間・体制一覧

年 度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
期 間	平成 21 年 4 月 1 日～ 平成 22 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 1 日～ 平成 23 年 3 月 31 日	平成 23 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 31 日	
体 制	香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課	(総 括) 課 長 春山浩康 課長補佐 武井壽紀 (総務・生涯学習推進グループ) 副 主 幹 香西としみ 主 任 林 照代 (文化財グループ) 主幹(兼)課長補佐 藤好史郎 主任文化財専門員 森 格也 文化財専門員 小野秀幸	(総 括) 課 長 石垣恵一 課長補佐 亀山 隆 (総務・生涯学習推進グループ) 副 主 幹 香西としみ 主 任 西本優子 (文化財グループ) 主幹(兼)課長補佐 藤好史郎 主任文化財専門員 森下英治 文化財専門員 小野秀幸	(総 括) 課 長 炭井宏秋 課長補佐 亀山 隆 (総務・生涯学習推進グループ) 副 主 幹 香西としみ 主 任 丸山千晶 (文化財グループ) 課長補佐 西岡達哉 主任文化財専門員 森下英治 文化財専門員 松本和彦
	香川県埋蔵文化財センター	(総 括) 所 長 大山真充 次 長 深谷 右 (総務課) 課 長 深谷 右(兼務) 副 主 幹 林 文夫 主 任 宮田久美子 主 任 古市和子 (資料普及課) 課 長 西岡達哉 主任文化財専門員 森下英治 文化財専門員 宮崎哲治 文化財専門員 信里芳紀 嘱 託 川井佐織 伊井恵子 樽谷京子 門脇範子 斉藤寛子 柴垣智美 下村幸子 須賀敦子 高島千春 中山尚子 原田リエ 廣瀬杏子	(総 括) 所 長 大山真充 次 長 深谷 右 (総務課) 課 長 深谷 右(兼務) 副 主 幹 林 文夫 主 任 福井良子 主 任 古市和子 (資料普及課) 課 長 西岡達哉 文化財専門員 山下平重 文化財専門員 信里芳紀 嘱 託 今井真紀 香川和子 川井佐織 北濱敦子 伊井恵子 岡崎江伊子 矢口敦子 徳永貴美 高島千春 原田リエ	(総 括) 所 長 藤好史郎 次 長 真鍋正彦 (総務課) 課 長 真鍋正彦(兼務) 副 主 幹 林 文夫 主 任 古市和子 主 任 中川美江 (資料普及課) 課 長 森 格也 主任文化財専門員 木下晴一 文化財専門員 信里芳紀 嘱 託 伊井恵子 今井真紀 岡崎江伊子 香川和子 川井佐織 北濱敦子 竹内悦子 斉藤寛子

表2 整理作業期間・体制一覧

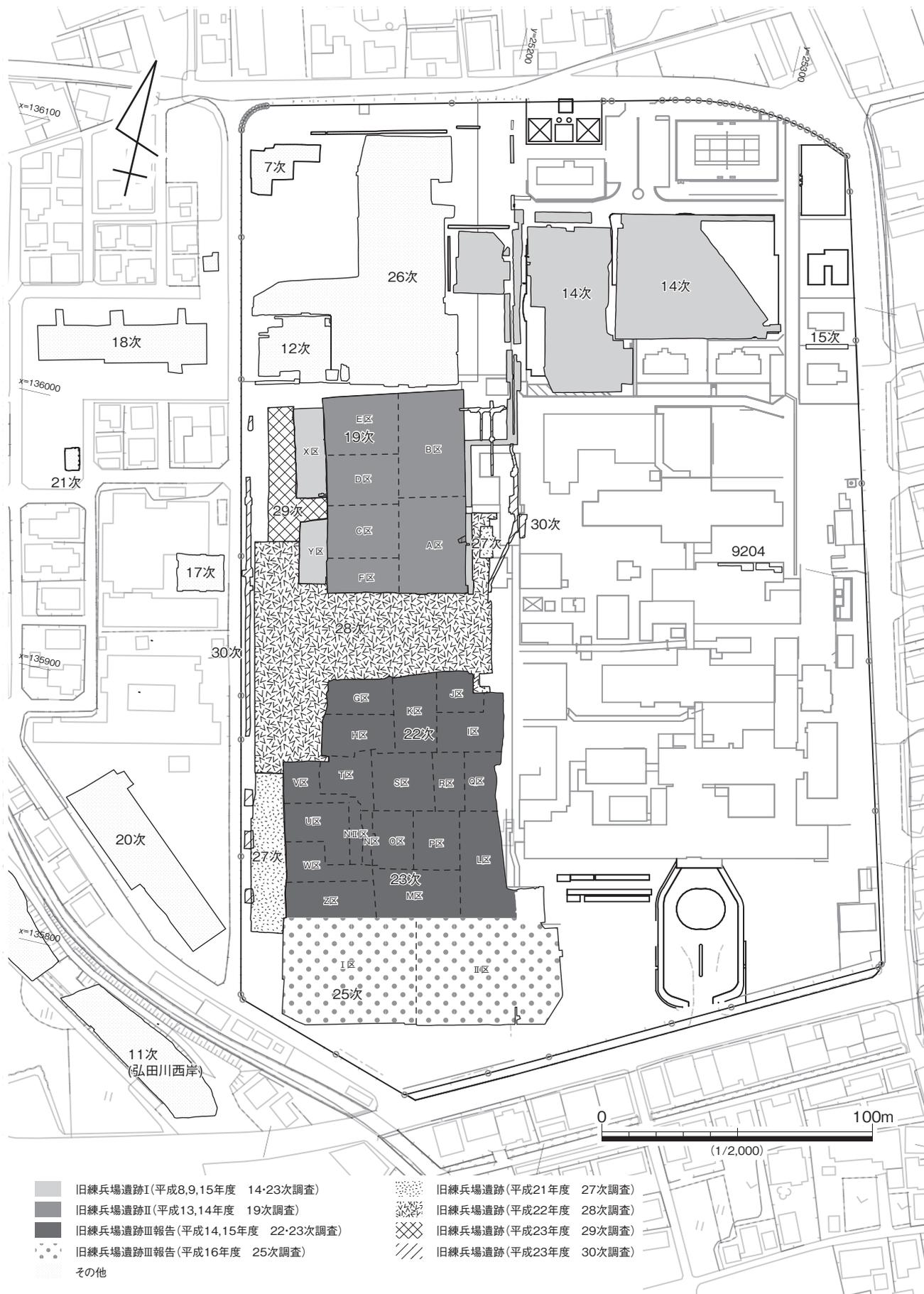


図1 調査区割

## 第2章 遺跡の立地と環境及び既往調査の概要

### 第1節 遺跡の立地

旧練兵場遺跡は、県中部地域の善通寺市仙遊町に所在する遺跡である。遺跡が所在する沖積平野は、丸亀平野と呼ばれ市街化が進む現在においても条里型地割の名残を留めた田園風景を保っている。善通寺市は平野南西部に所在し、人口約34,000人（平成22年4月現在）の自治体である。また、遺跡の所在一帯は、近代に旧帝国陸軍の軍都の設置とともに練兵場として利用された。戦後の昭和23年の道路建設に伴って、多量の土器など遺物が出土したことから、「元練兵場遺跡」「旧練兵場遺跡」と呼ばれ、故矢原高幸氏や六車恵一氏によって学会に紹介された。遺跡台帳に登載する周知の埋蔵文化財包蔵地名



図2 遺跡の位置（その1）

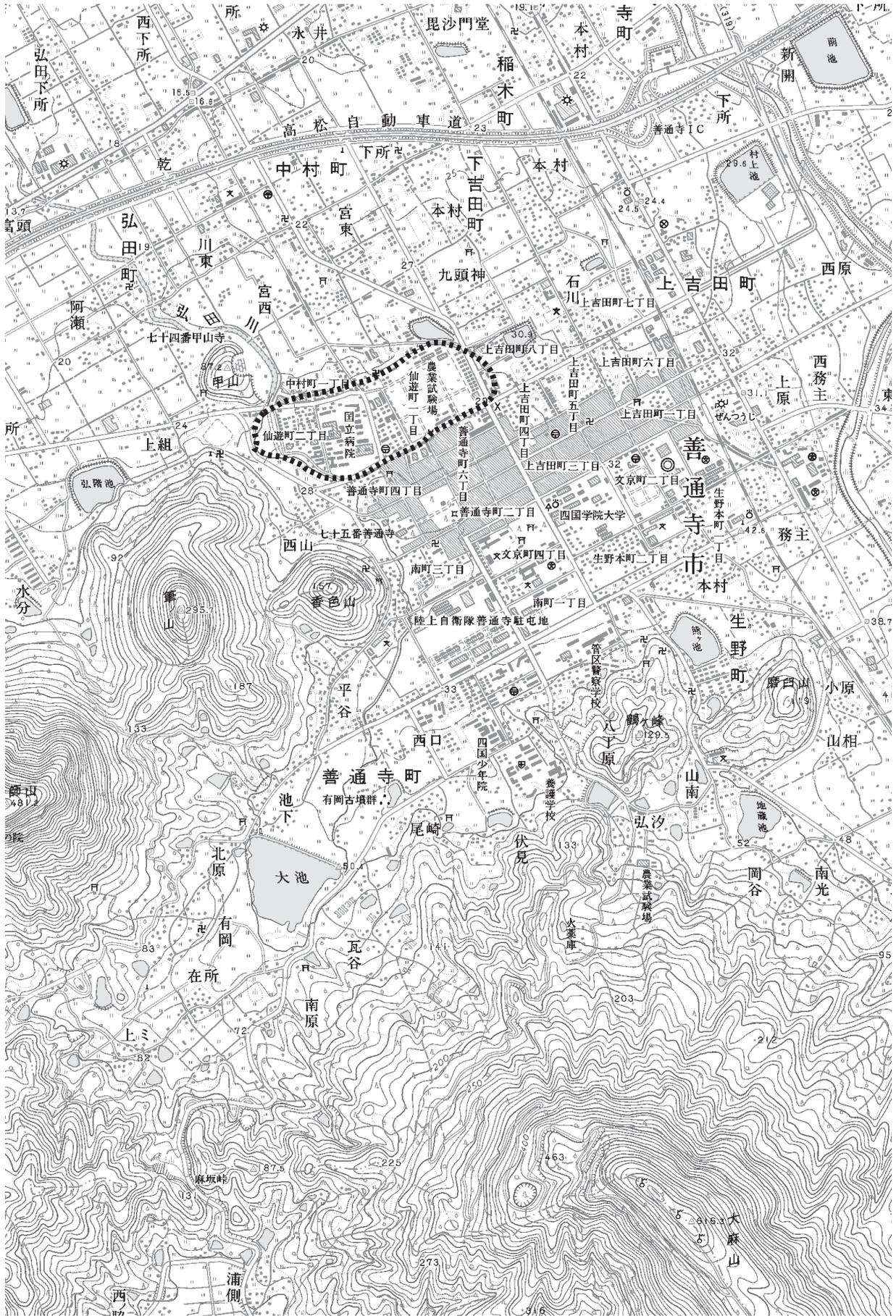
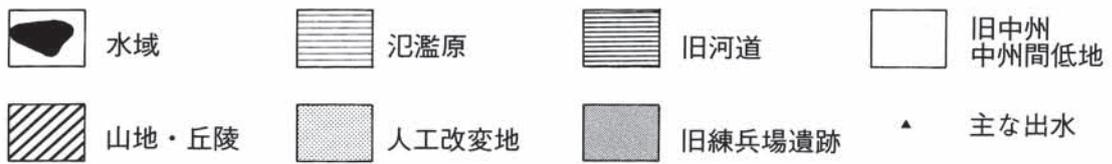


図3 遺跡の位置 (その2)



• A 調査地点      • B 金蔵寺下所遺跡      • C 稲木遺跡A地区

図4 微地形分類

もこれを踏襲し、現在まで保護措置が採られてきた。旧練兵場遺跡という名称は、戦争関連遺跡としての性格や印象を強く与えるかもしれないが、名称の中には土地の履歴だけではなく、遺跡の発見の経緯とそれに関する学史が込められている。

## 第2節 歴史的環境

歴史的環境については、既刊の「旧練兵場遺跡Ⅰ・Ⅱ」を参照していただきたい。



図5 遺跡分布（縄文後期～古墳前期）

番号	遺跡名	縄文			弥生								古墳		備考	
		後期	晩期	晩期(突寄文)	前期(古)	前期(新)	中期(古)	中期(中)	中期(新)	後期(古)	後期(新)	終末期(古)	終末期(新)	古墳(前)		古墳(中)
1	旧練兵場遺跡	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
2	甲山遺跡									■						
3	甲山北遺跡					■					■	■				
4	九頭神遺跡						■			■		■				
5	九頭神東遺跡						■	■				■				
6	石川遺跡									■						
7	善通寺西遺跡										■	■	■	■		
8	佐伯八幡山遺跡										■	■				
9	香色山山頂遺跡										■	■	■			
10	平谷										■	■	■	■		
11	王墓山古墳										■	■	■			
12	北原遺跡								■							
13	大麻山シスト群											?	?			
14	生野本町遺跡												■			
15	生野南口遺跡													■		
16	乾遺跡		■			■					■	■				
17	阿弥陀堂遺跡			■	■	■										
18	中村遺跡	■			■	■										
19	中村東遺跡	■	■		■	■										
20	永井遺跡	■	■	■	■	■				■	■	■	■	■		
21	稲木遺跡A地区		■	■	■											
22	稲木遺跡C・D・E地区										■	■	■	■		
23	金蔵寺下所遺跡		■			■					■	■				
24	西原遺跡					■										
25	永井北遺跡				■	■						■	■			
26	稲木北遺跡				■	■										
27	小塚遺跡										■	■	■	■		
28	月信遺跡						■	■	■							
29	西碑殿遺跡						■	■	■							
30	矢ノ塚遺跡						■	■	■							
31	吉原火上山遺跡								■							
32	我拝師山遺跡								■							
33	舟岡山遺跡										■					
34	中東遺跡											■	■			
35	奥白方南原遺跡								■			■				
36	奥白方中落遺跡								■		■					
37	西白方瓦谷遺跡								■		■					
38	三井遺跡				■	■										
39	笠屋遺跡							■	■							
40	庄八尺遺跡												■	■		
41	中又北遺跡										■	■	■			
42	青木地区										■					
43	木下遺跡										■	■	■			
44	南鴨遺跡										■	■				
45	北鴨遺跡										■	■				
46	中津兵庫遺跡										■	■	■			
47	生野山遺跡								■							
48	生野原遺跡								■	■						
49	山南遺跡				■	■			■	■	■	■	■			
50	大麻岡								■	■						

表3 丸亀平野遺跡動態 その1

番号	遺跡名	縄文			弥生								古墳		備考		
		後期	晩期	晩期(突帯文)	前期(古)	前期(新)	中期(古)	中期(中)	中期(新)	後期(古)	後期(新)	終末期(古)	終末期(新)	古墳(前)		古墳(中)	
51	岩崎遺跡																
52	公文山(如意山)遺跡																
53	鉢伏山北麓遺跡																
54	垂水妙見遺跡																
55	宝幢寺跡																
56	龍川五条遺跡																
57	五条遺跡																
58	龍川四条遺跡																
59	三条番ノ原遺跡																
60	三条黒島遺跡						大溝	大溝	大溝	大溝	大溝	大溝	大溝	大溝			
61	郡家原遺跡																
62	郡家一里屋遺跡																
63	郡家大林上遺跡																
64	郡家田代遺跡																
65	川西北七条1遺跡																
66	川西北鍛冶屋遺跡																
67	郡家南部運動広場																
68	田村池遺跡																
69	平池南遺跡																
70	平池西遺跡																
71	平池東遺跡																
72	中の池遺跡																
73	道下遺跡																
74	新田橋本遺跡																
75	今津中原遺跡																
76	津森位遺跡																
77	田村遺跡																
78	買田岡下遺跡																
79	吉野下秀石遺跡																
80	檜林南遺跡																
81	町代遺跡																
82	羽間遺跡																
83	安造田東3号墳下層																
84	室塚遺跡(谷)																
85	綾歌運動公園																
86	室塚遺跡(丘陵)																
87	平尾墳墓群																
88	定連遺跡																
89	原遺跡																
90	佐古川・大妻田遺跡																
91	佐古川遺跡																
92	佐古川・窪田遺跡																
93	石塚山遺跡																
94	池下遺跡																
95	北内遺跡																後期後半から終末期の溝に木器未製品
96	行末遺跡																
97	行末西遺跡																
98	仁池遺跡																
99	北原遺跡																
100	椎尾遺跡																

表3 丸亀平野遺跡動態 その2

番号	遺跡名	縄文			弥生								古墳		備考	
		後期	晩期	晩期(突帯文)	前期(古)	前期(新)	中期(古)	中期(中)	中期(新)	後期(古)	後期(新)	終末期(古)	終末期(新)	古墳(前)		古墳(中)
101	椎尾東遺跡															
102	庄遺跡															
103	次見遺跡									鍛冶遺構						
104	大窪池遺跡															
105	下土居遺跡															
106	西内遺跡															
107	楠見池西遺跡															
108	城山南麓															
109	飯野・東二瓦礫遺跡															
110	飯野山西麓遺跡															
111	飯野山山頂															
112	東坂元秋常遺跡															
113	東坂元三ノ池遺跡															
114	飯山一本松遺跡															
115	川津川西遺跡															
116	川津東山田遺跡															
117	川津一ノ又遺跡															
118	西又遺跡															
119	川津井手の上遺跡															
120	川津六反地遺跡															
121	川津昭和遺跡							大溝	大溝	大溝	大溝	大溝	大溝			
122	川津二代取遺跡															
123	川津下樋遺跡															
124	川津中塚遺跡															
125	下川津遺跡					大溝	大溝	大溝	大溝	大溝	鍛冶遺構	鍛冶遺構	鍛冶遺構		大溝	
126	川津元結木遺跡															
127	常山遺跡															
128	長者原遺跡															
129	文京町二丁目西遺跡	?	?												製塩	
130	伊勢町遺跡					?	?									

 遺構が確認されている遺跡  
 流路または包含層、遺物が確認された遺跡

表3 丸亀平野遺跡動態 その3

### 第3節 既往調査の概要

#### 1. 既往の調査と調査区名称

昭和33(1958)年には故矢原高幸氏や尽誠学園教諭大久保義朗氏によって現在の独立行政法人病院機構善通寺病院の前庭の発掘調査が実施されている(尽誠学園史学会1959)。

その後、旧練兵場遺跡における発掘調査は行政主体の開発対応による事前調査となり、昭和58年度以降、工事立会等の小規模な調査を含め42回に亘って実施されてきた。表6は、過去の調査事例の一覧表である。その中で、周知の埋蔵文化財包蔵地としての「旧練兵場遺跡」とは別に、包蔵地内の各地区で「仲村廃寺」「彼ノ宗遺跡」等の遺跡名称が個別に付された状況があったが、表6にはこれらを統合して記している。

調査番号	年度	調査 回数	調査種別	調査要因	調査主体	調査面積	調査概要	文献	備考
8308	s58	1	確認調査	範囲確認調査	普通寺市教委	1200	弥生終末期の竪穴住居1棟、古代末～中世の溝を検出	1,10	仲村庵寺1
8404	s59	2	本発掘調査	弘田川河川改修	普通寺市教委	3635	弥生中期～終末期の竪穴住居38棟、鏡片・銅鏃・ガラス玉出土	2,11	彼ノ宗
8507	s60	3	本発掘調査	個人住宅建設	普通寺市教委	135	弥生後期後半の箱式石棺・土器棺墓を確認	3,11	仙遊
8703	s62	4	本発掘調査	下水道建設	県教委	22	弥生中期末の竪穴住居1棟・掘立柱建物1棟を確認	11	旧練兵場
8811	s63	5	確認調査	範囲確認調査	普通寺市教委	1137	弥生中期～終末期の竪穴住居、古墳時代後期の竪穴住居を確認	4,12	仲村庵寺2
9109	h3		確認調査	四国農業試験場施設整備	県教委	146	弥生時代後期の竪穴住居、弥生中期の掘立柱建物を検出	13	
9205	h4		確認調査	四国農業試験場施設整備	県教委	66	弥生後期～古墳時代竪穴住居4棟、土坑、柱穴を確認	14	
9204	h4		工事立会	普通寺病院サービス棟建設	県教委	41	古墳時代後期の竪穴住居、平安時代の溝、弥生～古墳時代の土器だまりを検出	14	
9210	h4	6	本発掘調査	弘田川河川改修	県教委	460	弥生後期～古墳時代竪穴住居多数、包含層中から小銅鏃片が出土	14	弘田川西岸
9305	h5	7	本発掘調査	普通寺病院保育所建設	県教委	305	弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居14棟を検出	15,28	
9309	h5		工事立会	四国農業試験場施設整備	県教委	70	全域で弥生～古代の遺構を確認	15	
9309-2	h5		確認調査	弘田川河川改修	県教委		弘田川の堆積層を確認	28	
9310	h5		工事立会	普通寺病院水道管理設工事	県教委	100	弥生前期末の貯蔵穴2基、弥生後期の竪穴住居4棟検出	28	
9310-2	h5		工事立会	普通寺病院下水道管理設工事	県教委	120	弥生時代後期の竪穴住居5棟、中世の溝等を確認	28	
9310-3	h5	8	本発掘調査	普通寺病院看護学校増築	県教委	150	弥生中期～終末期の竪穴住居9棟、古墳時代の掘立柱建物を確認	15,28	
9404	h6	9	本発掘調査	四国農業試験場品質管理施設建設	県教委	120	弥生中期の掘立柱建物1棟、弥生後期の竪穴住居2棟、古墳時代後期の竪穴住居1棟確認	16,29	
9412	h6	10	本発掘調査	四国農業試験場バイブライン設置工事	県教委	100	全域で弥生～中世の遺構を確認	16,29	
9504	h7	11	本発掘調査	弘田川河川改修	県教委	6390	弥生～古墳時代の竪穴住居62棟、弥生中期の独立棟持柱建物を確認	33	弘田川西岸
9504-2	h7	12	本発掘調査	普通寺病院研修棟建設	県教委	690	弥生中期～終末期の竪穴住居群、弥生後期初頭の掘立柱建物群を確認	17,30	
9511	h7	13	本発掘調査	四国農業試験場タンバク機能解析実験棟建設	県教委	300	弥生後期の竪穴住居2棟、弥生中期の掘立柱建物1棟、古墳時代後期の溝1条確認	17,31	
9511-2	h7		工事立会	普通寺病院備蓄倉庫建設	県教委	780	弥生後期から終末期の竪穴住居等を確認	32	
9610	h8	14	本発掘調査	普通寺病院看護学校新築	県教委	6000	弥生後期の竪穴住居・溝跡、条里型地割坪界溝を検出	34	
9710	h9	15	本発掘調査	普通寺病院雨水管敷設工事	県教委	30	弥生～古代の旧河道を検出	32	
9704	h9		工事立会	普通寺病院水源地建設	県教委	300		32	
9809	h10	16	本発掘調査	普通寺病院看護学校付帯工事	県教委	30	弥生～古代の旧河道を検出	20	
9808	h10		確認調査	確認調査	普通寺市教委	30	弥生中期～後期の柱穴群を確認	5	彼ノ宗
9909	h11		工事立会	四国農業試験場排水設備工事	県教委	800	弥生中期後半～後期の竪穴住居を検出	21	
9911	h11	17	工事立会	老人ホーム建設	普通寺市教委	201	旧河道から弥生中期が一括出土	21	
0006	h12	18	本発掘調査	市営住宅建設	普通寺市教委	1068	弥生後期竪穴住居、旧河道を検出	6	
0101	h12		工事立会	四国農業試験場西門・水路改修	県教委	122592		22	
0104	h13	19	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3250	弥生中期～後期の竪穴住居・掘立柱建物多数、旧河道検出	35,39	
0107	h13	20	本発掘調査	特別養護老人ホーム仙遊荘建替	普通寺市教委	1430		7,23	
0202	h13	21	本発掘調査	市営住宅付帯工事	普通寺市教委	46	弥生後期の竪穴住居3棟確認	8	
0206	h14		工事立会	普通寺病院電柱設置工事	県教委	10		24	
0204	h14	22	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	4854	弥生中期～後期の竪穴住居・掘立柱建物、古墳時代後期の竪穴住居群検出。鏡片出土	24	本書
0504	h15	23	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3616	弥生中期～終末期の竪穴住居72棟をはじめ、掘立柱建物等を多数確認。扁平紐式銅鏃片、船載内行花文鏡片出土	25	本書
0312	h15	24	確認調査	公民館建設	普通寺市教委	70	弥生後期の竪穴住居、古墳時代の包含層を検出	9	本書
0312-2	h15		工事立会	近畿中国四国農業研究センター下水道建設	県教委	200	弥生後期の竪穴住居、旧河道を検出	25	
0404	h16	25	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3547	弥生後期～終末期の竪穴住居、弥生中期の掘立柱建物群を検出。扁平紐式銅鏃片、船載内行花文鏡片が出土	26,41	本書
0406	h16		工事立会	近畿中国四国農業研究センター電気設備埋設	県教委	6	弥生後期竪穴住居1棟検出	26	
0804	h20	26	本発掘調査	普通寺養護学校移転整備事業	県教委	2760	弥生中期～終末期の竪穴住居多数、条里型地割に合致する大溝を検出。鏡片が出土	42	
0905	h21		確認調査	個人住宅建設	市教委	107.5	弥生後期・古墳後期の包含層検出	43	
0911	h21	27	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	840	弥生中期～終末期、古墳後期の竪穴住居、掘立柱建物を検出	44	
1004	h22	28	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	3480	弥生中期～終末期、古墳後期、古代の竪穴住居、掘立柱建物、溝を検出	45	
1104	h23	29	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	907	弥生中期～古墳前期の旧河道、古代道路状遺構を検出		
1111	h23	30	本発掘調査	普通寺病院統合事業	県教委	413	飛鳥時代の大形総柱建物を検出		

表4 既往の調査一覧

- 尽誠学園史学会 1959「国立病院前庭遺跡発掘調査概報」『西讃史談』1  
 六車恵一 1956「讃岐弥生式土器集成図録」『文化財協会報』特別号1 香川県文化財保護協会  
 矢原高幸 1973『善通寺市の古代文化』善通寺市  
 1. 善通寺市教育委員会『仲村廃寺発掘調査報告（旧練兵場遺跡内）』1984.3  
 2. 善通寺市教育委員会『彼ノ宗遺跡～弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』1985.3  
 3. 善通寺市教育委員会『仙遊遺跡発掘調査報告書 - 旧練兵場遺跡仙遊Ⅰ地区 -』1986.3  
 4. 善通寺市教育委員会『仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財確認調査報告書～』1989.3  
 5. 善通寺市教育委員会『山南遺跡・彼ノ宗遺跡発掘調査報告書～善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5～』1999.3  
 6. 善通寺市教育委員会『旧練兵場遺跡 市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2001.1  
 7. 善通寺市教育委員会『旧練兵場遺跡 特別養護老人ホーム仙遊荘建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2002.3  
 8. 善通寺市教育委員会『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7 旧練兵場遺跡』2002.3  
 9. 善通寺市教育委員会『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9 旧練兵場遺跡』2004.3  
 10. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』1984.12  
 11. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59年度～昭和62年度』1988.3  
 12. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成63年度』1989.3  
 13. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成3年度』1992.3  
 14. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成4年度』1993.3  
 15. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成5年度』1994.3  
 16. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』1995.3  
 17. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成7年度』1996.3  
 18. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成8年度』1997.3  
 19. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成9年度』1999.2  
 20. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成10年度』2000.3  
 21. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成11年度』2001.3  
 22. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成12年度』2002.3  
 23. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成13年度』2003.3  
 24. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成14年度』2003.11  
 25. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成15年度』2005.3  
 26. 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報 平成16年度』2006.1  
 27. 香川県教育委員会『香川県文化財年報 平成19年度』2009.2  
 28. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡 - 平成5年度国立善通寺病院内発掘調査報告 -』1994.3  
 29. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅱ - 平成6年度四国農業試験場内発掘調査報告 -』1995.3  
 30. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅲ - 平成7年度国立善通寺病院内発掘調査報告 -』1996.3  
 31. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅳ - 平成7年度四国農業試験場内発掘調査報告 -』1996.3  
 32. 香川県教育委員会『旧練兵場遺跡Ⅴ - 平成9年度国立善通寺病院内発掘調査報告 -』1998.3  
 33. 香川県教育委員会『広域基幹河川弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 弘田川西岸遺跡』2008.1  
 34. 香川県教育委員会ほか『善通寺病院看護学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 旧練兵場遺跡Ⅰ』2009.2  
 35. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『国立善通寺病院改修事業に伴う旧練兵場遺跡発掘調査概報1-平成13年度・平成14年度上半期の発掘成果概要報告-』2003.6  
 36. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成8年度』1997.5  
 37. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成9年度』1998.6  
 38. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成13年度』2002.6  
 39. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成14年度』2003.6  
 40. 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成15年度』2005.3  
 41. 香川県埋蔵文化財センター『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』2006.10  
 42. 笹川龍一ほか 2010「平成11年度旧練兵場遺跡の調査概要について - 善通寺市ふれあいサロン五岳建設工事に伴う発掘調査 - 善通寺市文化財保護協会報第29号」善通寺市文化財保護協会

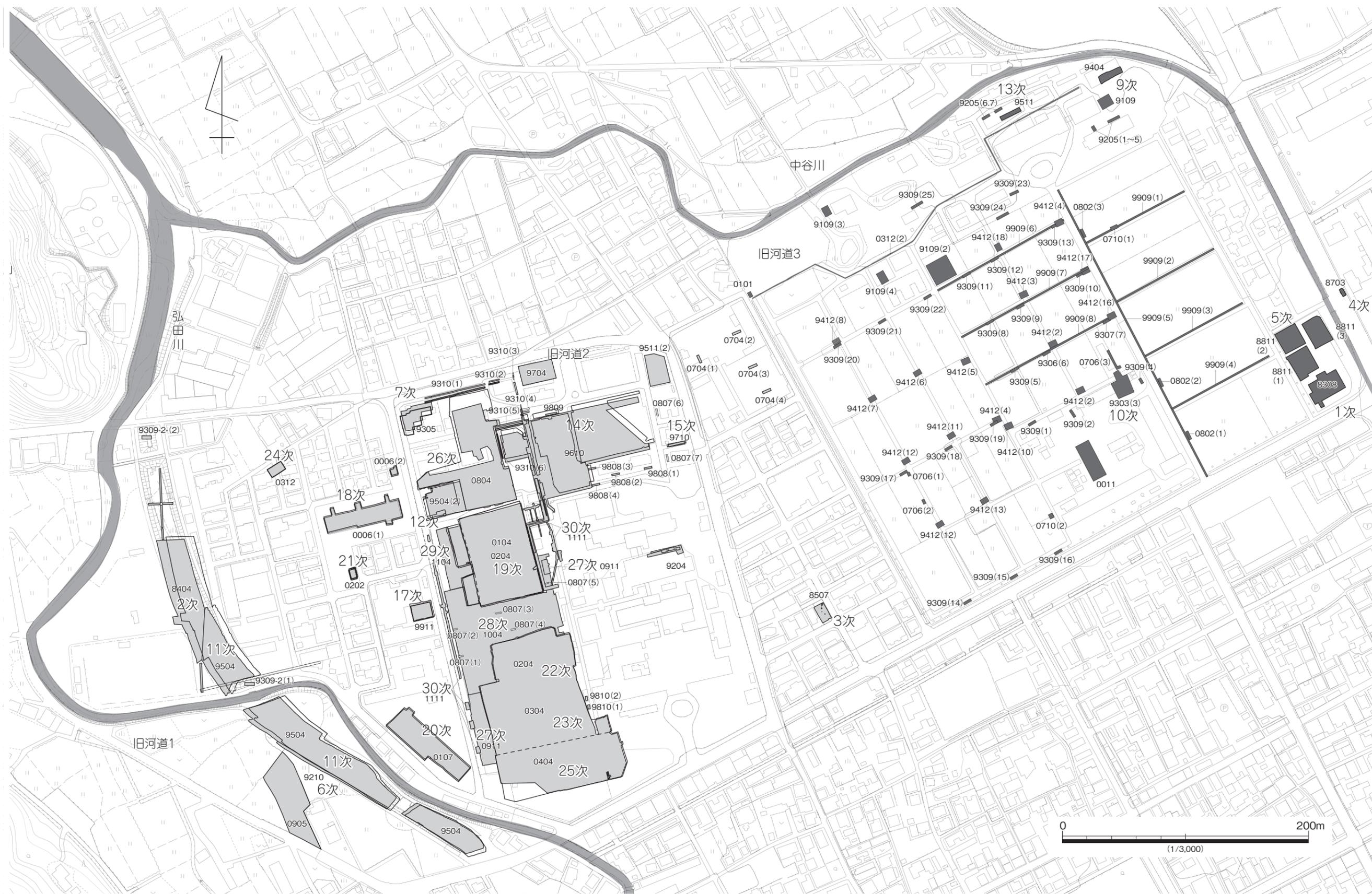


図6 既存の調査区

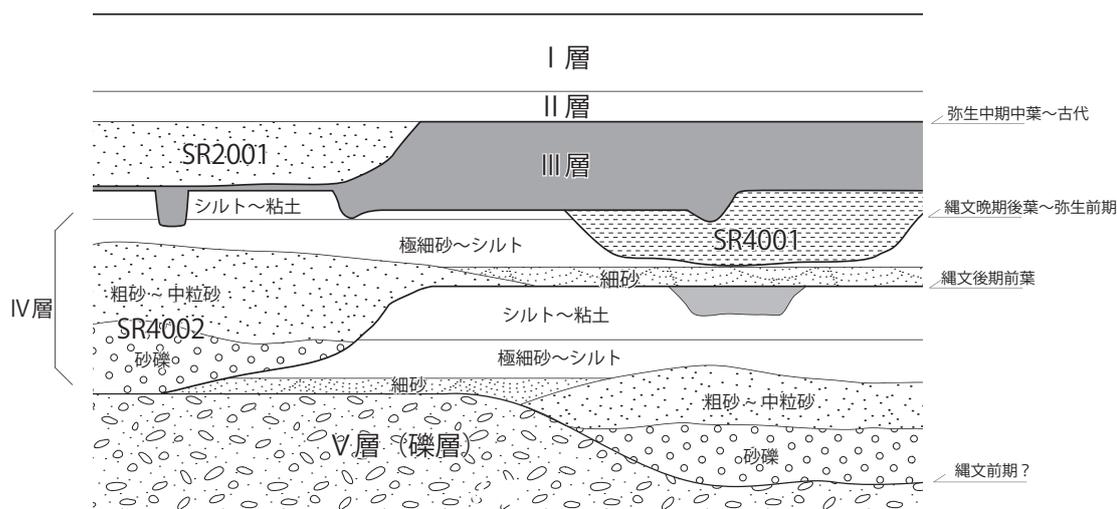


### 第3章 調査の成果

#### 第1節 層序

基本層序については、既刊の「旧練兵場遺跡Ⅱ」に詳説しているため、ここでは概略のみ記すこととしたい。また、本書で報告する旧河道を含めた基本層序は、以下のとおりである。

- I 層 現代の盛土及び攪乱土
- II 層 中世から近世の耕作土・遺構埋没土（灰色シルト）  
SR2001（古代）
- III 層 弥生時代中期から古代の遺構埋没土（黒褐色シルト～粘土）  
SR4001（縄文晩期末葉から弥生時代前期末葉）
- IV -1 層 縄文時代後期～晩期（黄灰色細粒砂～シルト）  
SR4002（縄文後期）
- IV -2 層 縄文前期？～縄文後期（黄褐色粗砂～シルト）
- V 層 砂礫層



旧練兵場遺跡Ⅳ層下位の堆積状況の模式

現地調査では、Ⅱ層までを機械で掘削し、Ⅲ層上面において遺構検出を実施している。Ⅱ層の形成に伴う削平を強く受けているが、Ⅲ層上面は極めて平坦であり、堆積物の供給源となる旧河道はSR2001を除いてみられない。Ⅲ層は、弥生中期以降の連続する遺構形成に伴うものであり、自然堆積層ではない。弥生中期以降の遺構の基盤土となるⅣ層は、粒径の違いや旧河道SR4002を介して、Ⅳ-1層とⅣ-2層に大別される。Ⅳ-1層は、SR4002から連続する自然堆積層であり、粗砂からシルトへの上方細粒化の過程が確認できる。また、Ⅳ-1層上面には、起伏が認められ、低地部にはSR4001などの凹地が存在する。Ⅳ-2層は、Ⅴ層上面の粗砂から上位のSR4002の下面のシルトに移るにつれて細粒化する。上面に古土壌は確認されていないが、本遺跡が扇状地上に立地することから、Ⅳ-1層の堆積に伴い流失した可能性が高い。30次調査では、Ⅳ-2層上面において大型土坑を検出しており、今後の調査の進捗に

伴い、縄文後期以前の遺構が確認される可能性が高い。Ⅴ層の砂礫層は、主に扇状地を形成する礫層であり、堆積年代は明らかになっていない。周辺遺跡の調査事例から、縄文前期頃までには堆積が完了していた可能性が高い。

#### **J・K区北壁（図8）**

Ⅳ-1層上面にSR4001がみられる。SR4001の上面には、古墳前期のSH4002が掘り込まれており、この段階にⅣ層上面はほぼ平坦化していた可能性が高い。SR4002の上面にはⅣ-1層が覆う上層が確認できる。SR4002は、Ⅳ-1層の堆積に伴う旧河道である。

#### **I区東壁（図8）**

Ⅱ層下位に中世条里型地割坪界溝であるSD2001がほぼ全域にみられる。弥生から古代遺構は希薄である。

#### **L区東壁（図9）**

古墳後期から古代にかけての竪穴住居密集域の断面であり、Ⅲ層が厚くみられる。竪穴住居の平面分布との整合性は、厳密に行えていない。

#### **V区西壁（図10）**

Ⅱ層と層相が類似する中世条里型地割坪界溝SD6001と、それに掘り込まれる古代条里坪界溝SD6004や古墳後期後葉のSH6008が確認できる。4.5層としたⅢ層は、古墳後期から古代の竪穴住居の覆土である可能性が高い。

#### **W区西壁（図10）**

SH4009、SH4002 弥生中期から古墳後期の竪穴住居が重複する。この付近のⅣ-1層は、粗砂から中粒砂から構成されており、他の調査区にみられるⅣ-1層上部のシルトは存在しない。Ⅳ-2層までの掘り下げは行えていないが、下位にK区SR4002のような縄文後期の旧河道が存在する可能性が高い。

#### **I-1・I-3区西壁（図11）**

本調査区は、近代以降の削平がきつく、Ⅱ層・Ⅲ層が存在せず、近現代の盛土層直下にⅣ層がみられる。本断面付近の竪穴住居は、壁溝や貼床土を残すのみとなっており、多くの遺構が消滅した可能性が高い。SD1001.1002は近代期の大溝である。

#### **N区西壁（図12）**

SH7001.7005.7006などの、弥生後期後半期から終末期の小型方形住居が、激しく切り合う。SH7005.7006間のⅢ層は、平面的な把握ができなかった竪穴住居の埋没土である。Ⅲ層途中から掘り込まれる柱穴が多く確認できるが、平面的に把握できなかったものも多い。

#### **I-2・II-1区南壁（図13）**

全域が微高地上面となるために、Ⅱ・Ⅲ層が殆ど存在せず、表土層の下位がⅣ層上面となる。近・現代における削平がきつい。東側には中世前半期の条里型地割に伴う坪界溝SD2001が存在しているが、その上位にもⅡ層は認められない。弥生前期埋没の溝SD4002の下位には、30層としたレンズ状の砂礫層がみられる。面的な調査は行えていないが、30層を境にして、Ⅳ層が細別できることから、J区SR4002に類似した縄文後期の旧河道となる可能性が高い。



断面③(L区東壁)

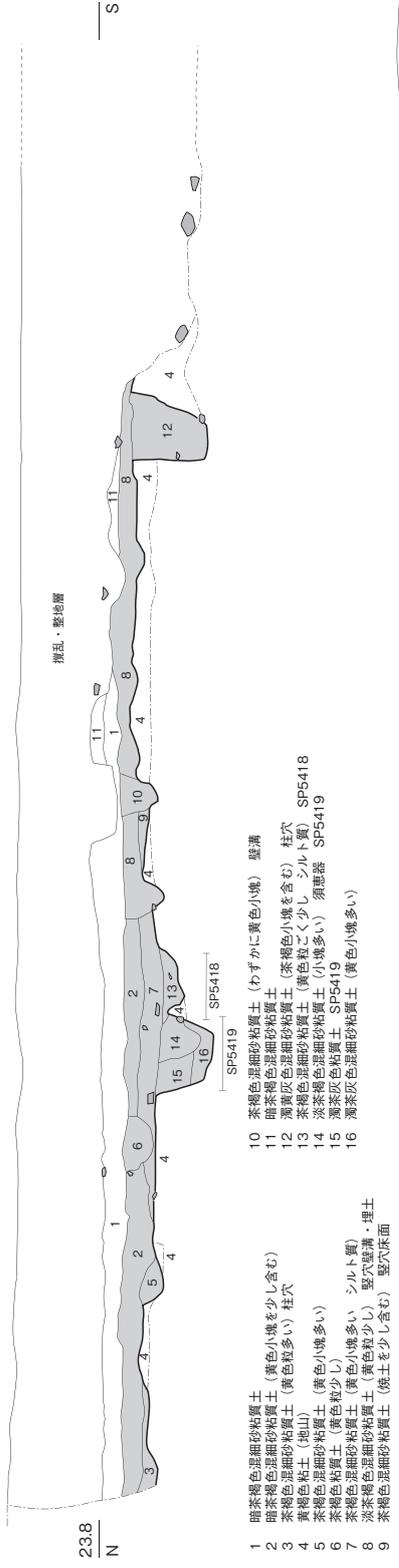
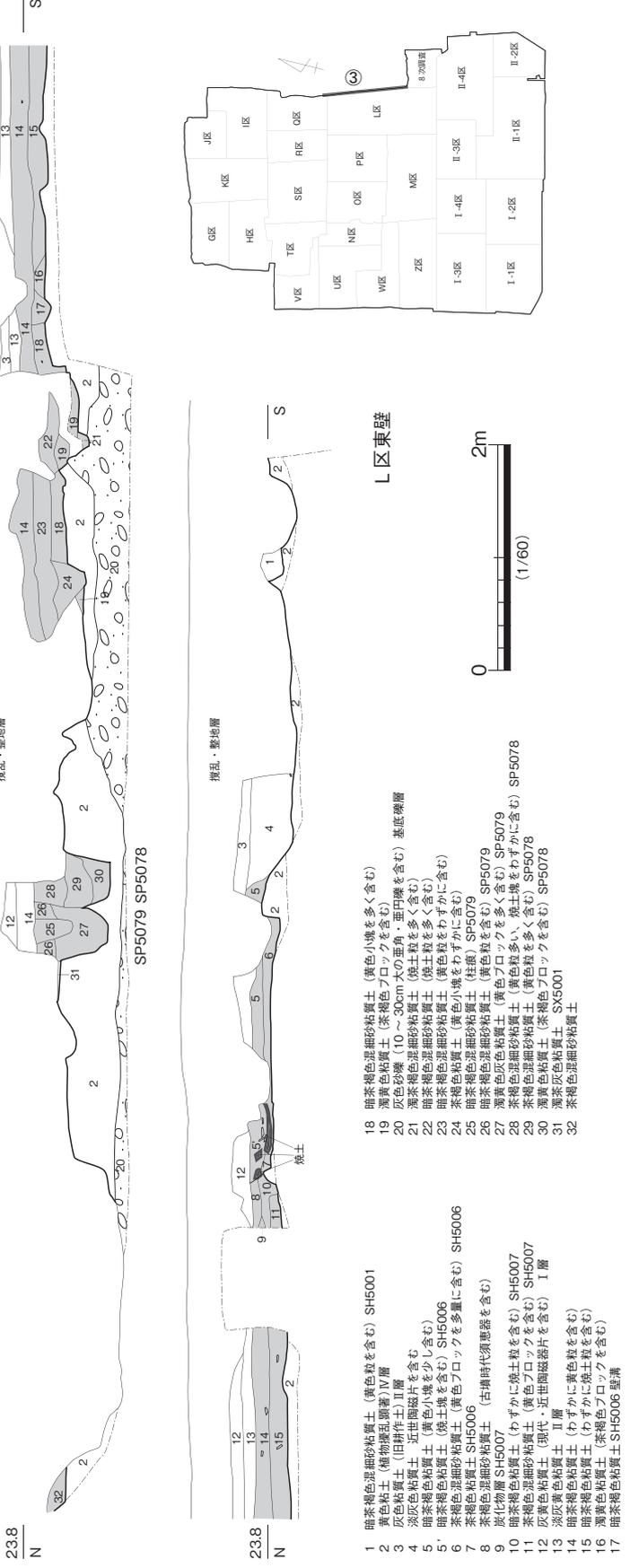
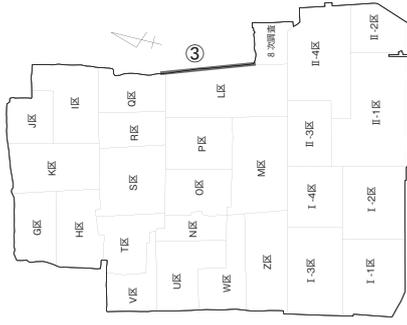


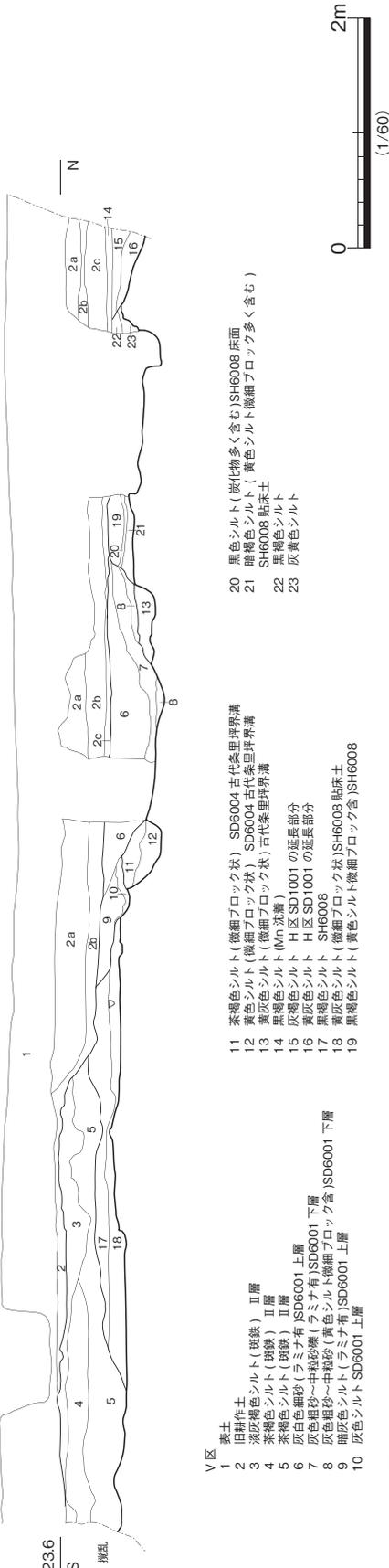
図9 壁3



L区東壁



断面④(V区西壁)



断面⑤(W区西壁)

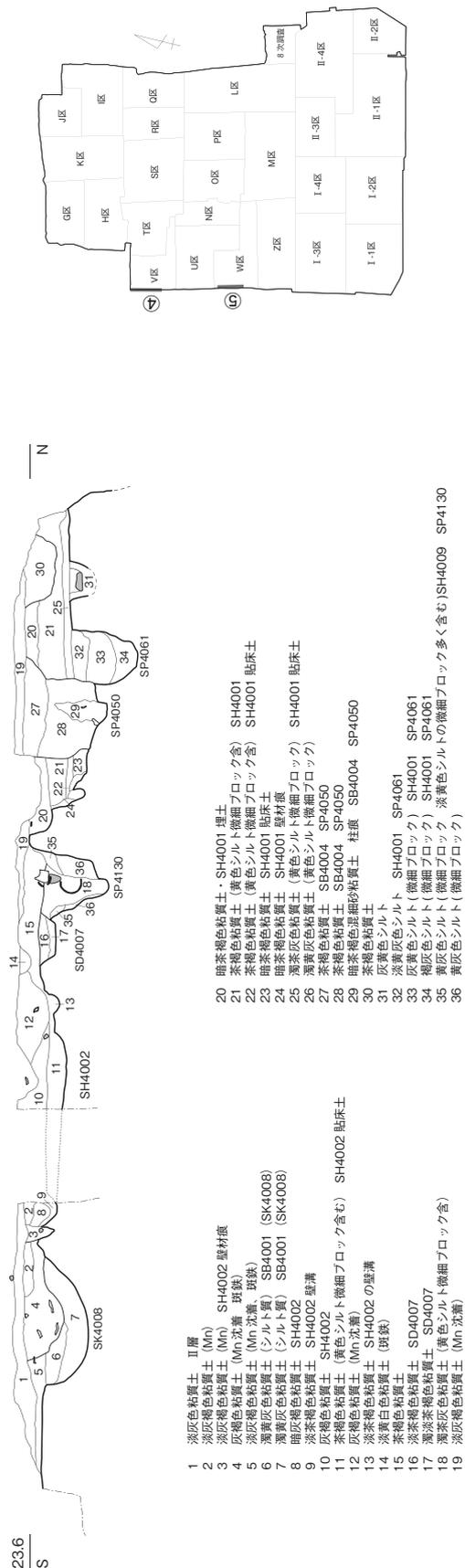
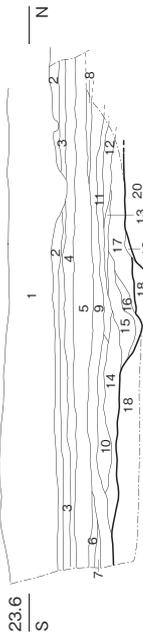


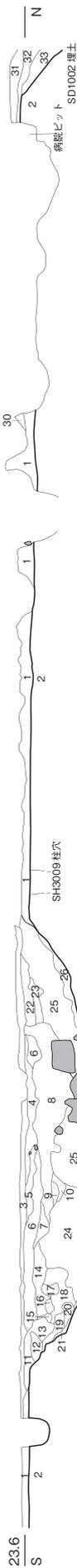
図10 壁4・5

断面⑥ (I-1区西壁)



- 1 礫土
- 2 濁白黄色シルト層
- 3 濁白黄色シルト層 (こげ茶褐色粒を含む)
- 4 濁灰白色シルト層 (こげ茶褐色粒を含む)
- 5 こげ茶灰色シルト層
- 6 暗灰黄色シルト層
- 7 暗灰黄色シルト層 (φ1mm以下の砂粒)
- 8 と同じ
- 9 暗こげ茶灰色砂質土
- 10 暗黄灰色砂層 (細砂粒)
- 11 こげ茶黄色砂層 (細砂粒)
- 12 こげ茶灰色砂層 (砂φ2mm以下 礫2~3cm含む)
- 13 暗灰黄色シルト層
- 14 暗灰黄色砂層 (砂φ1~2mm ラミナ層含む)
- 15 暗茶灰色砂層 (砂φ1~2mm 須臾器含む)
- 16 濁黄白色シルト層
- 17 暗灰白色砂層 (砂φ1mm以下 礫2~5cmを含む)
- 18 暗茶灰色砂層 (砂φ2~10mm 礫5~10cm含む)
- 19 暗灰黄色砂質土
- 20 暗黄やまぶき色粘質土 (地山)

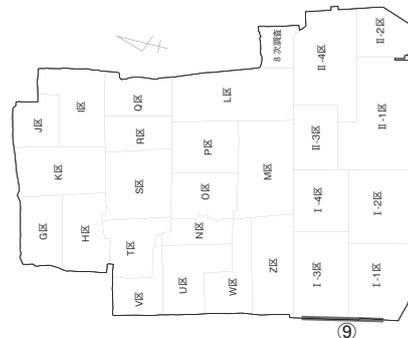
断面⑥ (I-3区西壁)

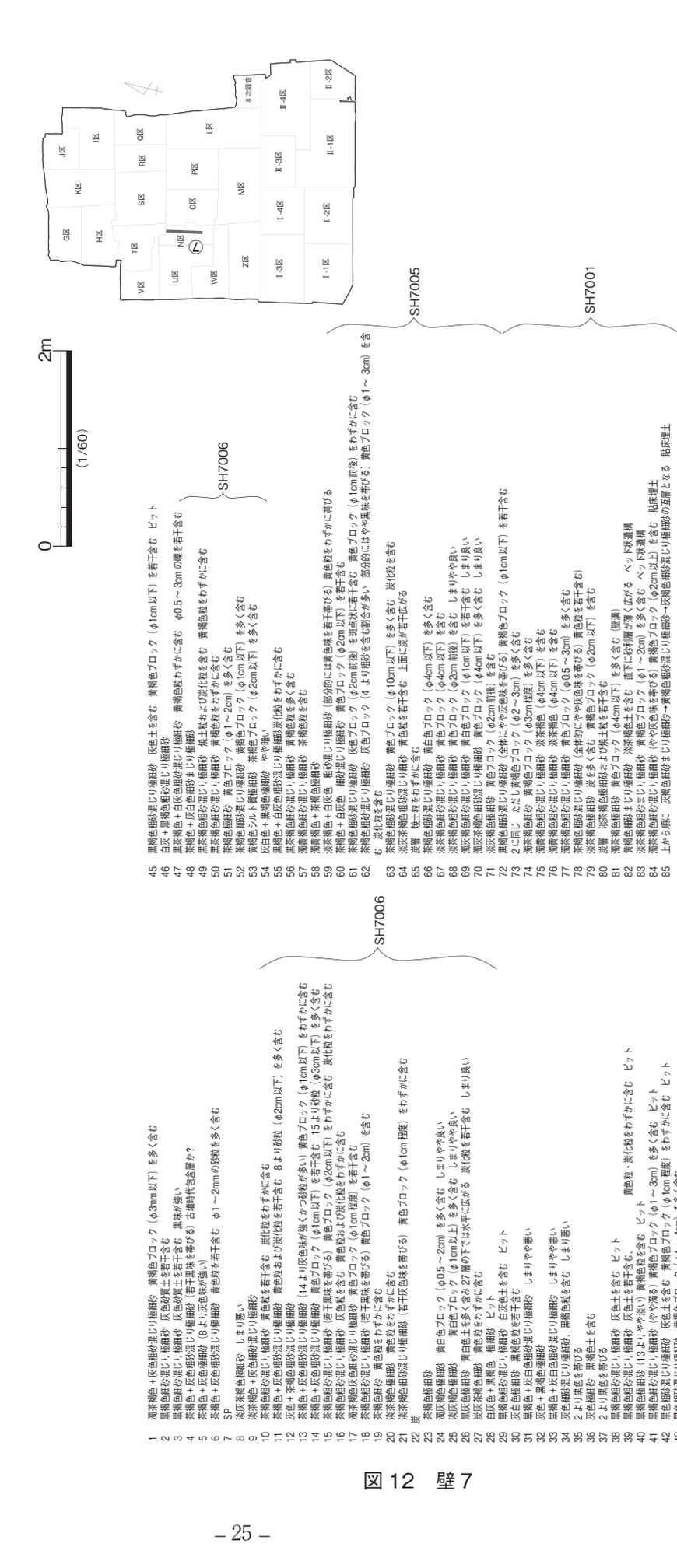
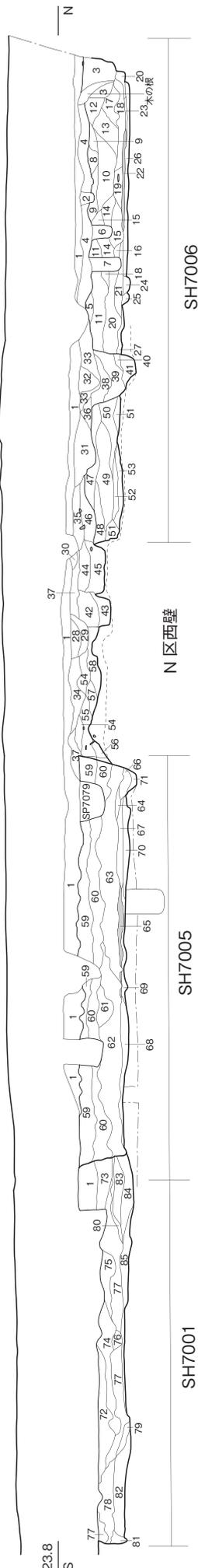


- 1 灰色粘質土 (旧耕土)
- 2 やまぶき黄色粘質土 (地山)
- 3 暗灰黄色粘質土 (旧耕土)
- 4 暗灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 5 暗灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 6 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 7 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 8 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 9 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 10 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 11 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 12 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 13 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 14 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 15 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 16 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 17 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 18 濁灰黄色砂質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 19 濁灰黄色粘質土 (濁灰黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 20 やまぶき黄色粘質土 (濁灰黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 21 灰色粘質土 (濁黄色粘質土ブロックを含む)
- 22 濁灰黄色粘質土 (濁黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 23 暗茶灰色砂質土 (砂φ2~5mmを含む)
- 24 黄やまぶき黄色粘質土 (暗灰黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 25 黄やまぶき黄色粘質土 (暗灰黄色粘質土ブロックを少量含む)
- 26 灰色粘質土 (濁黄色粘質土ブロックを含む)
- 27 灰色シルト層
- 28 濁灰黄色砂質土 (黄灰色砂質土ブロックを含む)
- 29 濁灰黄色砂質土
- 30 濁灰黄色砂質土
- 31 濁灰黄色粘質土 (攪乱)
- 32 6+ (砂粒φ1~3mmを含む) 攪乱
- 33 濁灰黄色粘質土 (暗灰黄色粘質土を含む やまぶき黄色粘質土ブロックを少量含む) SD1002埋土



図 11 壁 6





- 1 濁茶褐色+灰色砂混じり層砂 黄褐色ブロック (φ3mm以下) を多く含む
- 2 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色物質を若干含む
- 3 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色物質を若干含む 黒味が強い
- 4 茶褐色+灰色砂混じり層砂 (若干黒味を帯びる) 古雑時代色層か?
- 5 茶褐色+灰色層砂 (8より灰色味が強い)
- 6 茶褐色+灰色砂混じり層砂 黄色粒を若干含む φ1~2mmの砂粒を多く含む
- 7 SP
- 8 淡茶褐色層砂 しまり悪い
- 9 淡茶褐色層砂 しまり悪い
- 10 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色粒を若干含む 炭化粒をわずかに含む
- 11 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色粒を若干含む 8より砂粒 (φ2cm以下) を多く含む
- 12 灰色+茶褐色砂混じり層砂 黄色粒および炭化粒を含む
- 13 茶褐色+茶褐色砂混じり層砂 (14より灰色味が強くかつ砂粒が多い) 黄色ブロック (φ1cm以下) をわずかに含む
- 14 茶褐色+灰色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ1cm以下) を若干含む 15より砂粒 (φ3cm以下) を多く含む
- 15 茶褐色砂混じり層砂 (若干黒味を帯びる) 黄色ブロック (φ2cm以下) をわずかに含む 炭化粒をわずかに含む
- 16 茶褐色砂混じり層砂 灰色粒を含む 黄色粒および炭化粒をわずかに含む
- 17 濁茶褐色+灰色砂混じり層砂 灰色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ1cm程度) を若干含む
- 18 茶褐色砂混じり層砂 (若干黒味を帯びる) 黄色ブロック (φ1~2cm) を含む
- 19 茶褐色砂混じり層砂 黄色粒をわずかに含む
- 20 淡茶褐色層砂 黄色粒をわずかに含む
- 21 淡茶褐色砂混じり層砂 (若干灰色粒を帯びる) 黄色ブロック (φ1cm程度) をわずかに含む
- 22 炭
- 23 茶褐色層砂
- 24 濁茶褐色層砂 黄色ブロック (φ0.5~2cm) を多く含む しまりや良い
- 25 淡茶褐色層砂 黄色ブロック (φ1cm以上) を多く含む しまりや良い
- 26 黒茶褐色層砂 黄色粒を多く含む 27層の下では水平に広がる 炭化粒を若干含む しまり悪い
- 27 淡茶褐色層砂 黄色粒をわずかに含む
- 28 白色+黒茶褐色 層砂 ピット
- 29 白色+黒茶褐色 層砂 白色土を含む ピット
- 30 灰色+黒茶褐色 層砂 黄色粒を若干含む
- 31 灰色+灰色砂混じり層砂 しまりや悪い
- 32 灰色+灰色砂混じり層砂 しまりや悪い
- 33 灰色+灰色砂混じり層砂 しまりや悪い
- 34 灰色砂混じり層砂 黒茶褐色を含む しまり悪い
- 35 2より黒色を帯びる
- 36 灰色層砂 黒茶褐色を含む
- 37 2より黒色を帯びる
- 38 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色土を含む ピット
- 39 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色土を若干含む 黄色粒、炭化粒をわずかに含む
- 40 黒茶褐色層砂 (13よりやや寒い) 黄褐色粒を含む ピット
- 41 黒茶褐色層砂 (13よりやや寒い) 黄褐色粒を含む ピット
- 42 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色土を含む 黄色ブロック (φ1~3cm) を多く含む
- 43 黒茶褐色砂混じり層砂 黄色土を含む 黄色ブロック (φ1cm程度) をわずかに含む
- 44 黒茶褐色砂混じり層砂 黄色土を多く含む 粗砂が多い
- 45 黒茶褐色砂混じり層砂 灰色土を含む 黄褐色ブロック (φ1cm以下) を若干含む
- 46 白色+黒茶褐色砂混じり層砂
- 47 黒茶褐色+灰色砂混じり層砂 黄褐色粒をわずかに含む φ0.5~3cmの隙を若干含む
- 48 黒茶褐色+灰色砂混じり層砂 灰土粒および炭化粒を含む 黄褐色粒をわずかに含む
- 49 黒茶褐色砂混じり層砂 黄褐色粒をわずかに含む
- 50 黒茶褐色砂混じり層砂 黄褐色粒をわずかに含む
- 51 茶褐色層砂 黄色ブロック (φ1~2cm) を多く含む
- 52 茶褐色砂混じり層砂 茶褐色ブロック (φ2cm以下) を多く含む
- 53 黄色シルト層砂
- 54 灰色+黒茶褐色層砂 やや悪い
- 55 黒茶褐色+灰色砂混じり層砂 炭化粒をわずかに含む
- 56 濁茶褐色砂混じり層砂 黄褐色粒を多く含む
- 57 濁茶褐色砂混じり層砂 黄褐色粒を多く含む
- 58 濁茶褐色+茶褐色層砂
- 59 淡茶褐色+白色 砂混じり層砂 黄色粒を若干含む [黄色粒をわずかに帯びる]
- 60 茶褐色+白色 砂混じり層砂 黄色ブロック (φ2cm前後) を斑状に若干含む 黄色ブロック (φ1cm前後) をわずかに含む
- 61 茶褐色砂混じり層砂 灰色ブロック (4より粗砂を含む割合が多い) 部分的にはやや黒味を帯びる [黄色ブロック (φ1~3cm) を含む]
- 62 茶褐色砂混じり層砂 炭化粒を含む
- 63 茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ10cm以下) を多く含む 炭化粒を含む
- 64 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色粒を若干含む 上面に炭が若干広がる
- 65 炭層 粘土粒をわずかに含む
- 66 茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ4cm以下) を多く含む
- 67 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ4cm以下) を含む
- 68 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ2cm前後) を含む しまりや良い
- 69 淡茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ1cm以下) を若干含む しまり良い
- 70 濁茶褐色砂混じり層砂 黄色ブロック (φ4cm以下) を多く含む しまり良い
- 71 濁茶褐色層砂 黄色ブロック (φ2cm前後) を含む
- 72 黒茶褐色砂混じり層砂 (全体にやや灰色粒を帯びる) 黄褐色ブロック (φ1cm以下) を若干含む
- 73 2と同じ ただし黄褐色ブロック (φ2~3cm) を多く含む
- 74 濁茶褐色層砂 黄褐色ブロック (φ3cm程度) を多く含む
- 75 濁茶褐色層砂 黄褐色粒を若干含む
- 76 濁茶褐色砂混じり層砂 淡茶褐色 (φ4cm以下) を含む
- 77 濁茶褐色砂混じり層砂 淡茶褐色 (φ4cm以下) を含む
- 78 濁茶褐色砂混じり層砂 (全体にやや灰色粒を帯びる) 黄褐色粒を含む
- 79 濁茶褐色層砂 炭を多く含む 黄褐色ブロック (φ2cm以下) を含む
- 80 炭層 淡茶褐色層砂および粘土粒を若干含む
- 81 濁茶褐色層砂 黄色ブロック (φ4cm以下) を多く含む (側溝)
- 82 濁茶褐色砂混じり層砂 淡茶褐色土を含む 直下に有利層が薄く広がる ベット状遺構
- 83 淡茶褐色砂混じり層砂 黄褐色ブロック (φ1~2cm) を多く含む ベット状遺構
- 84 淡茶褐色砂混じり層砂 (やや灰色粒を帯びる) 黄褐色ブロック (φ2cm以上) を含む 炭層
- 85 上から順に 炭層→黄褐色砂混じり層砂→黄褐色砂混じり層砂の互層となる 炭層埋土

図 12 壁 7

断面⑧(I-2・II-1区南壁)

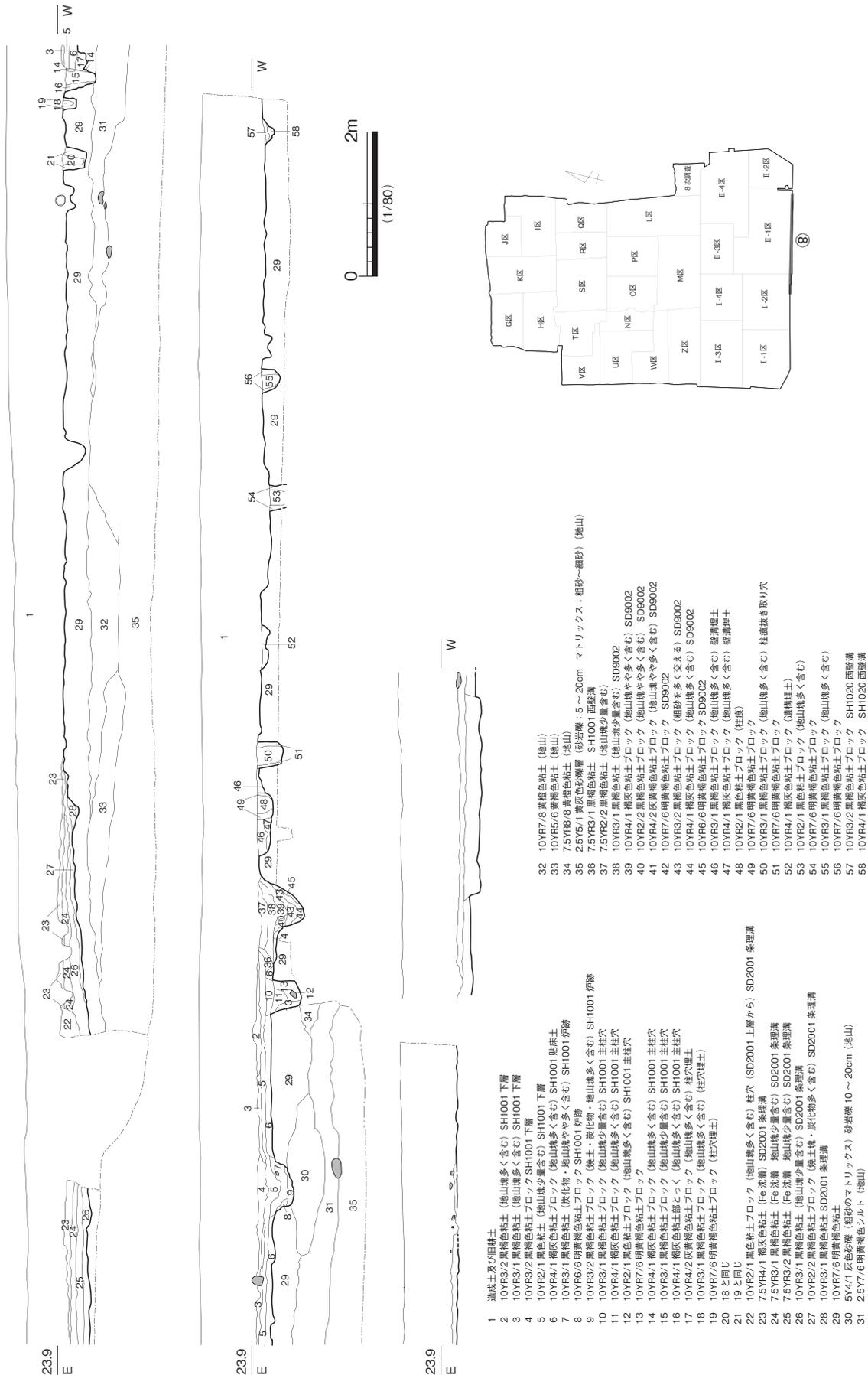


図 13 壁 8

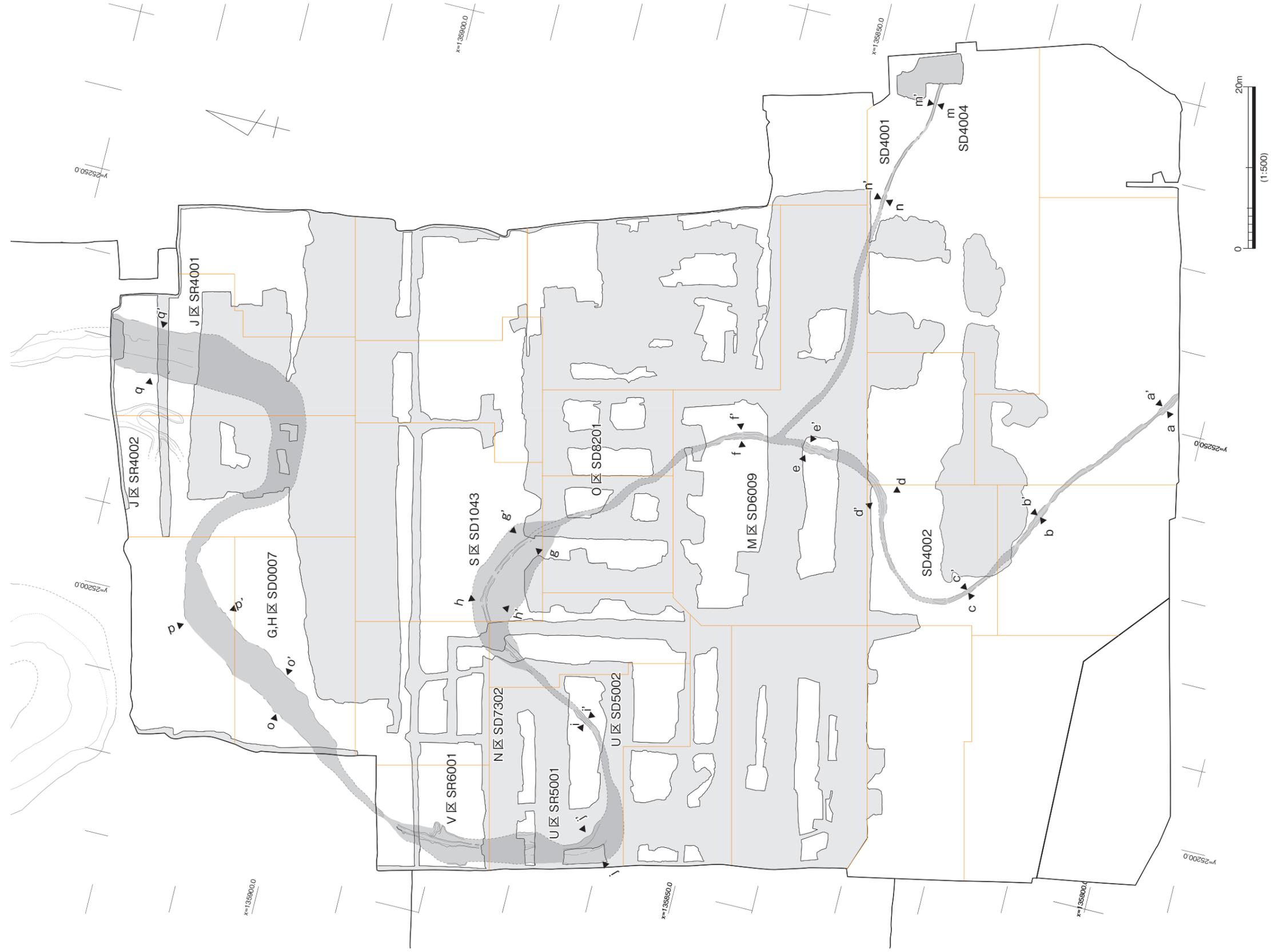


图 14 第2節遺構配置（縄文後期～弥生前期）

## 第2節 縄文後期から弥生前期の遺構・遺物

縄文後期の遺構は、J区SR4002がある。SR4002は、基本層序IV層の堆積過程における旧河道であり、粗砂から中粒砂で埋没した後、上部が黄褐色の細粒砂からシルトによって覆われている。このIV層上部の黄褐色細粒砂・シルトに被覆されている堆積状況や、30次調査1Eトレンチ区において同様の旧河道が検出されている点を踏まえると、他の地点にも調査に至っていない複数の旧河道が存在している可能性が高い。SR4002の遺物出土量からみて、大規模な集落の展開は予測できないが、IV層中に埋没した周辺の微高地上に住居群が存在すると考えられる。

弥生前期の遺構として、南から北へ流下するSD4001.4002等の2条の溝や、G区SD0007.J区SD4001の旧河道が挙げられる。SD4001.4002等の溝は、M区付近で合流するとともに、蛇行を繰り返しながら北流した後、旧河道部分であるSD0007.SR4001に接続している。蛇行を繰り返す点は、微高地を迂回して掘開されたためであり、SD0007.SR4001との接続関係からみて灌漑用水路の可能性が高い。一方、接続先となるSD0007.SR4001は、蛇行しながら17.28.29.30次調査区を経て、既刊の「旧練兵場遺跡Ⅱ」で報告した19次調査区SR02に繋がり、北西方向へ抜けることが明らかになっている。

微高地上での居住関連の遺構は、本書で報告する調査区内において確認しておらず、出土遺物も前期弥生土器片や打製石斧が出土しているものの極めて少量であり、近接して居住域を想定することは困難である。弥生前期段階の居住域は、貯蔵穴群が所在する19次調査地南西部に求められる。しかし、大規模な集落形成を推定することは困難であり、弥生中期後半期以降の集落の様相とは明らかに異質であったと考えられよう。

### J区SR4002 (図15)

J区で確認した旧河道である。トレンチ調査において、SR4001の西側でIV層中の砂礫層より縄文土器が出土したため、調査範囲を拡大した。砂礫層に伴う落ち込みは、南側で八手状に別れ、北側で合流する。

埋没土は、下層より上層に向かって砂礫から粗砂へと変移しており、更に上層を黄褐色シルト～粘土(IV層)が覆う。これらは、上方細粒化に示されたように、一連の堆積であった可能性が高い。従って、図15に示した下層の砂礫層に伴う流路を越えて、IV層上部形成に伴う自然堆積が広範囲に行われたとみた方がよいだろう。また、下層の砂礫層より下位となる黄褐色粘土(図15の12.13層)は、粒径においてIV層上部と層相を大きく違えており、上面が縄文期の遺構面となる可能性が高い。

図15-1.2は縄文土器深鉢である。1は内外面に植物質の原体を用いた条痕が確認できる。2の深鉢頸部片は内外面をミガキ締め、外面の沈線文間に磨消縄文を施す。3は縄文土器浅鉢の頸部片であり、外面に二枚貝条痕がみられる。これらの出土遺物の年代観から、本旧河道は縄文後期から晩期前半期にかけて機能していたと考えられる。

また、K区SH3001で出土した結晶片岩製の石棒(図24-9)は、本旧河道からの巻き上げられた遺物とみたほうがよいだろう。

### I -2.4区 SD4002.J区SR4001 ほか (図16～18)

調査区のほぼ全域で検出した溝と旧河道(凹地)である。流下方向・位置は、南部のⅡ-1区から北

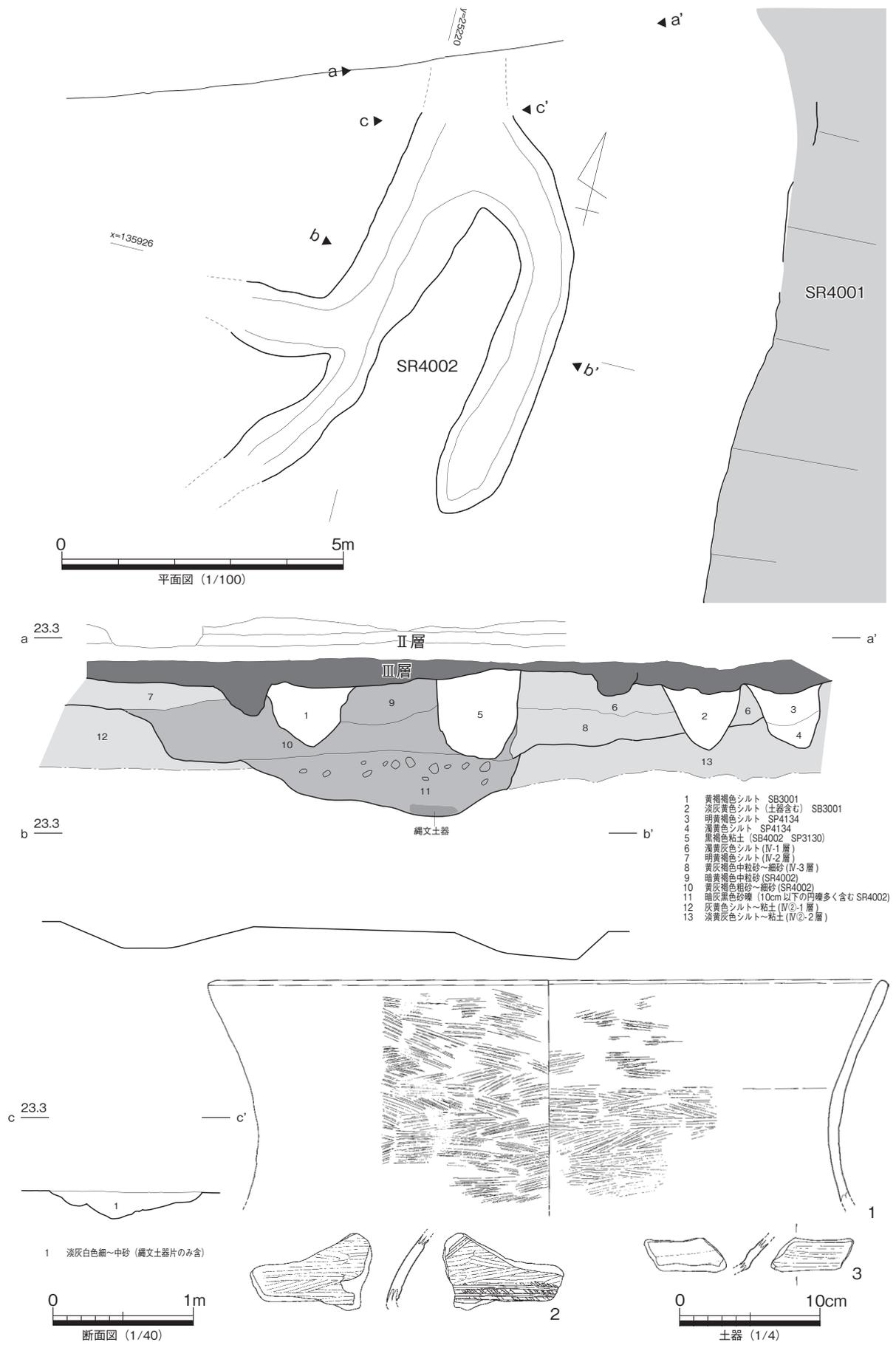


図 15 J区 SR4002 平・断面・出土遺物

東部のJ区へ蛇行を繰り返す。流路が変更される箇所には、砂礫層（V層）が比較的浅い位置で検出される点から旧中州と想定される明瞭な微高地が存在しており、掘開は地形に制約をうけたと考えられる。

断面形や規模から、V区以南では溝、H区以北では旧河道（凹地）に区分できる。V区以南おける下層・最下層は、上面幅約1～1.5mを測りU字形の断面形をもつ。上層は、上面幅が約3～3.5mを測り、緩やかに落ち込む断面形を示す。埋没土の構成は、最下層の粗砂・中粒砂、下層の細粒砂、上層の極細砂からシルトとなっており、細粒化しながら変遷することからみて、一連の自然堆積によって埋没した状態を推定できる。また、上層はその際の越流堆積と考えられる。

H区以北は、旧河道（凹地）となっている。埋没土は、極細砂からシルトから構成されており、V区以南の上層堆積物に類似する。位置関係や堆積状況からみて、V区以南の溝部はH区以北の旧河道（凹地）への給水路であり、H区以北の旧河道（凹地）は、水田等の耕作地であった可能性がある。しかし、H区以北の旧河道（凹地）において、耕作土の存在などが確認できていないため、想定範囲に止まらざるをえない。

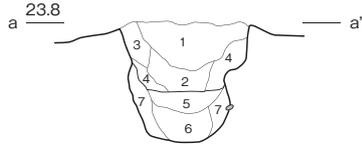
出土遺物には上位遺構からの資料が多く混入しているが、時期決定に有効な資料として、弥生前期末葉とみられる内面突帯をもつ広口壺の口縁部片（図18-1）や口縁端部外面に刻目文を施す甕がある（図18-10）。また、弥生中期後半期の掘立柱建物を構成する柱穴が本遺構の上面から穿たれており、弥生中期前半期には埋没・平準化が完了していた可能性が高い。

掘開年代は、下位に位置するSR4002との層位関係や、延長部分である19次調査SR02最下層の年代観、頸部の発達した浅鉢（図18-2）から考えて、概ね縄文晩期後葉と想定しておきたい。また、この凹地は、平成22年度の第29次調査において、J区以北で北西方向へ蛇行しながら流下し、第19次調査のSR01.02に接続することが明らかになった。旧河道を利用した耕作地の想定のは是非については、今後の報告に委ねたい。

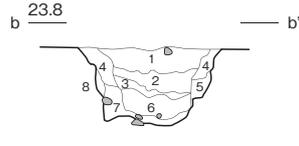
図18-1.2はV区SR5001からの出土遺物である。図18-1は広口壺の口縁部片であり、内面突帯をもつ。弥生前期末葉に位置付けられる。図18-2は縄文土器浅鉢の頸部から口縁部の破片で、「く」の字状に屈曲する発達した頸部に、口縁端部が短く屈曲する。図18-3～6はG区SD0007出土遺物であり、図18-3.4は弥生中期後半でも古相を示す直口壺と広口壺片。

図18-7～23は、J区SR4001からの出土遺物。図18-7～9は弥生前期後半から末葉の広口壺口縁部・胴部片である。図18-10は、如意形口縁甕の口縁部片であり、口縁端部外面に刻目文を施す。図18-12は、弥生前期の蓋天井部、図18-13は弥生前期の甕底部片である。図18-26はM区SD6009から出土した流紋岩製の打製石斧。これらの資料の中で、図18-1.2.7～14.29など縄文晩期から弥生前期に比定される資料は、本遺構に伴う遺物と考えられる。図18-3.4.11.15～23の弥生中期後半から後期にかけての資料や、図18-5.6の須恵器杯などは、層位関係などから、上層からの混入品と判断できる。

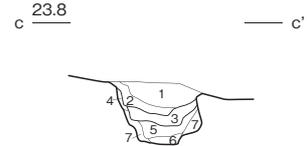
I-2・I-4・II-1 区 SD4002



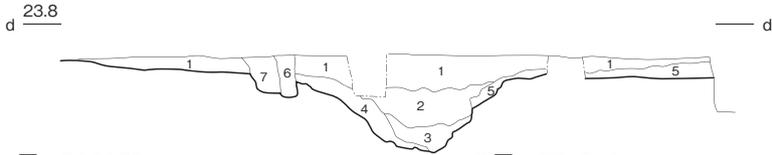
- 1 2.5Y3/2 黒褐色粘土 (地山塊少量含む) 上層
- 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト (地山塊少量含む) 上層
- 3 2.5Y6/6 明黄褐色粘土微細ブロック-崩落土
- 4 10YR7/6 明黄褐色粘土微細ブロック-崩落土
- 5 10YR4/1 褐灰色粘土中粒砂 (粗砂をラミナ状に多く含む) 下層
- 6 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂 (地山塊やや多く含む 細砂をラミナ状に交える) 下層
- 7 10YR7/8 黄褐色粘土微細ブロック (崩落土) 下層



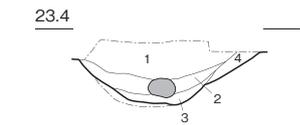
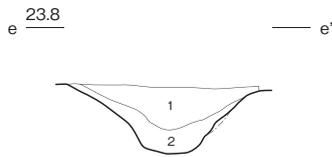
- 1 10YR2/2 黒褐色粘土 (中砂・小礫混じる)
- 2 10YR2/1 黒褐色粘土 (粗砂~中砂少量混じる)
- 3 10YR4/1 褐灰色粘土 (粗砂やや多く混じる)
- 4 10YR6/6 明黄褐色粘土微細ブロック (崩落土)
- 5 10YR5/6 黄褐色粘土微細ブロック (崩落土)
- 6 10YR5/1 褐灰色粘土中粒砂 (粗砂多く混じる)
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (地山塊多く含む 崩落土)
- 8 10YR7/6 明黄褐色粘土ブロック (崩落土)



- 1 10YR3/1 黒褐色粘土 (炭化物含む) 上層
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト (黄褐色シルト微細ブロック多く含む) 上層
- 3 10YR5/1 褐灰中粒砂-中層
- 4 2.5Y7/6 明黄褐色シルト 下層
- 5 10YR4/1 褐灰色粗砂-下層
- 6 2.5Y7/8 黄色粘土ブロック (崩落土) 下層
- 7 2.5Y7/6 明黄褐色粘土ブロック (崩落土) 下層

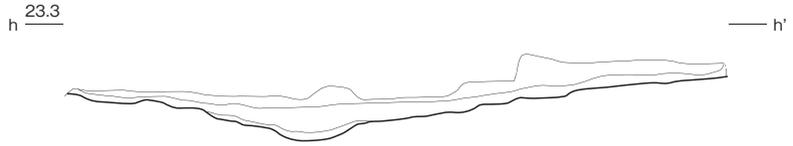
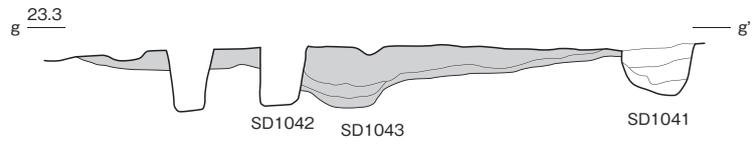


M 区 SD6009

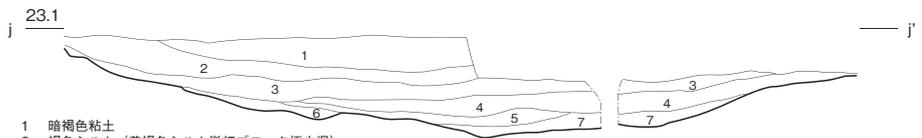


- 1 暗茶褐色シルト~粘土
- 2 茶褐色粘質細砂
- 3 濁黄褐色粘質中粒砂+明黄色シルト微細ブロック
- 4 濁黄色粘質シルト

S 区 SD1043

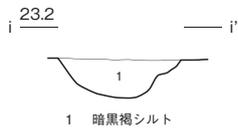


U 区 SR5001



- 1 暗褐色粘土
- 2 褐色シルト (黄褐色シルト微細ブロック極少混)
- 3 濁褐色シルト (黄褐色シルト微細ブロック極少混)
- 4 褐色細砂~シルト (黄褐色シルト微細ブロック極少混 斑鉄)
- 5 淡褐黄色細砂 濁褐色シルト微細ブロック混
- 6 淡褐黄色中粒砂 濁褐色シルト微細ブロック極少混
- 7 淡褐黄色中粒砂 濁褐色シルト微細ブロック混

U 区 SD5002



- 1 暗黒褐シルト

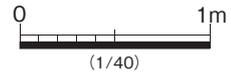
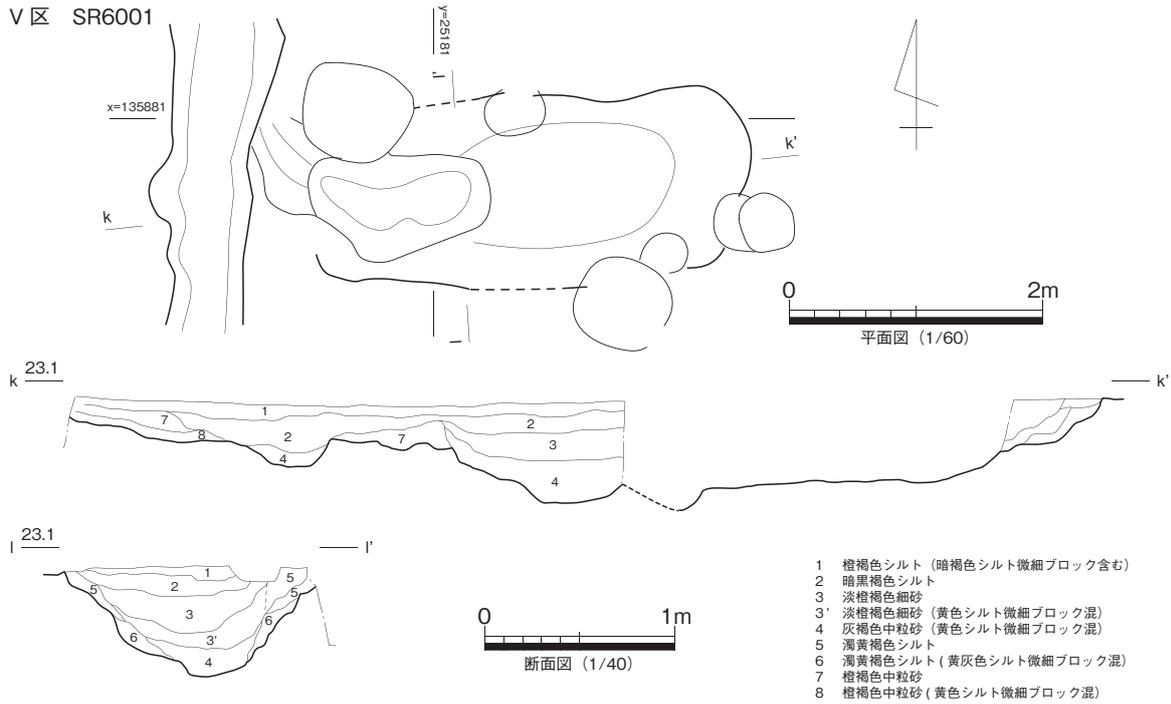
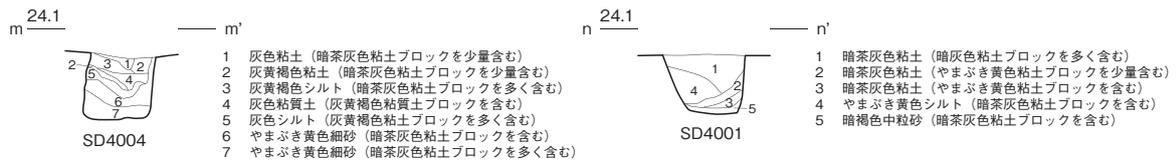


図 16 弥生前期溝 (1)

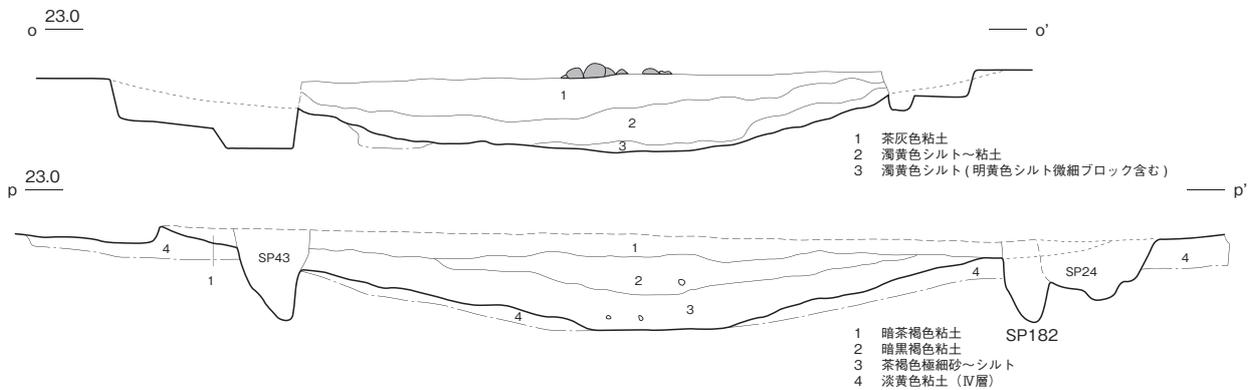
V区 SR6001



II-4区 SD4001・SD4004



G・H区 SD0007



J区 SR4001

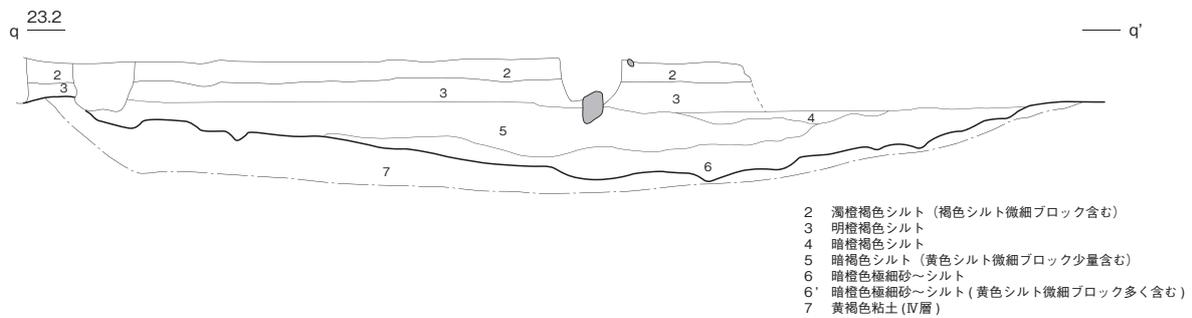


図 17 弥生前期溝 (2)

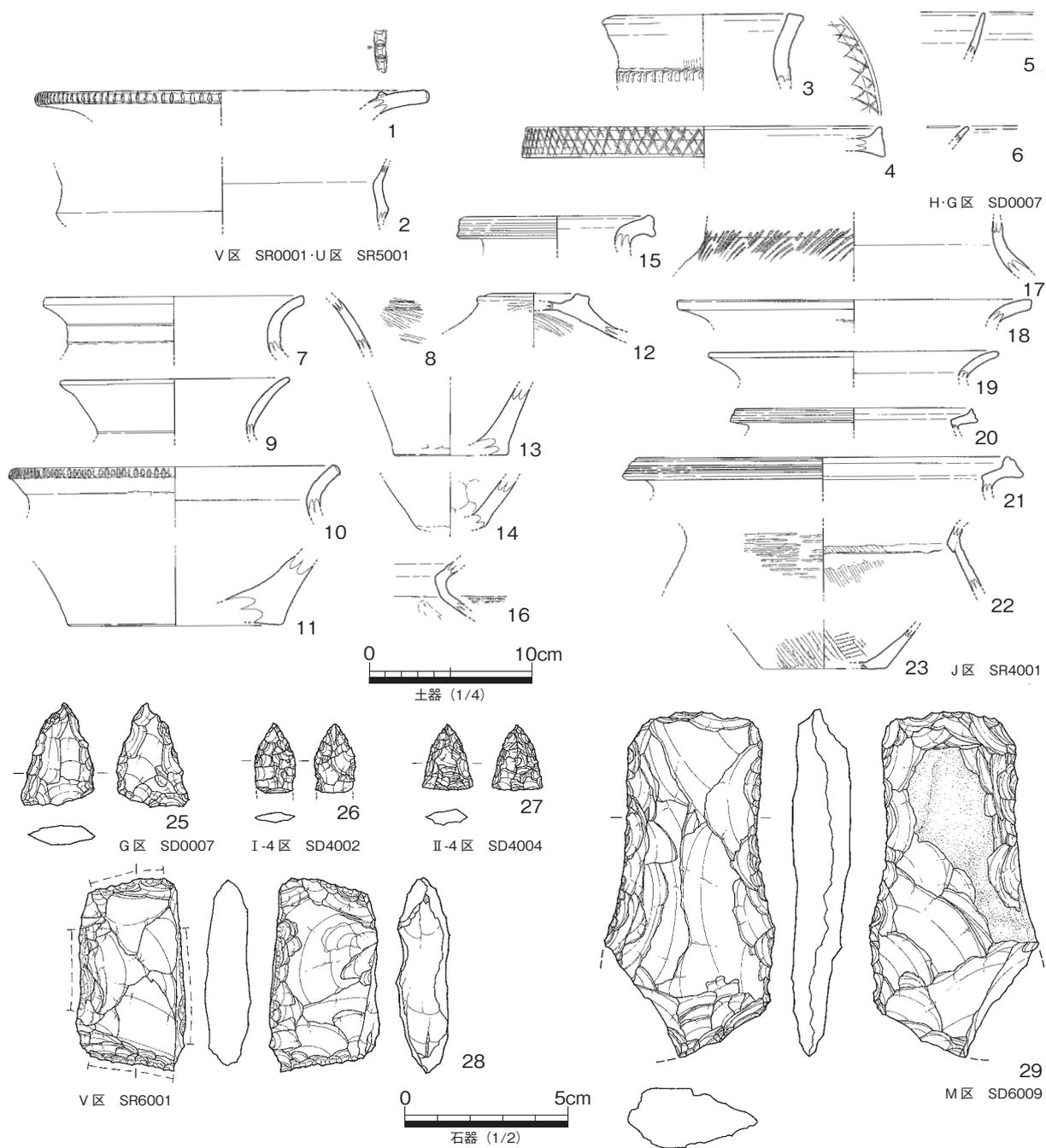


图 18 弥生前期沟 (3)



図 19 遺構配置 (弥生中期後半)

### 第3節 弥生中期後半期の遺構・遺物

弥生中期前半期の空白期間を経て、中期後半期(凹線文期)には居住遺構の形成が開始されている。当該期の多くの遺構は、弥生後期以降の遺構形成に伴って大きく削平されており、遺存状態は良好ではない。また、現地調査の段階より調査区のほぼ全域の後世の遺構内に当該期の遺物が混入する状況が多くみられたため、現地調査で認識できた遺構以外に掘り方を失い柱穴のみとなった竪穴住居が多く存在している可能性が危惧された。そこで、報告を行うにあたってはこのような条件を考慮し、可能な限りすべての柱穴に対して検出レベルや記録写真、出土遺物の点検を行った上で、建物復元を行い資料提示をした。一部に柱穴配置や想定において検討の余地が残る遺構も存在するが、一方でその存在を完全に否定できるだけの材料もないため、復元に踏み切ったもので、現地調査段階での検討及び検証の必要性を痛感した。

細別した時期区分では、凹線文出現期となる中期後半古段階に属する遺構は、調査区北西隅部の貯蔵穴(G区SK0003)と南東隅部の掘立柱建物(Ⅱ-2区SB2006)、8次調査の小型方形住居(SH05)以外には存在せず、本格的な遺構形成は凹線文盛行期の中期後半中・新段階となる。調査区全体の遺構分布状況は、M区を境として北側の第22.23次調査区が竪穴住居と掘立柱建物が混在して存在し、南側の26次調査区は1基の貯蔵穴を除いて掘立柱建物のみで遺構形成が行われる。掘立柱建物の中でも、集中区となる26次調査区は、建物主軸方位に緩やかな規則性があり、掘り方の一辺が1mを超える1間×1間の柱構造をもつ大型掘立柱建物(Ⅰ-2区SB2001.Ⅱ-1区SB1004)も存在するなど建物構成に違いが認められる。これらは、居住域内のゾーニングを示している可能性が高い。

当該期の竪穴住居は、直径4m以下の小形の円形を呈するものが多く、直径約5～6mの円形と主柱穴を配さない小型方形が付随する。同時併存では、22.23次調査区を中心にして4つ程度の竪穴住居の小さな単位が1・2棟の掘立柱建物とセットとなって点在する。

これらの小単位における機能を表す出土遺物として、土器焼成に伴う焼成破裂土器・焼成破裂土器片がある。焼成破裂土器・焼成破裂土器片は、時期的に中期後半新段階に集中し、その分布範囲は22次調査O区SD8001を中心にして後世の遺構への混入資料を含めると、半径約60mの範囲にまとまって分布する。焼成遺構そのものは検出されていないが、O区SD8001の埋め戻し土から多量に出土した焼成破裂土器・焼成破裂土器片に伴って焼土塊や炭化物が多く出土していることから、同遺構周辺にその存在を推定できる。また、複数みられる竪穴住居群の中でも限られた単位で土器焼成が行われていたと考えられるが、遺跡内でこれほど土器焼成関係遺物が集中する地点はみられず、操業規模は決して小さくないと考えられよう。

以上のように、弥生中期後半期は、竪穴住居と掘立柱建物の組み合わせや掘立柱建物の集中域など遺構の組み合わせが比較的まとまっており、土器焼成関連遺物などからも各単位の機能分掌が明確に捉えられる。

また、特筆すべき本段階の遺物として、扁平紐式銅鐸片がある。第3章第6節から第8節において紹介するとおり、扁平紐式銅鐸は古墳後期以降の遺構への混入資料として南北約80m東西約40mの範囲に飛散したような状態で出土しているが、形式的な特徴や鉛同位体分析の結果から同一個体片と推定できる。完形鐸が埋納され後世に攪拌されたものか、弥生期に破碎されたものかどうかの結論は出ないが、型式学的な特徴からみて、本節で紹介する中期後半期の遺構群に伴う可能性が高い。

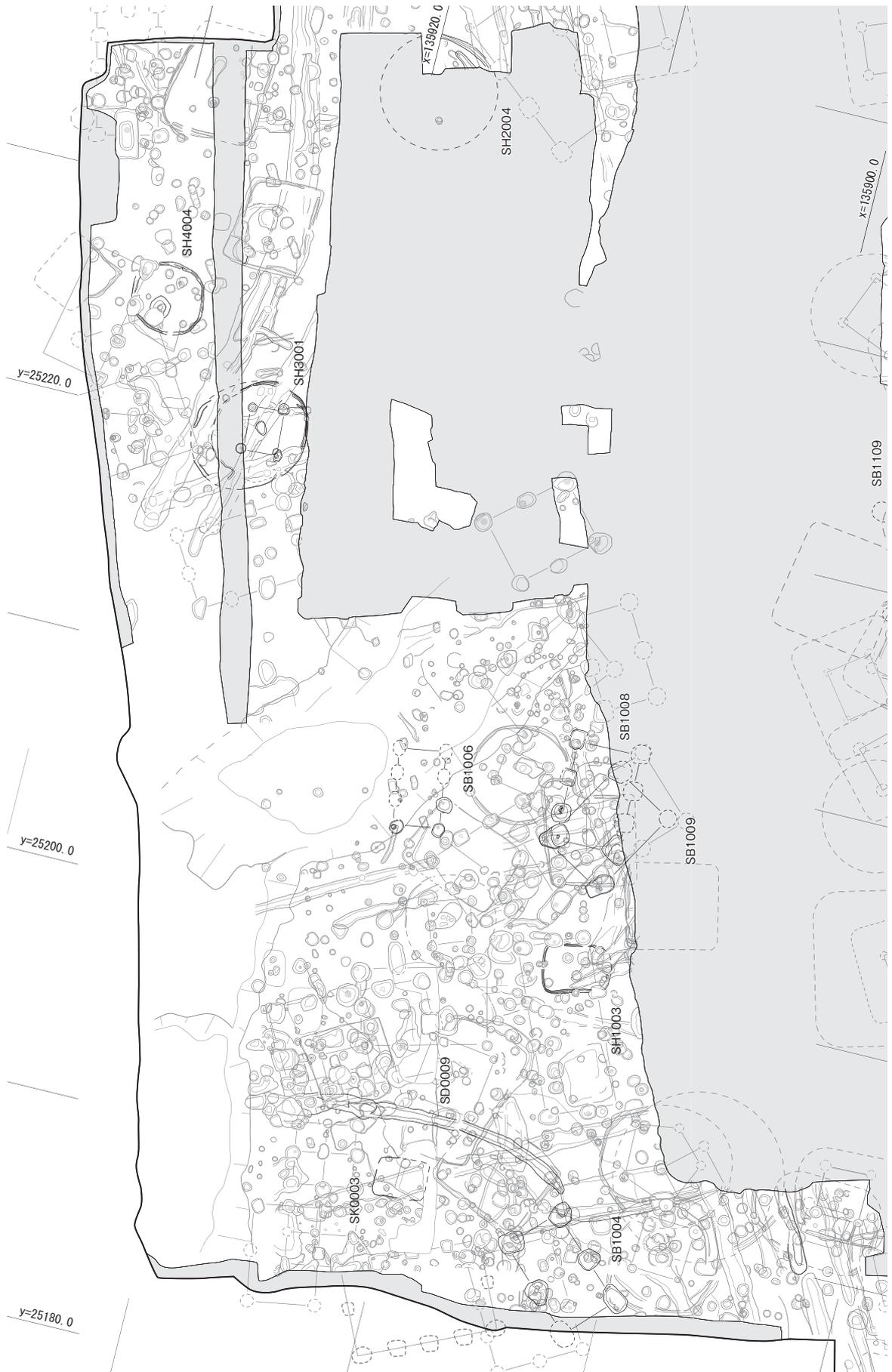


图 20 G·H·I·J·K区 平面

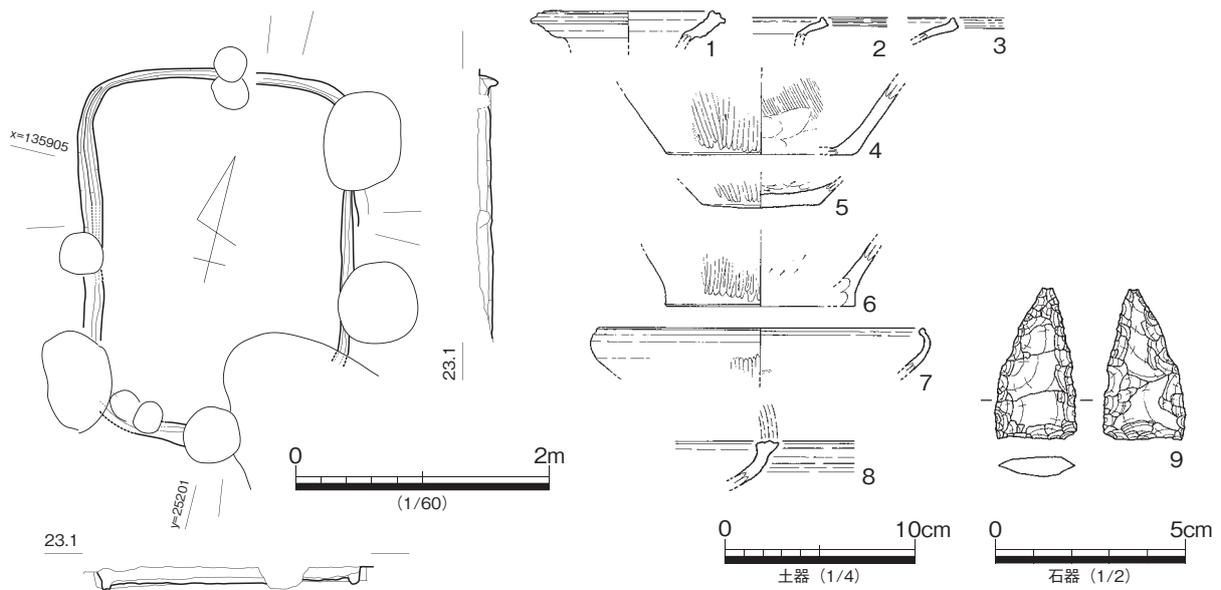


図21 H区 SH1003 平・断面・出土遺物

### H区 SH1003 (図21)

H区中央で検出した小形住居であり、約3×2.1mの隅丸長方形を呈する。残存深度は0.15mを測り、壁溝が全周すると見られる。炉及び支柱穴は未確認である。ベッド状遺構の内側の部分のみが残存したと考える炉をもたないことから見て、無柱の小規模な住居と考えられよう。

遺物は、全て床面に伴うものであるが、破片化したものが中心となる。高杯(図21-7)が時期的に下る可能性があるが、細頸壺(図21-1)の形態や口縁部の上方拡張があまり発達しない甕(図21-2.3)から、本住居は弥生中期後半中段階に帰属するものとする。

地区	遺構名	時期	形態	張り出し	規模1(m)	規模2(m)	面積(m <sup>2</sup> )	支柱穴	炉	竈	備考
H区	SH1003	弥生中期後半中段階	長方形	-	3	2.1	6.3	無	-	-	
I区	SH2004	弥生中期後半新段階	円形		(5.0)						
J区	SH4004	弥生中期後半中段階	円形		3.1		9.7		円形		
K区	SH3001	弥生中期後半中段階	円形		4.1		12.8	4	楕円形		
M区	SH6038	弥生中期後半新段階	円形?					(4)	楕円形		焼成破裂土器
M区	SH6039	弥生中期後半新段階	円形?					(5)			
O区	SH8006	弥生中期後半新段階	長方形		3.7						
O区	SH8008	弥生中期後半新段階	円形		5.3		16.6				焼成破裂土器2
S区	SH1064	弥生中期後半新段階	円形		(5.0)		15.7	4	不明		
S区	SH1080	弥生中期後半	円形?					(4)			
S区	SH1081	弥生中期後半中段階	円形?					5			
S区	SH1084	弥生中期後半中段階	円形?					(4)			
S区	SH1085	弥生中期後半中段階	円形?					(6)			
T区	SH1096	弥生中期後半新段階	円形		3.0		9.4	無			
U区	SH5004	弥生中期後半中段階	円形		3.7		11.6	無			
V区	SH6014	弥生中期後半中段階	長方形								
V区	SH6017	弥生中期後半新段階	円形		3.9		12.2	4	円形		
V区	SH6023	弥生中期後半中段階	円形?					(5)	円形+隅丸方形		
W区	SH4009	弥生中期後半中段階	円形?					(6)			
I-3区	SH3019	弥生中期後半中段階	円形?								

表5 竪穴住居跡一覧

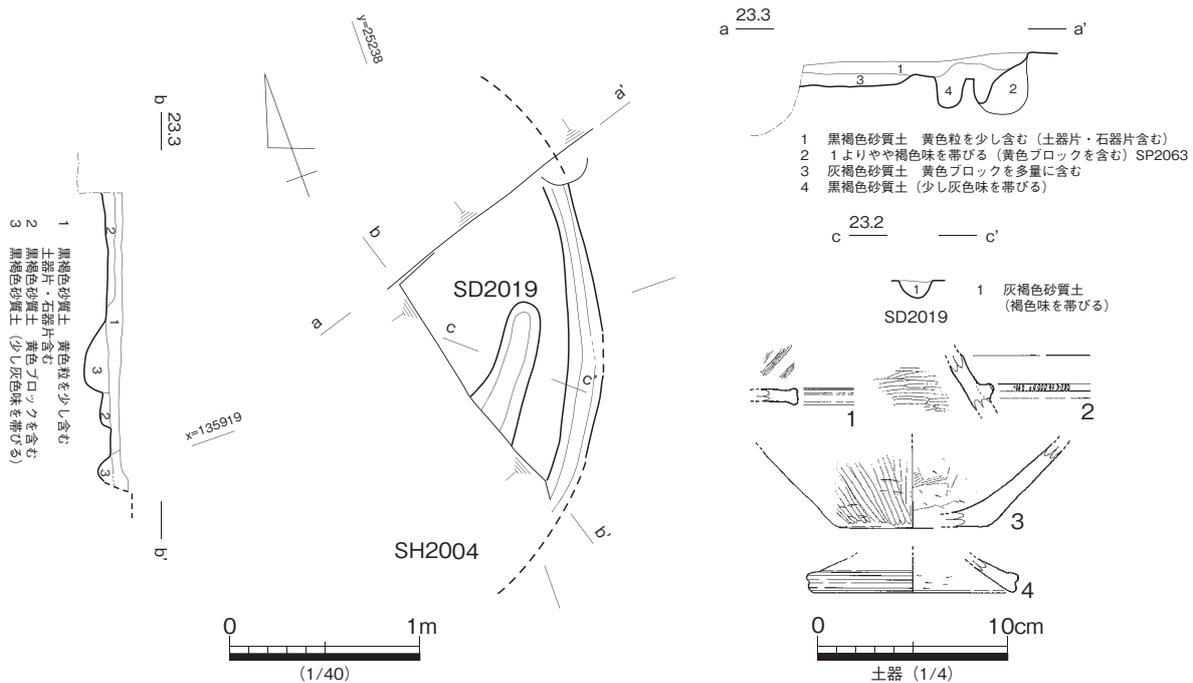


図 22 I 区 SH2004 平・断面・出土遺物

### I 区 SH2004 (図 22)

I 区西部で検出した竪穴住居である。中世の条里型地割坪界溝である SD2002 と攪乱坑によって大部分を滅失するが、弧状を描く壁溝から、直径約 6m の円形住居に復元できる。残存範囲で支柱穴の確認はできない。壁面の立ち上がりは約 10cm であり、かなりの削平を受けている。残存する埋没土はすべて貼床土と見てよい。また、壁溝の若干内側で SD2019 とした小溝を確認しており、ベッド状遺構か先行する住居の存在を示唆するものかもしれない。

出土遺物の内、壺底部片 (図 22-3) や高杯脚 (図 22-4) の形態から、本住居は弥生中期後半新段階に帰属するものと考えておく。

### J 区 SH4004 (図 23)

J 区北西部で検出した竪穴住居で、弥生後期前半期の SB4002、古墳後期から古代期の K 区 3001 に切られる。直径約 3m の小形円形住居と見られるが、壁面の立ち上がりは約 0.1m と僅かであり、壁溝と貼床土が辛うじて残存する。支柱穴は検出されず、壁溝の外側を精査したが、周溝や対応する柱穴の確認はできなかった。床面中央からやや東寄りには K-1 とした炉があり、埋没土中に若干の炭化物を含む。底面中央には、半完形品の広口壺 (図 23-2) が押し潰された状態で出土しており、本住居の廃絶年代を示す資料と考える。

炉内から出土した広口壺 (図 23-1) の形態から、本住居は弥生中期後半中段階に廃絶したものと推定しておく。

### K 区 SH3001 (図 24)

K 区北東部で検出した竪穴住居であり、古代の SB3001.SD3004 に切られる。壁面の残存が約 10cm と

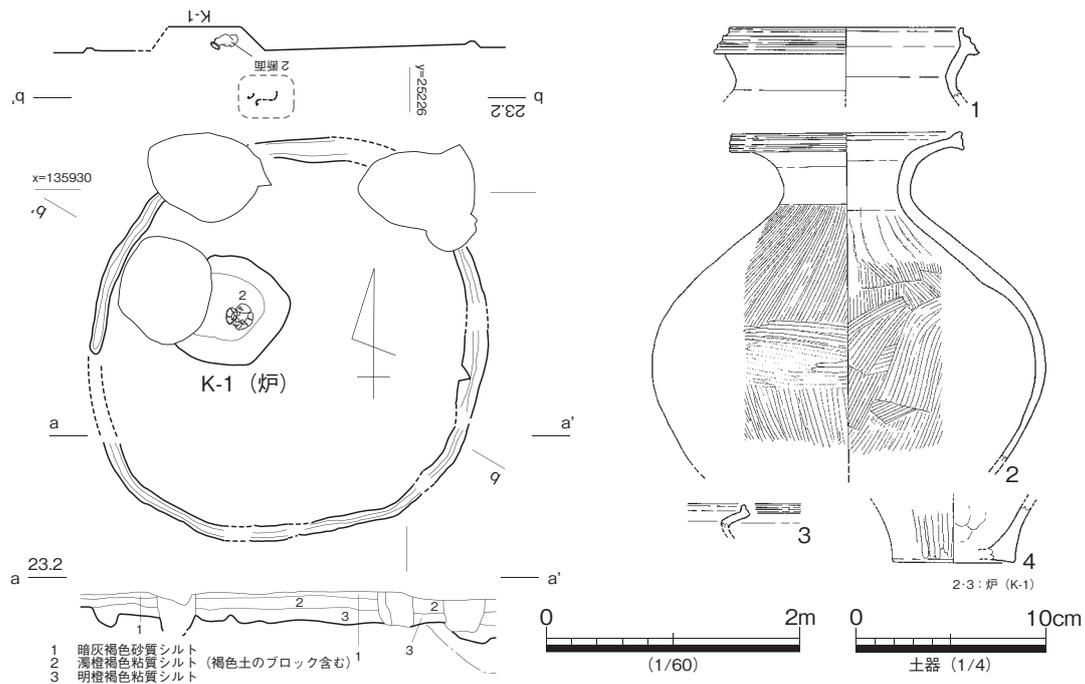


図 23 J 区 SH4004 平・断面・出土遺物

極めて残存状態が良好ではないが、直径約 4.1m 円形プランをもち、図示する 4 基の主柱穴の中央に炉跡を配置する小形住居である。残存する埋没土は全て貼床土と見られ、南西部には僅かに壁溝が残存している。出土遺物は少量にとどまるが、規模や柱配置から見て、弥生中期後半期に見られる小形円形住居と見てよいだろう。本住居と重複する形で北側に壁溝状の小溝を伴う円形の落ち込みが確認された。ベッド状遺構と考えるには不自然であり、また対応する主柱穴・炉は確認できないため、住居としての判断は躊躇せざるを得ない。出土した土器の特徴から、弥生中期後半中段階に帰属する住居と考えられる。また、結晶片岩製の石棒（図 24-9）は、本住居に伴うものではなく下層に存在し縄文晩期の埋没が想定される SR4002 からの巻き上げによる混入品と考える。

出土遺物の内、甕（図 24-1.2.3）の口縁形態からみて、本住居は弥生中期後半中段階に帰属すると考えられる。

### M 区 SH6038（図 25）

M 区中央部やや西寄りの古墳後期の SH6014.6015 の下位で検出した竪穴住居である。現地調査では炉と考えられる SK6003 のみ把握しており、報告書作成段階で主柱穴を推定したものである。南西隅の主柱穴を欠落するが、炉 SK6003 を中心に配される 4 基の主柱穴をもつものと考えられる。炉 SK6003 は底面全体に炭化物を含む薄層が広がり、弥生中期後半期の土器片を含む。各主柱穴出土土器もほぼ同時期のものであり、主柱穴配置の間隔から直径約 4m の弥生中期後半期に散見される小形円形住居として復元できよう。

炉 SK6003 から出土した資料の内、甕口縁片（図 25-1）は古相を示すものの、残存率が高く外面に焼成破裂痕がみられる壺胴部（図 25-3）の形態から、本住居は弥生中期後半新段階に帰属するものと考えたい。また、焼成破裂土器（図 25-3）は、本住居北側の O 区 SD8001 を中心とした土器焼成エリアの広

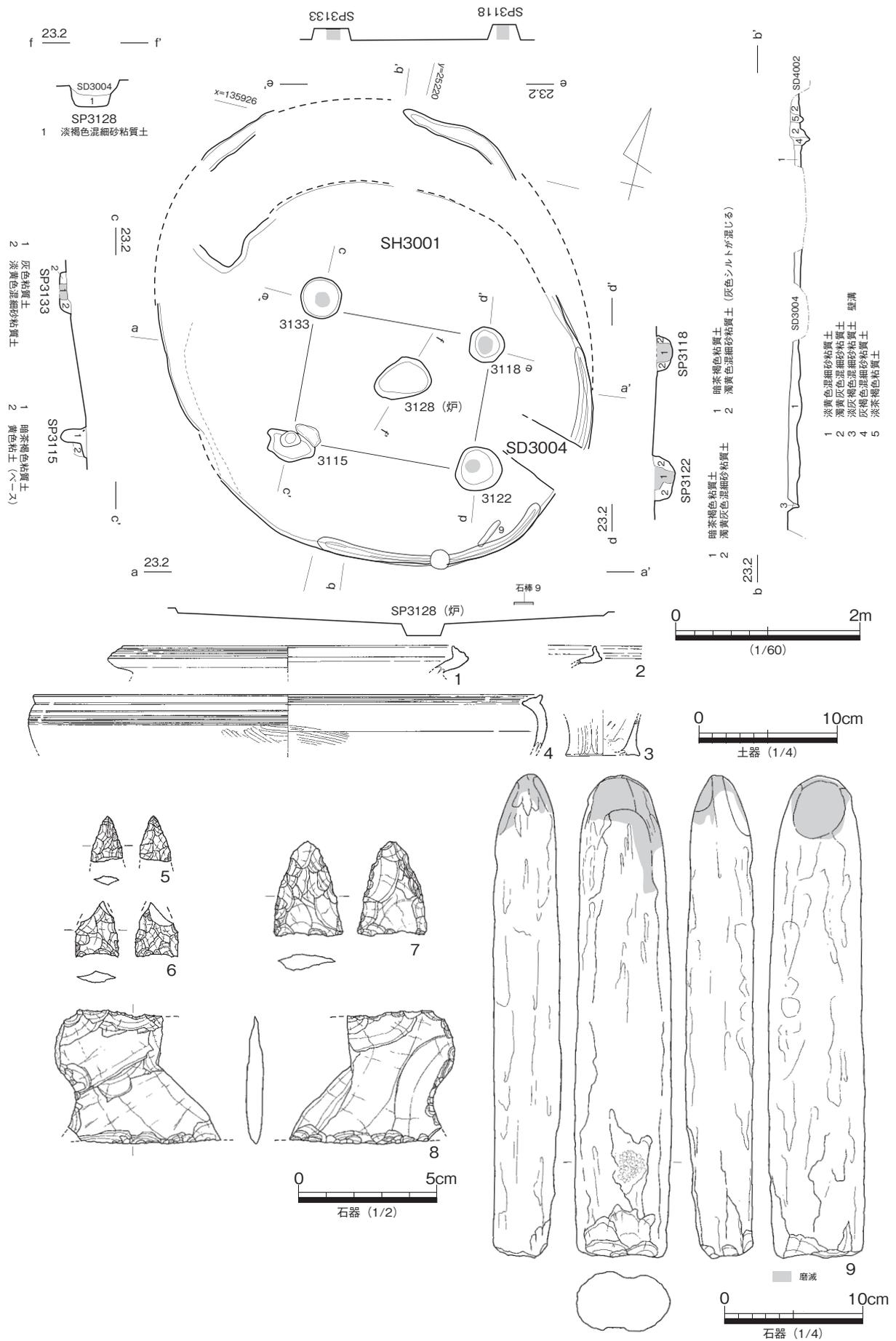


図 24 K区 SH3001 平・断面・出土遺物

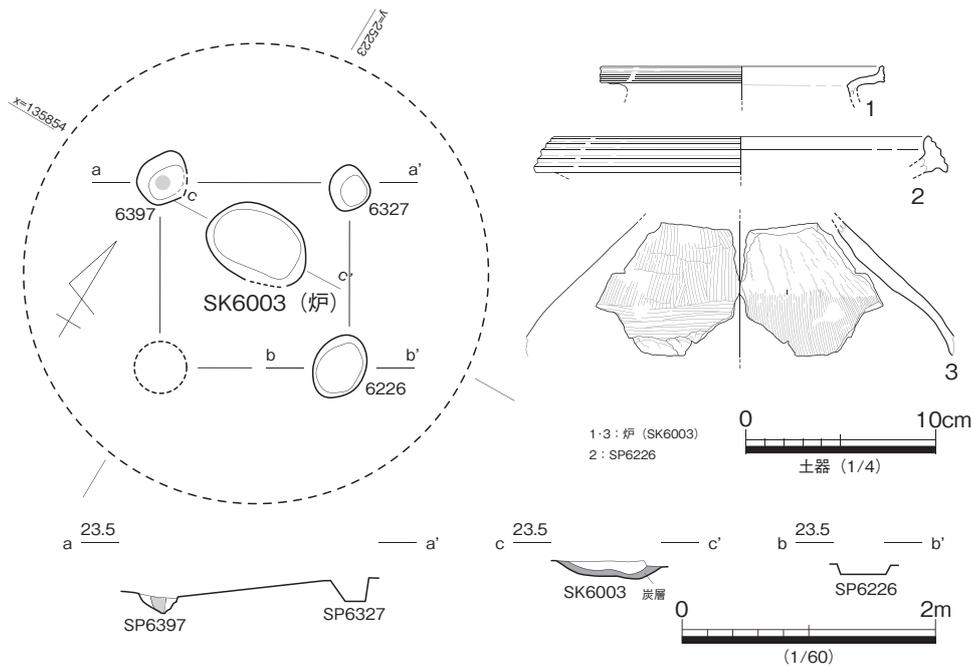


図 25 M 区 SH6038 平・断面・出土遺物

がりを示唆する資料といえる。

### M 区 SH6039 (図 26)

M 区西部の古墳後期に属する SH6012 の下位において検出した竪穴住居である。5 基の柱穴が多角形状に組み合わせる状況に見られ、埋没土や出土遺物を検討した結果、竪穴住居として復元した。柱穴の深度が浅いものが見られることや、炉が遺存しないことから見て、古墳時代以降の住居群によってかなりの削平を受けていると考えられる。出土遺物は柱穴のみに限られるが、SP6440 から出土した広口壺 (図 26-1) の特徴から、本住居は弥生中期後半新段階に属するものと捉えておく。

### O 区 SH8006 (図 27)

O 区南西部で検出した竪穴住居であり、弥生後期後半期の SH8005 に切られる。住居中央部の攪乱坑により、大半を滅失するが、南部の M 区側においても SH8005 に切られる浅い落ちを検出しており、これらを統合することにより、南北方向の規模を復元した。図化可能な出土遺物は図 27-1 のみであるが、SH8005 との切り合い関係や、SH8008.SD8001 などの周辺遺構との関係から、本住居の年を、遺物が示す弥生中期後半新段階と捉える。また、中期後半期で考えた場合、支柱穴をもたない長方形住居の可能性が高い。

### O 区 SH8008 (図 28・29)

O 区西部で検出した竪穴住居である。古墳後期の SH8001、弥生後期後半の SH8007 に切られ、SB8001 を切り込む。住居西部及び東部は攪乱坑によって滅失するが、部分的に残存する壁面及び壁溝から直径約 6.1m の円形住居と捉えられる。床面中央からやや南よりの SP8012 は埋没土中位に炭化物層が広がり、炉と考えられる。埋没土の特徴や出土遺物から 5 基の主柱穴を想定しているが、炉と同様

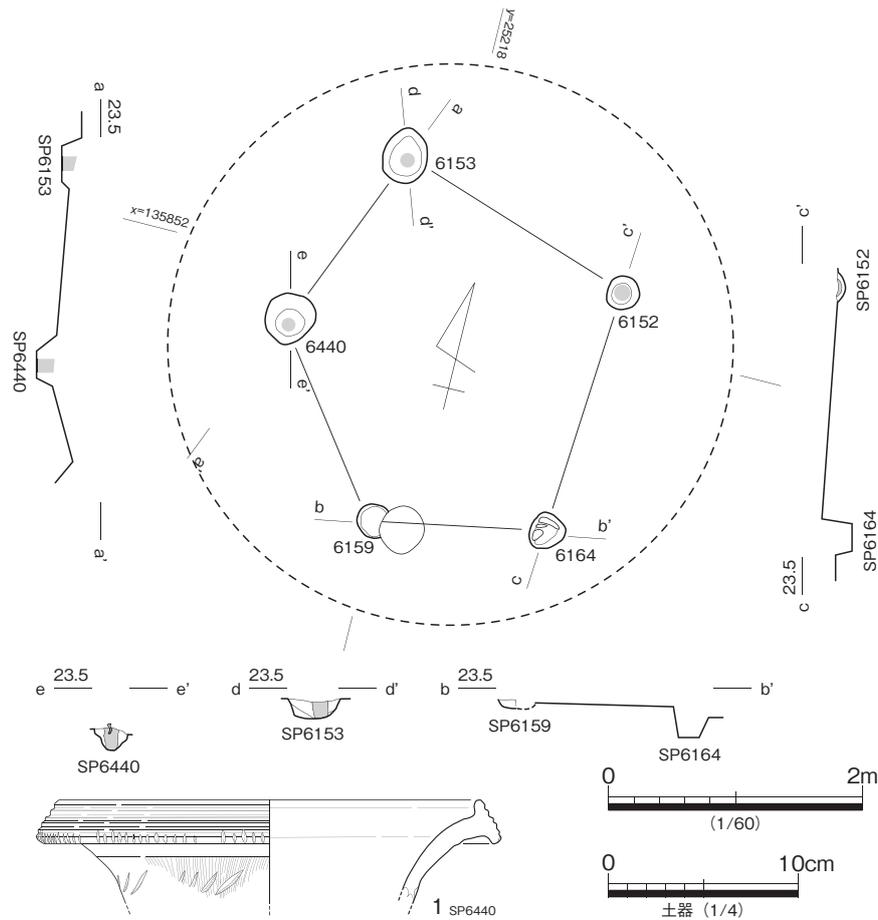


図 26 M区 SH6039 平・断面・出土遺物

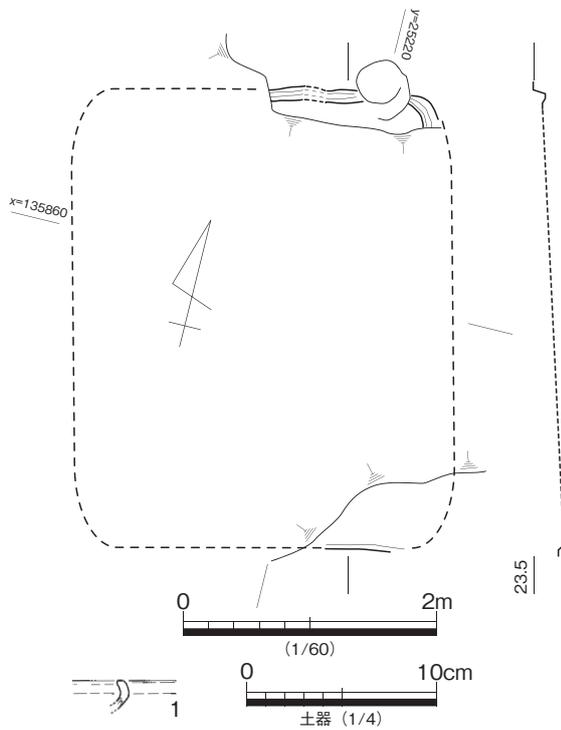


図 27 O区 SH8006 平・断面・出土遺物

にやや南に偏る。SP8115は他のものに比べて深度が浅いが、床面からの掘り込みが確認できたため支柱穴に含めた。炉と支柱穴の偏りは、北側部分にベッド状遺構を想定すべきかもしれない。

支柱住居床面からは、2か所の土器集中部をはじめ、磨製石斧などの石器類、動物遺存体などの遺物が出土している。出土土器には、焼成破裂痕を留めるものが一定量存在することから、住居南側のSD8001に一括廃棄された土器群との共通性が見られる。土器焼成を行うエリアの推定のみならず、両遺構の時間的な共時性を示すものとして重要である。

図 29-11は、外面に列点紋を施す壺頸部片であり、外面に焼成破裂痕が確認できる。図 29-27.28は北東部床面でまとまって出土した土器群であ

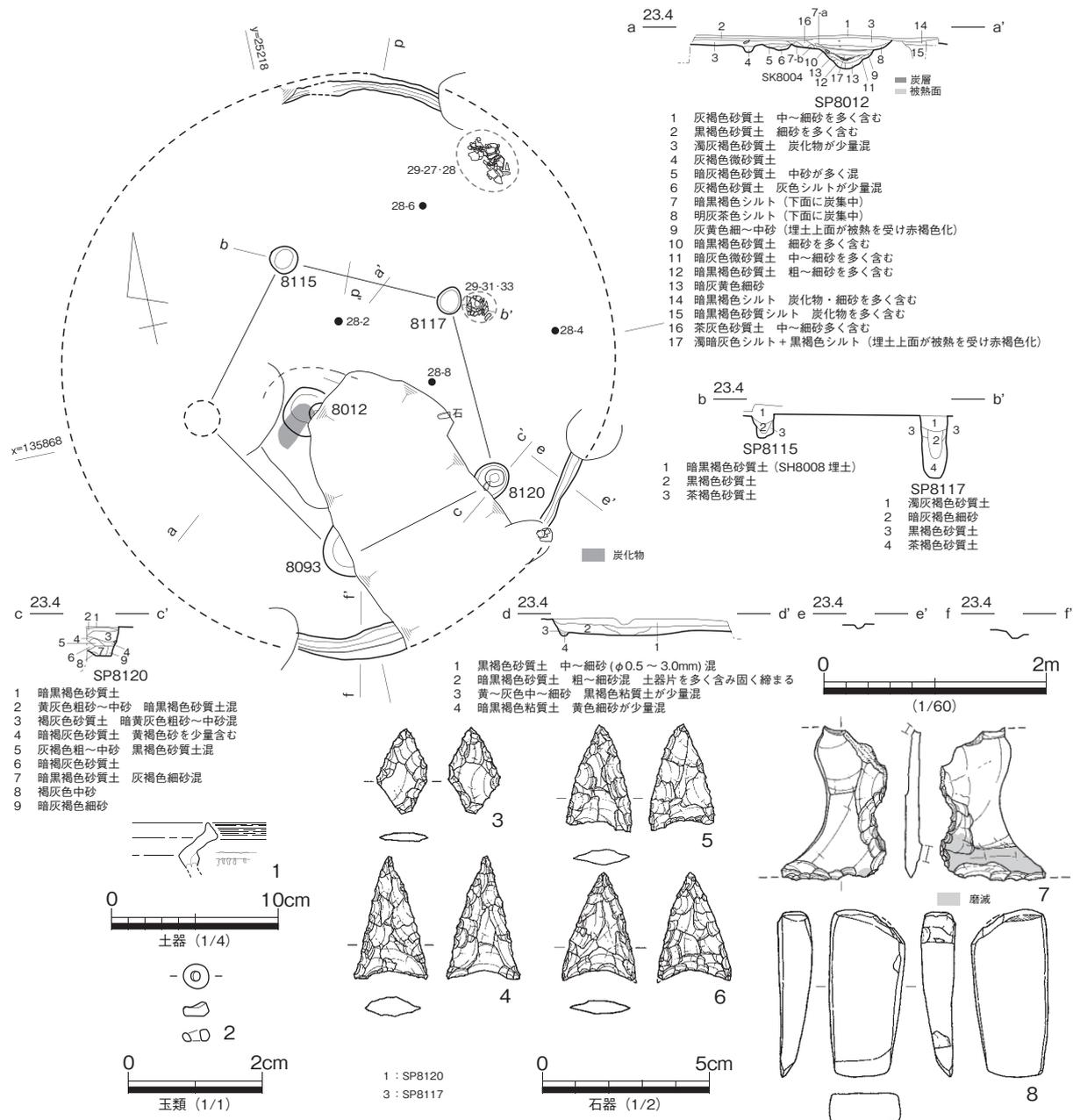


図 28 O 区 SH8008 平・断面・出土遺物 (1)

り、短頸広口壺 (図 29-27) は内外面に焼成破裂痕がみられる。扁平片石斧 (図 28-8) は、層界岩製とみられる。滑石製白玉 (図 28-2) は上層からの混入品である。

### S 区 SH1064 (図 30)

S 区中央部やや北寄りで検出した竪穴住居である。SH1034 をはじめ古墳時代以降の住居や SH1040 や SK1014 など弥生時代後期から終末期のほぼすべての主要遺構に切られる。中でも弥生後期前半古段階に属する SK1014 に明確な形で切られる点は、本住居の帰属時期を推定する際に重要な材料となる。住居南東部のみ壁溝を確認しており、図示する 4 基の主柱穴との距離を加味した上で復元した場合、直径約 5m の円形住居と捉えられる。主柱穴の内、北側の 2 基 (SP2039.2043) の底場のレベルが南側の 2

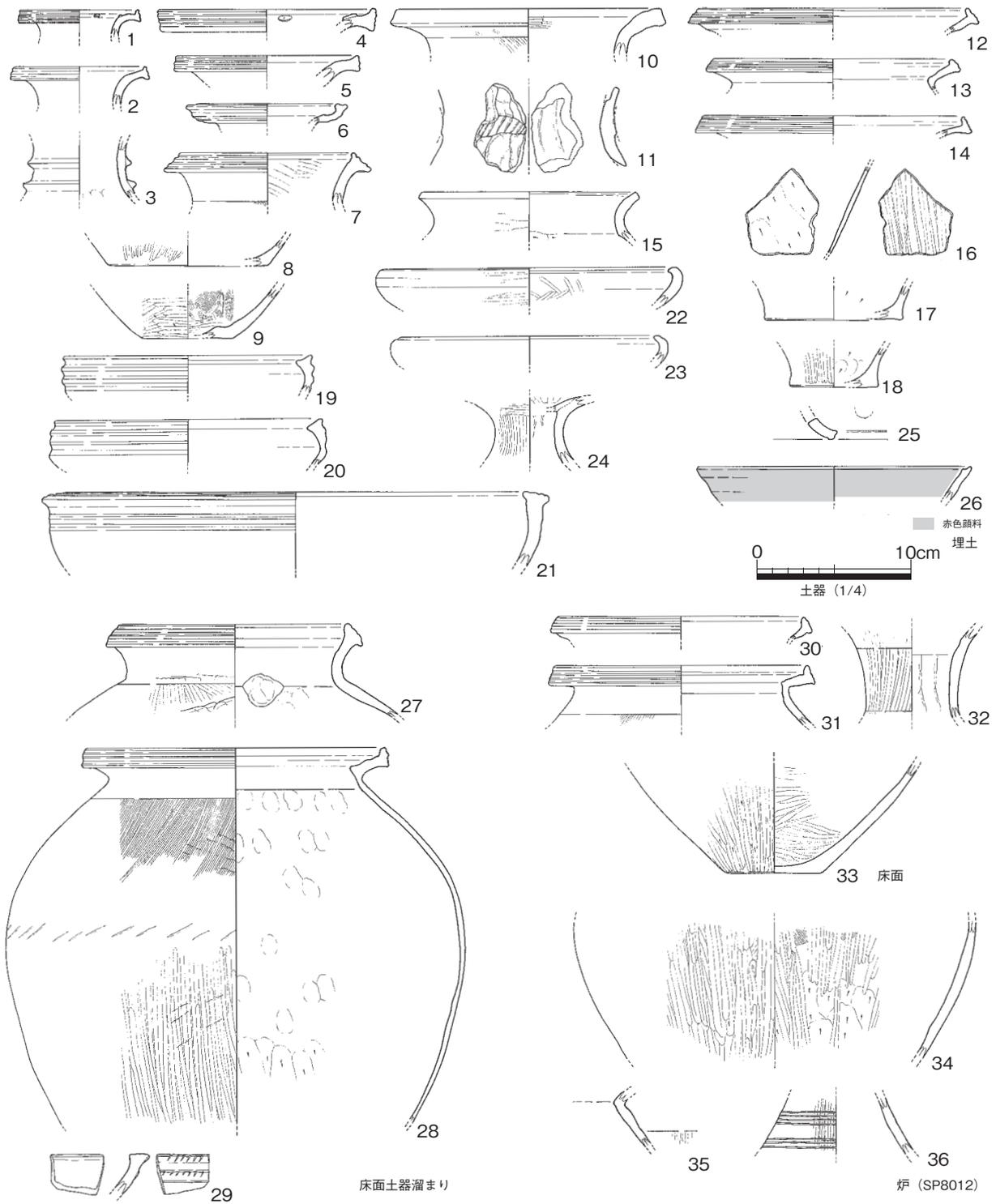


図 29 O区 SH8008 出土遺物 (2)

基 (SP1784.2031) より浅いが、柱穴に見られる切り合い関係や出土遺物を考慮し、支柱穴の推定を行った。炉跡については、住居中央部を弥生後期後半期に属する SH1040 によって大きく削平されるため、復元する材料は見られない。

図 30-1.2 は支柱穴、図 30-3～9 は壁溝、図 30-10～12 は貼床土からの出土遺物。遺構の切り合い関係に符合するように、出土土器には弥生後期以降の資料が含まれていない。図 30-15 は床面から出土し

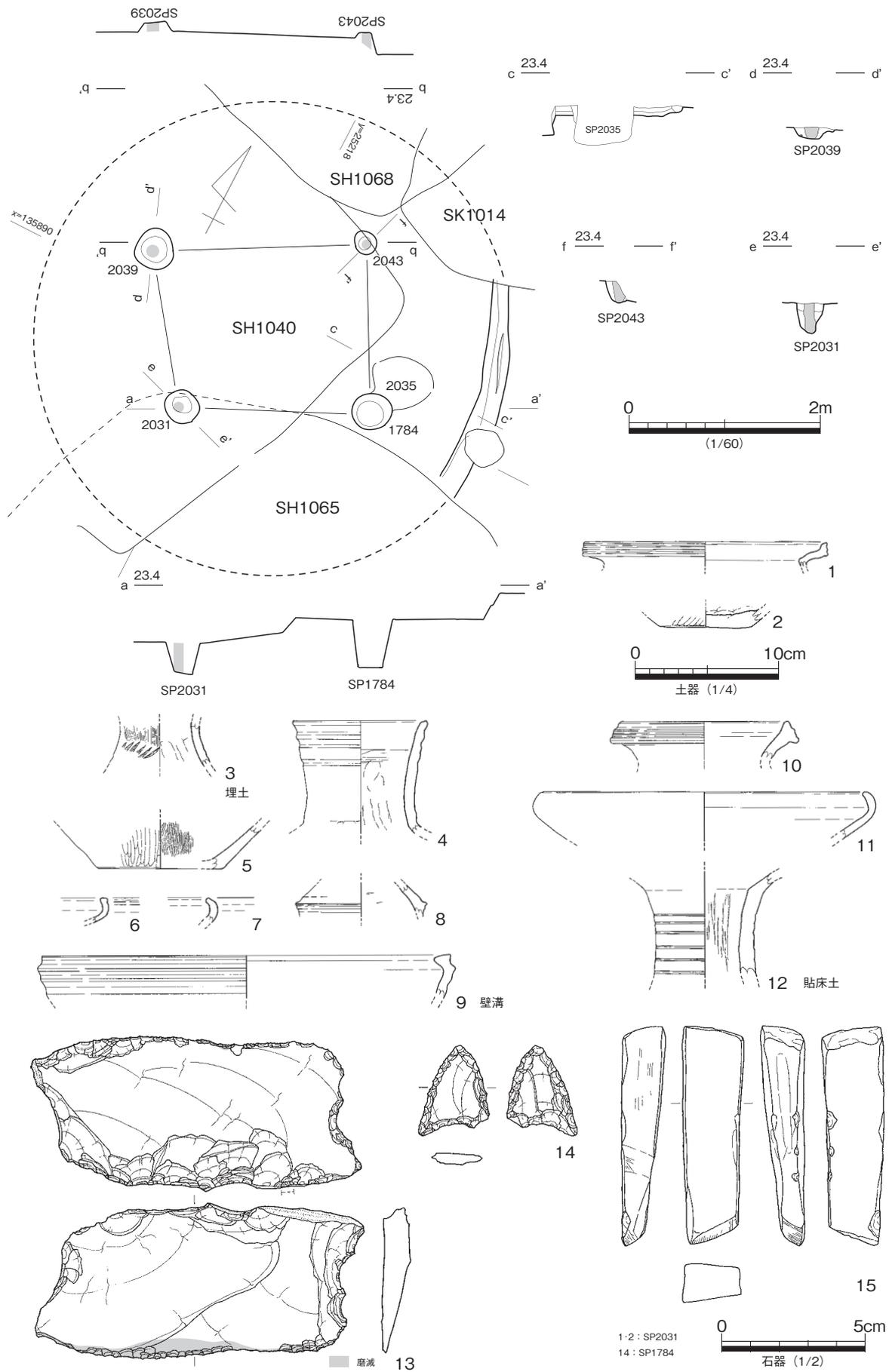


图 30 S 区 SH1064 平·断面·出土遺物

た安山岩製の砥石である。長頸壺(図30-4)高杯(図30-11.12)から、本住居は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

### S区 SH1080 (図31)

S区西部で検出した竪穴住居である。壁溝や壁面の立ち上がりは確認できないが、埋没土や出土遺物の特徴を優先し、4基の主柱穴をもつ竪穴住居として復元する。西側の2基は攪乱坑によって消滅した可能性が高い。SP1944.1999ともに、深度が浅いが、弥生時代前期埋没のSD1043の越流堆積層を掘り下げた後で柱穴の平面形を検出したためであり、本来的には現状より上位から掘り込まれた可能性が高い。

図化可能な出土遺物は見られなかったが、すべて弥生中期後半期の薄手の甕胴部片で占められていることから、本住居の帰属時期を同時代に推定しておきたい。

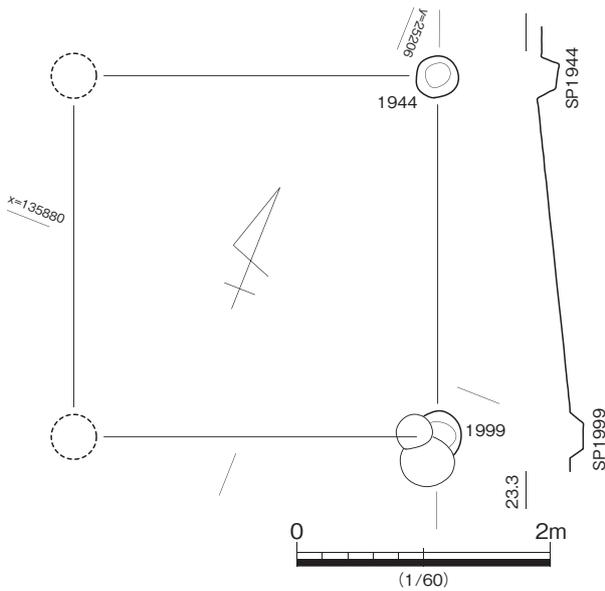


図31 S区 SH1080 平・断面

### S区 SH1081 (図32)

S区北西部で検出した竪穴住居である。壁溝や壁面の立ち上がりを確認した訳ではないが、各柱穴の埋没土が類似していることや、出土遺物に共時性があることなどを根拠として、柱穴の配置状況から竪穴住居として復元した。炉跡等の施設は確認できない。

図32-1は広口壺の頸部から肩部片、図32-2は甕底部片である。広口壺(図32-1)はよく締まる頸部に直線的な肩部をもつことから、弥生中期後半期でも中段階に属するものとみられる。甕底部(図32-2)は、小片であるが器壁が薄く広口壺(図32-1)に伴う甕と考

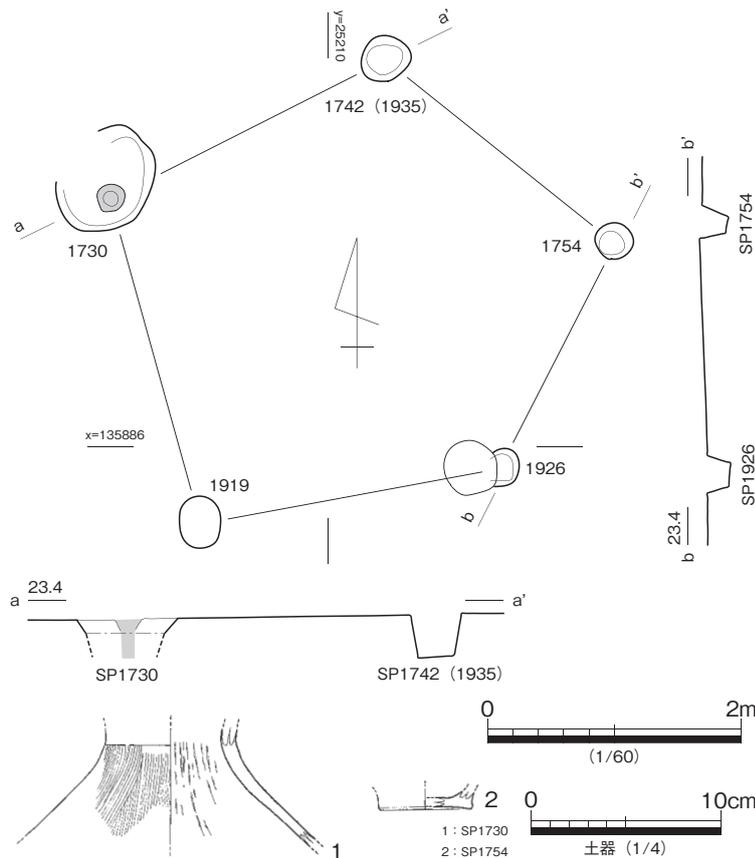


図32 S区 SH1081 平・断面・出土遺物

えても違和感がない。これらの出土遺物から、本住居は弥生中期後半中段階に帰属するものと捉えておきたい。

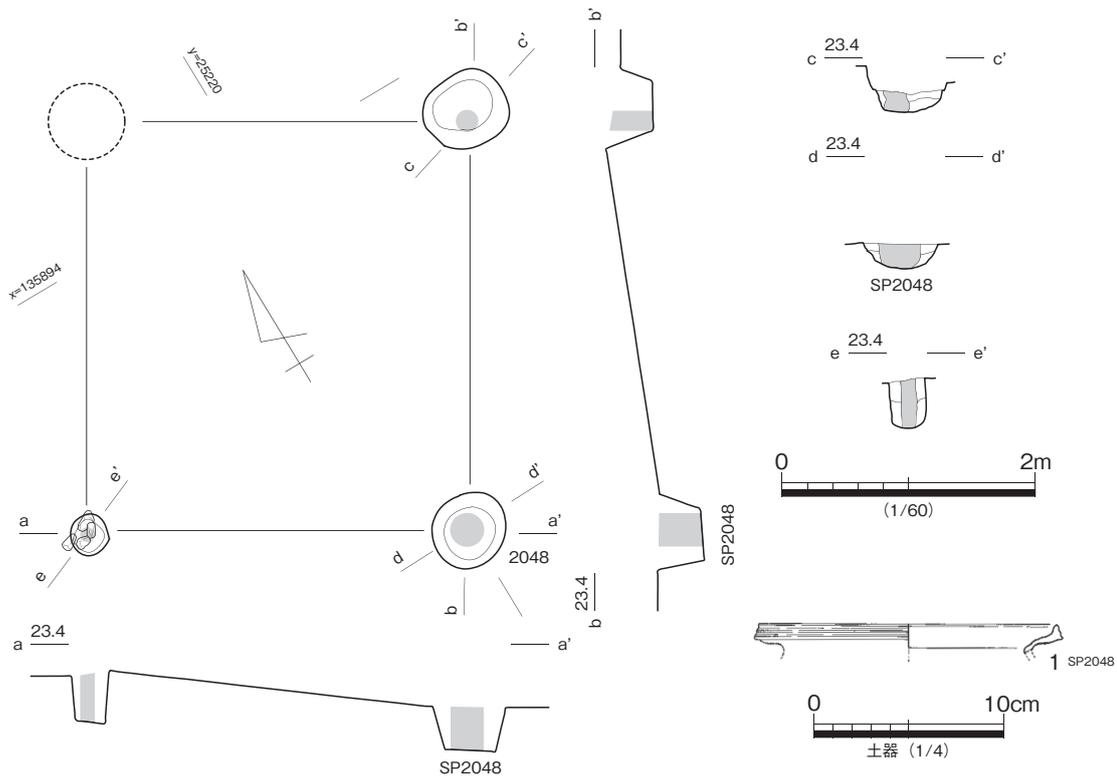


図 33 S 区 SH1084 平・断面・出土遺物

### S 区 SH1084 (図 33)

S 区北部で検出した竪穴住居である。住居掘り方や壁溝の検出は行えず、埋没土の類似性や出土遺物を評価し、柱穴配置から竪穴住居として復元する。特に SP2048 は弥生中期後半期の SH1064 下位で検出しており、本住居の帰属時期を推定する際に有力な手掛かりとなる。主柱穴は図示した 3 基に加えて、SH1068 によつての位置に北西隅柱を加えて 4 基と推定したが、柱穴がやや大形であり、竪穴住居と捉えるには柱間がやや長いことから見て、掘立柱建物の可能性も考えられる。

出土遺物は、すべて弥生中期後半期のもので占められる。SP2048 から出土した甕口縁 (図 33-1) の形態から、本住居は弥生中期後半中段階に帰属するものと推定しておきたい。

### S 区 SH1085 (図 34)

S 区北部で検出した竪穴住居である。壁溝及び壁面の立ち上がりの確認はできなかったが、柱穴の埋没土の類似性や竪穴住居との切り合い関係、柱穴出土遺物が弥生中期後半期の資料で占められる点を重視し、報告書作成段階で 6 基の主柱穴をもつ竪穴住居に復元した。断面方向によつて柱穴の底面のレベル差があるなどなど不十分な点は否めない。

図 34-1 の口縁部片は台付鉢口縁として図化した。器種を確定できない。櫛描文原体による列点文をもつ甕胴部片 (図 34-2) や鉢口縁部 (図 34-3.4) の形態から、本住居は弥生中期後半中段階に帰属するものと推定しておきたい。

### T 区 SH1096 (図 35)

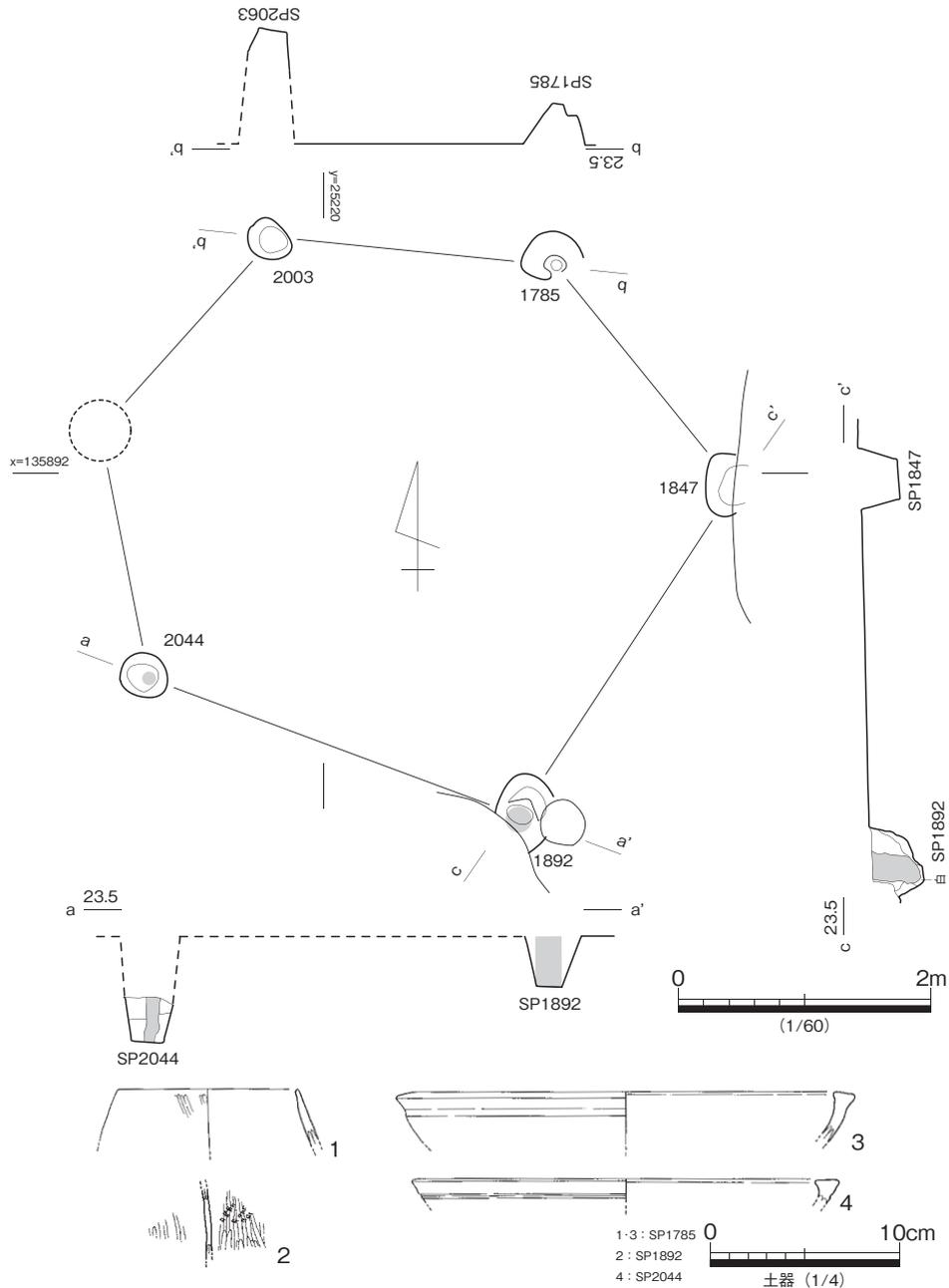


図 34 S 区 SH1085 平・断面・出土遺物

T 区・V 区東部に跨って検出した竪穴住居である。上層を SH1013 等の古代期の遺構に削平されるが、垂直に近い壁面から直径約 3m の小形円形住居と考えられ、支柱穴をもたない。断面では壁溝状の落ちを確認したが、平面での検出はできなかった。床面中央に攪乱坑が存在しているため、炉の敷設については判断できない。規模や支柱をもたない構造は、弥生中期後半期の K 区 SH3001 と類似するものとして指摘でき、本調査区の同時期における数少ない住居のひとつとして捉えることができよう。

出土遺物は、南東部の床面から出土した資料(図 35-1 ~ 6)と南西部の床面から出土した資料(図 35-7 ~ 22)に分けて提示した。一部弥生中期後半古段階に遡る資料(図 35-1.9.16)がみられるが、広口壺(図 35-7)や台付鉢(図 35-19.20.22)を典型例として、多くの資料は弥生中期後半新段階に帰属すると考えられ、本住居の帰属時期を同時期に比定しておきたい。

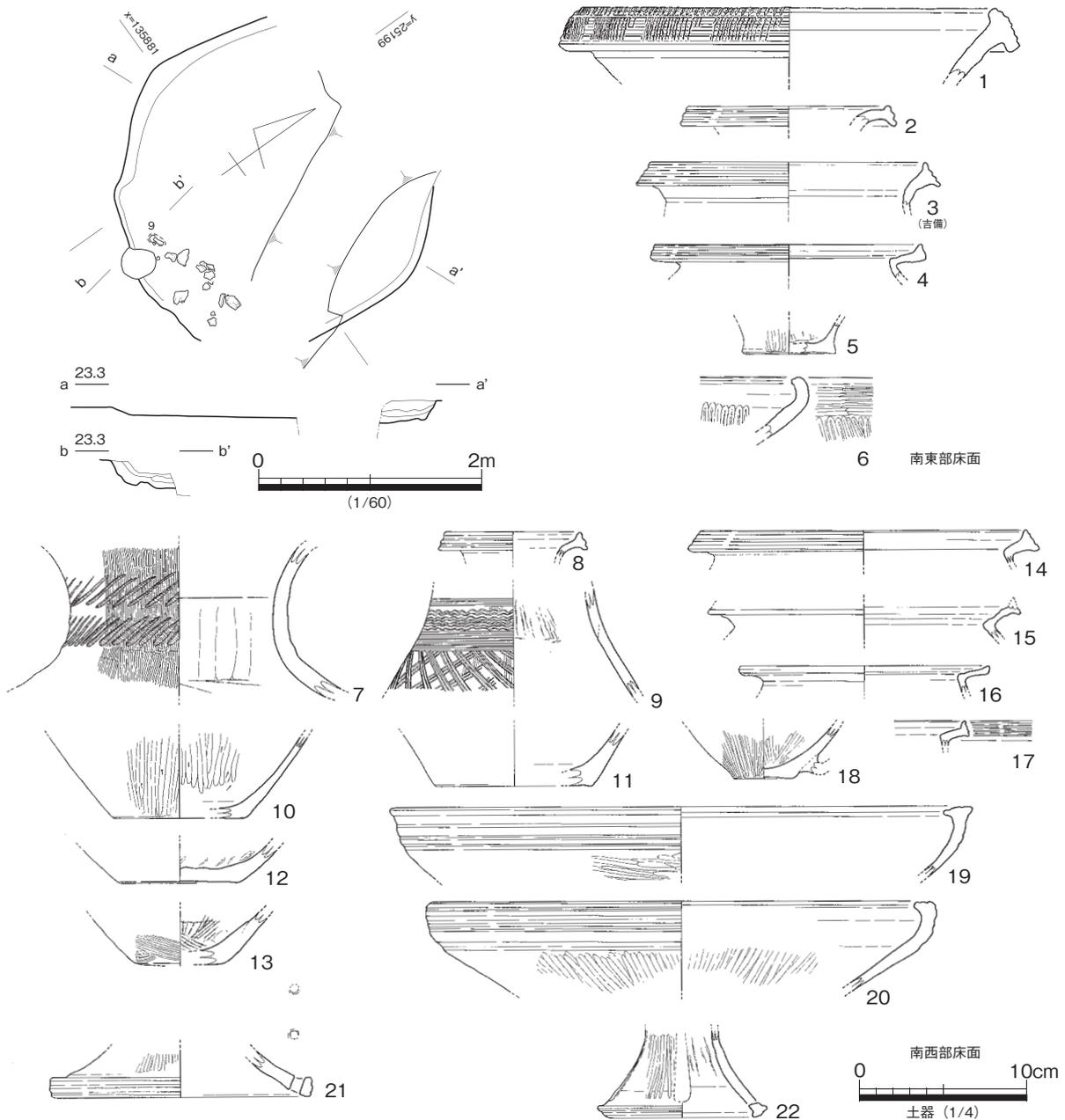


図 35 T区 SH1096 平・断面・出土遺物

### U区 SH5004 (図 36)

U区中央部で検出した竪穴住居であり、弥生後期前半期のSH5009、SB5503に切られる。現地調査で西側の弥生後期後半期のSH5007との切り合い関係を把握することができなかったが、出土遺物が示す年代観から、SH5007に切られるものと考えられる。

SH5002.5009と同様に、弥生前期埋没のSD5002に伴う越流堆積層上面に構築されていることもあり平面プランの検出に難航したが、全体の1/4程度の住居東部の掘り込みと床面を確認できた。直径約3.4mの小形円形住居に復元できる。支柱穴は確認できない。床面上には、炭化物と焼土塊が広がり、焼失住居の様相を呈する。遺構の切り合い関係や出土遺物から、数少ない弥生中期後半の竪穴住居と捉えられる。

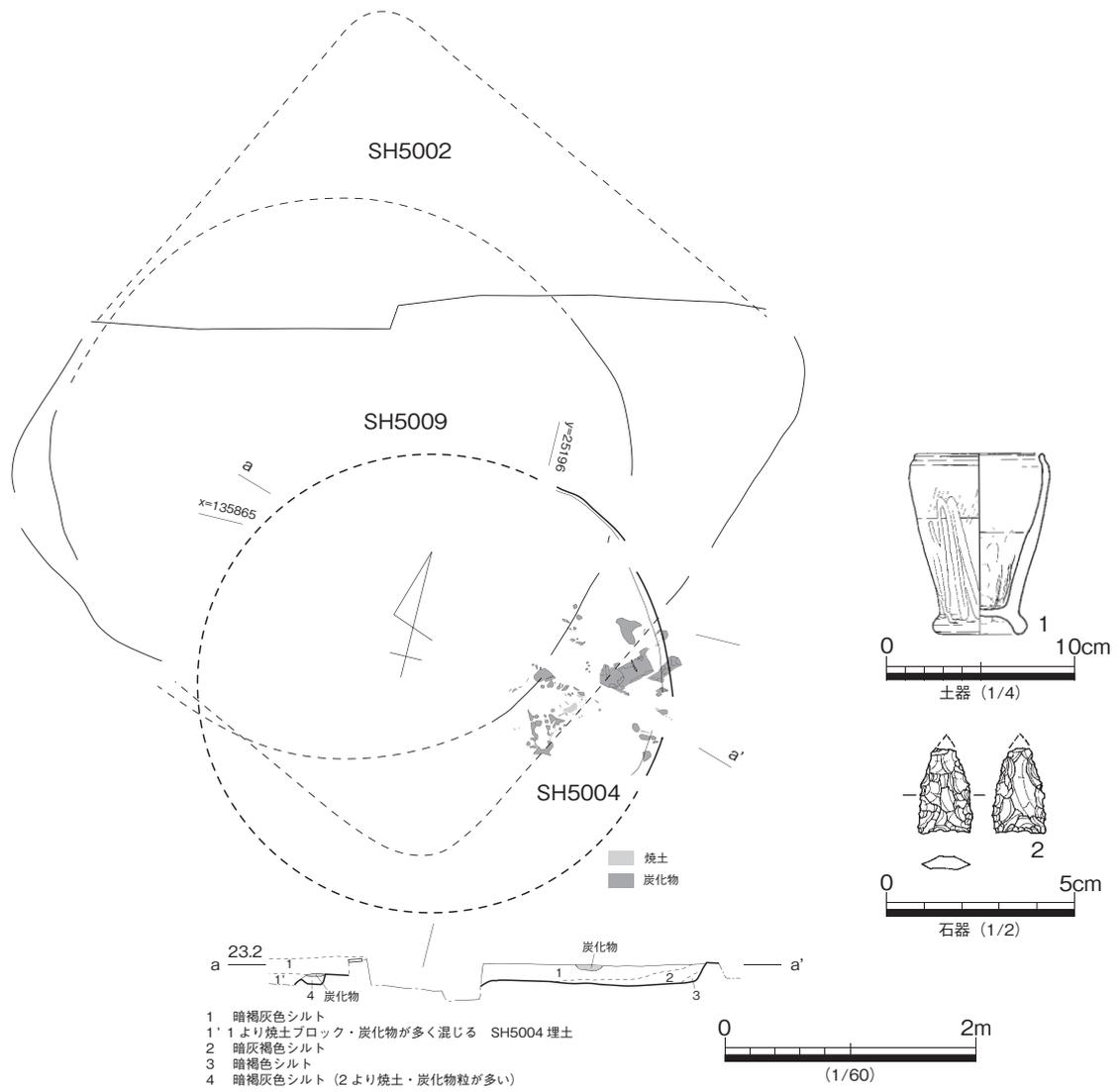


図36 U区 SH5004 平・断面・出土遺物

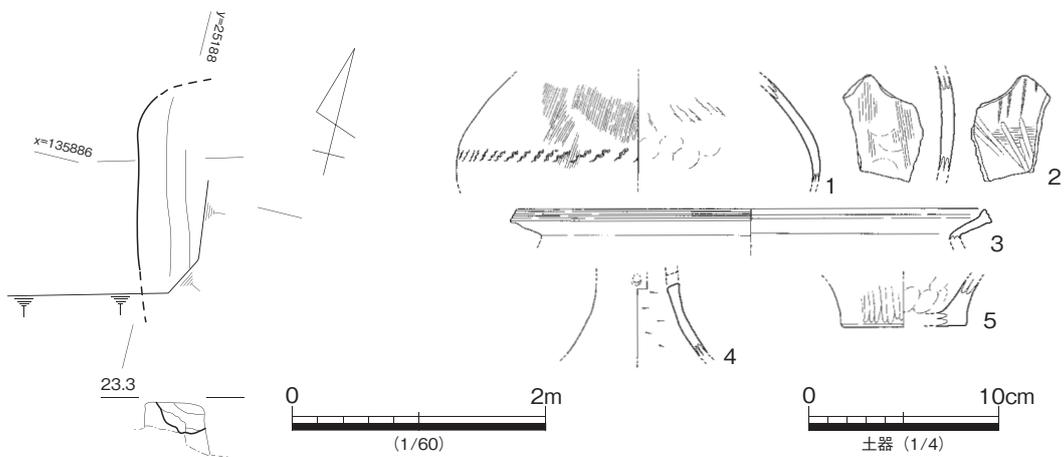


図37 V区 SH6014 平・断面・出土遺物

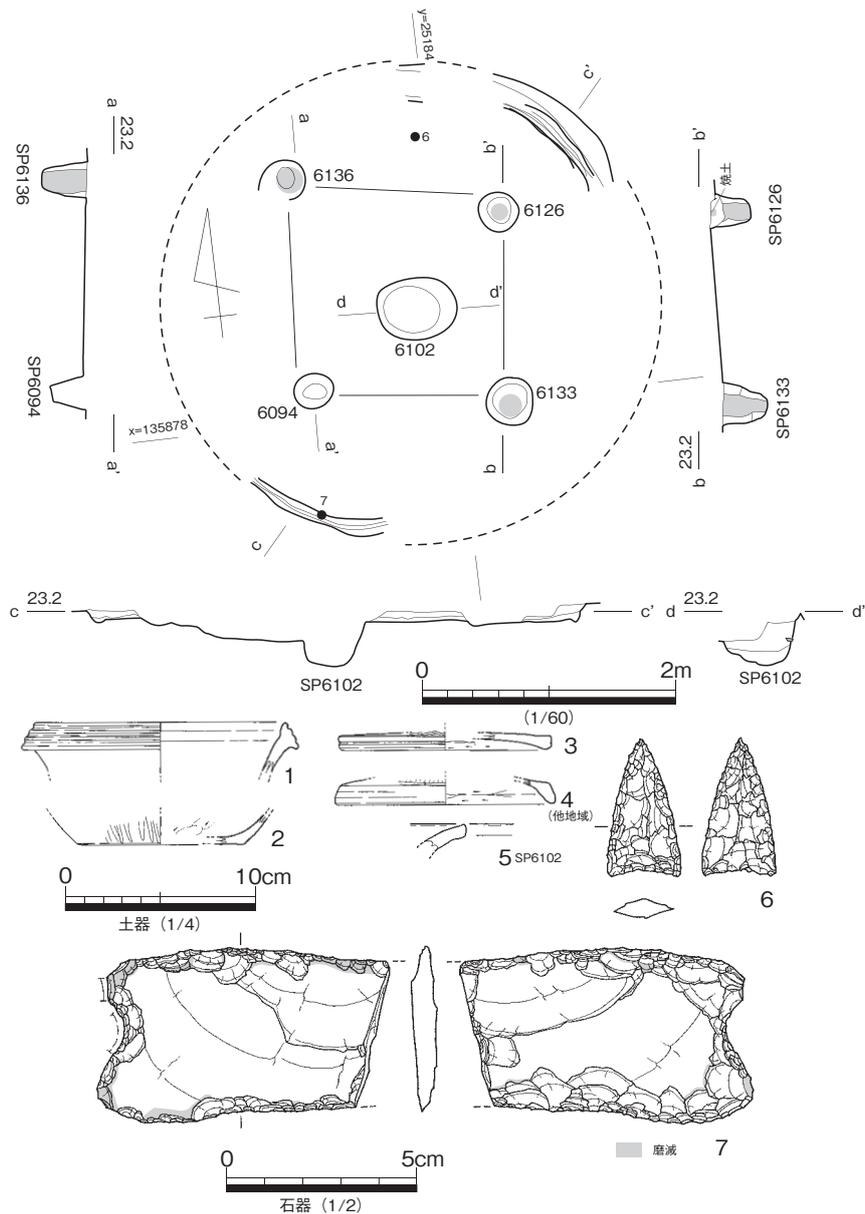


図 38 V区 SH6017 平・断面・出土遺物

図 36-1.2 は本住居に伴う出土遺物である。鉢 (図 36-1) は脚台状の底部をもつもので、類例に乏しいが胎土・焼成の雰囲気や、底部形態は弥生中期後半期の甕に共通するものである。

#### V区 SH6014 (図 37)

V区中央部で検出した竪穴住居である。弥生後期前半期のSH6013に切られる。住居の北西部のコーナー付近の一部を確認することにとどまった。大半は東のT区側へ伸びるものと見られるが、T区では古墳時代住居によって滅失する。検出した範囲が狭小であるため、竪穴住居としての認定に不備があることは否めないが、壁際で壁溝状のものを確認していることや、立ち上がりが急角度であることなどから、竪穴住居として報告することとしたい。

出土遺物は、凹線文出現直後の土器群 (図 37-1 ~ 5) で占められ、弥生後期前半期の帰属時期が想定

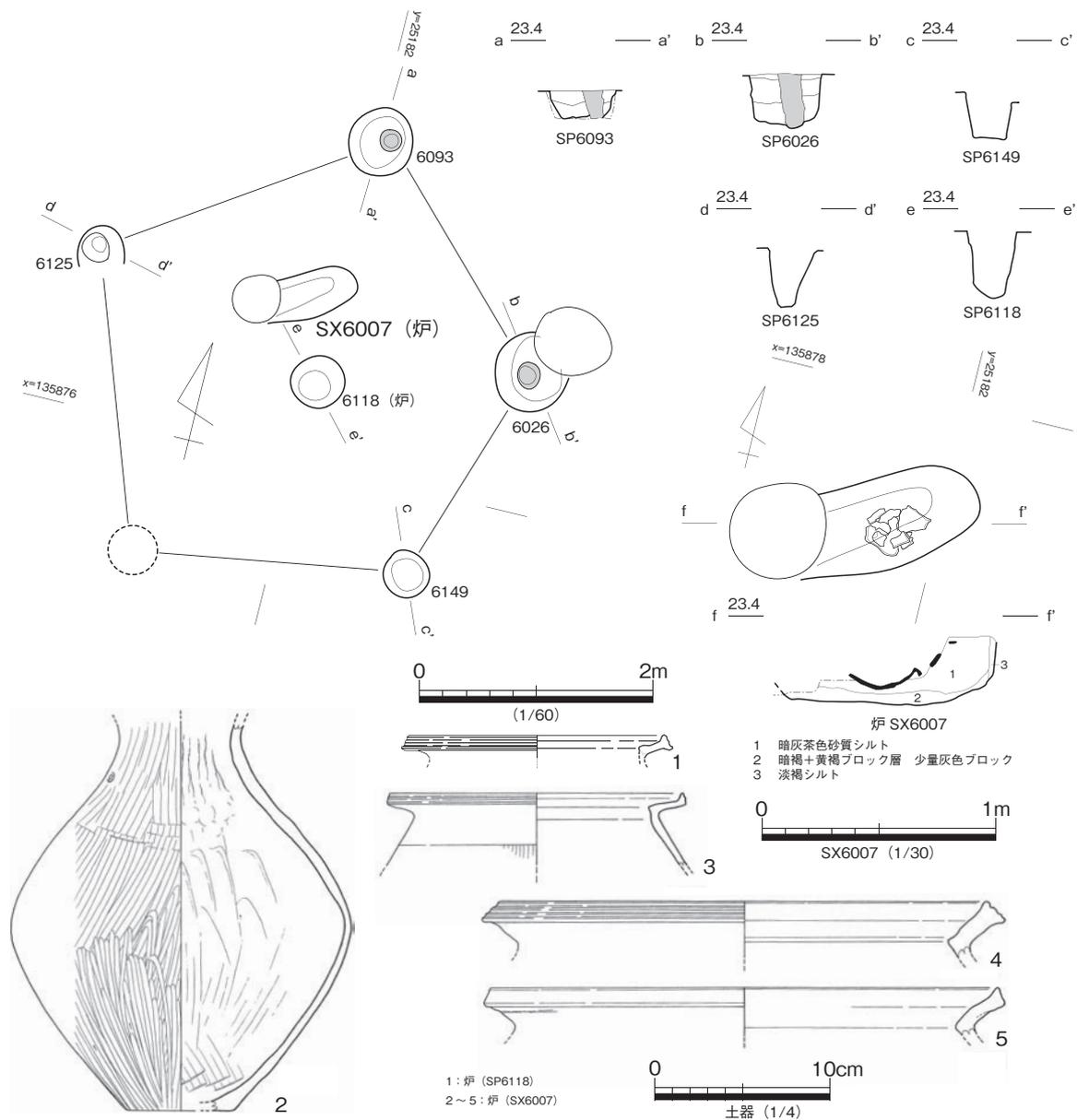


図 39 V 区 SH6023 平・断面・出土遺物

される SH6013 との切り合い関係に矛盾はみられない。出土土器が示す年代が正しいとすれば、本調査区周辺で数少ない弥生中期後半期の竪穴住居となる。

### V 区 SH6017 (図 38)

V 区西部で検出した竪穴住居であり、古墳後期以降の SH6001.6003 に切られる。部分的に壁溝及び壁面の立ち上がりが残存しており、直径 3.9m の小形円形住居に復元できる。主柱穴は図示する 4 基であり、いずれも明瞭な柱痕をとどめる。住居中央に位置する SP6102 は、炭化物等を顕著に含まないものの、住居床面において検出しており、炉跡と考える。

図 38-1 ~ 5.6 は床面、図 38-7 のサヌカイト製打製石庖丁は壁溝上面から出土した。短頸広口壺(図 38-1 の)形態から、本住居は弥生中期後半新段階に帰属するものと考えられる。

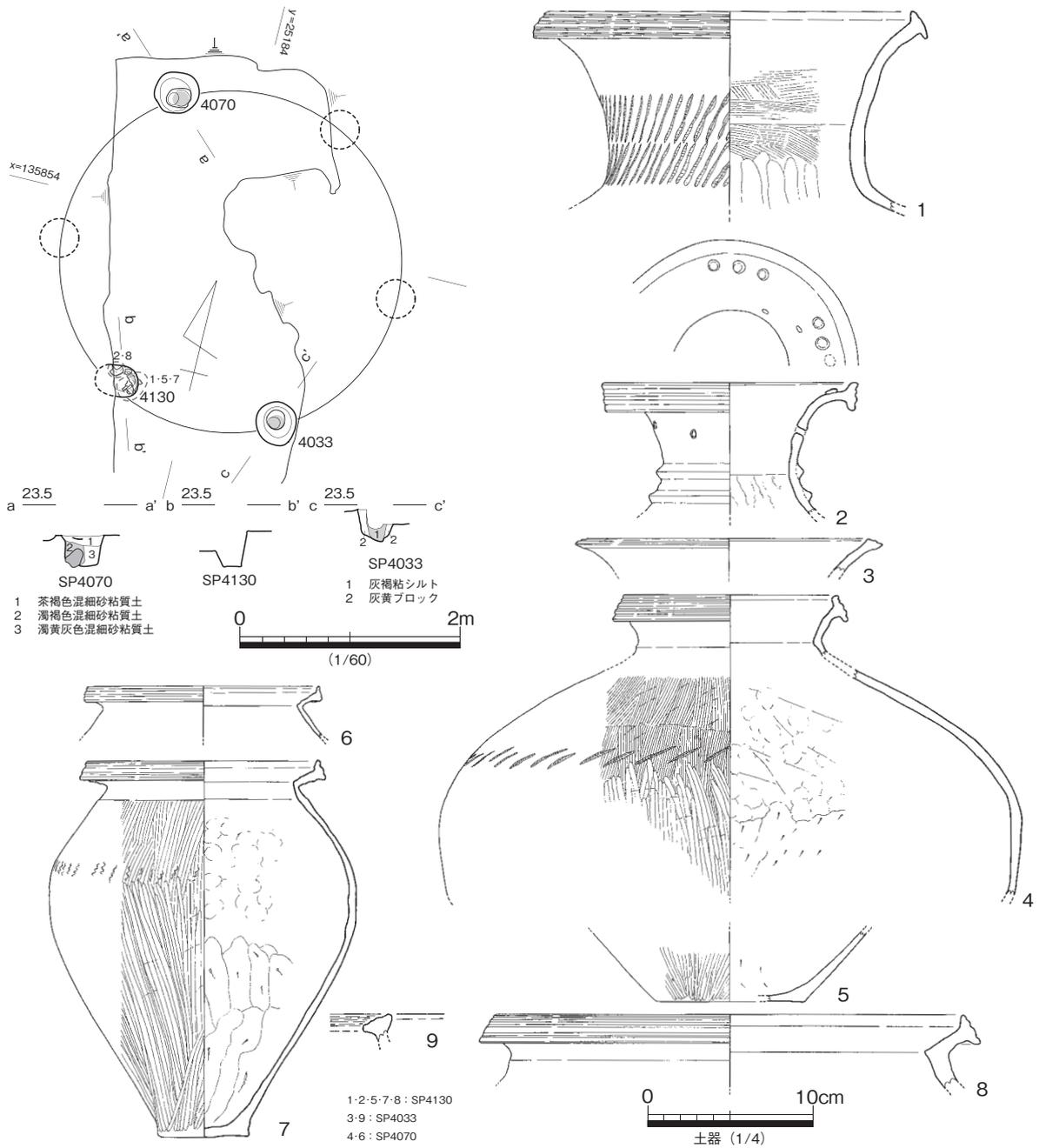


図40 W区 SH4009 平・断面・出土遺物

### V区 SH6023 (図39)

V区西部で検出した竪穴住居である。弥生中期後半期のSH6017に切られる。住居掘り方は確認できず、炉SP6118.SX6007を中心として主柱穴を推定することで復元したものである。主柱穴は現存する4基に南西部の攪乱坑内にもう1基推定し、多角形の配置を想定する。

床面中央に位置する炉SP6118は、柱穴状となるもので、埋没土中に炭化物をやや多く含む。北側の隅丸方形炉SX6007は灰褐色系の粘土を主体とし、炭化物を多く含む。底面より若干浮いた位置に土器群をまとまった状態で投棄している。この円形炉と隅丸方形炉の組み合わせから、「イチマル土坑」に

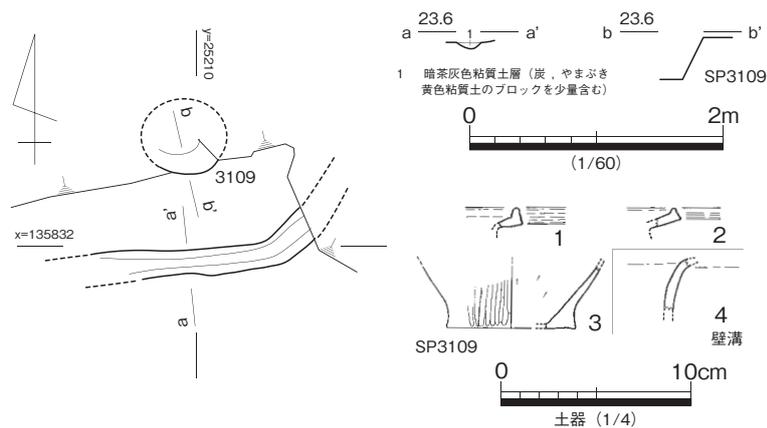


図 41 I -3 区 SH3019 平・断面・出土遺物

及び 28 次調査地にもう 3 基の柱穴を想定し、6 基の支柱穴を復元した。報告書作成段階で支柱穴を推定し、竪穴住居として復元したことから、壁溝や炉の欠落など資料不足は否めない。しかし、各柱穴は柱材抜き取りに伴う土器廃棄を行う点で共通していることや、その土器群が時期的にまとまることなどを根拠として、住居として復元しておきたい。

図 40-1～9 は出土遺物である。広口壺 (図 40-1.2) 短頸広口壺 (図 40-4) 甕 (図 40-7) の形態から、本住居は弥生中期後半中段階に廃絶したものと推定しておきたい。

### I -3 区 SH3019 (図 41)

I 区北部で検出した竪穴住居である。東西方向で帯状に残る遺構面で確認しており、遺存状況が極めて悪く壁溝の一部と支柱穴 1 基のみの提示となり、覆土は残存していない。壁溝は、西から直線的に伸びた後、東端で屈曲するように見えるが、検出範囲が僅かなので円形か方形の区別は困難である。SP3109 は検出面を根拠に支柱穴として提示するが、確定には至らない。

本住居上位に存在していた古墳中・後期の住居群の埋没土を構成するⅢ層を除去して確認していることや、古墳中期の SH3001 に切られることを考慮し、壁溝出土の広口壺頸部片 (図 41-4) 土器が示す弥生中期後半期の住居として評価しておきたい。

### H 区 SB1004 (図 42)

H 区西部で検出した掘立柱建物である。古墳前期の SH1007、弥生後期後半の SH1004 に切られ、弥生前期埋没の SD0007 を切り込む。北西隅柱が平成 22 年度調査地に延び、桁行長も更に延びる可能性があるが、現状で梁間 1 間 (2.6m) × 桁行 2 間 (4.6m) の柱構造をもつ。柱穴は長軸 1m 前後短軸 0.8m を測る長方形乃至方形のものが多く、弥生期の建物としては大形の部類に属する。黒褐色粘土ブロックを主体に基盤層の黄色粘土ブロックが混じる裏込土をもち、確認できた全ての柱穴で柱材が抜き取られている。抜き取り穴や底面に残る変色部から推測して、直径約 20cm の柱痕を想定できる。現状での南西隅柱 SP1261 の抜き取り穴には、中期後半新段階の土器が比較的多く投棄されていた。また、他の調査区の弥生期の掘立柱建物と比較して、残存深度が浅い。建物の一部上位には弥生後期以降の住居が存

類似するが、炉跡の配置は異なっている。

図 39-1 は円形炉 SP6118、図 39-2～5 は隅丸方形炉 SX6007 から出土した資料である。半完形に復元できる壺 (図 39-2) や甕 (図 39-1.3～5) の形態から、本住居は弥生中期後半中段階に廃絶したものと推定しておきたい。

### W 区 SH4009 (図 40)

W 区北西隅で確認した竪穴住居である。現状では 3 基、攪乱

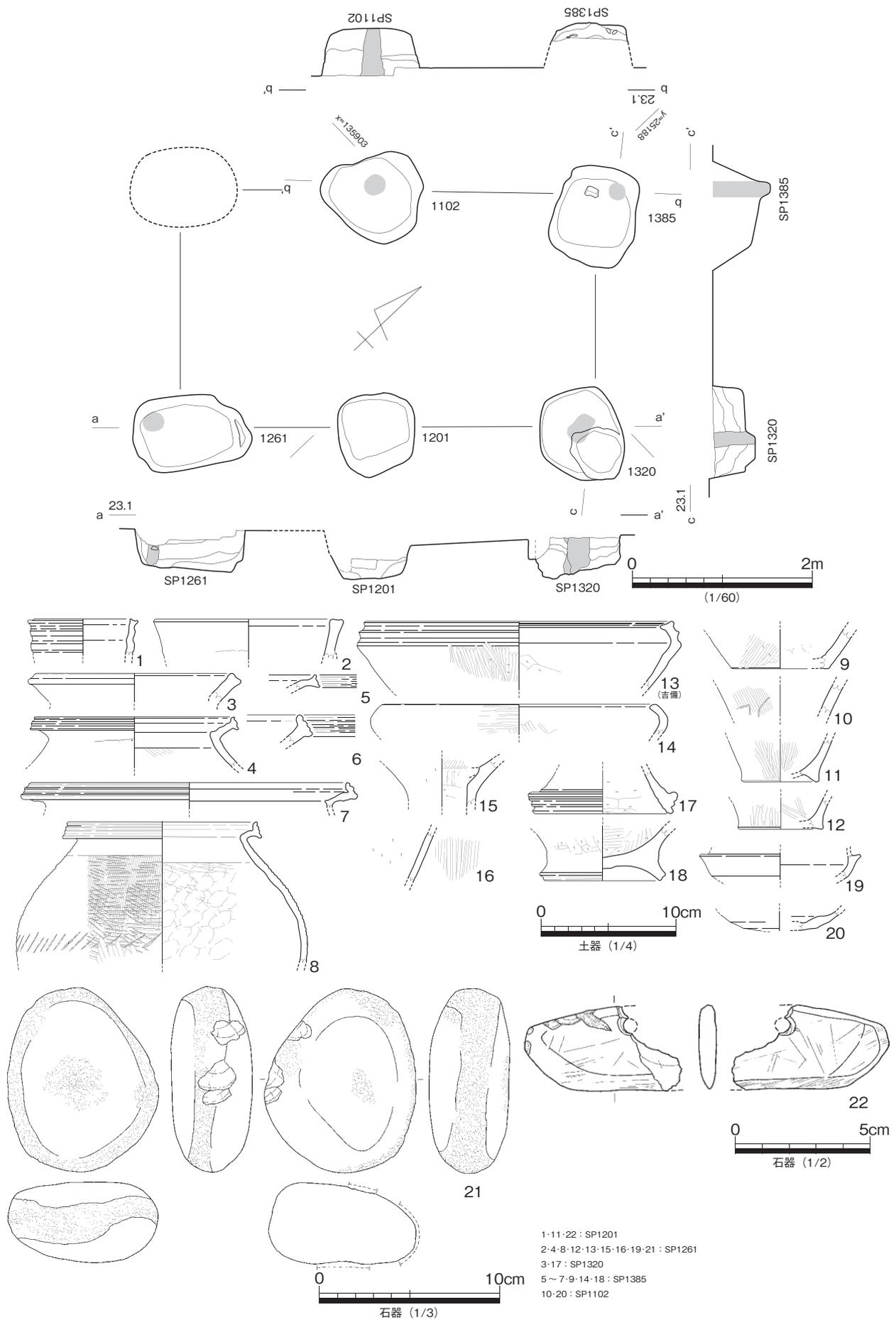


图 42 H 区 SB1004 平·断面·出土遺物

在することが影響しているかも知れないが、後世の遺構形成に伴って上部がかなりの削平を受けている可能性が高い。

図42下段は建物を構成する各柱穴からの出土遺物である。土器資料は弥生中期後半新段階を下限とする。須恵器蓋杯(図42-19.20)は上位遺構からの混入品である。図42-22はSP1201から出土した磨製石庖丁であり、石材は赤色頁岩とみられる。

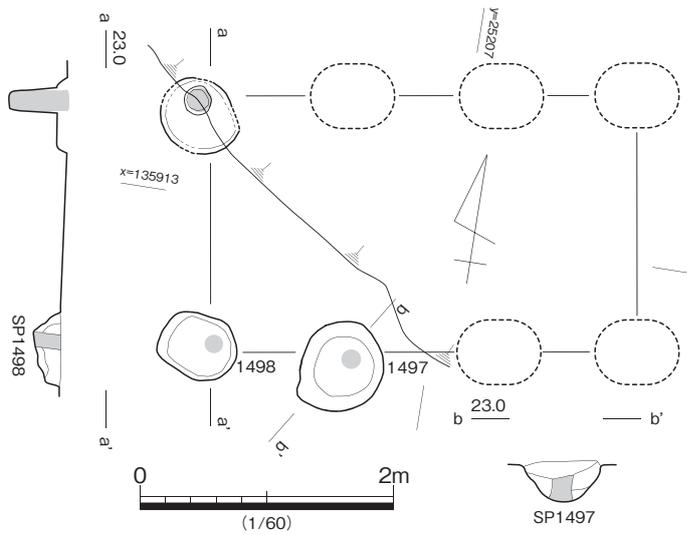


図43 H区 SB1006 平・断面

地区	遺構名	時期	梁間(間)	桁行(間)	梁間(m)	桁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	柱穴平面形	柱径	備考
H区	SB1004	弥生中期後半新段階	1	2	2.6	4.6	12.0	N-45° E	方形	20	
H区	SB1006	弥生中期後半新段階	1					N-81° E	隅丸方形		
H区	SB1008	弥生中期後半新段階	1	3	2.8	4.3	12.0	N-89° E	方形	20	
H区	SB1009	弥生中期後半新段階	1	1	3.2	(4.3)	13.8	N-60° W	円形・方形	20	
L区	SB5008	弥生中期後半新段階						N-40° W			
M区	SB6003	弥生中期後半新段階	1	2	2.9	6.0	17.4	N-87° E	方形	30	焼成破裂土器片
M区	SB6004	弥生中期後半新段階	1	1	3.6	3.0+ a		N-60° E	方形	30	
M区	SB6005	弥生中期後半中段階	1	1	2.9	2.5+ a		N-31° W	円形	20	
M区	SB6006	弥生中期後半新段階	1	1	2.8	4.7	13.2	N-77° E	方形	25	
M区	SB6008	弥生中期後半新段階	1		3.2			N-60° E	方形	25	
O区	SB8001	弥生中期後半新段階	1	2	3.5	6.0	21.0	N-65° E	方形		焼成破裂土器 I
S区	SB1104	弥生中期後半新段階			2.0	4.0以上		N-65° W			
S区	SB1108	弥生中期後半中段階	1	2	2.9	5.7	16.5	N-89° W	方形	20	
S区	SB1109	弥生中期後半新段階	1	2	3.5	5.5	19.3	N-14° E	円形	20	
S区	SB1110	弥生中期後半新段階	1	1	3.2	4.6	14.7	N-79° W	方形	30	
U区	SB5503	弥生中期後半中段階						N-55° W	円形	20	
U区	SB5505	弥生中期後半新段階	1		2.6			N-42° W	円形	20	
V区	SB6001	弥生中期後半新段階	1		2.4			N-66° W	隅丸方形	15	
W区	SB4001	弥生中期後半中段階	1	1	2.5	3.5	8.8	N-67° W	隅丸長方形	20	
I-1区	SB1001	弥生中期後半中段階		2		4.9		N-66° W	隅丸方形	15	
I-2区	SB2001	弥生中期後半新段階	1	1	4.2	6.3	26.5	N-72° E	隅丸方形	20~25	
I-2区	SB2002	弥生中期後半新段階	2	4	3.0	8.1	24.3	N-85° W	隅丸方形	20~25	
I-2区	SB2003	弥生中期後半新段階	1	4	3.1	8.1	25.1	N-86° W	隅丸方形	20~25	
I-4区	SB4002	弥生中期後半新段階	1	3	2.7	6.3	17.0	N-84° E	隅丸方形	20	
I-4区	SB4003	弥生中期後半新段階	1	3	3.2	8.4	26.9	N-63° E	隅丸方形	20	
I-4区	SB4004	弥生中期後半中段階		(2)		4.3		N-65° E	隅丸方形	25	
I-4区	SB4005	弥生中期後半中段階	1					N-49° E	円形・隅丸方形	20	
II-1区	SB1001	弥生中期後半新段階	1	3	2.9	7.3	21.2	N-77° W	隅丸方形	20	
II-1区	SB1002	弥生中期後半中段階	1	2	3.3	6.1	20.1	N-80° E	隅丸方形	25	
II-1区	SB1003	弥生中期後半中段階						N-90° E	隅丸方形		
II-1区	SB1004	弥生中期後半新段階	1	1	4.7	5.9	27.7	N-30° E	隅丸方形	30~35	焼成破裂土器
II-1区	SB1005	弥生中期後半中段階	1	3	2.5	7.8	19.5	N-82° W	隅丸方形	20	
II-1区	SB1006	弥生中期後半新段階	1	2	2.8	4.2	11.8	N-87° E	隅丸方形	20	
II-1区	SB1008	弥生中期後半中段階	1	1	3.2	3.4	10.9	N-11° E	隅丸方形		
II-2区	SB2004	弥生中期後半新段階	1	3	2.4	5.1	12.2	N-10° E	隅丸方形	0.15~0.2	
II-2区	SB2006	弥生中期後半古段階		2		3.1		N-48° E	隅丸方形		
II-4区	SB4003	弥生中期後半新段階	1	2	2.8	5.1	14.3	N-65° W	隅丸方形	0.2	
II-4区	SB4010	弥生中期後半中段階	1	2	2.9	3.9	11.3	N-88° W	隅丸方形	20	焼成破裂土器
II-4区	SB4011	弥生中期後半中段階	1	2	3.1	5.9	18.3	N-12° E	隅丸方形	25~30	
II-4区	SB4012	弥生中期後半中段階	1	(2)	2.4	-	-	N-71° W	隅丸方形	20	

表6 掘立柱建物跡一覧

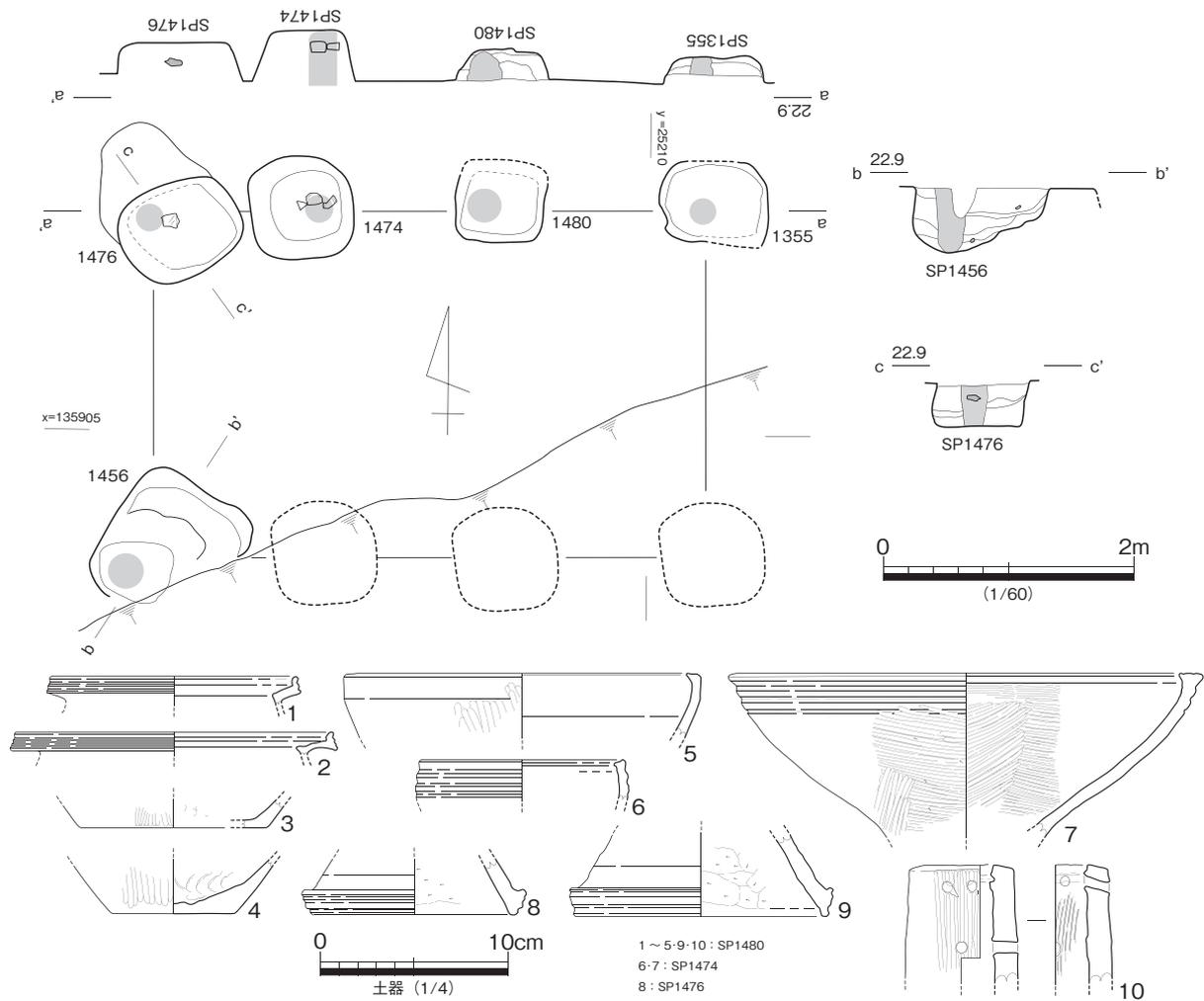


図 44 H 区 SB1008 平・断面・出土遺物

### H 区 SB1006 (図 43)

T 区東部で検出した掘立柱建物である。現状で桁行と考えられる 2 基の柱列を確認しているが、大半を古墳後期に開削される SD0005 によって滅失するため、全体の柱構造は不明である。南側及び西側に対応する桁行柱穴列が見られないことから、建物は北側及び東側へ延伸されるものと考えられる。

出土した土器片は中期後半期に位置付けられる薄手の壺あるいは甕の胴部片であり、これ以上の時期絞込みは困難である。ここでは、建物主軸が SB1008.1009 に類似することを評価し、本建物の帰属時期を弥生中期後半新段階と捉えておく。

### H 区 SB1008 (図 44)

H 区南東部で検出した掘立柱建物である。古代の SD1009、弥生後期の SH1002.1005 に切られ、弥生中期後半の SB1009.SB1012 を切る。南側の大半が攪乱坑によって滅失するが、現状で梁間 1 間 (2.8m) × 桁行 3 間 (4.3m) の柱構造をもつ東西棟の建物と捉えられる。北側桁行 SP1474 が北西隅柱 SP1476 側にややずれた配置となるが、柱痕から計測した柱間には、違和感があまりみられない。各柱穴では直径約 20cm を測る立柱状の痕跡が見られたが、細かな灰褐色粘土ブロックと基盤層に由来した黄色粘土か

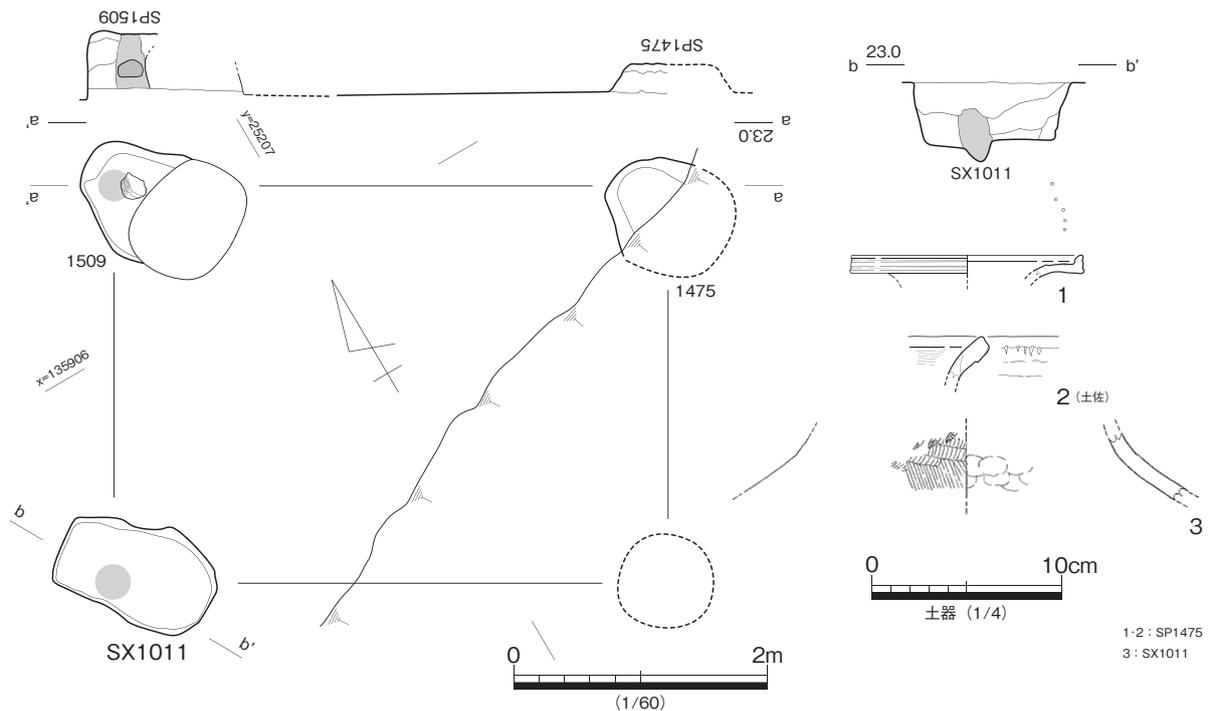


図 45 H 区 SB1009 平・断面・出土遺物

ら構成されており、柱材の抜き取りが行われた後の埋め土と判断できる。裏込土は酸化が進む黄灰色の粘土ブロックを主体としており、一見基盤層と見紛う状態であった。

出土遺物は、弥生中期末葉の所産でほぼ占められる。高杯脚部の形態が後期前半期に下る可能性が残るものの、後期前半古段階の SH1002 に切り込まれる点から判断して、弥生中期後半期でも末葉となる新段階の所産と推定しておく。

#### H 区 SB1009 (図 45)

H 区南西部で SB1008 に重複した検出した掘立柱建物である。弥生後期の SH1005、同中期末葉の SB1008 に切られ、弥生中期後半の SB1012 を切る。建物東部を攪乱坑によって滅失するが、現状で梁間 1 間 (3.2m) × 桁行 1 間 (4.3m) の柱構造をもつ。弥生中期後半期に多く見られる 1 間 × 1 間の大形掘立柱建物とした場合、梁間長・桁行長ともに短いことや、同時期の通有の建物に見られる梁間長と変わりがないため、桁行の柱穴を見落としている可能性が高い。

裏込土は基盤層に由来した黄色粘土ブロックを主体としており、層界に帯状に細かな灰褐色粘土ブロックを含むもので、一見基本層序の IV 層と区別が困難なものである。柱痕は直径約 20cm を測るもので、灰褐色の粘土ブロックから構成されていることから見て、柱材の抜き取りが行われた可能性が高い。

図 45-1 の広口壺の形態や施文の属性から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものとして捉える。図 45-2 は、口縁部外面を肥厚する甕であり、土佐からの搬入・模倣土器と考える。

#### L 区 SB5008 (図 46)

L 区東部で検出した掘立柱建物である。南北方向で帯状に残る遺構面において大型の柱穴 SP5163 と

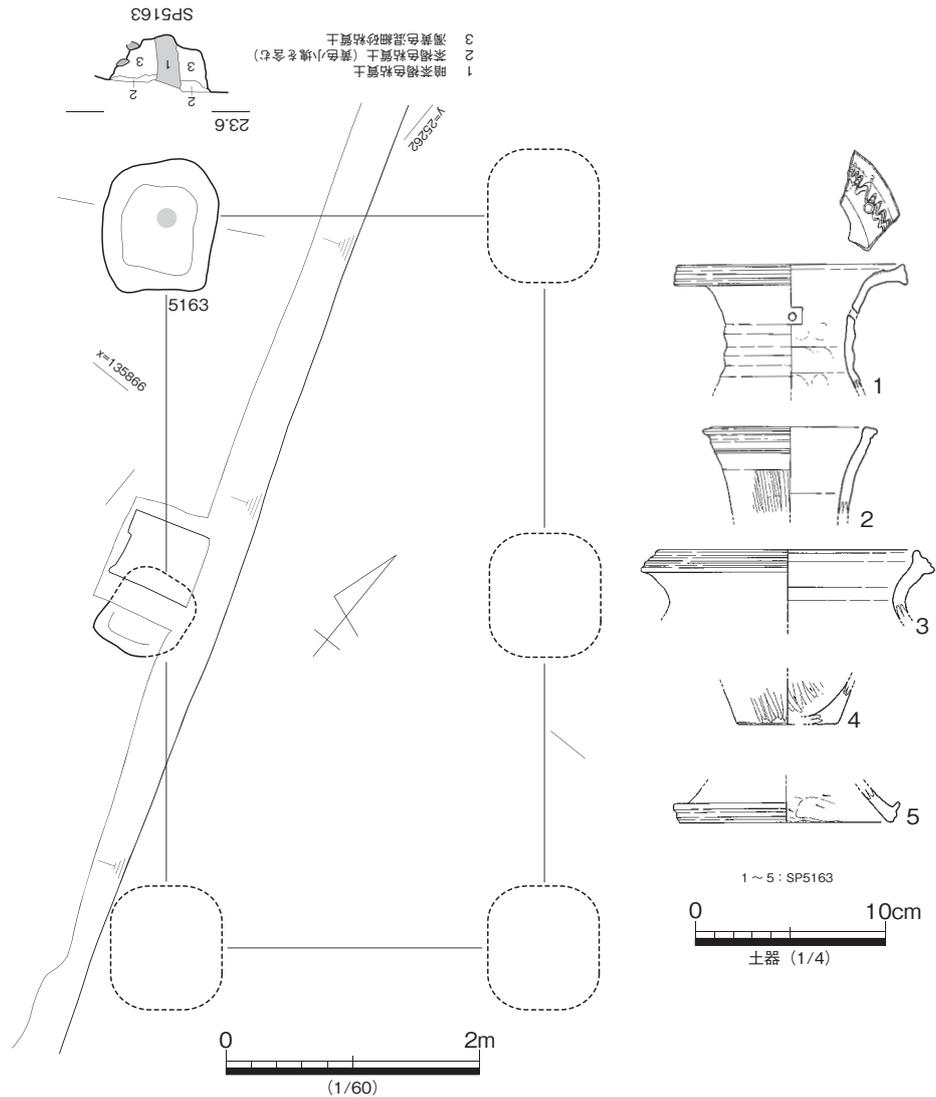


図 46 L 区 SB5008 平・断面・出土遺物

した柱穴を検出しており、資料不足を承知の上で建物復元を行った。SP5163 の深度から見て、北側と西側の攪乱坑の部分に桁行を想定することができず、東側の未調査部分に身舎の大半が存在するものとし、SP5163 の方向性から南北棟の建物主軸を想定した。桁行の柱間については 1 間以上復元する材料はない。北西隅柱と見られる SP5163 の底面には、直径約 20cm を測る柱材が残されていたが腐食が進んでいることもあり、取り上げることは叶わなかった。

SP5163 からの出土遺物 (図 46-1 ~ 5) より、弥生中期後半期でも新段階に属する掘立柱建物と考えられる。

### M 区 SB6003 (図 47)

M 区南部で検出した掘立柱建物である。弥生後期前半期の SH6006 と重複する位置にあるが、重複部分の SH6006 の床面が攪乱によって消滅しているため、遺構による先後関係は分からない。北側の桁行の 2 穴を攪乱坑で滅失するが、現状で梁間 1 間 (2.9m) × 桁行 2 間 (6.0m) の柱構造をもつ東西棟の

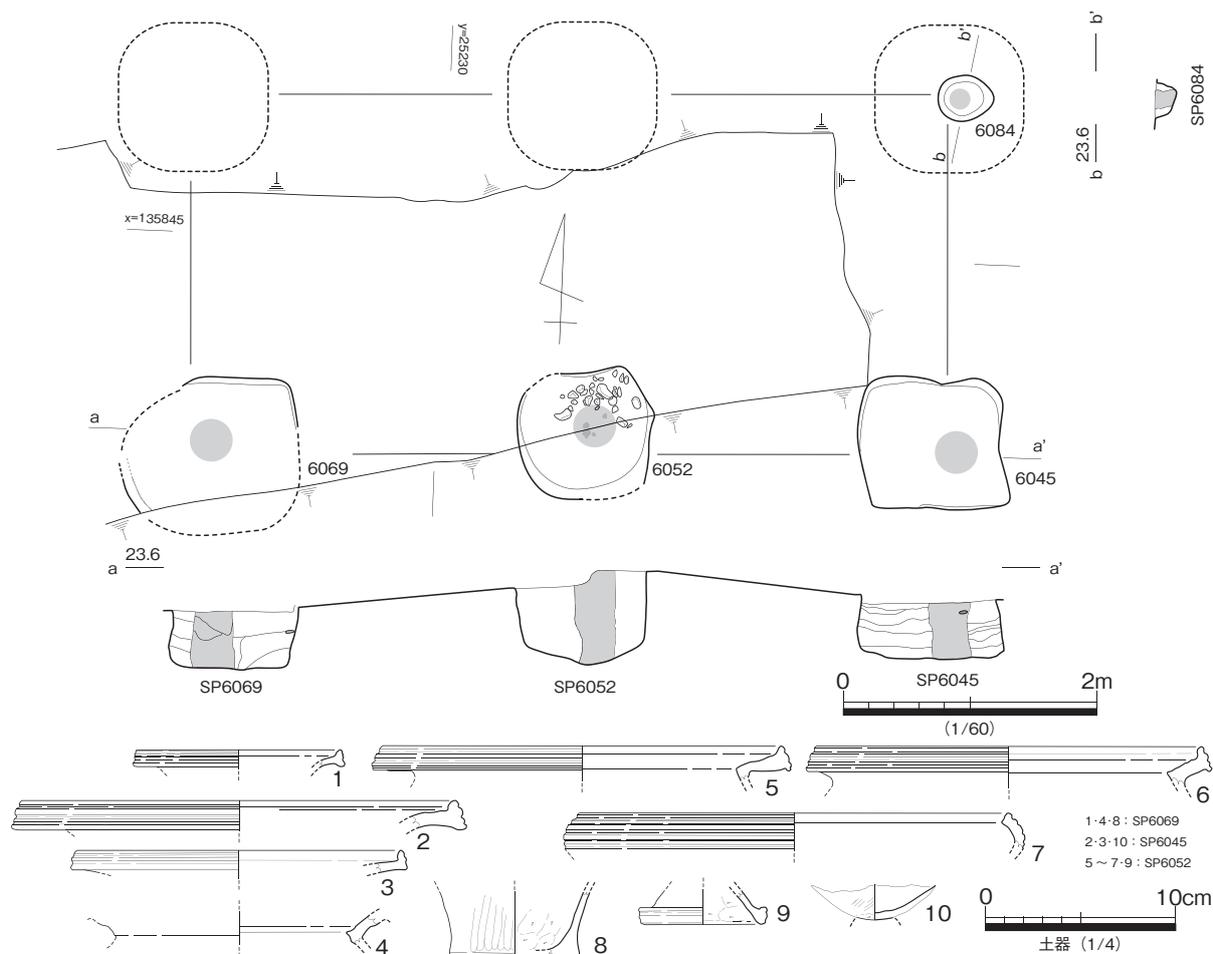


図 47 M 区 SB6003 平・断面・出土遺物

建物である。北東隅柱のみ小形の柱穴となるが、攪乱により上部を削平されているためであり、南側桁行の柱穴は一辺が1mを超える方形のもので統一されている。柱痕に相当する層位内には、細かな黄色粘土塊や焼土塊が含まれていることから見て、柱材は全て抜き取られていると考えられるが、柱穴底面に残る柱のあたりから推測して、直径が約30cmに達する柱材を想定することは可能である。大形の掘り方に対応した柱材を有していたものと考えられよう。柱穴出土遺物(図47-1～10)からみて、弥生後期後半新段階の建物と捉えられる。

図47-10は、高杯又は台付鉢から剥離した円盤充填部分の破片であり、接合部を含めた全体が均質に焼成を受けていることから、焼成破裂に伴って生じた資料と判断できる。焼成破裂土器(片)が多く出土しているO区SD8001と関連して土器焼成に関する遺構又はゾーンが近隣に存在することを示している。

### M 区 SB6004 (図 48)

M 区南部で検出した掘立柱建物である。古墳後期のSH6011に切られ、弥生中期後半期のSB6005を切る。現状で梁間1間(3.6m)×桁行1間(3.0m)の柱構造をもつが、建物西側を攪乱坑で滅失するため、桁行は西側へ伸びる可能性が高い。また、弥生時代の掘立柱建物の中では梁間が長いものであり、各柱

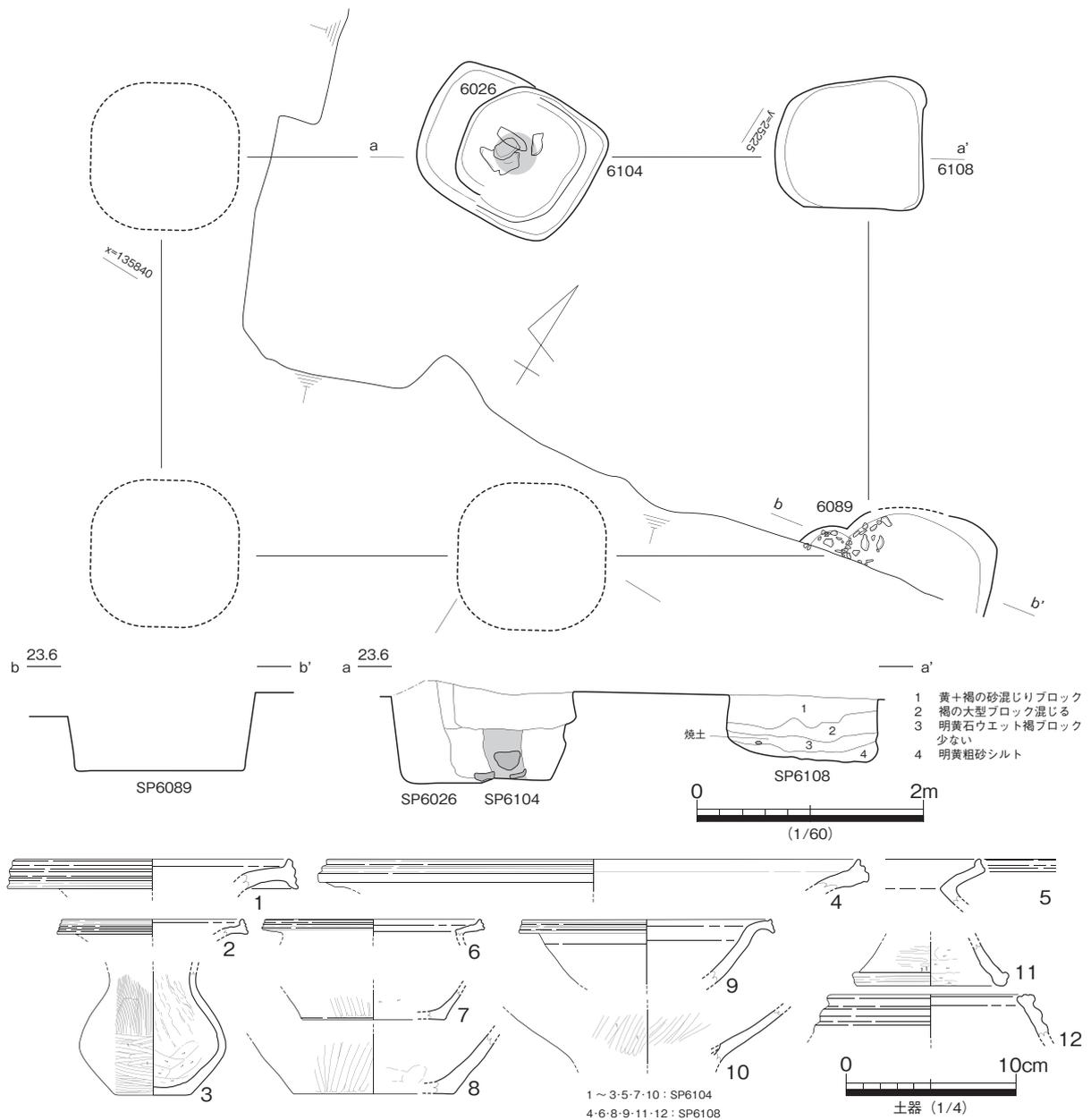


図48 M区 SB6004 平・断面・出土遺物

穴の平面規模も大形となっている。柱痕は確認できず、北側梁間の SP6104 では柱材抜き取りが行われていたものの、底面に残された根石と見られる板状の流紋岩検出範囲などから、直径約 30cm の柱材が想定できる。柱穴の規模や想定される柱痕から判断して、かなりの荷重に耐え得る上部構造をもつ建物と考えられよう。

#### M区 SB6005 (図49)

M区南部で検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH6011、弥生中期後半の SB6004 に切られる。現状で梁間1間(2.9m)×桁行1間(2.5m)の柱構造をもつが、南北に攪乱坑が存在しているため、桁行がどちらかに伸びる可能性が高い。各柱穴は円形であり、柱のあたりから直径約20cmの柱痕をも

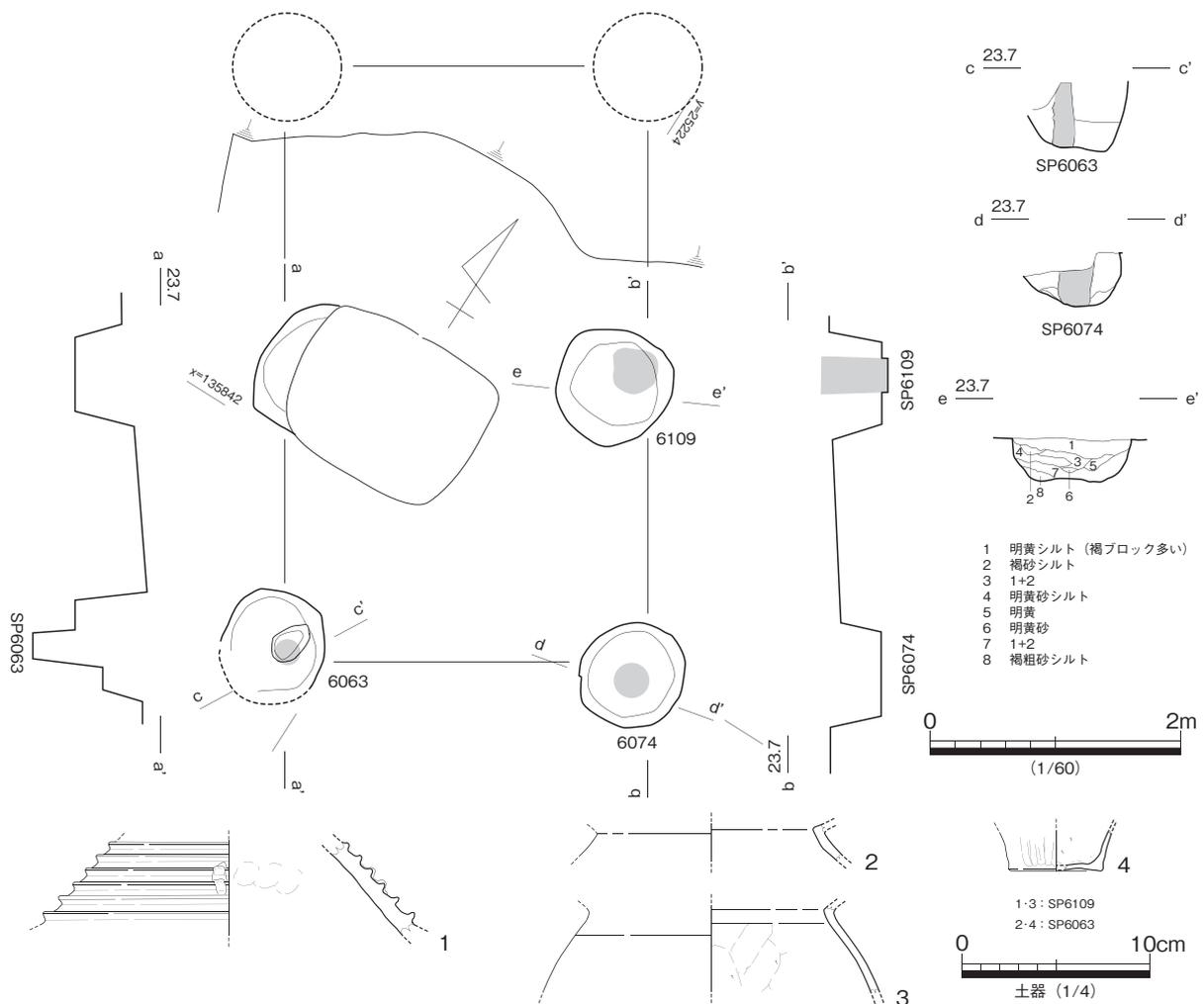


図 49 M 区 SB6005 平・断面・出土遺物

つものと推定できる。弥生中期後半期の SB6004 に切られるため、遺構の切り合い関係においては、周辺で比較的古い掘立柱建物と考えられる。出土土器の様相も SB6004 より先行する弥生中期後半中段階の資料 (図 48-1 ~ 12) であり、両建物は時間差をもって建てられたと推測できる。

### M 区 SB6006 (図 50)

M 区北部で検出した掘立柱建物である。上層に存在する SH6021 等の古墳後期の住居群に大きく削平され、更に弥生後期前半期の SB6007 に切られる。現地調査において SP6359 や SP6454、SP6307 の切り合い関係を誤認したため、記録作成や遺物の取り上げ等に混乱が生じてしまっている。現状で梁間 1 間 (2.8m) × 桁行 1 間 (4.7m) の柱構造が確認できる。各柱穴は一辺が約 1m 程の方形を基調とする中形のものであり、細かな黄色粘土ブロックの裏込土をもち、柱材は全て抜き取られている。底面に残る柱のあたりと見られる変色部から、直径約 25cm の柱痕が想定できよう。

前述のとおり、遺物の取り上げの混乱が生じているため、出土遺物は弥生中期後半期から後期前半期までの時間幅をもつものであるが、年代が下ると考えられる高杯脚 (図 50-4) は後述する SB6007 からの混入と理解し、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと理解したい。中期後半新段階には、本

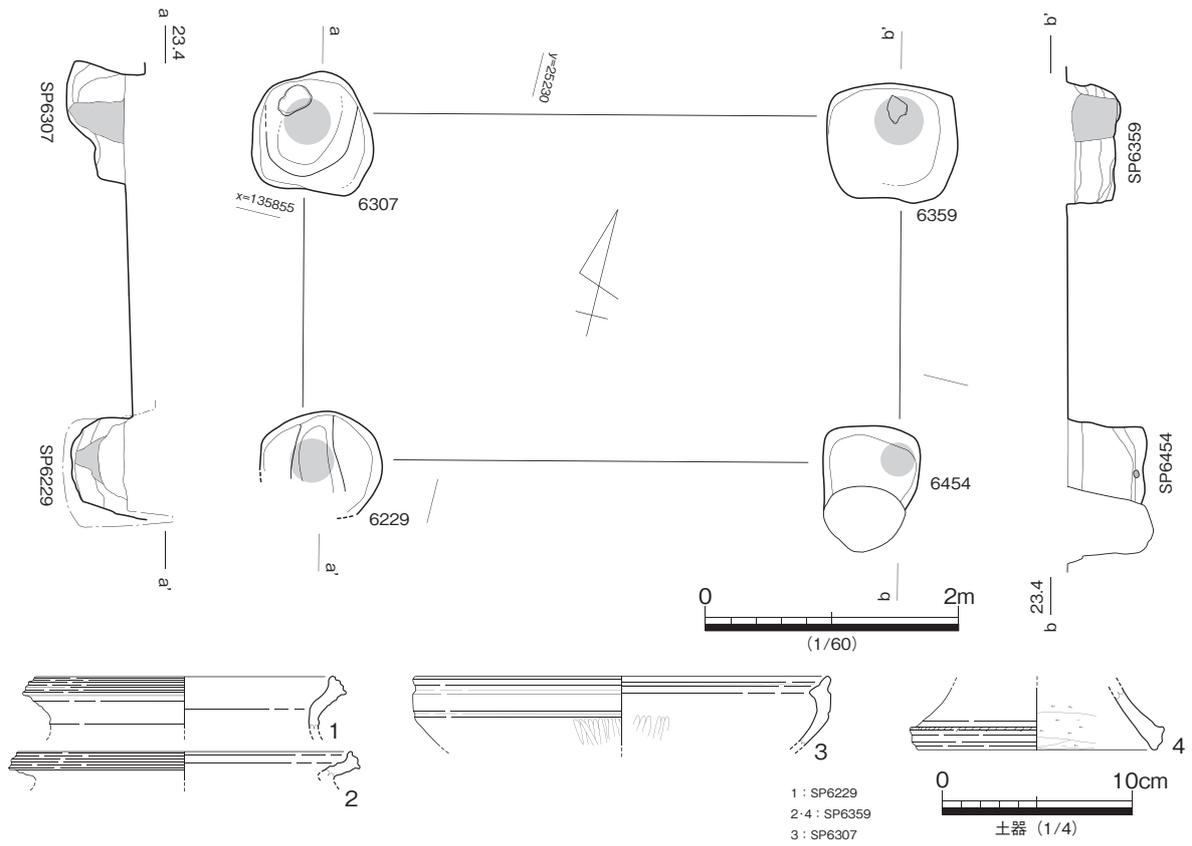


图 50 M区 SB6006 平·断面·出土遺物

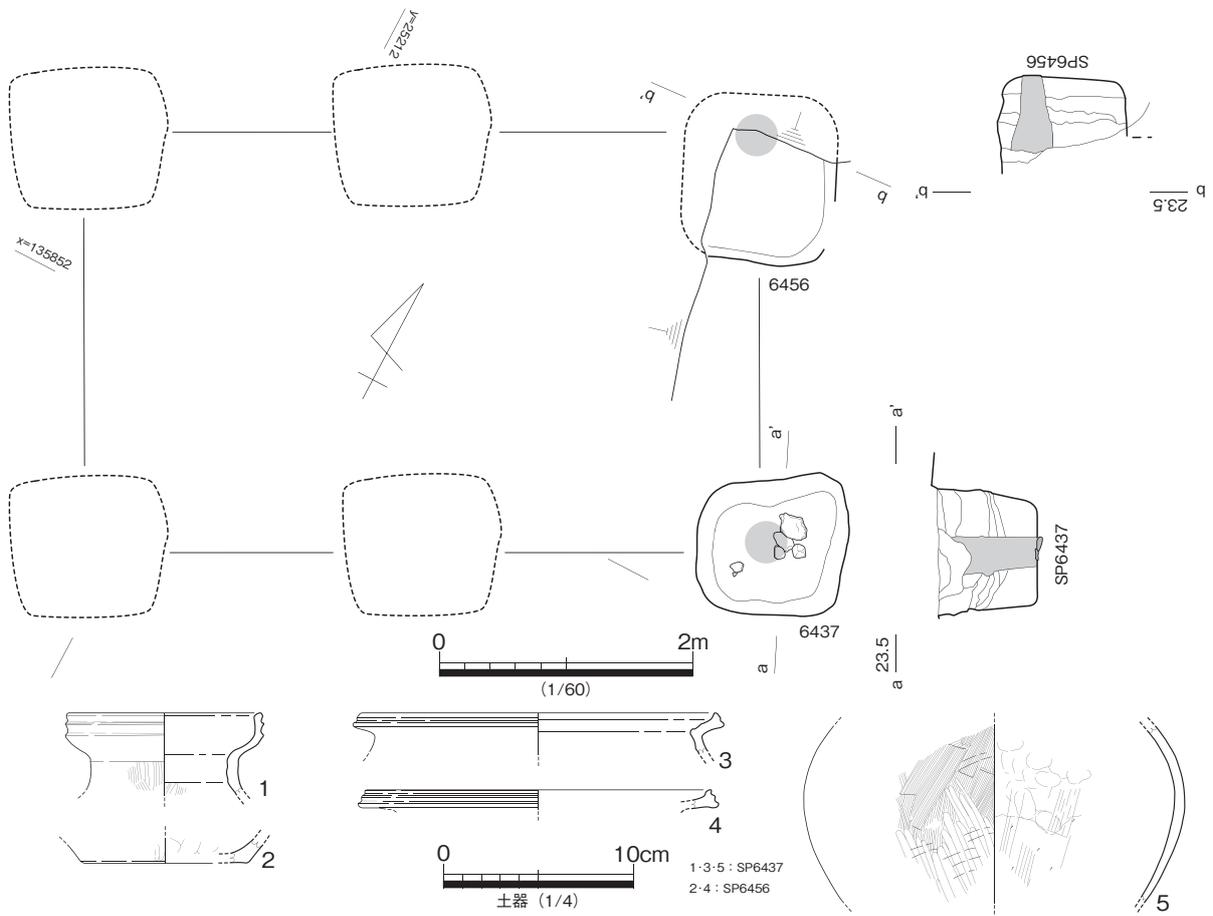


图 51 M区 SB6008 平·断面·出土遺物

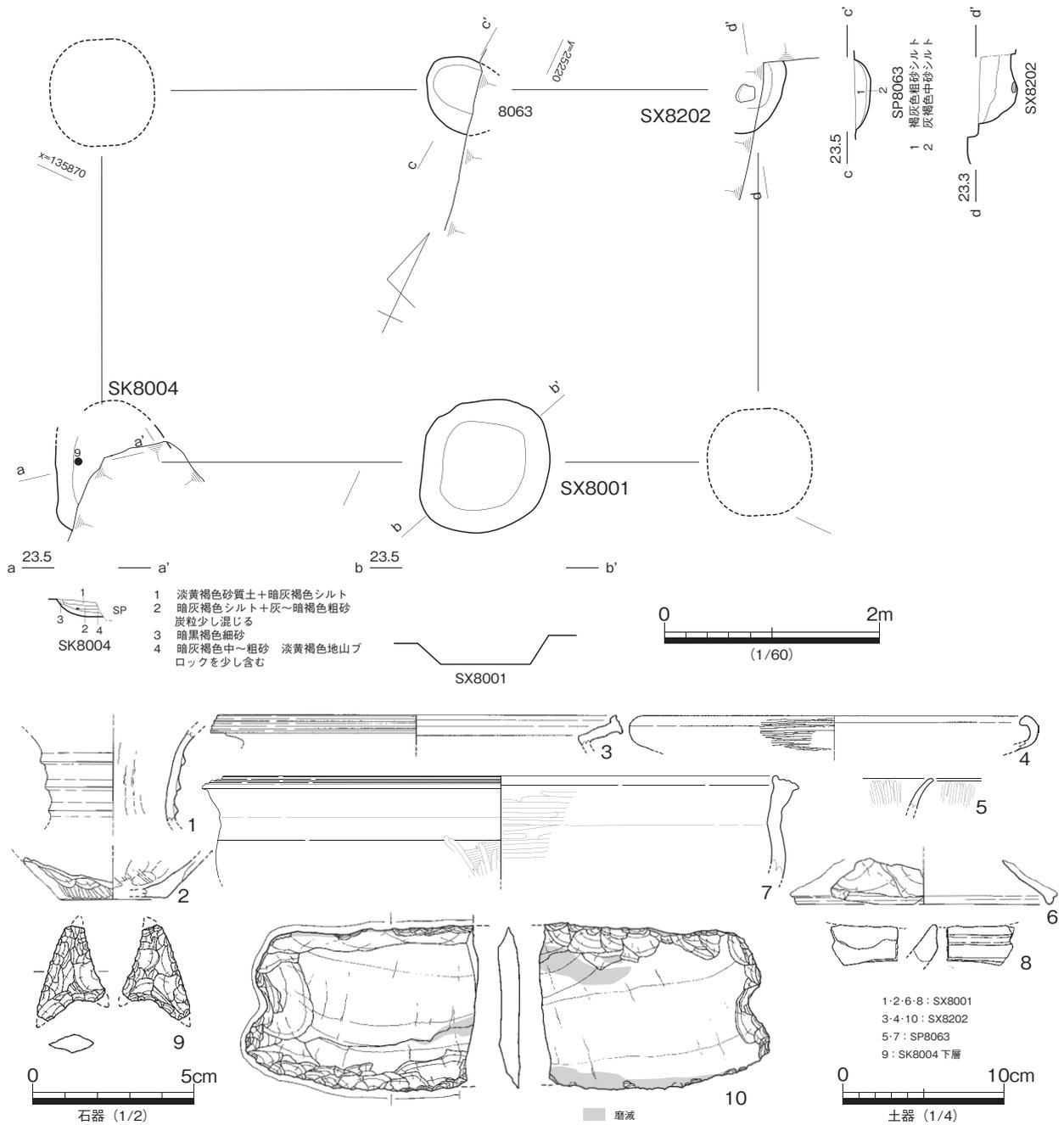


図 52 O 区 SB8001 平・断面・出土遺物

建物の類似した1間×1間の掘立柱建物が散見されるが、床面積はI-2区SB2001やII-1区SB1004に見られるような大型のものではなく、一回り小形の建物ということになる。類似した床面積をもつ1間×1間の掘立柱建物にはS区SB1110があり、柱穴規模等に共通点が多い。

### M 区 SB6008 (図 51)

M 区北西部で検出した掘立柱建物である。上層を古墳後期のSH6012に切られる。弥生中期後半期のSH6039と重複するが、遺構における先後関係は明確にできない。また、攪乱坑により大きく破壊されるため建物の全容が不明確であるが、図示する2基の柱穴は間隔からみて梁行と捉えられ、東側の遺構

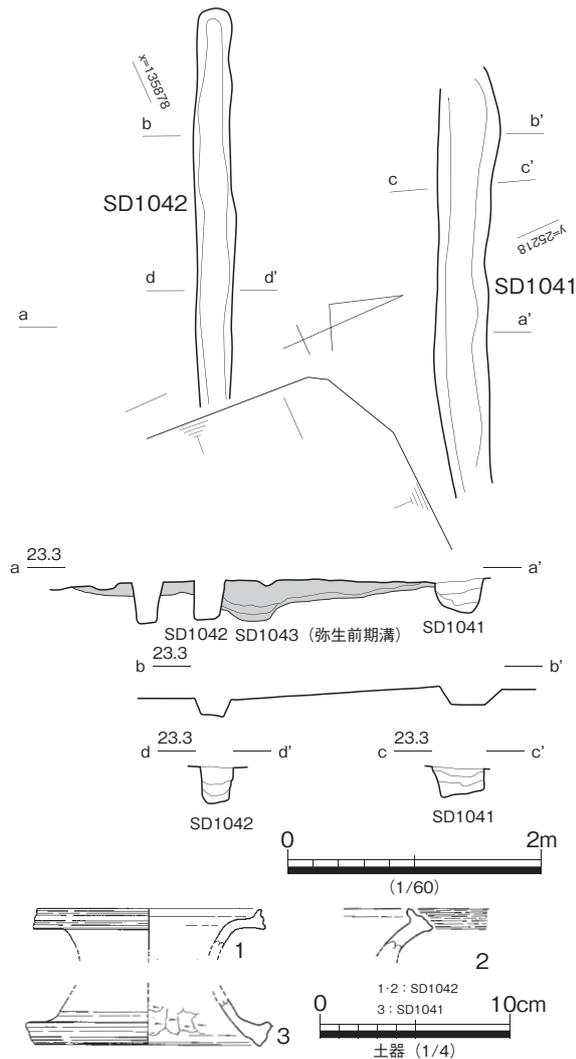


図 53 S 区 SB1104 平・断面・出土遺物

大型鉢 (図 52-7) など弥生後期前半期の遺物が混入が確認されたが、SH8008 との切り合い関係や他の出土遺物の様相から、弥生中期後半新段階の掘立柱建物として報告する。

出土遺物の内、壺底部 (図 52-2) や台付鉢脚 (図 52-6) は、外面に焼成破裂痕を留める。いずれも本調査区を中心に分布する弥生中期後半期の土器焼成関連遺物である。図 52-8 は縄文深鉢片であり、外面に凹線文帯が確認でき、下層からの混入遺物とみられる。

### S 区 SB1104 (図 53)

S 区南西部で検出した並行する 2 条の溝である。弥生終末期以前の SH1044.1077 に切られ、弥生前期埋没の SD1043 を切り込む。芯々間で 2.0m、現存長 4m に亘って検出しており、SD1042.1043 とともに、遺構埋土などの文化層に起因した黒褐色粘土ブロックと基盤層に起因する黄色粘土ブロックで満たされ、掘削後の早い段階で埋め戻されたことが想定できる。底面及び埋め戻し土中に柱痕を確認していないが、2 条並行する検出状態や他の調査区の事例から推測して、布掘状の掘り方をもつ建物の可能性が高い。

図 53-1 ~ 3 は出土遺物である。図 53-1 は広口壺口縁部、図 53-2 は短頸広口壺の口縁部片である。図

面に対応する柱穴が確認できないことから、梁間 1 間 (3.2m) で西側に桁行が伸びる東西棟と捉える。隅柱となる 2 基の柱穴はいずれも一辺が 1m を超える大形の方形を呈する。柱材はふき取られていたが、南東隅柱 SP6337 の最下部の根石上面で直径約 25cm の柱痕が僅かに確認された。裏込土は弥生時代以降の基盤層である IV 層に極めて酷似する黄灰色粘土ブロックから構成されており、入念に埋め戻された結果固く締まり、人力掘削用具を寄せ付けなほどであった。

出土した壺胴部片 (図 51-5) の球形化した胴部形態から、弥生中期後半新段階の建物として推定しておきたい。

### O 区 SB8001 (図 52)

O 区北部で検出した掘立柱建物であり、弥生後期後半期の SH8007、弥生中期後半期の SH8008 に切られる。北西隅柱及び南東隅柱を欠損するが、梁間 1 間 (3.5m) × 桁行 2 間 (6.0m) の柱構造をもつものと見られる。桁行の柱間や柱穴底面のレベルが一定ではないが、弥生期の掘立柱建物に見られる裏込土に類似した埋没土をもつことや、北東隅柱の流紋岩製の根石の存在などから、報告書作成段階で建物として復元した。北側桁行の SP8063 に、

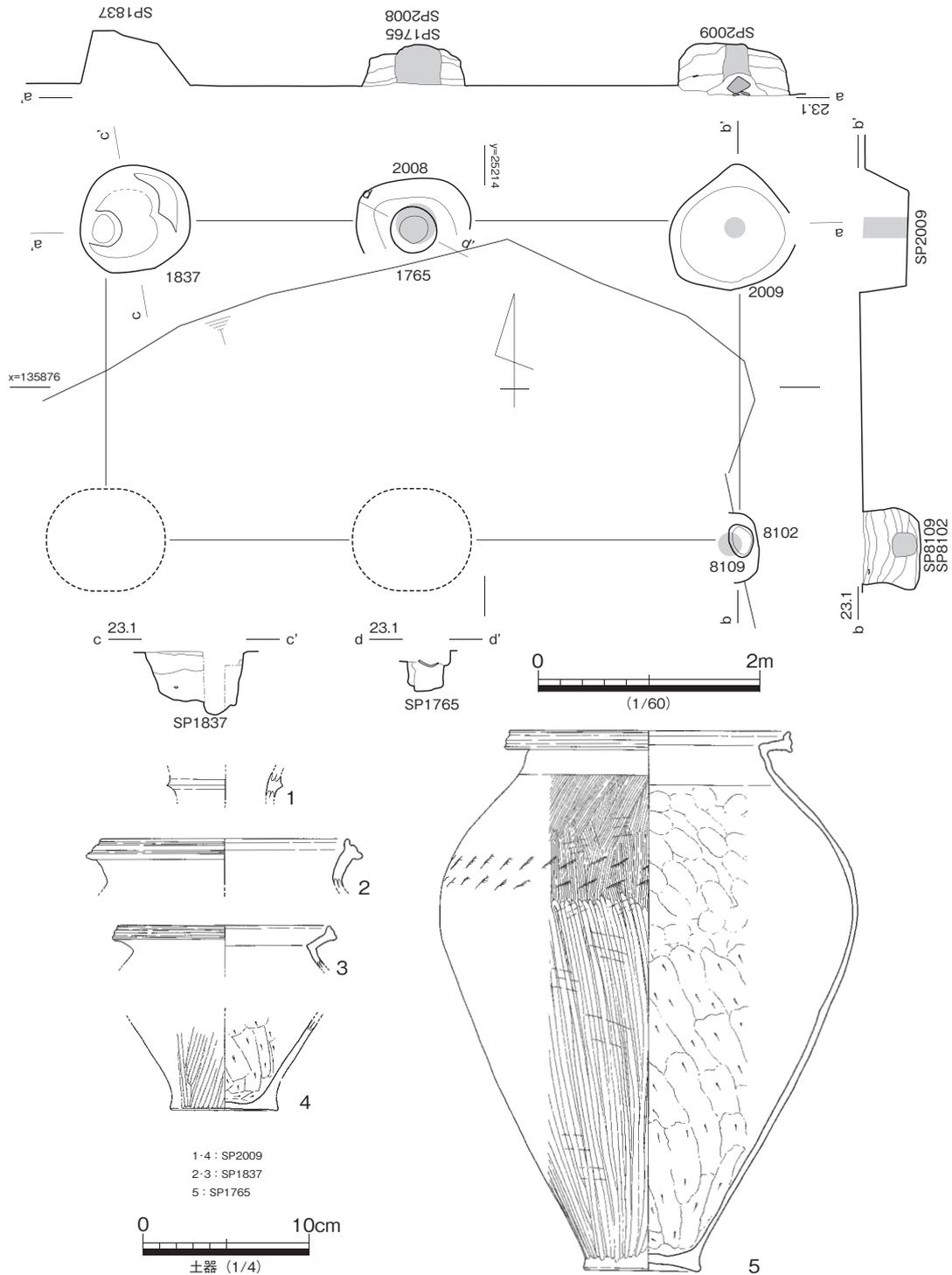


図54 S区 SB1108 平・断面・出土遺物

53-3の台付鉢脚部片は、端部がやや開くもので通有の形態と異なる。端部の拡張は明瞭であり、弥生中期後半期の特徴を留めている。これらの出土遺物から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと考えておきたい。

**S区 SB1108 (図54)**

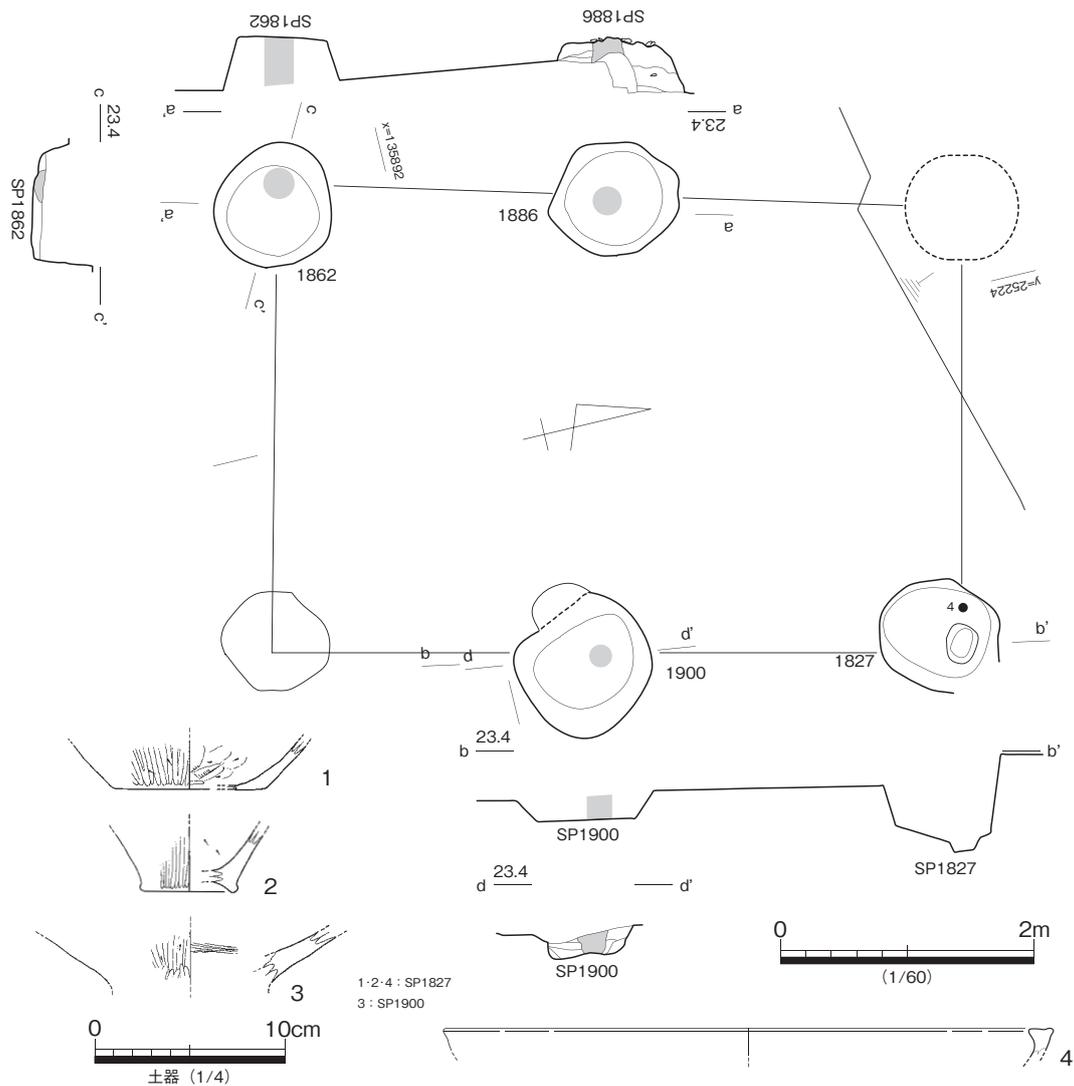


図 55 S 区 SB1109 平・断面・出土遺物

S 区南西部と O 区北部で検出した掘立柱建物である。弥生終末期の SH1044.1059 に切られ、弥生前期埋没の SD1043 を切り込む。南西隅柱と桁行の 2 基の柱穴を攪乱坑で滅失するが、梁間 1 間 (2.9m) × 桁行 2 間 (5.7m) の柱構造をもつ。桁行の柱穴は方形と円形の間中間的な様相を示し、最大径が 1m 前後を測る大形であるが、柱痕は直径約 20cm と弥生時代の掘立柱建物に通有のものである。

北側の桁行 SP1765.2008 は、一つの柱穴に対して別番号を与えているが、SP1765 は柱抜き取り穴に相当し、図 545 に示す完形の甕が 1 個体廃棄されていた。口縁・底部形態などの特徴から、弥生中期後半期でも中段階に比定される資料であり、本建物の廃絶時期を示す資料とすることができる。

### S 区 SB1109 (図 55)

S 区北東部で検出した掘立柱建物である。古代の SB1112、弥生後期後半期の SH1061 に切られる。古代の SB1112 に南西隅柱を破壊されるが、現状で梁間 1 間 (3.5m) × 桁行 2 間 (5.5m) の柱構造が確認できるが、桁行は北側の攪乱坑に延びる可能性がある。また、梁間長が 3.5m を測る点は、本遺跡及び周辺の弥生時代の掘立柱建物の中では最も長い部類に属する。

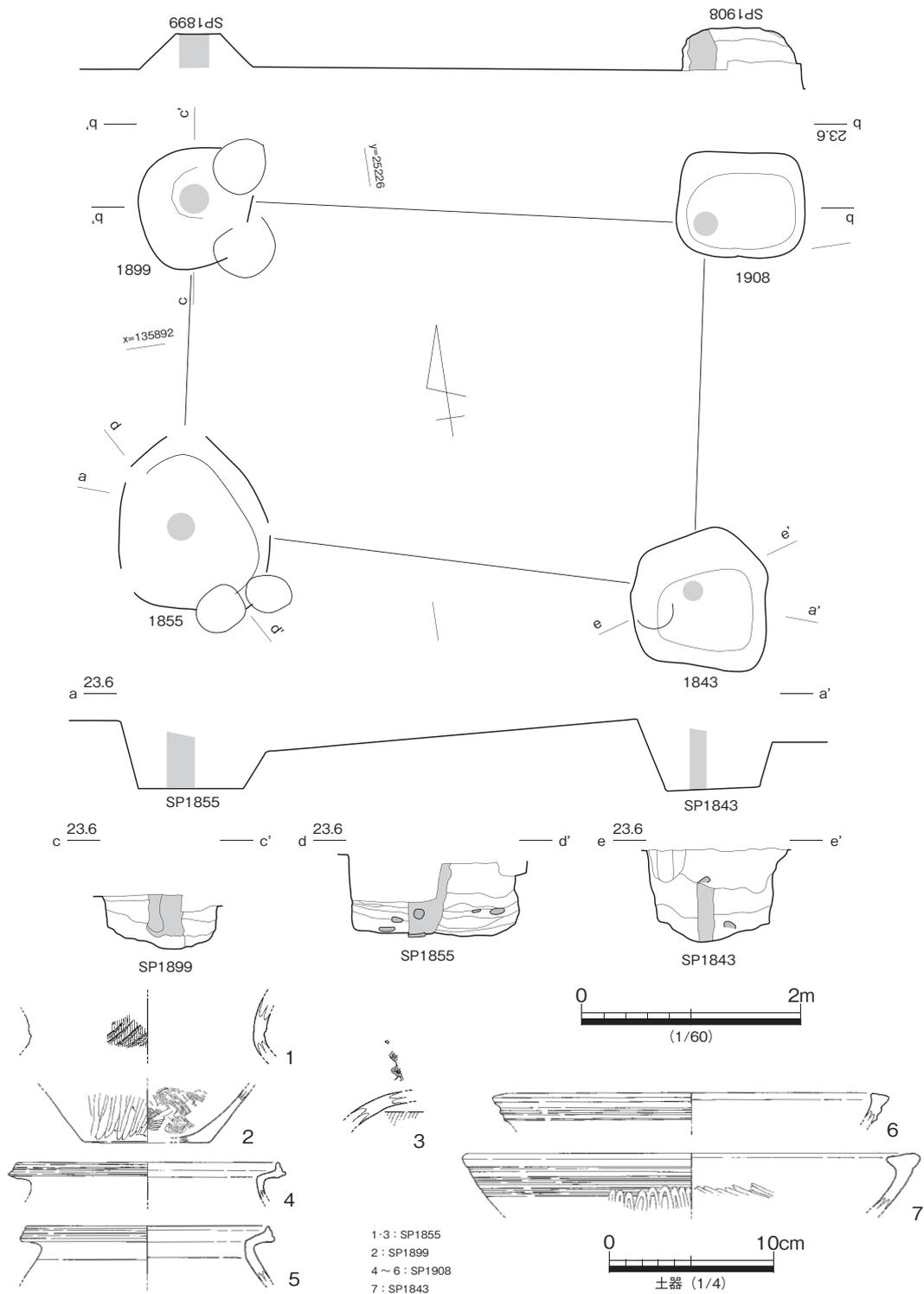


図56 S区 SB1110 平・断面・出土遺物

出土遺物(図55-1~4)の年代観から、弥生中期後半新段階に帰属する可能性が高い。

### S区 SB1110 (図56)

S区北東部で検出した掘立柱建物である。弥生後期後半期のSH1061に切られる。梁間1間(3.2m)

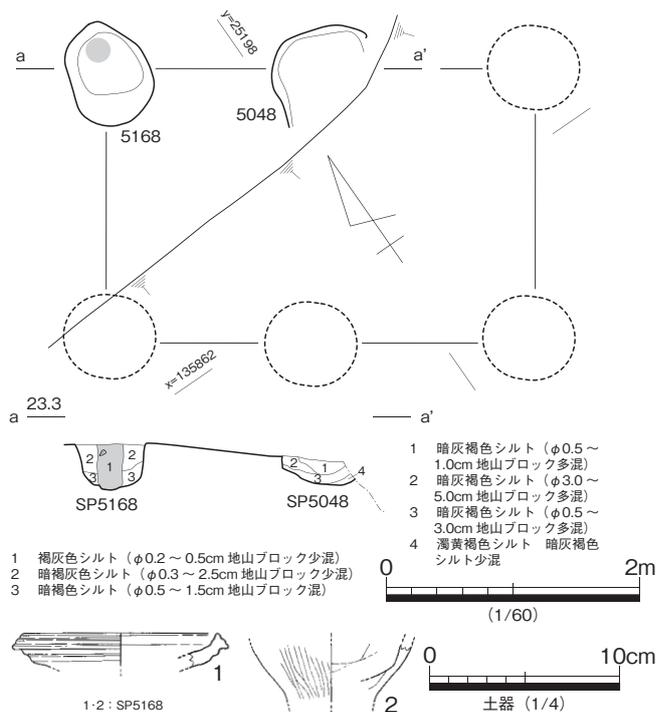


図 57 U 区 SB5503 平・断面・出土遺物

×桁行1間 (4.6m) の柱構造をもち、各柱穴は長辺が1~1.6m、短辺が1~1.2mを測る大形長方形である。黄色粘土~シルトのブロックから成る裏込土をもち、柱材は全て抜き取られている。抜き取り穴から推測して、径25~30cmの柱痕が想定できる。本地域では、弥生中期後半期に1間×1間の柱構造をもつ掘立柱建物は一少量確認できるが、梁間長は通常掘立柱建物と変わりがなく、I-2区SB2001や西碑殿遺跡SB14のような大形建物ではない。上部構造を推定できる材料は提示できないが、1間×1間の柱構造をもつ掘立柱建物でも、床面積によって機能が異なっていた可能性も考えられる。

出土遺物の中で、口縁部内面に波状文を描く広口壺 (図56-3) や、甕口縁 (図56-5) の形態から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

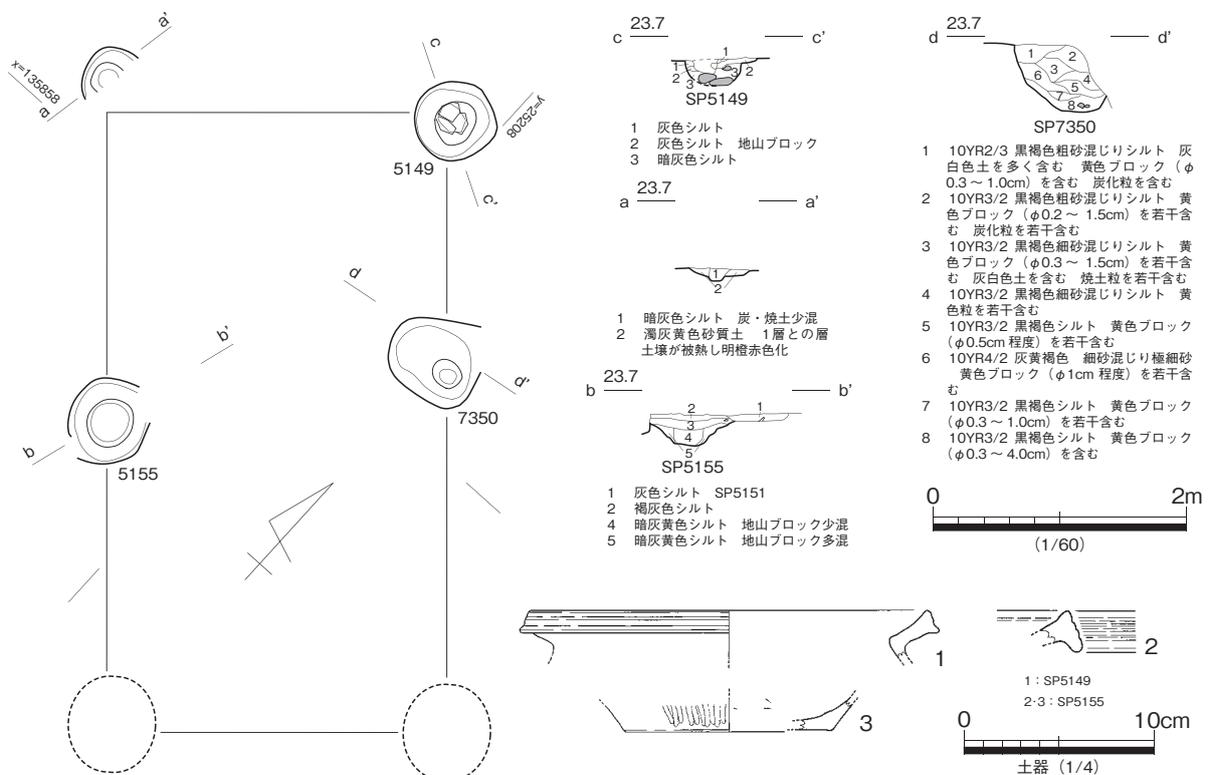


図 58 U 区 SB5505 平・断面・出土遺物

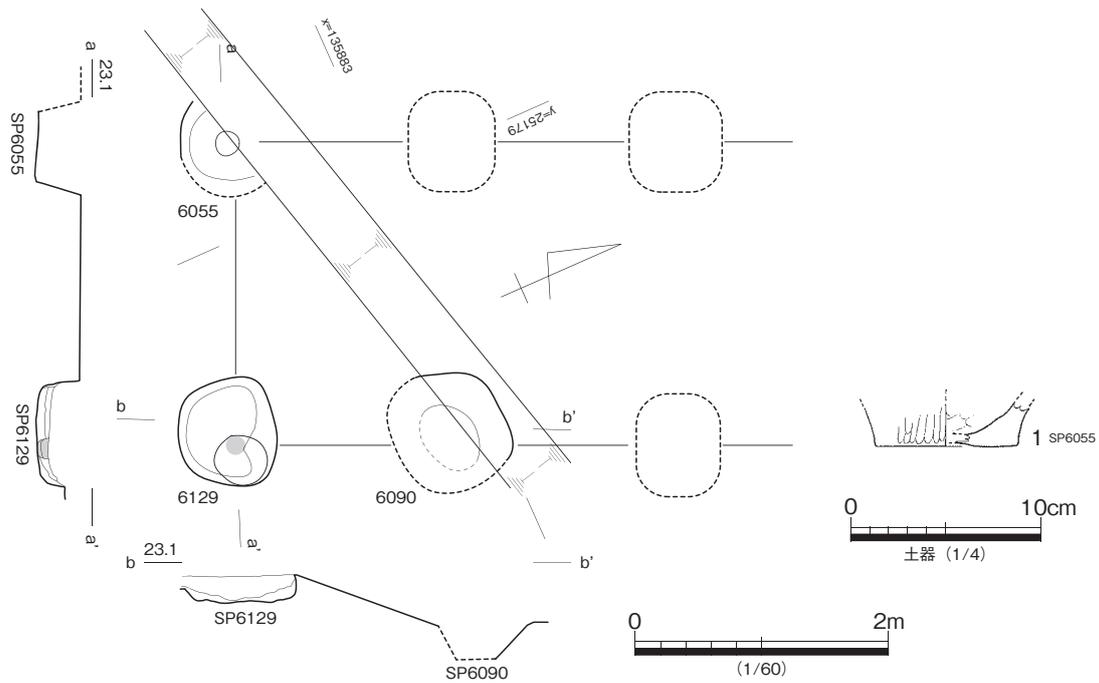


図 59 V区 SB6001 平・断面・出土遺物

#### U区 SB5503 (図 57)

U区中央部で検出した掘立柱建物である。現状で2基の柱穴しか提示できないが、竪穴住居の主柱穴と比較して明瞭な柱痕をもつ大形の柱穴であることを評価し掘立柱建物として復元した。SP5168・5048間を梁間と捉えるには短いことから桁行の柱穴列と捉え、北・西側に対応する柱穴が存在しないことから、SP5168を北西隅柱として南側に桁行の柱穴列を想定する。桁行の長さは、攪乱坑を挿んで南側のSH5011の箇所には存在しないことから、2間を超えることはないと推定できる。

図 57-1.2 は SP5168 からの出土遺物である。図 57-1 は弥生中期後半期の長頸壺であり、口縁端部外面を中心に凹線文が施される。図 57-2 は小型薄手の鉢であり、弥生中期後半期の資料とみられるが詳細な帰属時期を明らかにすることは困難である。出土遺物は少量であるが図 57-1 の長頸壺から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと考えておく。

#### U区 SB5505 (図 58)

U区南東部とN区に跨って検出した掘立柱建物。現状で梁間1間(2.6)×桁行1間(2.5m)の柱配置が見られるが、桁行は南の攪乱坑の部分に更に伸びると考えられる。柱配置にやや歪みが見られるが、柱穴規模やSP5149の丁寧な根石敷設などを掘立柱建物を構成するものと判断し、報告書作成段階で復元した。遺構の切り合い関係では、北西隅柱が弥生後期前半中段階のSH5011に切られるため、それ以前の所産と推定することができる。

図 58-1～3 は出土遺物である。壺底部(図 58-3)甕口縁(図 58-1)の形態から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておく。

#### V区 SB6001 (図 59)

V区北西部で検出した掘立柱建物である。南側梁間と東側の桁行の1基の柱穴のみを確認しているが、

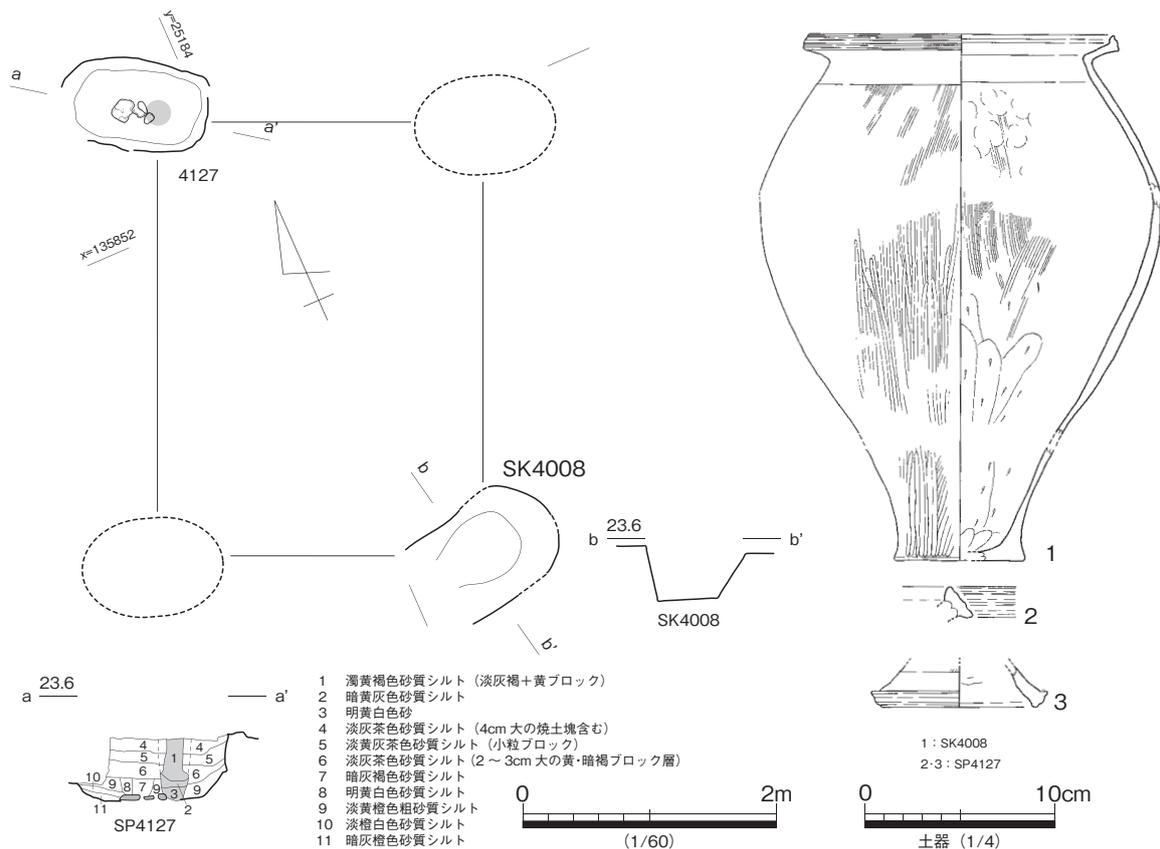


図 60 W 区 SB4001 平・断面・出土遺物

建物北側の大部分を中世の条里型地割坪界溝 SD6001 によって失う。梁間は 2.4m を測り、弥生時代の掘立柱建物では短い部類に属する。柱痕は直径 15cm を測る黒褐色粘土であり、裏込土は、基本層序 IV 層に由来する黄色粘土ブロックを主体とする。

図化可能な出土遺物は南西隅柱 SP6055 より出土した甕 (図 59-1) のみであるなど時期決定に課題を残すが、出土遺物から本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

### W 区 SB4001 (図 60)

W 区西端で検出した掘立柱建物である。南西隅柱が 28 次調査区へ伸び、北東隅柱が攪乱坑で滅失するが、梁間 1 間 (2.5) × 1 間 (3.5m) の柱構造をもつ。但し、本遺跡を中心に見られる弥生時代の 1 間 × 1 間の類例と比較した場合、規模が小形であることから、梁間や桁行方向に柱列が追加される可能性がある。埋込土は、裏込土に離水の進んだ黄色シルト～粘質土を基調としており、ブロック状を呈する以外は、基盤層である基本層序 IV 層に類似したものである。SP4127 において直径 20cm ほどの柱痕を確認しているが、裏込土と同様に離水がすすむ黄褐色の粘質土で、他の遺構と同様に柱穴底面が灰色に変色していた。柱痕規模は、他の 1 間 × 1 間の掘立柱建物よりやや小さく、先に想定したように柱列が追加される余地を残している。資料不足は否めないが、建物復元の妥当性は、28 次調査の報告に委ねたい。

出土遺物で SK4008 から出土した甕 (図 60-1) の形態から、本建物は弥生中期後半中段階に廃絶したものと推定しておきたい。



图61 M·Z·I区 平面

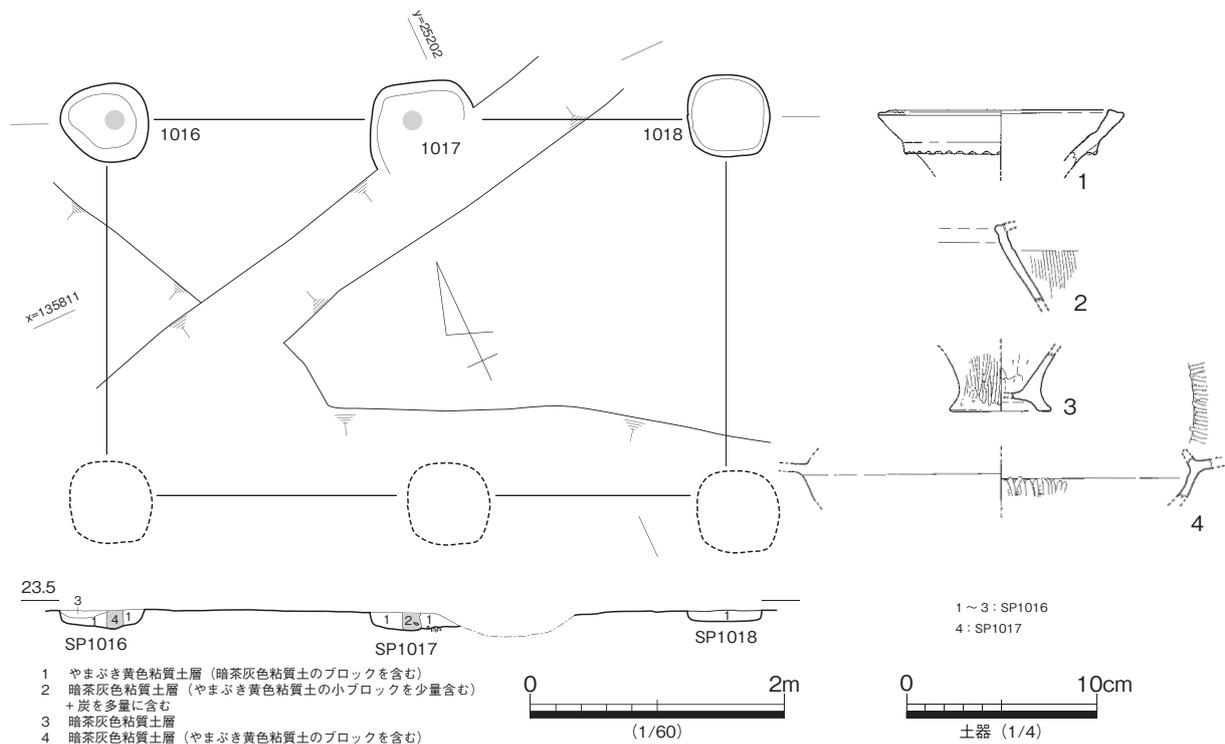


図 62 I -1 区 SB1001 平・断面・出土遺物

### I -1 区 SB1001 (図 62)

I 区南西部で検出した掘立柱建物である。南側の桁行を近代溝で滅失し、北側の桁行 2 間分が残存する。桁行の柱穴は隅丸方形を呈し、検出面が大きく削平されているため、他の弥生中期の掘立柱建物と比較して深度が浅いが、裏込土は基盤層である IV 層起源のブロック土を多く含むものであり、出土遺物は弥生中期後半期のものに限られる (図 62-1 ~ 3)。

細頸壺 (図 62-1) はやや古相を示すが、甕底部 (図 62-3) の形態から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと考えておきたい。

### I -2 区 SB2001 (図 63・64)

I 区中央部で検出した掘立柱建物である。梁行 1 間 (4.2m) × 桁行 1 間 (6.3m) の柱構造をもち、一辺が約 1.3 ~ 1.8m を測る隅丸方形を基調とした大形柱穴から構成される。北西隅・北東隅柱では確認できなかったが、南西・南東隅柱において直径約 20 ~ 25cm の柱痕が確認された。北東隅柱 SP4169、南東隅柱 SP2040 は削平を受けた砂礫層 (V 層) 上面で検出しており、柱痕部を除いた裏込土には、粘土ブロックに加えて V 層起源の砂礫が多く含まれている。裏込土を中心した出土遺物から弥生中期後半期の所産と考えられ、本建物より東方に約 40m 離れた II 区 SB1004 と建物規模及び柱穴規模が類似する。弥生中期後半期における 1 間 × 1 間の掘立柱建物は数棟見られるが、大規模なものは上記の 2 棟に限られる。また、それぞれ周辺に梁行 1 間、桁行数間の通有パターンの掘立柱建物群を伴っており、建物群構成の点でも類似点が多く見出せる。周辺の集落では、西碑殿遺跡で確認されたほぼ同時期に属する梁行 1 間 × 桁行 1 間の SB14 が挙げられる。

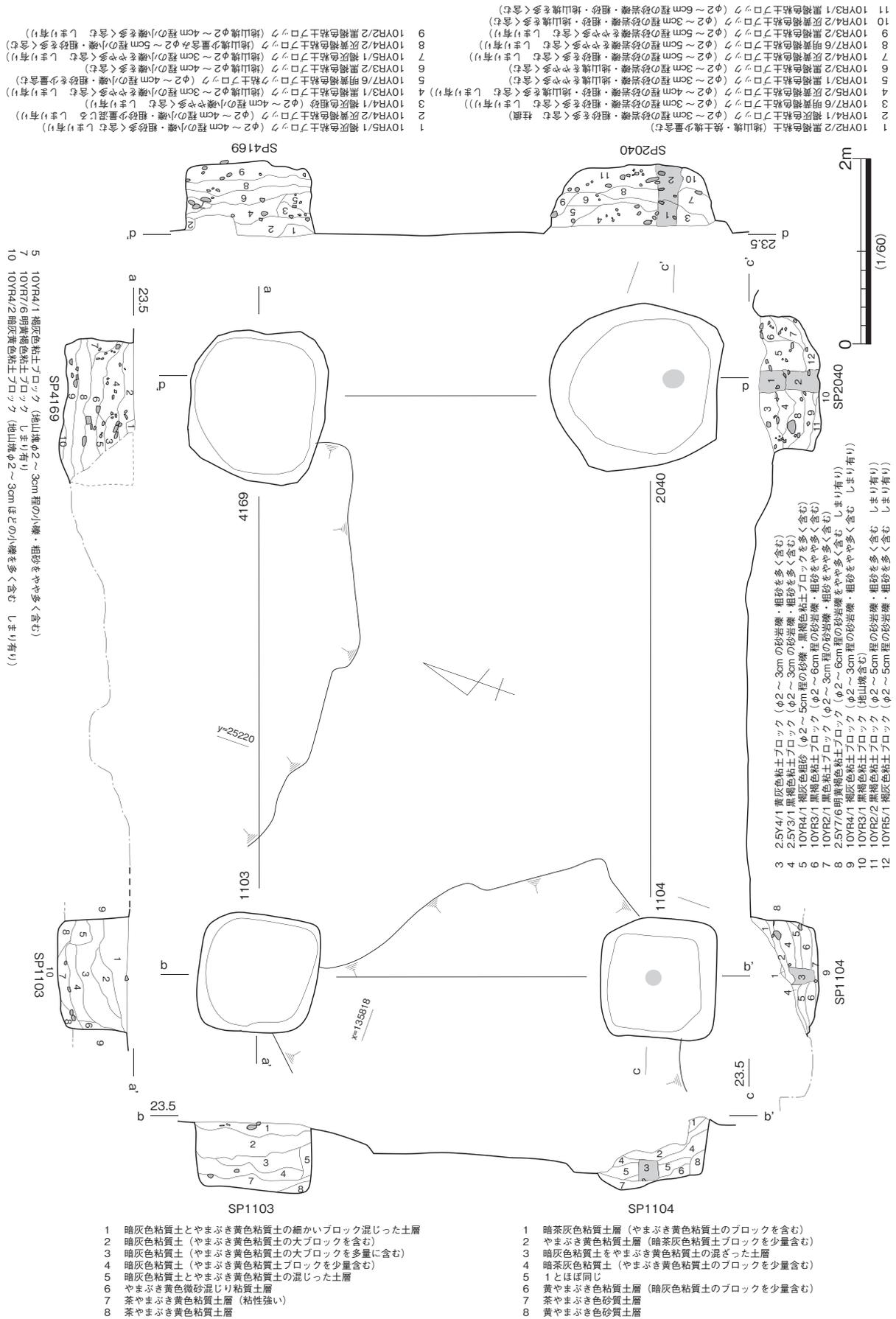


図 63 I -2 区 SB2001 平・断面

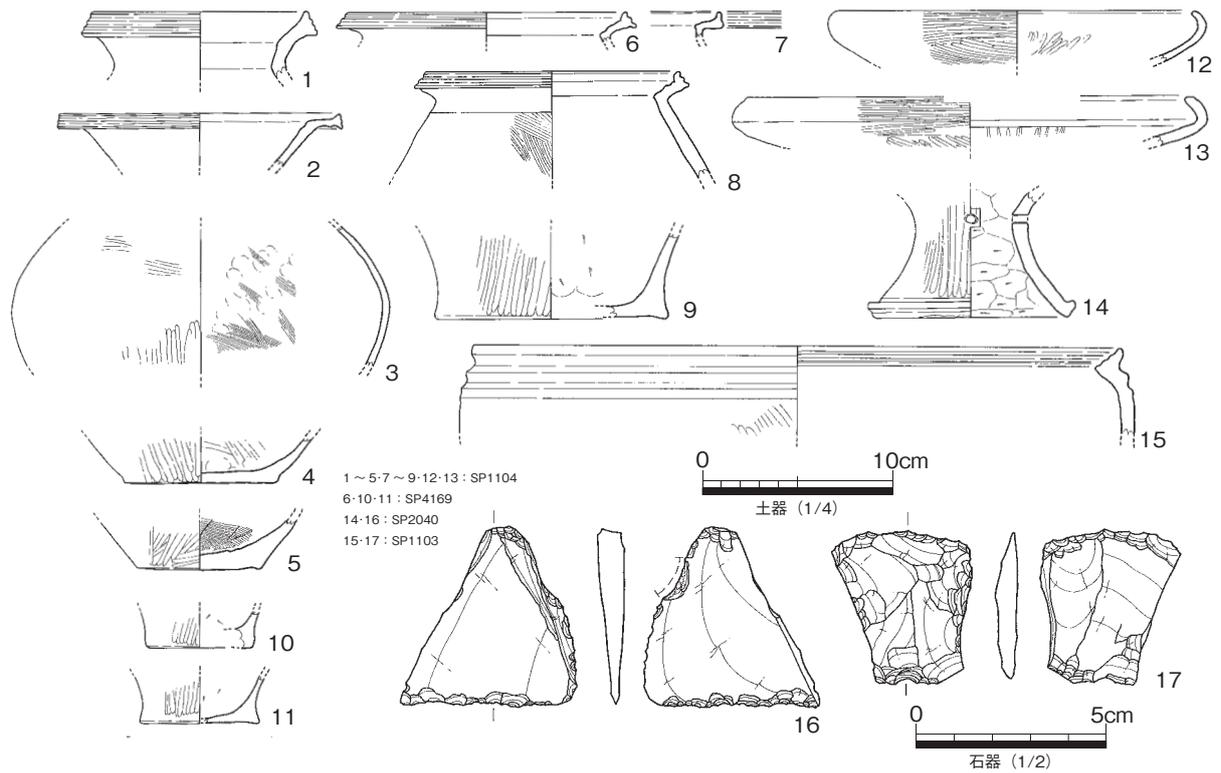


図 64 I -2 区 SB2001 出土遺物

出土遺物 ( 図 64-1 ~ 15) から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属すると推定しておきたい。

### I -2 区 SB2002 ( 図 65 ・ 66)

I 区南東部と II 区南西部に跨って検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH2001.1002 に切られ、弥生前期埋没の SD4002 を切り込む。東側の梁行のみ 2 間、西側の梁行 1 間 (ともに 3.0m)、桁行 4 間 (8.1m) の柱構造をもち、建物主軸は座標北から 86° 西へ振った東西棟であり、北側に隣接する SB2003 とよく似た建物主軸及び床面積をもつ。西側の梁行も精査したが確認できず、東側の梁行のみ 2 間となる変則的な柱構造を提示せざるを得ない。柱痕下位に流紋岩の板石による根石が確認されており、確認できた柱痕は直径約 20 ~ 25cm を測る。前述したとおり、SB2003 と建物主軸や方位、床面積などが類似するが、片側の梁行の柱間数と柱穴掘り方の規模は異なっている。出土遺物から本建物が若干先行して建てられたものと推測されるが、構築位置や床面積において SB2003 と類似する点が多い。近接しすぎているかもしれないが、両者が一定期間同時併存した可能性は高い。

出土遺物の様相から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属すると考える。

### I -2 区 SB2003 ( 図 67 ・ 68)

I 区南東部と II 区南西部に跨って検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH2001.1003 に切られ、弥生中期後半期の SB1002 を切り込む。北西隅柱と北側桁行の 1 穴を攪乱坑で失うが、梁行 1 間 (3.1m) × 桁行 4 間 (8.1m) の柱構造と 25.1㎡ の床面積を復元できる。各柱穴は、一辺が 1m を超える隅丸方形を呈し、隅柱は約 1.5m に迫るなど大形の掘り方を柱穴が掘り込まれる。抜き取りが行われないうち、下部に

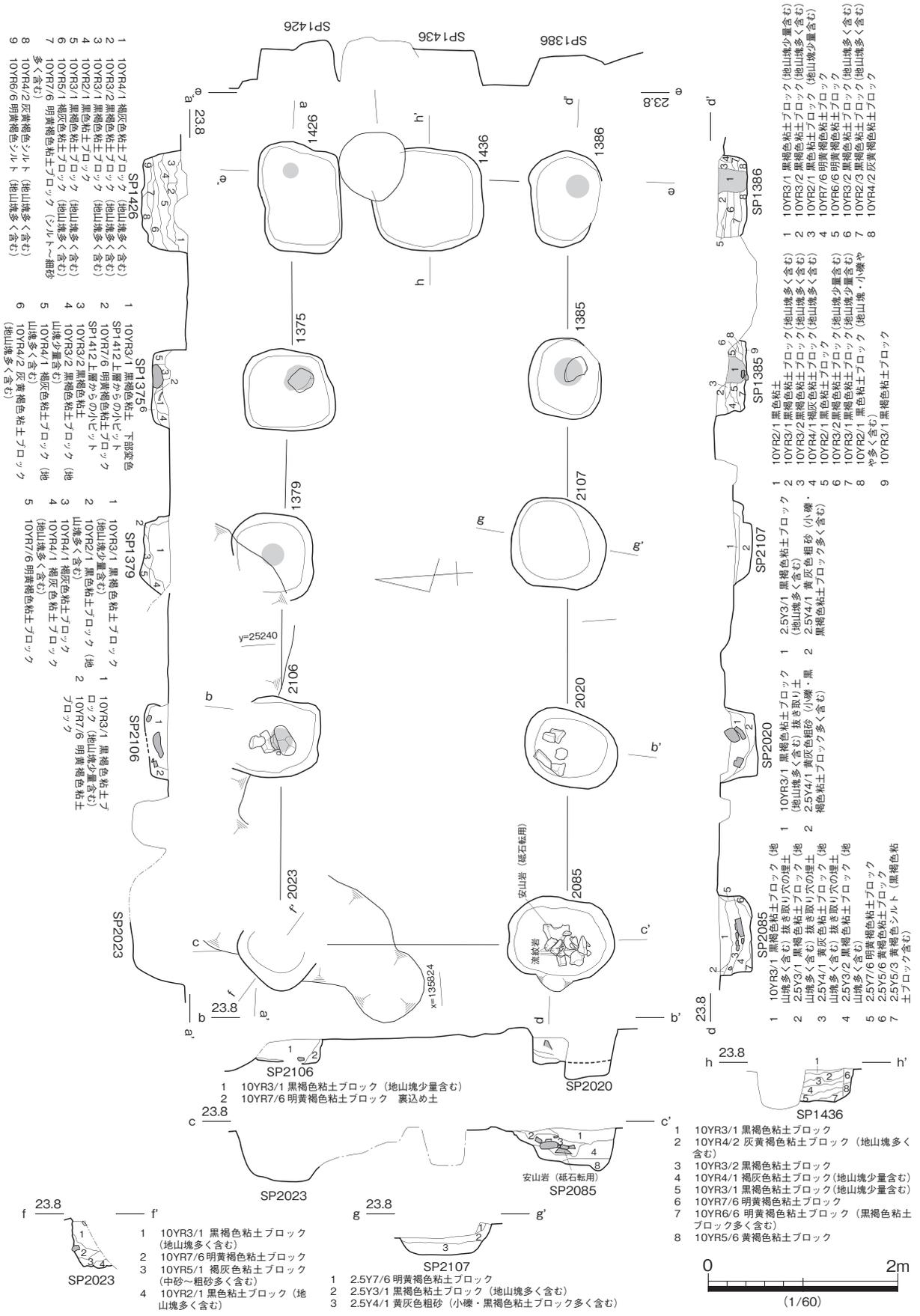


図 65 I - 2 区 SB2002 平・断面

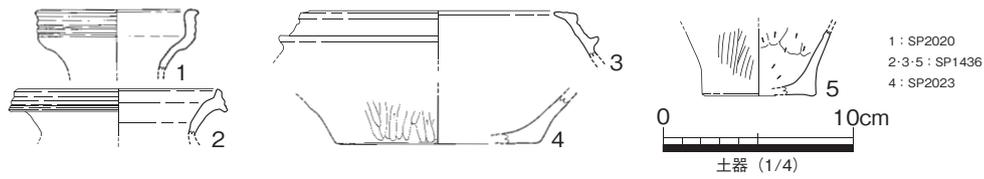


図 66 I - 2 区 SB2002 出土遺物

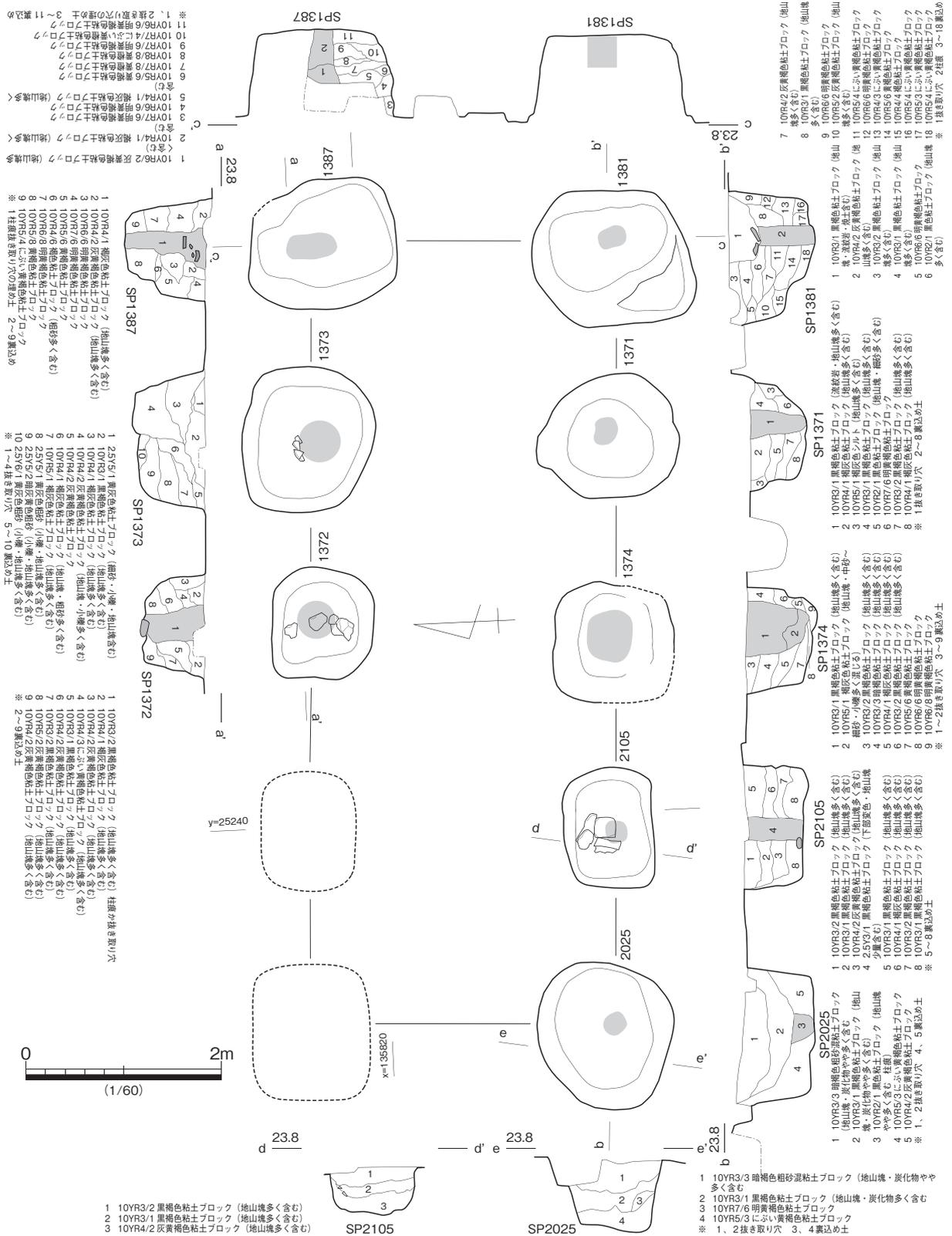


図 67 I - 2 区 SB2003 平・断面

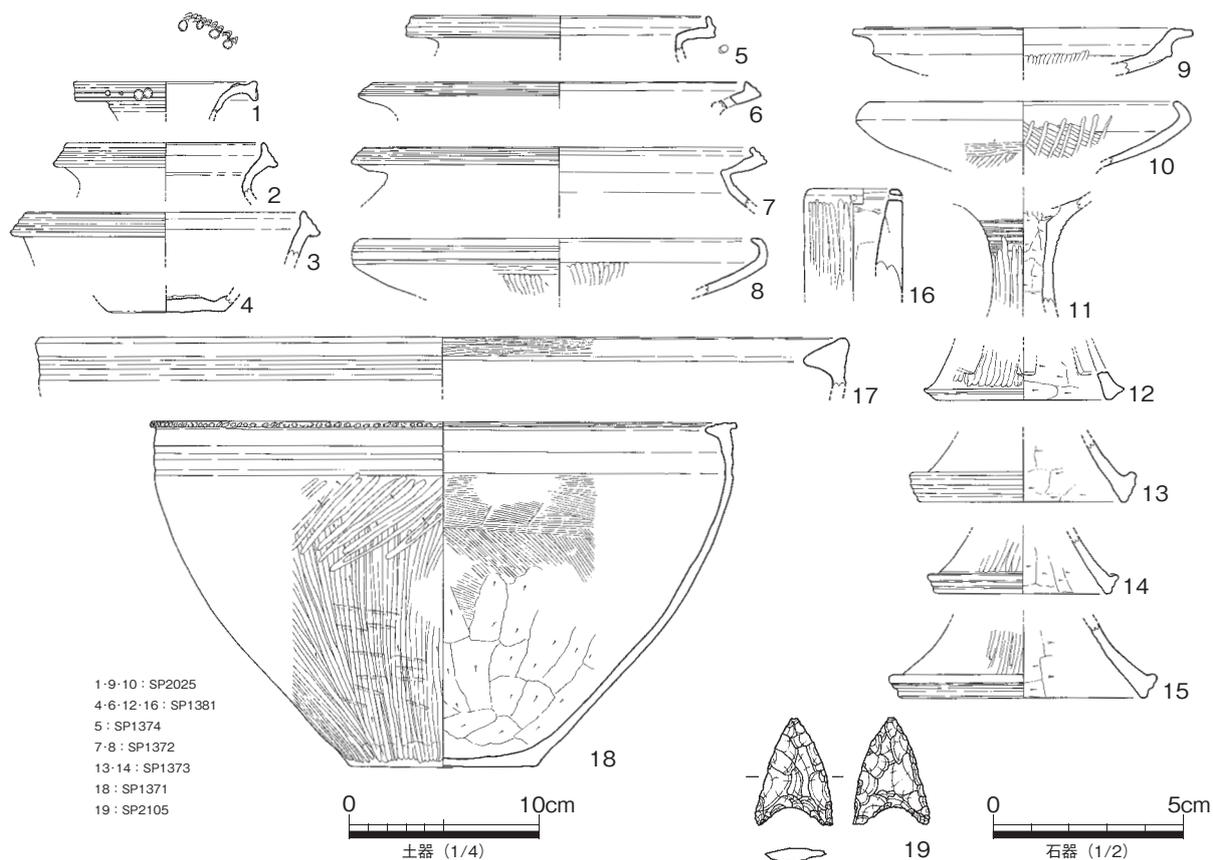


図 68 I -2 区 SB2003 出土遺物

柱痕が遺存する柱穴では、直径約 20 ～ 25cm の灰黄褐色粘土に置換した柱痕が確認された。

また、北東隅柱 SP1387 では、底面に梁行方向の楕円形の変色部が観察された。柱痕下部の底面に見られる円形の変色部とは明らかにことなり、横木状の基礎固めが行われた可能性が極めて高い。また、本建物の南側には、SB2002 が主軸方向を揃えて並列して見られる。軒をどの程度想定するかによって同時併存の可否が分かれるが、両者の出土遺物はほぼ同時期を示しており、建物主軸や柱構造の類似性や位置関係からみて、一定期間同時併存した可能性は高い。

出土遺物から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属すると考えたい。

#### I -4 区 SB4002 (図 69)

I 区北東部で検出した掘立柱建物である。古墳中期の SH4001、弥生終末期の SH4007、弥生後期前半期の SH4003、弥生中期後半期の SB4003 に切られ、弥生中期後半期でも古相の SK4010 を切り込む。SB4003 とは位置・方位を同じくしており、本建物が規模を大きくして建て替えられたものと考えられる。梁行 1 間 (2.7m) × 桁行 3 間 (6.3m) の柱構造をもち、想定床面積は約 17㎡ である。後出する SB4003 と比較して、柱穴規模もやや小振りであるが、柱痕の直径は約 20cm とあまり差が見られない。裏込土は構築の基盤層となる IV 層起源のブロック土で満たされている。

出土遺物 (図 69-1 ～ 4) は弥生中期後半期のもので占められるが、詳細な時期決定は難しい。ここでは、弥生中期後半新段階の SB4003 に切られることから、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと推



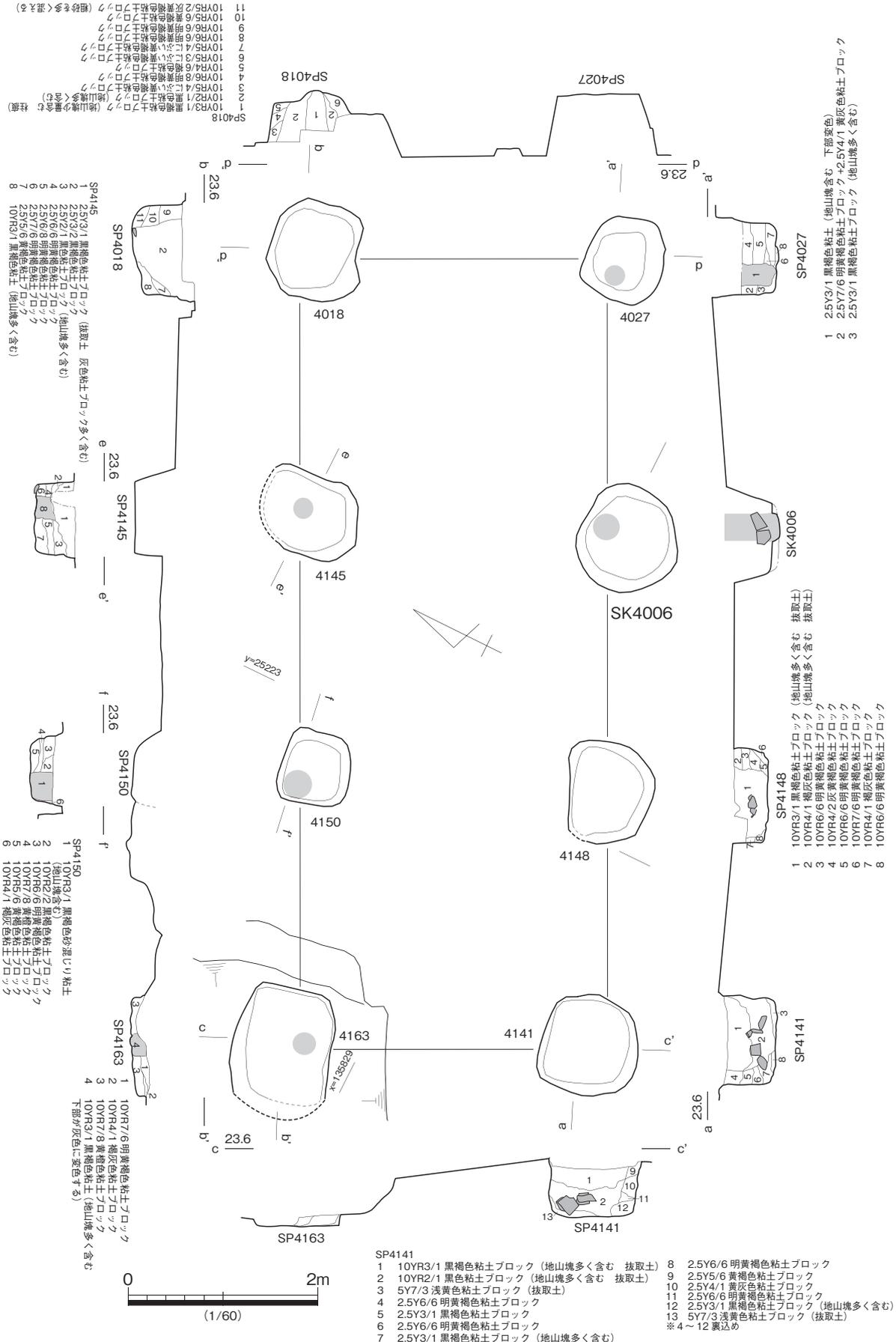


図 70 I - 4 区 SB4003 平・断面

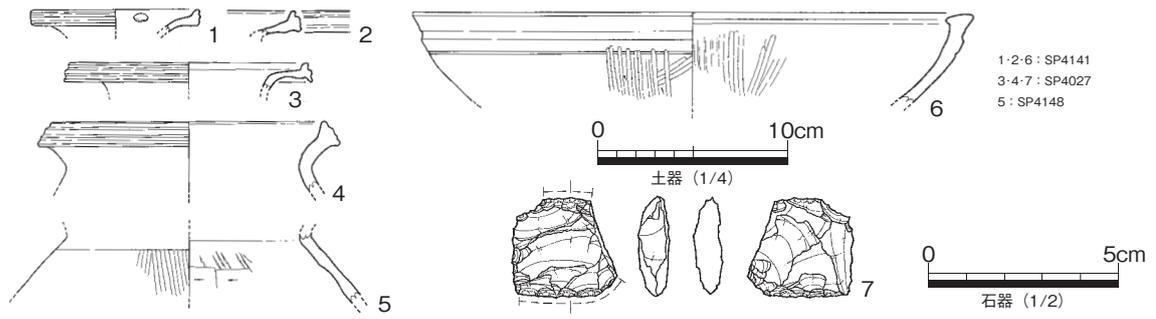


図 71 I -4 区 SB4003 出土遺物

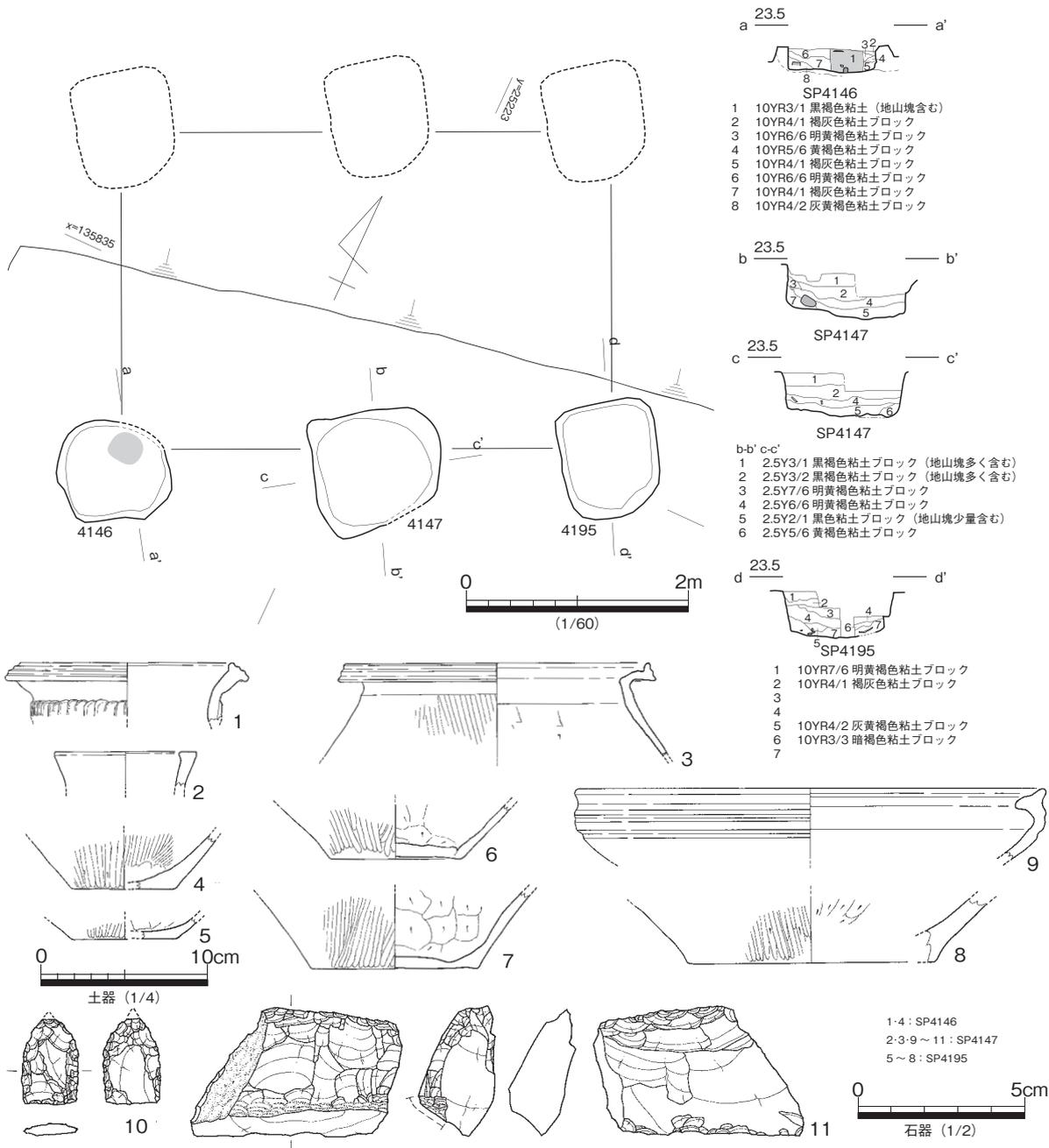


図 72 I -4 区 SB4004 平・断面・出土遺物

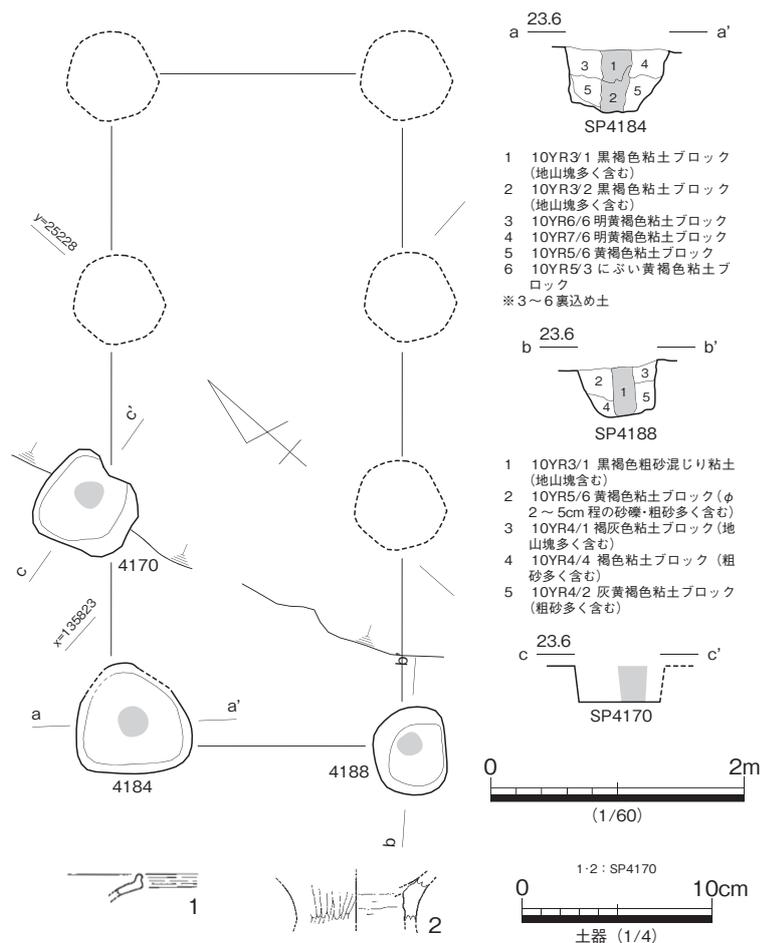


図 73 I -4 区 SB4005 平・断面・出土遺物

#### I -4 区 SB4005 (図 73)

I 区東部で検出した掘立柱建物である。弥生前期埋没の SD4002 を切り込む。建物東側が攪乱坑で大きく滅失し、西側梁行 1 間 (2.2m) と北側桁行柱穴の 1 基を残すのみとなっている。北側桁行の柱通りが不良で弥生時代の掘立柱建物の中では梁行が短いなど、建物復元に否定的な材料が多いが、柱痕規模や裏込土の特徴などを優先して、掘立柱建物として復元を行った。

出土遺物 (図 73-1.2) や埋没土の特徴などから、弥生中期後半中段階の建物と推定しておく。

#### II -1 区 SB1001 (図 75・76)

II 区南側中央部で検出した掘立柱建物である。古墳中期の SH1004、弥生終末期の SH1005、弥生後期後半期の SH1006、弥生中期末葉の SH1010 に切られる。これらの遺構を除去した段階で東西方向の柱穴列を確認しており、現状で梁行 1 間 (2.9m) × 桁行 3 間 (7.3m) の柱構造をもち、床面積は約 21.2m<sup>2</sup> を測る。主に東半分の柱穴において直径約 20～25cm の柱痕を確認しており、柱通りは良好である。

裏込土には、古土壌に由来した黒褐色系シルトはあまり含まれておらず、基本層序 IV 層に由来する黄褐色シルト・粘土から成るブロックを主体としており、検出作業は難航を極めた。また、柱穴深度が浅いのは、上部の弥生後期以降の住居構築によって削平を受けたためと考えられよう。図 76 は本建物に伴う出土遺物である。高杯 (図 76-6) は脚部から杯部にかけての破片であり、円盤充填と杯部の擬口縁

な存在と言える。

短頸広口壺 (図 71-4) や甕 (図 71-5) の形態から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

#### I -4 区 SB4004 (図 72)

I 区北東部で検出した掘立柱建物である。古墳中期の SH4001 に切られ、弥生後期前半期の SH4002 に切られ、弥生中期後半期の SX4003 を切り込む。北側桁行が攪乱坑で滅失するが、現状で南側桁行の 2 間を残すのみとなっている。柱穴規模は、一辺が約 1m の隅丸方形を呈し、南西隅柱のみ柱痕の確認が可能であった。

出土遺物 (図 72-1～9) の年代観から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと推定しておきたい。



图 74 部分平面图

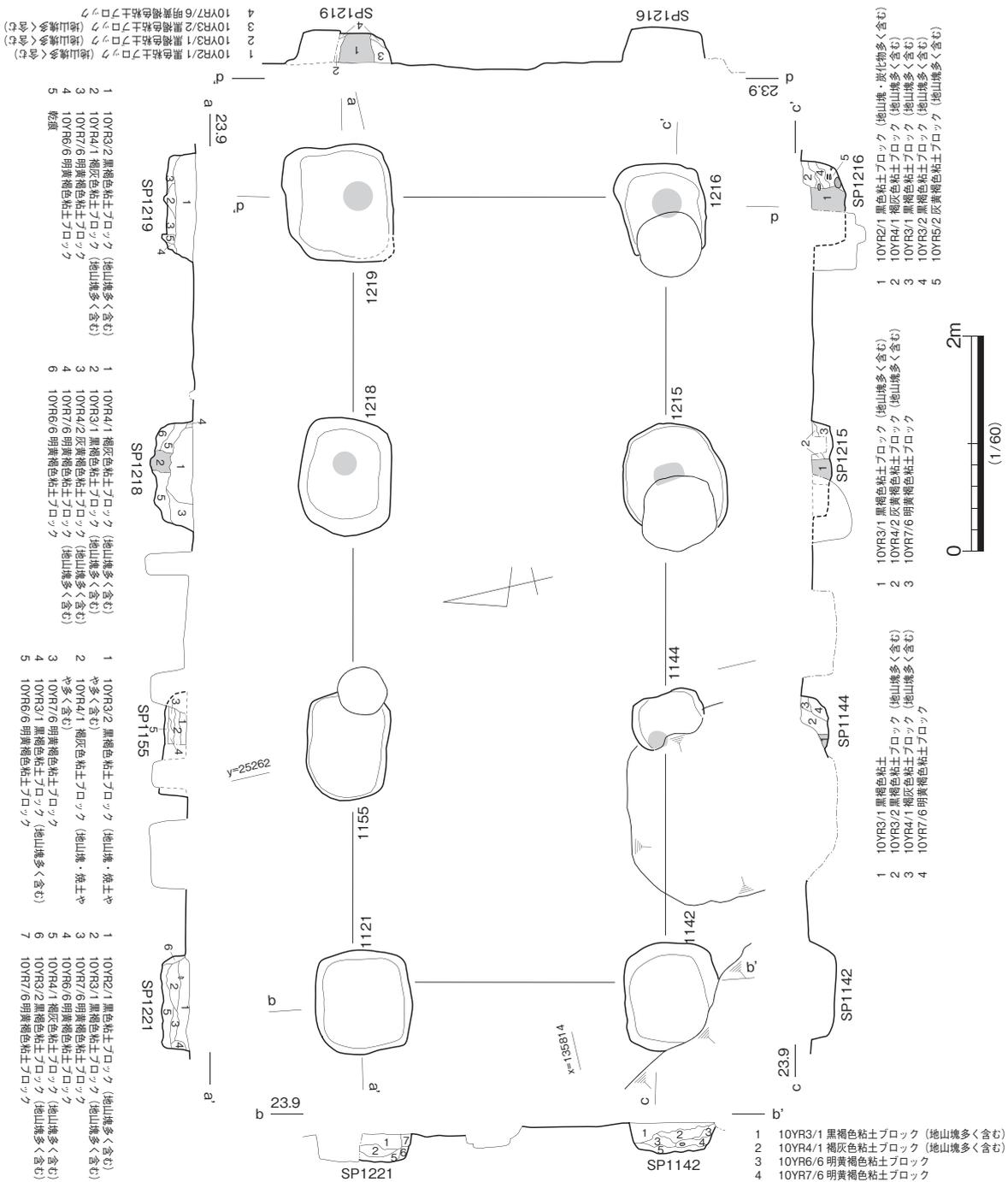


図 75 II-1 区 SB1001 平・断面

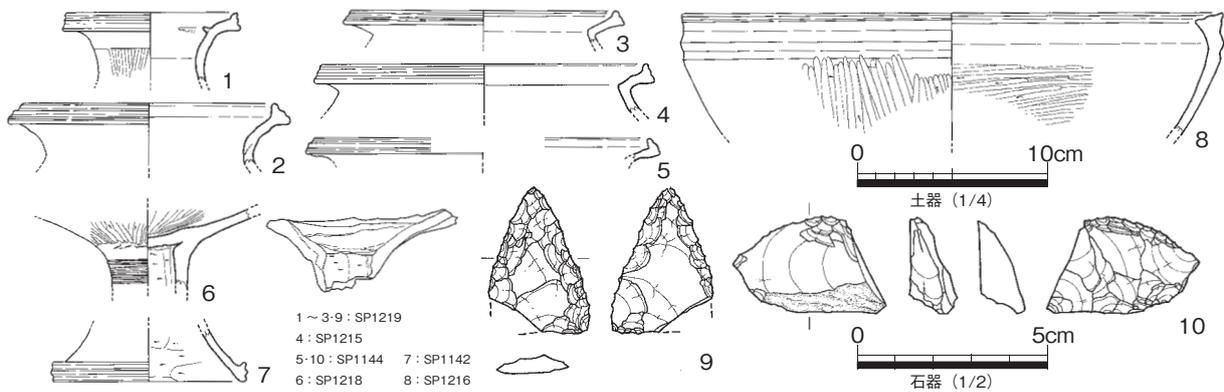


図 76 II-1 区 SB1001 出土遺物

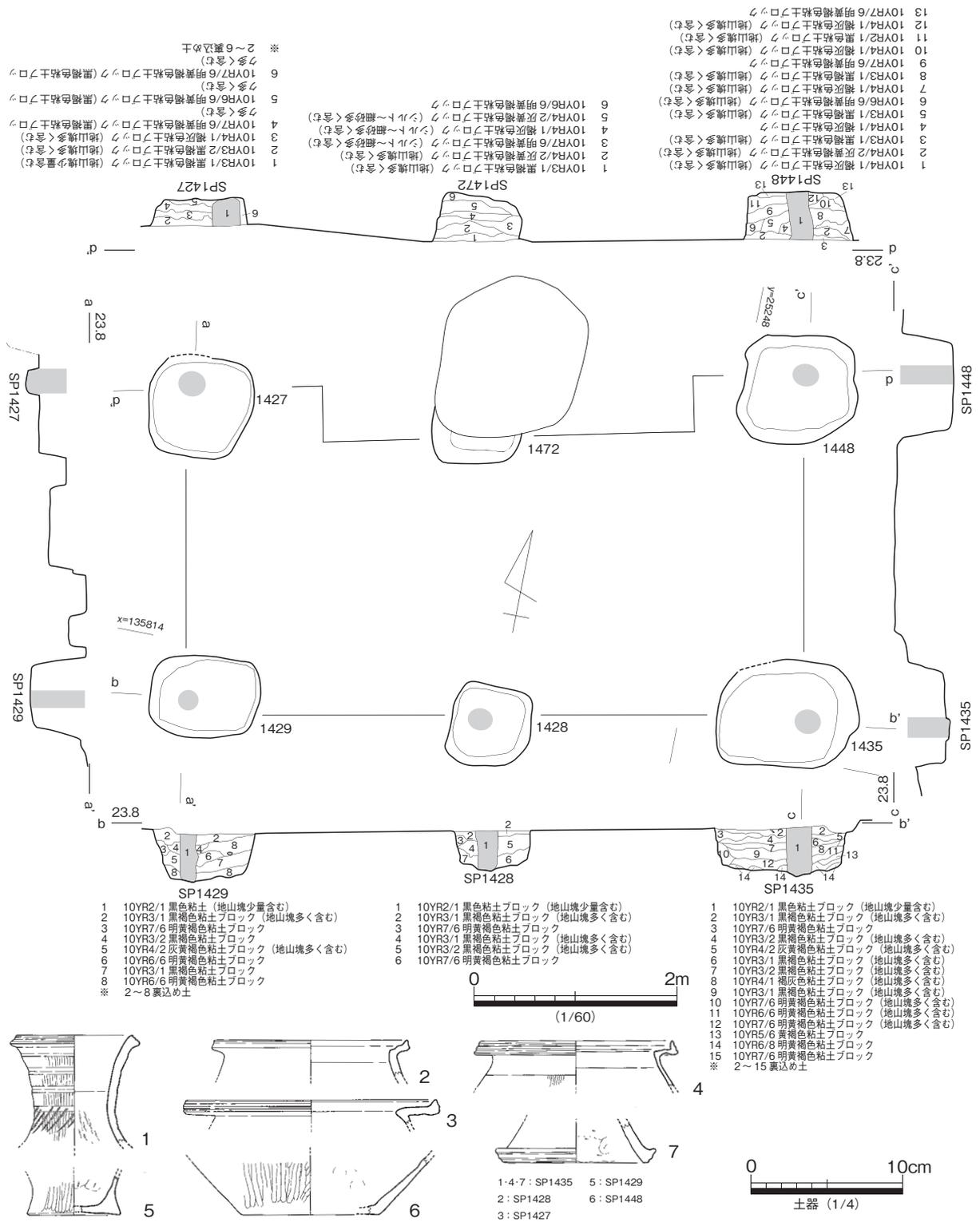


図 77 II -1 区 SB1002 平・断面・出土遺物

部も他の内外面と同様に焼成をうけており、土器焼成に伴う資料と考えられる。

短頸広口壺(図76-2)の口縁形態から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと考えておきたい。

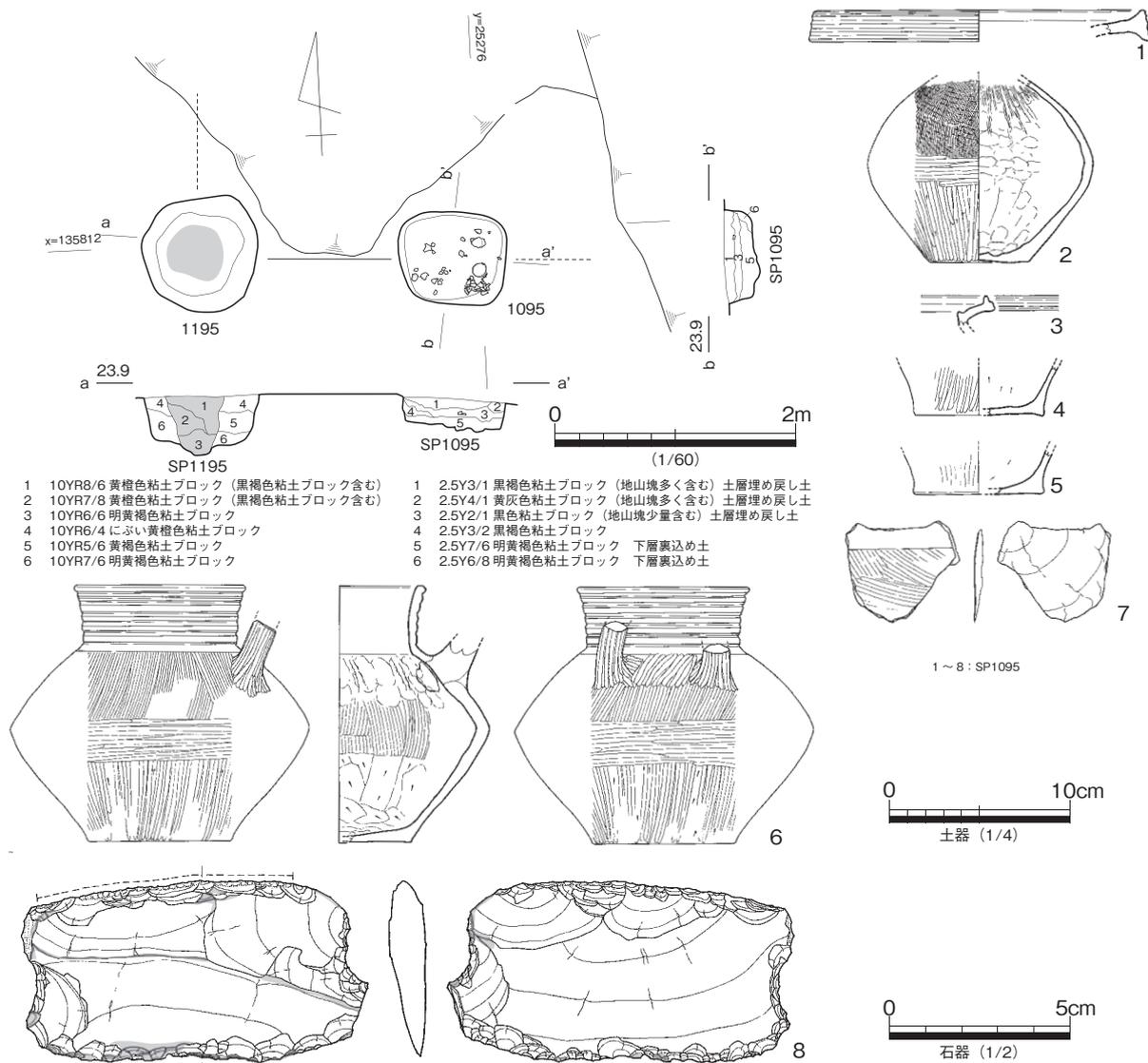


図 78 II -1 区 SB1003 平・断面・出土遺物

## II -1 区 SB1002 (図 77)

II 区西部で検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH2001.1002.1014 に切られ、弥生中期後半期の SB2003 を切られる。梁行 1 間 (3.3m) × 桁行 2 間 (6.1m) の柱構造をもつ。各隅柱は長軸が 1m を超える大形の隅丸長方形の柱穴から構成される。裏込土は、黄褐色粘土ブロックに古土壌とみられる黒褐色粘土ブロックを含む締まりのあるもので、南側桁行の 3 穴のみ柱痕が遺存する。柱痕の直径は約 20 ~ 25 cm である。

各柱穴からの出土遺物 (図 77-1 ~ 7) の特徴からみて、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと考えておく。

## II -1 区 SB1003 (図 78)

II -1 区南東部で検出した掘立柱建物である。南西隅柱と南側桁行の一部を検出するに止まり、大半は攪乱坑で滅失するため、柱構造や床面積を想定する材料に乏しい。両柱穴ともに大きく柱の抜き取り

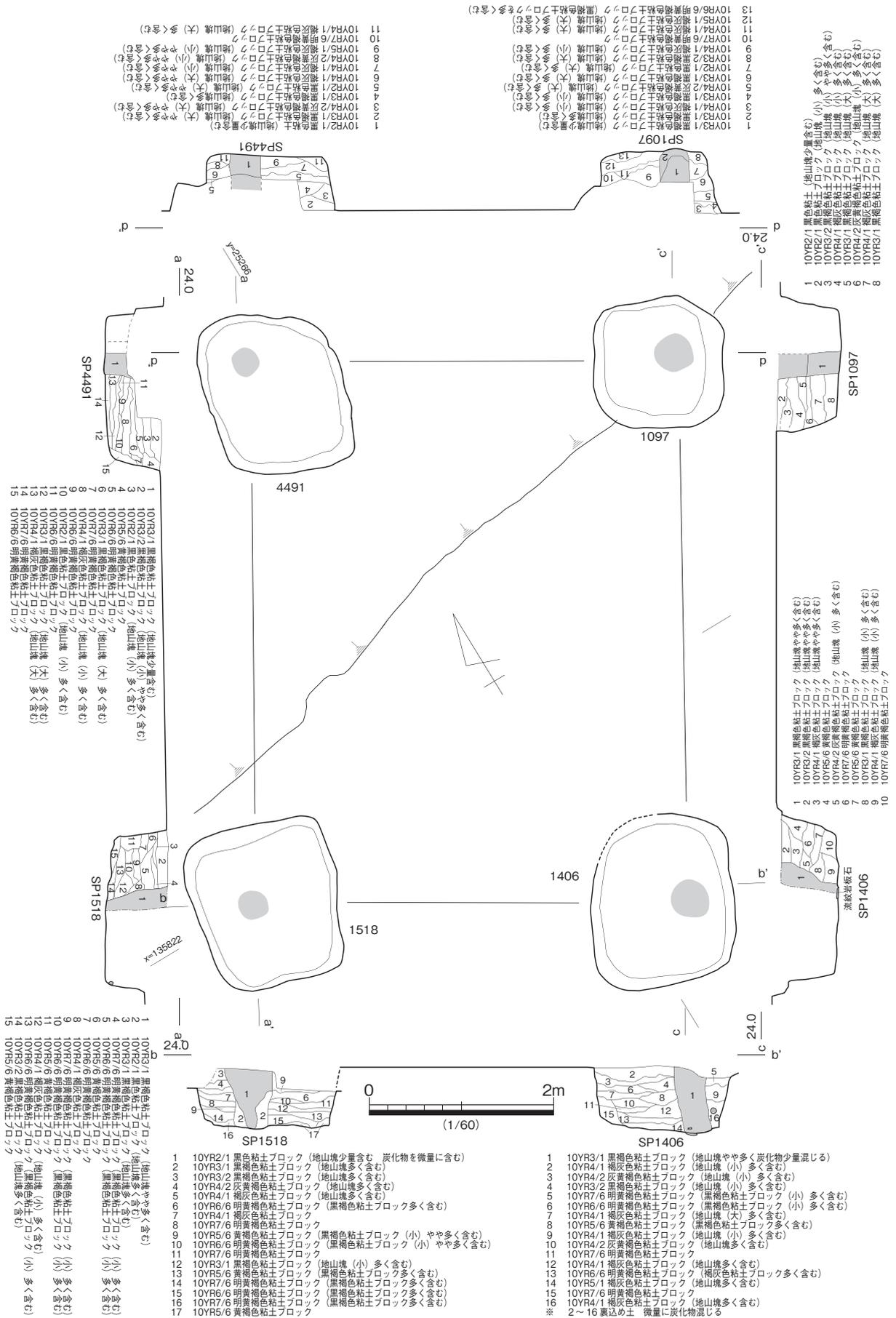


図 79 II -1 区 SB1004 平・断面

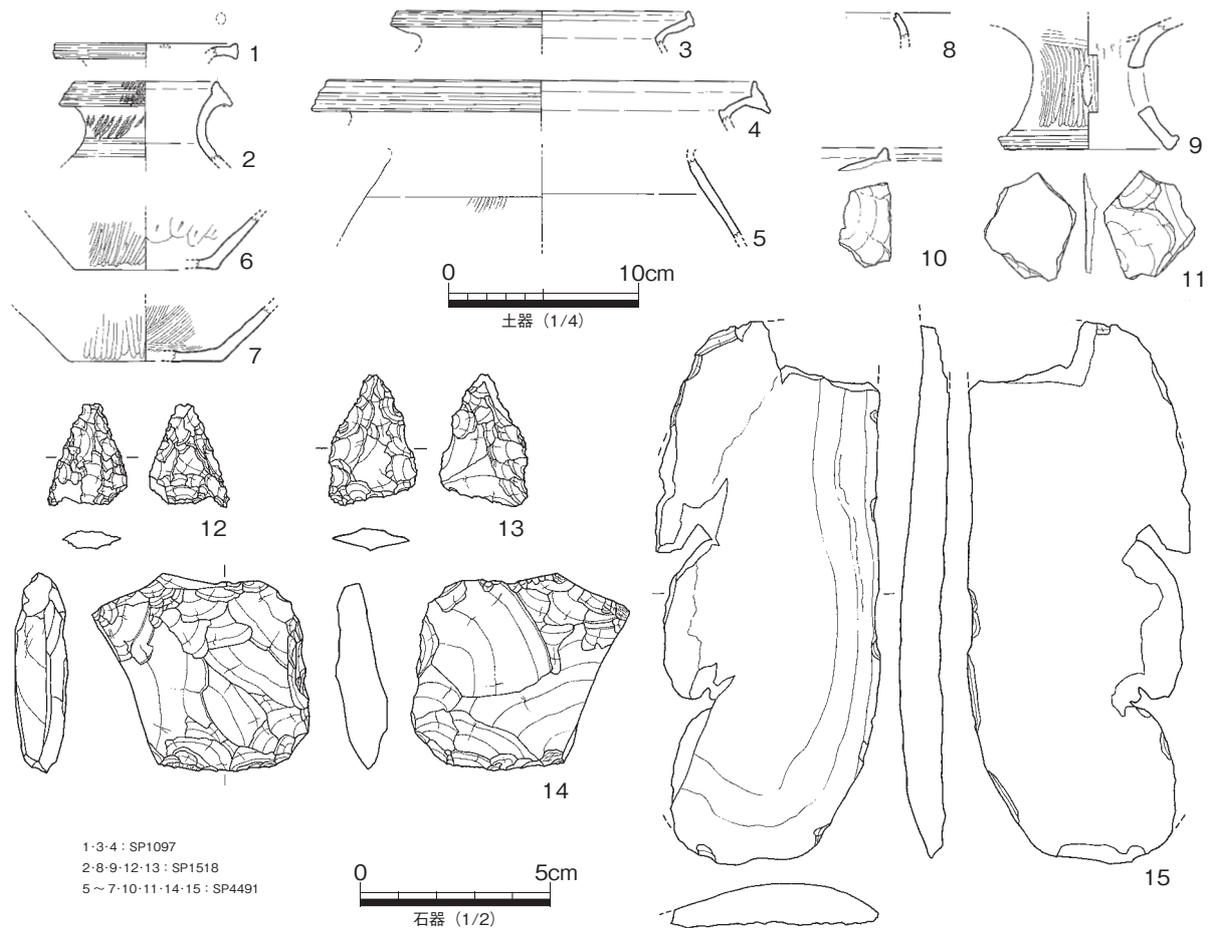


図80 II-1区 SB1004 出土遺物

が行われており、柱痕は遺存しない。SP1095では、柱抜き取り後に多量の土器が投棄されていた。

図78-7は、甕頸部片であるが、外面は焼成破裂痕で満たされている。水差(図78-6)は、本地域の土器組成上少数派となるもので、口縁外面に複数の凹線文帯をもつ。また、II-4区SB4011の裏込土から出土した破片が接合しており、本遺構との同時併存を示す資料となる。出土資料の特徴から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと推定しておきたい。

### II-1区 SB1004 (図79・80)

II区東部で検出した掘立柱建物である。弥生終末期のSH1009、弥生中期後半期のSB1008に切られる。梁行1間(4.7m)×桁行1間(5.9m)の柱構造をもち、想定される床面積は27.7㎡を測る。柱穴掘り方が2mに迫る大形のものから構成され、確認された柱痕も30～35cmと他の弥生時代の掘立柱建物より大きい。南西隅柱SP1518では上位からの柱抜き取りが確認されたが、下部に柱痕が遺存しており、柱穴底面に残された柱のあたりも大形であることから、断面から推定した柱痕の規模は柱材をほぼ反映しているとみてよいだろう。

裏込土は基盤層IV層に由来する黄褐色の粘土ブロックが主体であり、時期的に先行する遺構埋土あるいは古土壌と見られる微細な黒褐色粘土ブロックを交えた細かな単位で埋め戻されており、柱穴・柱痕規模に応じた入念な裏込土が敷設されている。柱構造及び柱穴・柱痕規模、帰属時期からみて、I区

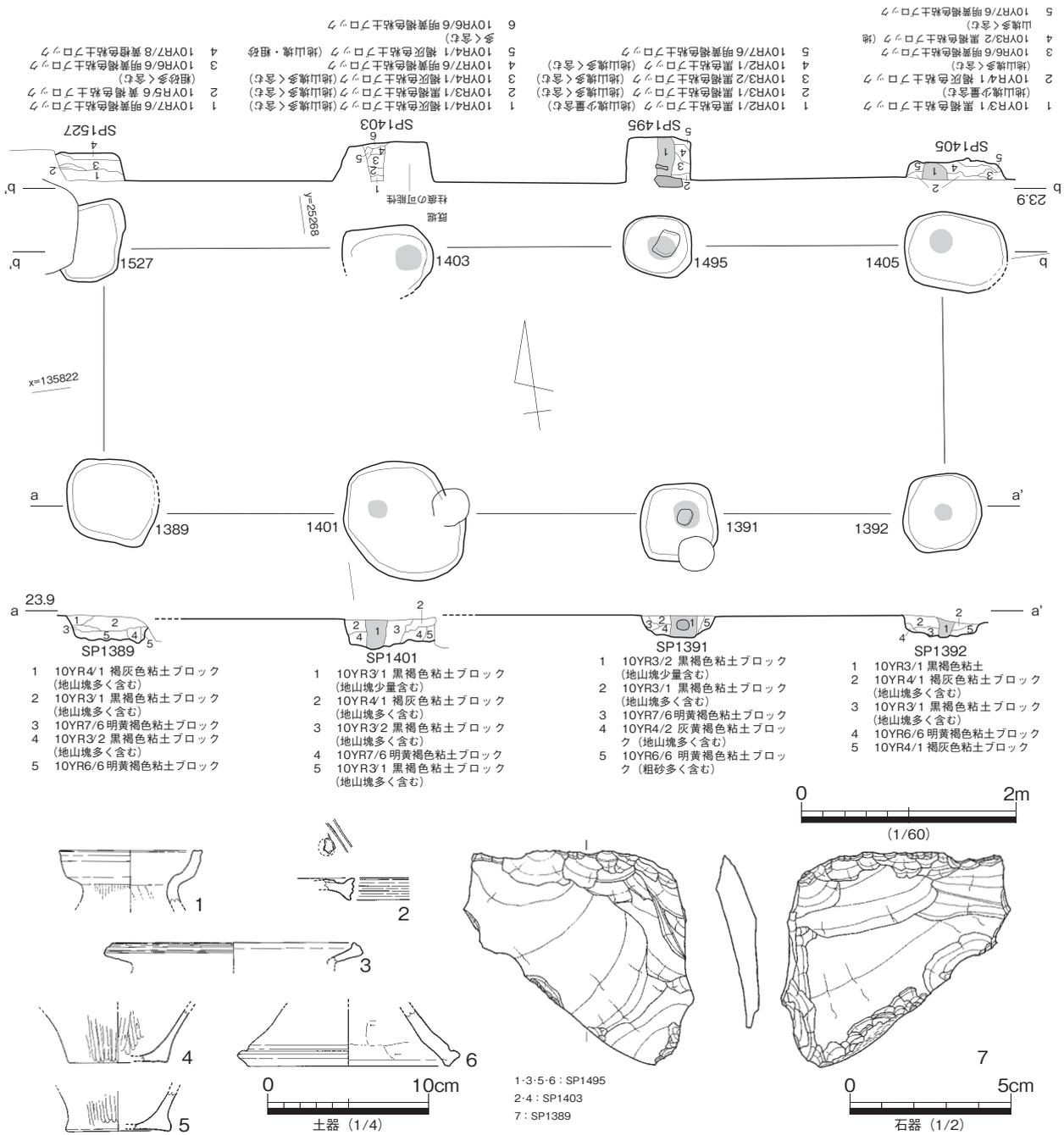


図 81 II -1 区 SB1005 平・断面・出土遺物

SB2001 との類似点が多く、周辺に掘立柱建物群を伴うことも共通している。柱構造などから、かなり高層な上部構造が想定できるし、掘立柱建物群のなかでも他の建物とは異なった機能をもっていたことが想定できる。

図 80-10 は焼成破裂土器片であり、外面は全て破裂面となる。図 80-11 は壺又は甕胴部片であり、外面は全て破裂痕が満たされている。図 80-15 は、結晶片岩製の大型剥片である。搬入石材であるが具体的な用途を知ることはできない。出土遺物の特徴から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

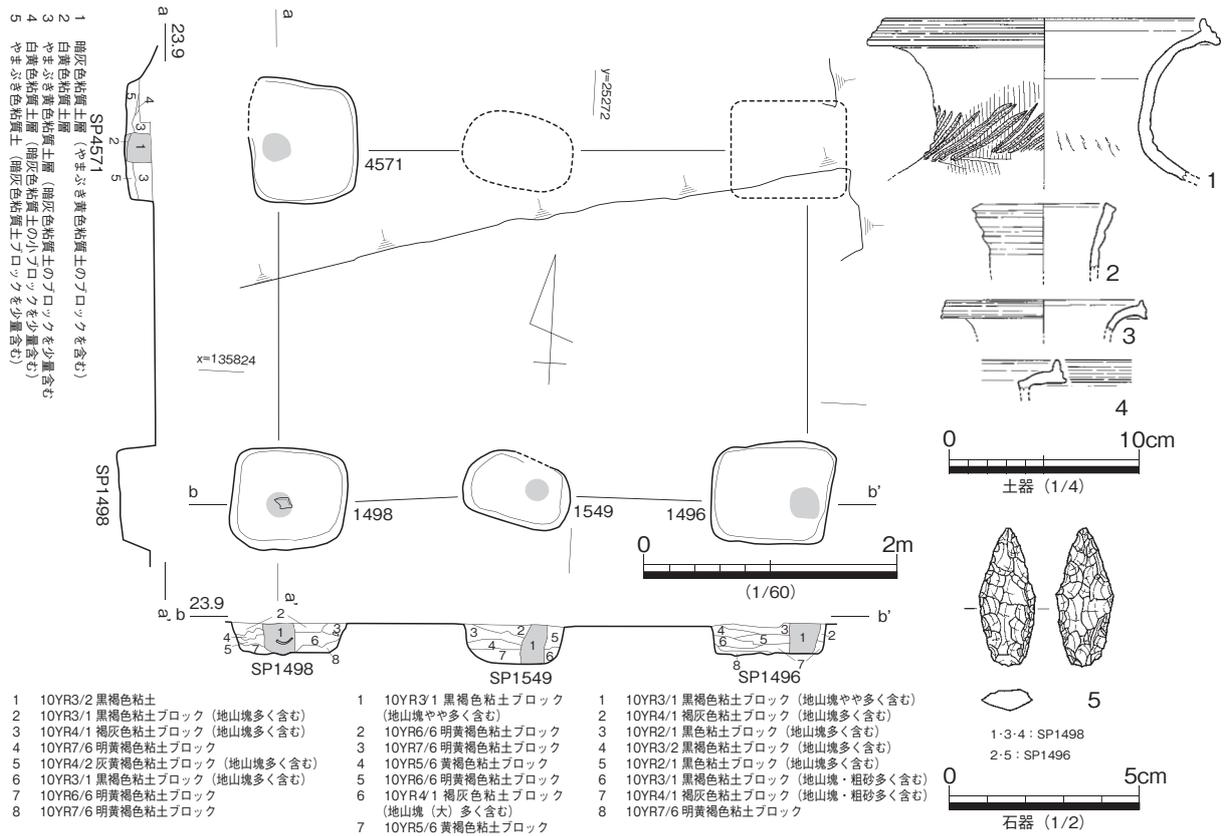


図 82 II -1 区 SB1006 平・断面・出土遺物

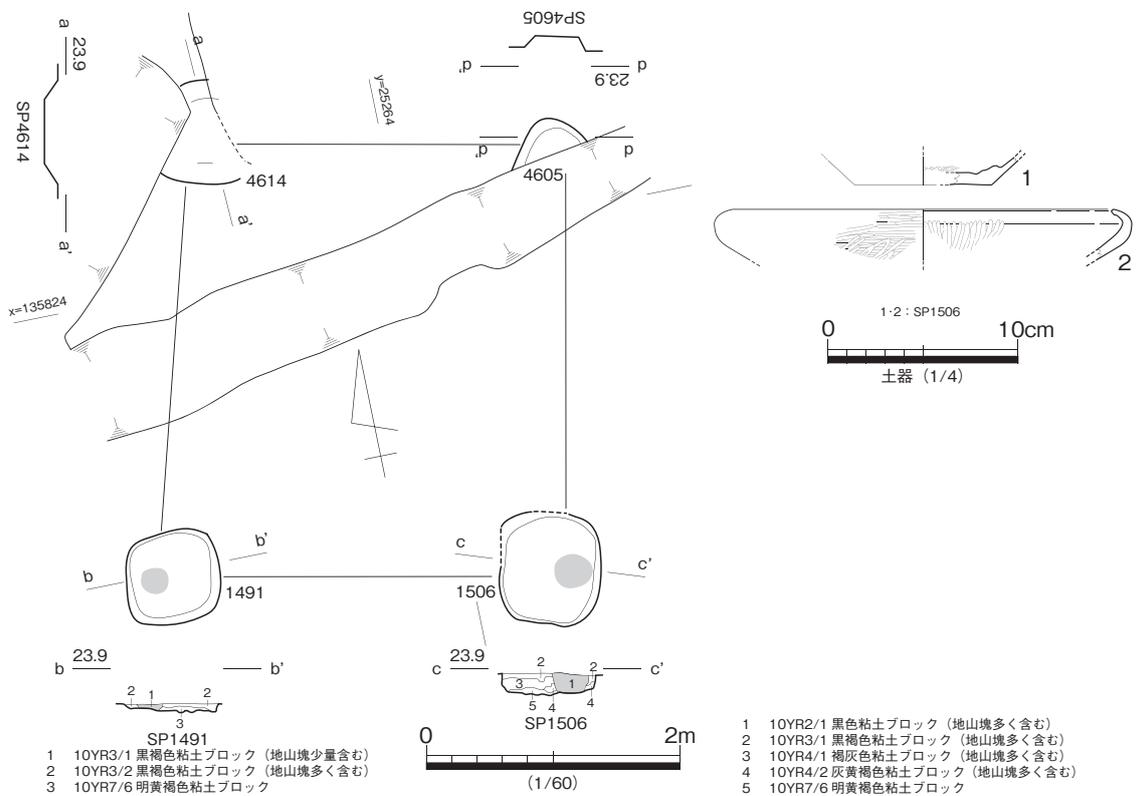


図 83 II -1 区 SB1008 平・断面・出土遺物

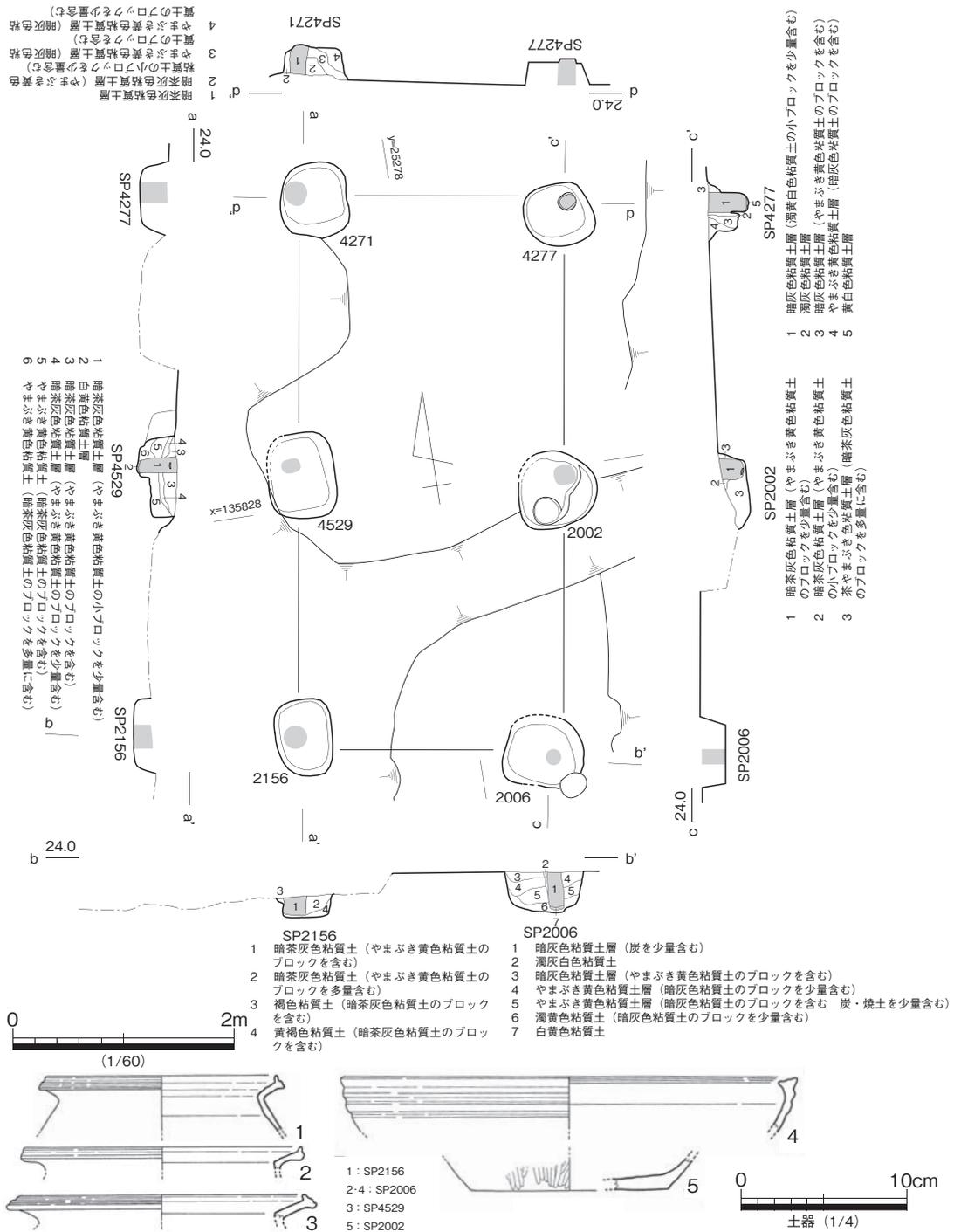


図 84 II -2 区 SB2004 平・断面・出土遺物

### II -1 区 SB1005 (図 81)

II 区東部で検出した掘立柱建物である。弥生中期後半期の SB4010 に切られる。梁行 1 間 (2.5m) × 桁行 3 間 (7.8m) の柱構造をもち、床面積は 19.5㎡を測る。他の弥生中期後半期の建物と比較して、梁行が短く柱間がやや長い印象を受ける。また、根石のようにみえる北側桁行の SP1495 は、柱抜き取り後に流紋岩の板石を投棄している。本建物は、切り合い関係や出土遺物から見て、周辺に集中してみられる掘立柱建物群の中でも弥生中期後半期の古い段階に構築されたと推定される。

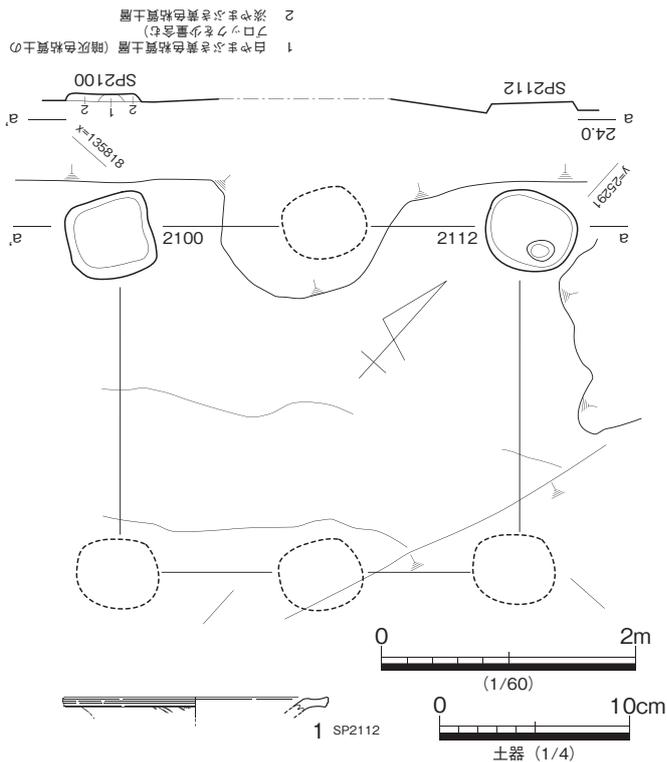


図 85 II -2 区 SB2006 平・断面・出土遺物

広口壺 (図 82-1) 長頸壺 (図 82-2) の形態から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

### II -1 区 SB1008 (図 83)

II 区東部で検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH4024、弥生終末期の SH1009 に切られ、弥生中期後半の SB1004 を切り込む。梁行 1 間 (3.2m) × 桁行 1 間 (3.4m) の柱構造をもつ。柱穴の残存深度が浅く、1 間 × 1 間という単純な柱構造の復元にやや躊躇したが、切り合い関係や遺構埋没土・出土遺物の共時性を重視し、建物復元を行った。同じ 1 間 × 1 間柱構造でも大形の SB1004 とは異なる機能をもつ建物と推定しておきたい。

### II -2 区 SB2004 (図 84)

II -2 区北西部で検出した掘立柱建物である。弥生後期の SH2001 に切られる。梁行 1 間 (2.4m) × 桁行 2 間 (5.1m) の柱構造をもち、弥生中期後半期の建物の中では梁行が短い部類に属する。建物主軸は座標北から 10° 東偏するもので、各柱穴は隅丸方形を基調としており、柱通りは良好で直径約 0.15 ~ 0.2m の柱痕が観察された。

図 84-1 ~ 5 は出土遺物である。図 84-1 が南西隅柱 SP2156、図 84-2 が南東隅柱 SP2006、図 84-3 は西側桁行 SP4529、図 84-4 が東側桁行 SP2002 から出土している。これらの出土遺物の年代観から、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

### II -2 区 SB2006 (図 85)

出土遺物 (図 81-1 ~ 6) の特徴から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属すると考える。

### II -1 区 SB1006 (図 82)

II 区東部で検出した掘立柱建物である。北側桁行の一部を攪乱坑で滅失するが、梁行 1 間 (2.8m) × 桁行 (4.2m) の柱構造を復元できる。他の周辺の掘立柱建物と同様に、微高地上に立地するために柱穴の残存深度がやや浅いが、直径約 20cm の柱痕と基盤層 IV 層に由来する黄褐色粘土ブロックの裏込土をもつ隅丸方形の柱穴から構成されている。出土遺物や柱構造などから弥生中期後半期の所産と推定され、床面積や構造は本建物に若干先行する SB4010 に類似するため、同一地点において建て替えが行われた可能性が高い。

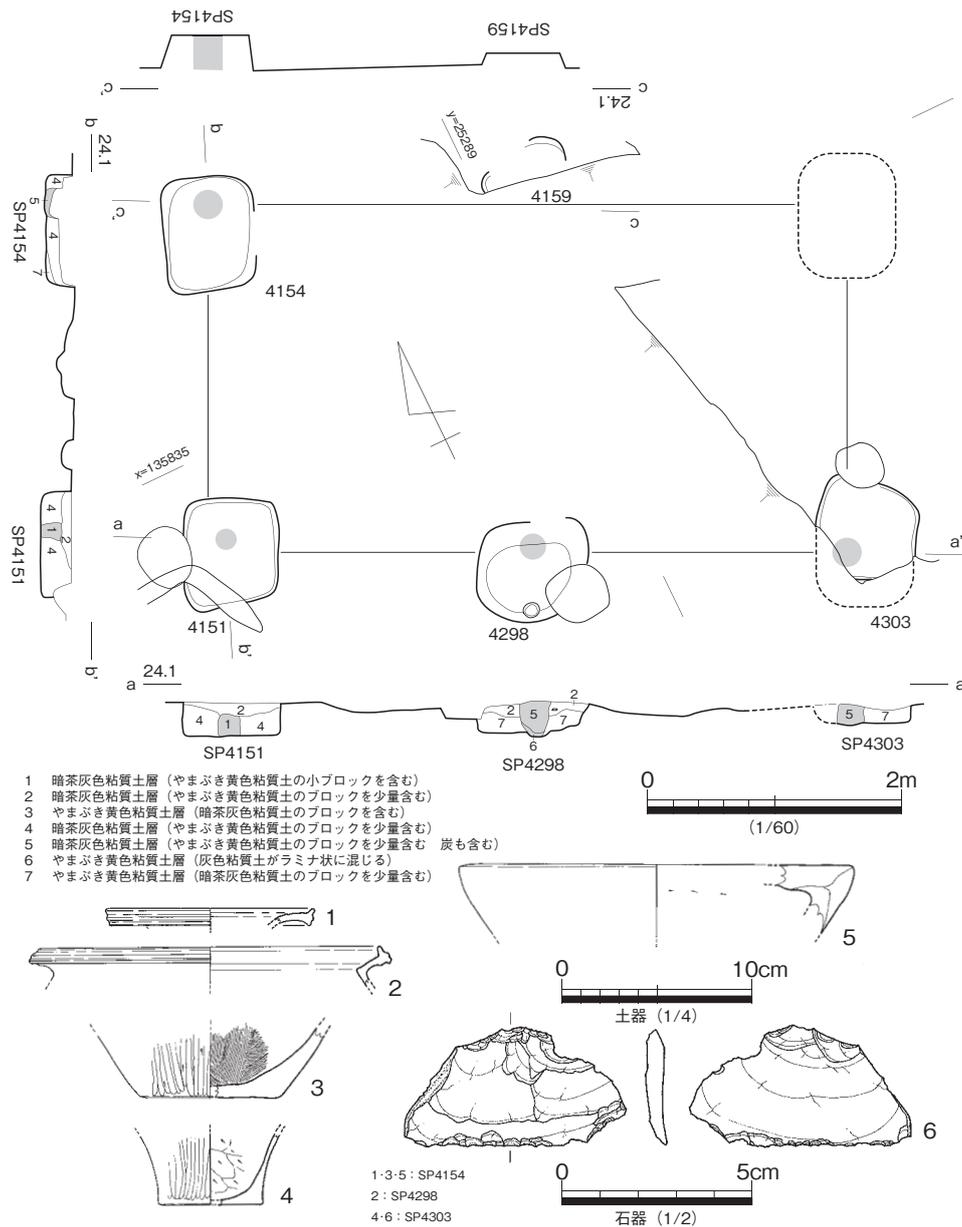


図 86 II -4 区 SB4003 平・断面・出土遺物

II -2 区南東部で検出した掘立柱建物である。北側の桁行の 1 基を攪乱坑、南側桁行を中世条里坪界溝 SD2001 によって切られる。また、桁行東側は調査区外となるため、更に伸びる可能性もある。柱穴の残存深度が約 10cm と浅いが、本建物周辺は極度に削平を考慮する必要があるため、柱穴平面形を重視し建物復元を行った。

出土遺物は、甕口縁 (図 85-1) のみであるが、口縁部形態や外面の凹線文の状況から、弥生中期後半古段階に帰属すると推定できるため、本建物の帰属時期を示す資料として提示しておく。

### II -4 区 SB4003 (図 86)

II -4 区南東部で検出した掘立柱建物である。古墳後期の SH4007 に切られる。攪乱坑や一部の柱穴が調査範囲外となるが、現状で梁行 1 間 (2.8m) × 桁行 2 間 (5.1m) の柱構造が推定できるが、現状の南

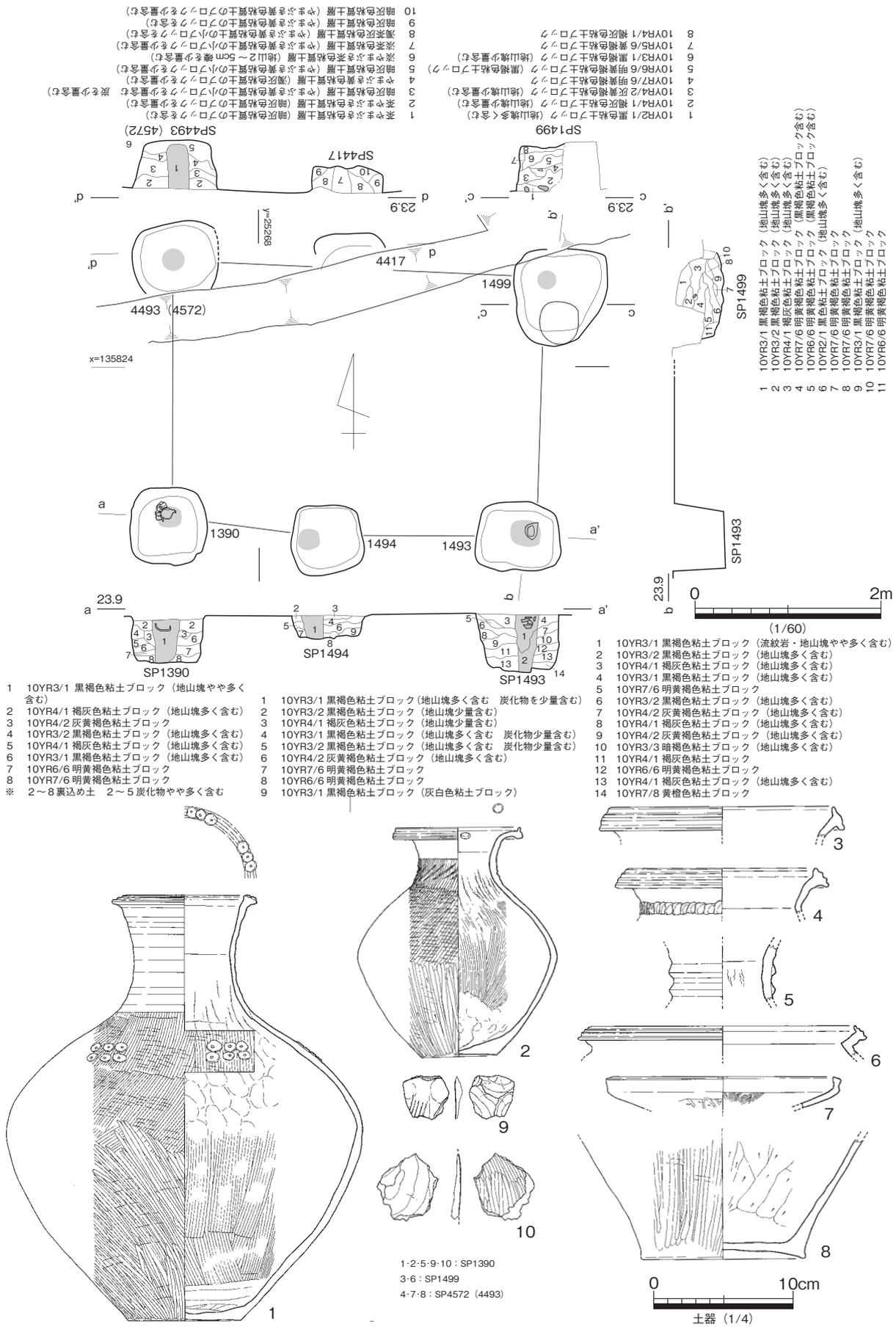


図 87 II-4区 SB4010 平・断面

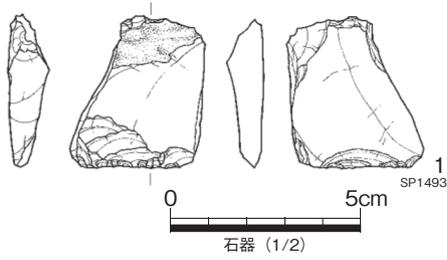


図 88 II-4 区 SB4010 出土遺物

東隅柱 SP4303 の根入れが浅いため、南東方向に桁行が更に伸びる可能性が高い。柱穴の平面形は隅丸長方形を基調としており、北西隅柱 SP4154、南西隅柱 SP4151 は整った隅丸方形を呈する。柱穴残存深度が浅くなっているが、本建物周辺は極度に削平を受けている点を考慮する必要がある。各柱穴ともにIV層に起因する黄褐色シルトの細かなブロックを多く含む裏込土をもち、黒褐色粘土に置換された直径約 20cmの柱痕が確認できる。

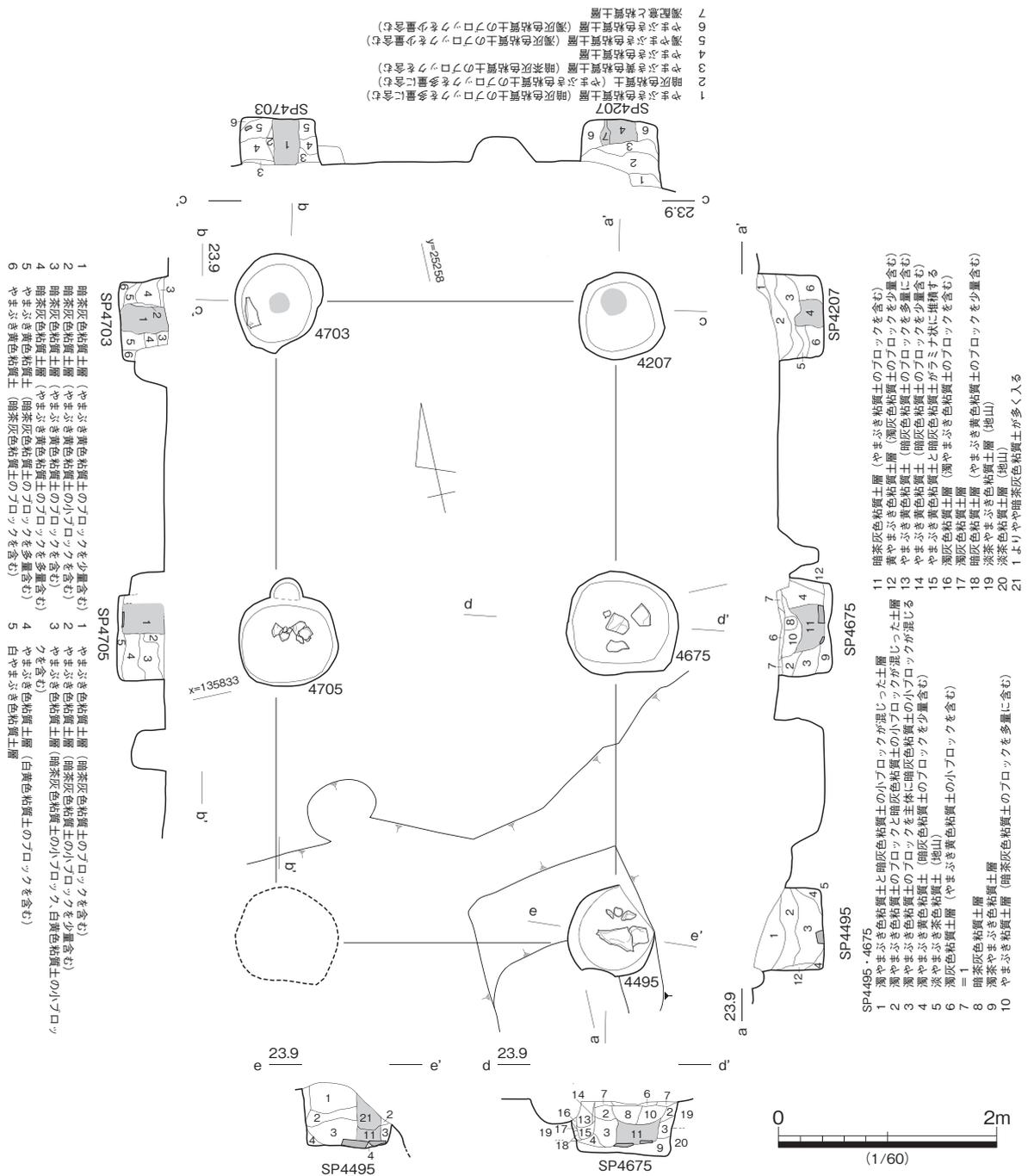


図 89 II-4 区 SB4011 平・断面

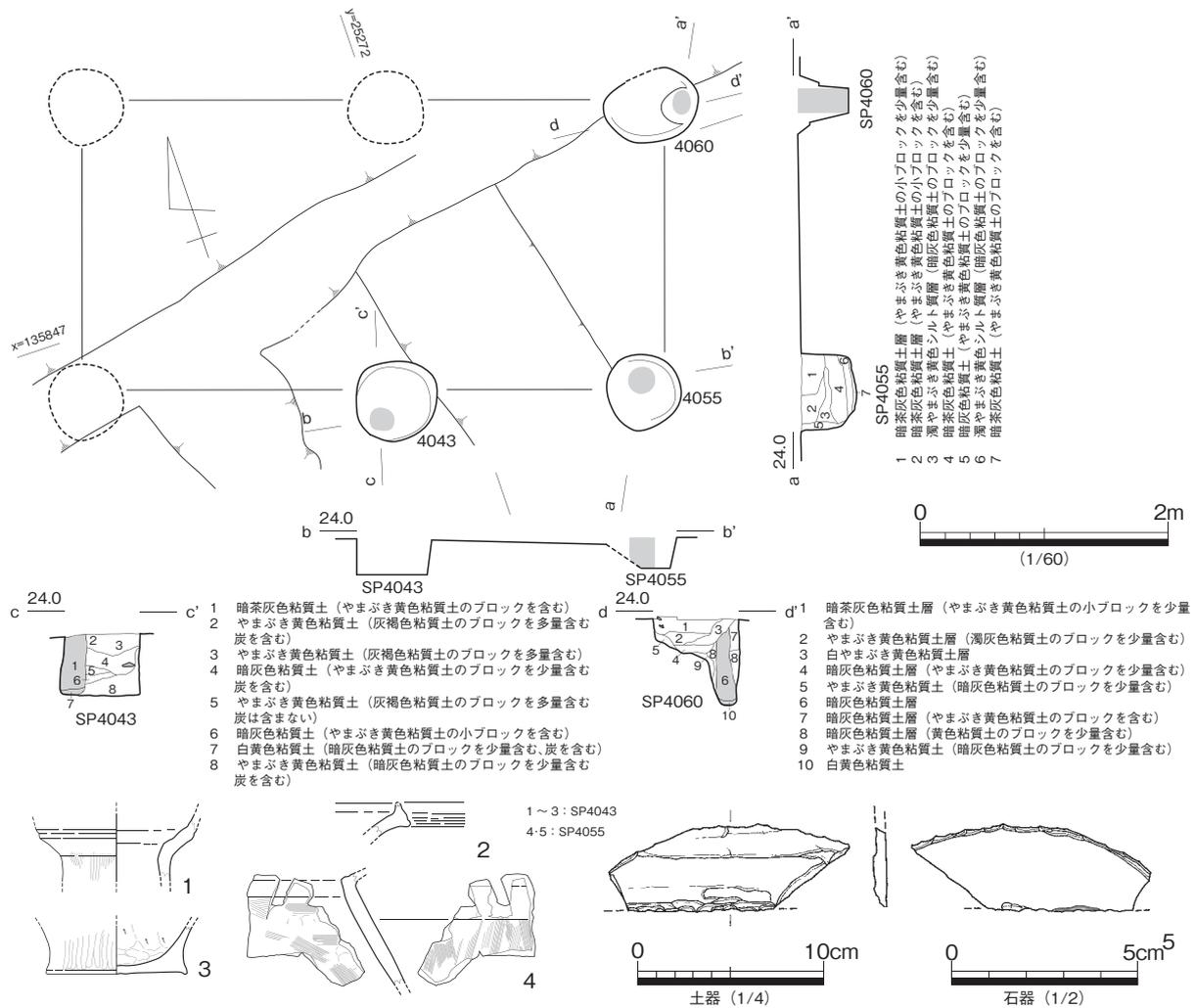


図 90 II -4 区 SB4012 平・断面・出土遺物

出土遺物には、弥生土器広口壺 (図 86-1.3)、同甕 (図 86-2.4)、回転台形土器 (図 86-5)、サヌカイト製スクレイパー (図 86-6) がある。出土土器の特徴からみて、本建物は弥生中期後半新段階に帰属するものと推定しておきたい。

## II -4 区 SB4010 (図 87・88)

II 区東部で検出した掘立柱建物である。弥生中期後半期の SB1005 を切り込む。梁行 1 間 (2.9m) × 桁行 2 間 (3.9m) の柱構造をもつ。南側桁行の柱筋の通りがやや悪いが、全ての隅柱が一段深く掘削されているなどの共通点がみられることから、建物復元を行った。南東隅柱 SP1493 は中位まで、南西隅柱 SP1390 は底面まで柱抜き取りが行われているが、SP1493 は柱抜き取り穴下位の柱痕を除去すると、横木と見られる木質が遺存している箇所が確認された。腐食が進行しているためと取り上げることは不可能であったが、幅約 10cm 長さ約 60cm の木質痕が桁行方向の柱筋に合致する形で検出している。

このような基礎固めの存在や、同じ条件で後世の削平を受けた周辺の弥生時代の掘立柱建物の柱穴と比較して本建物隅柱の掘削深度が深いことなどと合わせて考えれば、本建物は高さのある上部構造を有していたことが推定できる。

出土遺物の中で、南西隅柱 SP1390 の柱抜き取り時に投棄され完形に復元された長頸壺 ( 図 87-1 ) の形態から、本建物は弥生中期後半新段階に廃絶したものと推定しておきたい。

## II -4 区 SB4011 ( 図 89 )

II -4 区北西部で検出した掘立柱建物である。弥生終末期の SH4012.4017 に切られる。南西隅柱を攪乱坑で滅失するが、梁行 1 間 (3.1m) × 桁行 (2 間) の柱構造を復元できる。また、梁行とともに桁行柱間が約 3m と長いことや、根石や裏込土内に板状の流紋岩片を多用し、柱痕の直径が約 30cm と大形であるなどの特徴がみられる。

図化可能な出土遺物には、北東隅柱 SP4207 から出土した弥生土器水差形土器 ( 図 78-6 II -1 区 SB1003 に掲載 ) があり、II -1 区 SB1003 を構成する SP1095 から出土した個体と接合した。本建物は、弥生中期後半中段階に II -1 区 SB1003 と同時併存したと考えられる。

## II -4 区 SB4012 ( 図 90 )

II -4 区北東部で検出した掘立柱建物である。古墳前期前半期の SH4005 に切られる。現状で梁行 1 間 (2.4m) × 桁行 1 間 (2m) の柱構造をもつが、桁行の延長上に攪乱坑等が存在することから、桁行は更に延びる可能性が高い。柱穴掘り方は隅丸方形に近いが柱の当たりや断面形はバラツキがみられる。

南側桁行の SP4043.4055 を中心に遺物が出土している。直口壺 ( 図 90-1 ) や甕底部 ( 図 90-3 ) の形態から、本建物は弥生中期後半中段階に帰属するものと推定しておきたい。図 90-5 は SP4055 から出土した紅簾片岩製打製石庖丁であり、弥生中期後半期では希少な事例となる。

地区	遺構名	時期	長軸 (m)	短軸 (m)	深度 (m)	断面形	備考
G 区	SK0003	弥生中期後半古段階	2.1	1.7	0.2	逆台形	
O 区	SK8001	弥生中期後半新段階	-	-	0.5	円筒形	焼成破裂土器片
S 区	SK1009	弥生中期後半新段階	-	0.7	0.2	逆台形	
W 区	SK4003	弥生中期後半新段階	-	0.7	0.3	逆台形	焼成破裂土器 1
W 区	SK4005	弥生中期後半新段階	1	0.7	0.1	逆台形	
W 区	SK4007	弥生中期後半新段階	-	0.7	0.3	逆台形	
Z 区	SK7003	弥生中期後半中段階	-	-	0.25	箱形	
Z 区	SK7005	弥生中期後半中段階	-	-	0.2	箱形	
I -4 区	SK4010	弥生中期後半中段階	2.3	1.3	0.5	箱形	

表 7 土坑一覧

## G 区 SK0003 ( 図 91 )

G 区南西部で検出した土坑である。南部を攪乱により滅失するが、隅丸長方形を呈し壁面は直立するものである。底面には北部を中心に土器片が集中して廃棄されており、中央には焼土と炭化物がややまとまって検出された。平面や断面から貯蔵穴としての機能が推定できる。上層に弥生後期後半期の土器 ( 図 91-10.11 ) が含まれるが、底面出土のもの ( 図 91-1 ~ 9 ) は凹線文出現期の弥生中期後半の土器群で占められる。

底面出土の土器群は、出土状況から一括廃棄されたものと推定できる。土器群の帰属時期は、口縁部内面に櫛描文原体による斜格子文を描く広口壺 ( 図 91-1.2 ) や凹線文間に刻目文を施す大型鉢 ( 図 91-6 ) からみて、凹線文出現期の弥生中期後半古段階と考えられる。

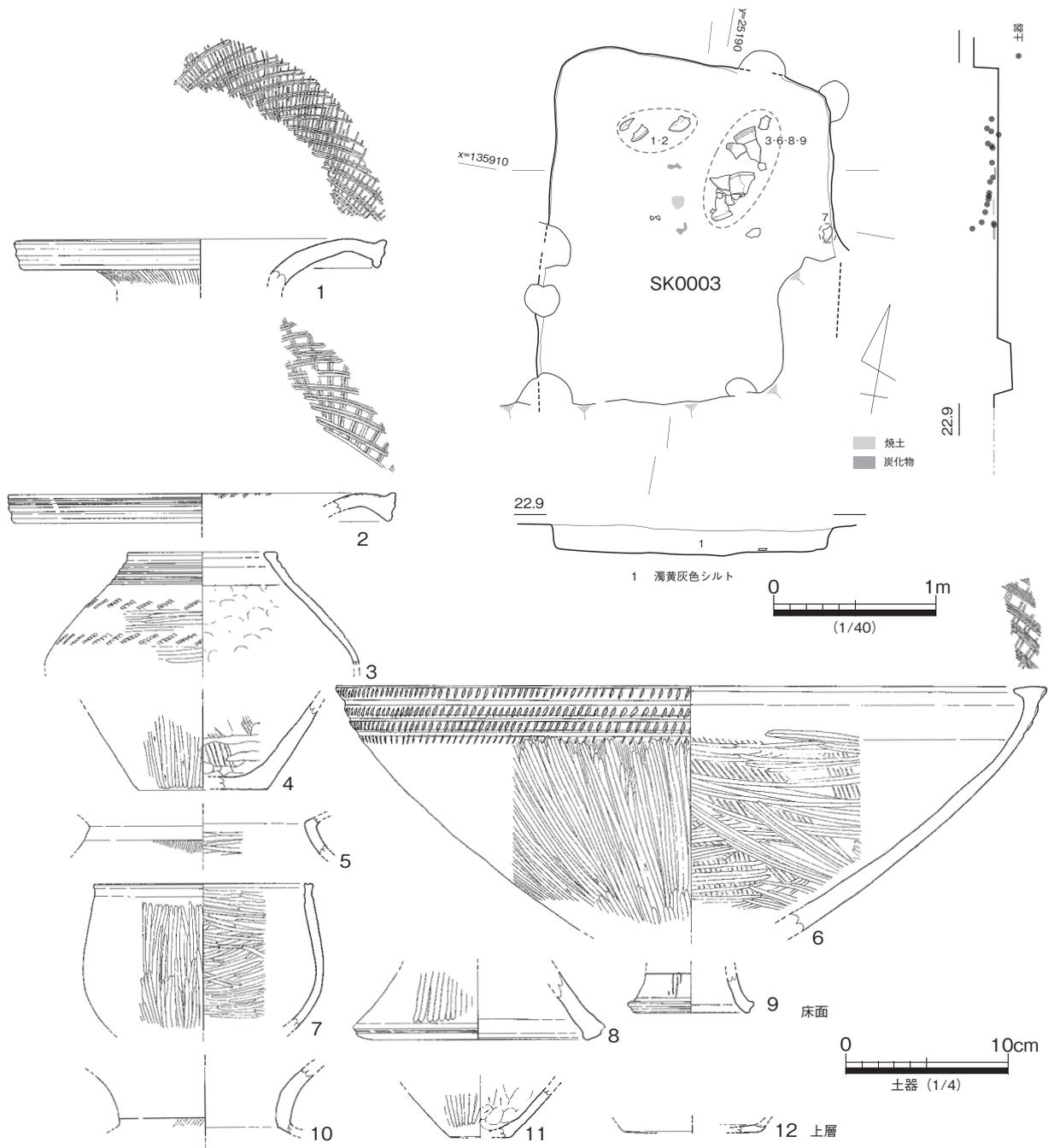


図91 G区 SK0003 平・断面・出土遺物

### O区 SK8001 (図92)

O区中央部で検出した土坑で弥生中期後半期のSH8008を切り込む。東半分を攪乱坑によって滅失するが、直径約1.1mの円形土坑と考えられる。残存深度は約0.5mとやや深いものであり、壁面は直立気味に急角度で立ち上がる。埋没土は数層に細分できるが炭化物や焼土粒を含むなど層相は類似しており、一括して埋め戻された可能性が高い。

炭化物や焼土粒を多く含む発泡土器片(図92-2)や焼成破裂土器片(図92-4～9)が含まれることから、土器焼成に関連した残滓の廃棄に関係した遺構と考えられる。また、本遺構南側に隣接するSD8001においても同様の遺物が多量に出土しており、近接する位置における土器焼成遺構の存在を示

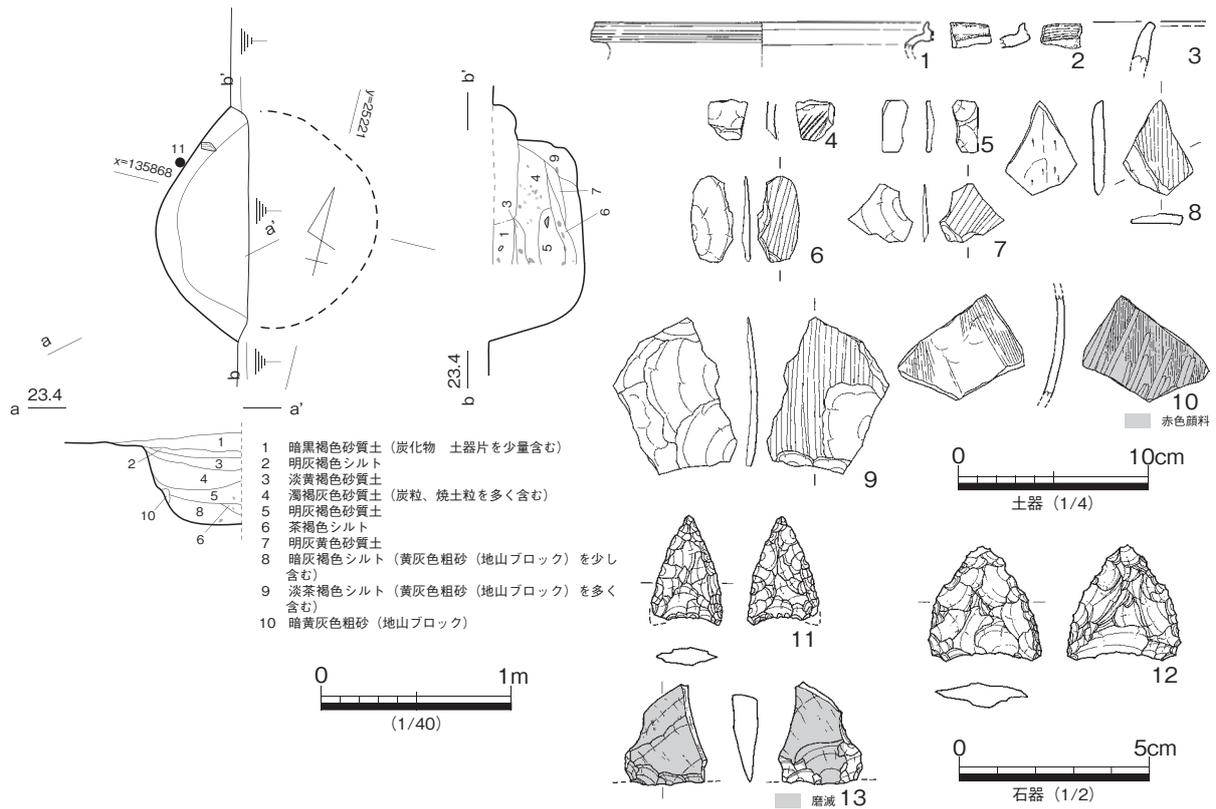


図 92 O 区 SK8001 平・断面・出土遺物

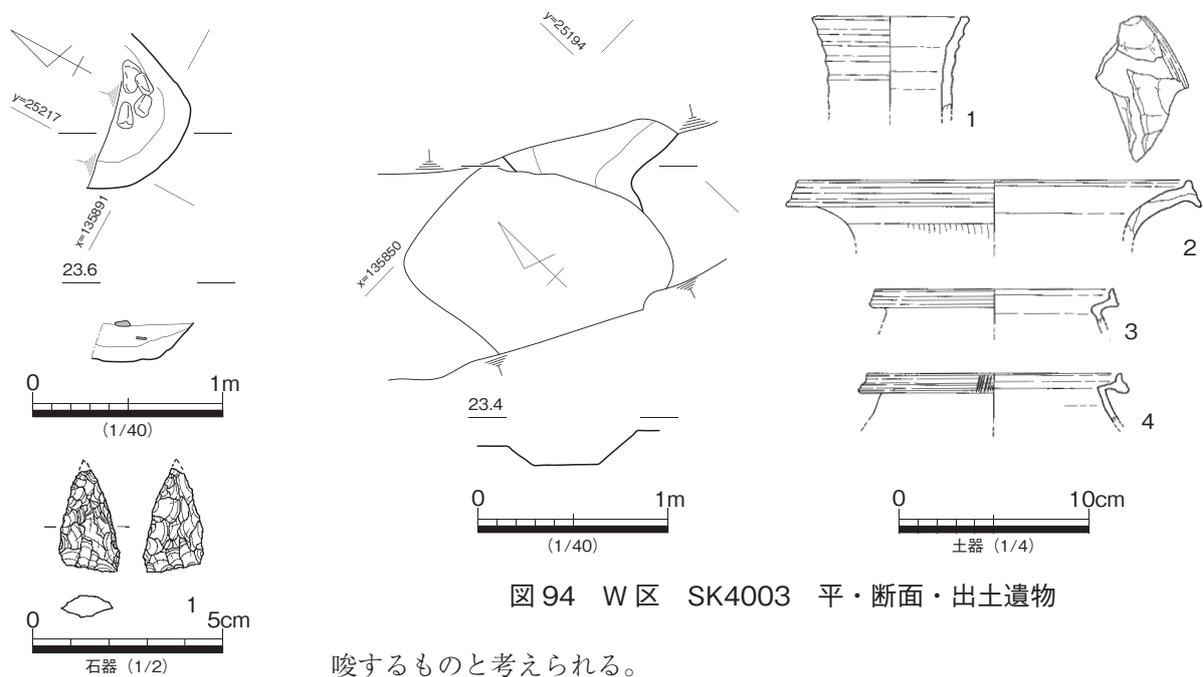


図 94 W 区 SK4003 平・断面・出土遺物

図 93 S 区 SK1009  
平・断面・出土遺物

**S 区 SK1009 (図 93)**

S 区中央部で検出した土坑であり、弥生後期後半期の SH1040 に切られる。北側は攪乱坑で滅失するが、一辺約 0.7m の隅丸方形の平面形をもつものと考えられる。埋没土は黄褐色粘土ブロックが多く含まれ、砂岩礫が

唆するものと考えられる。

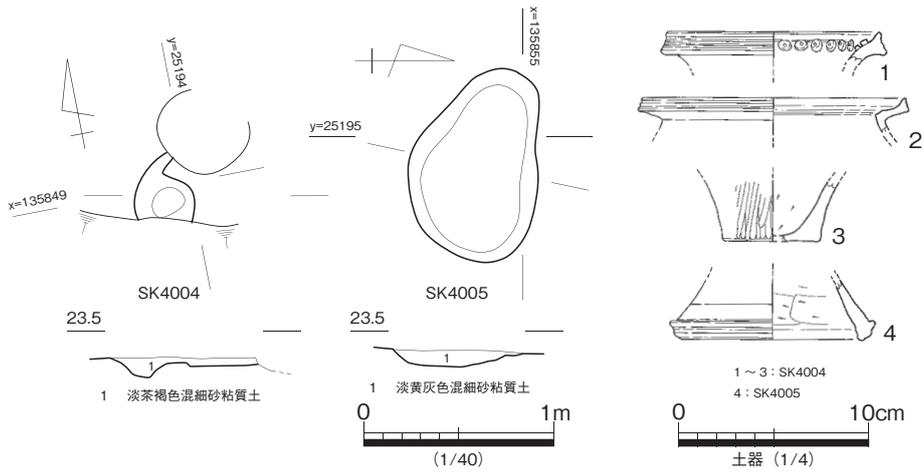


図 95 W 区 SK004・4005 平・断面・出土遺物

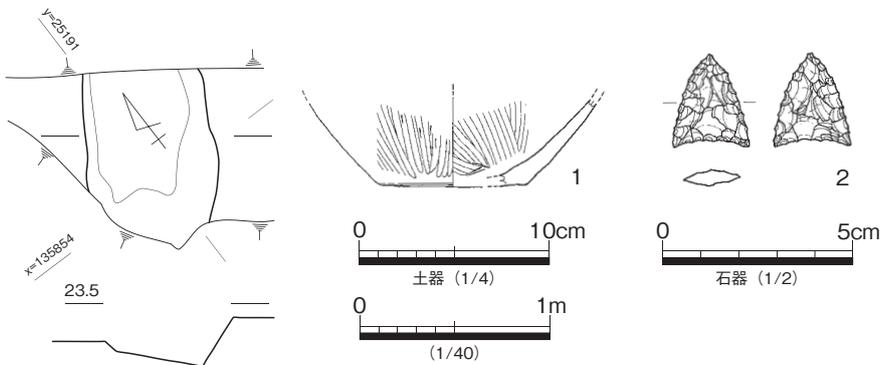


図 96 W 区 SK4007 平・断面・出土遺物

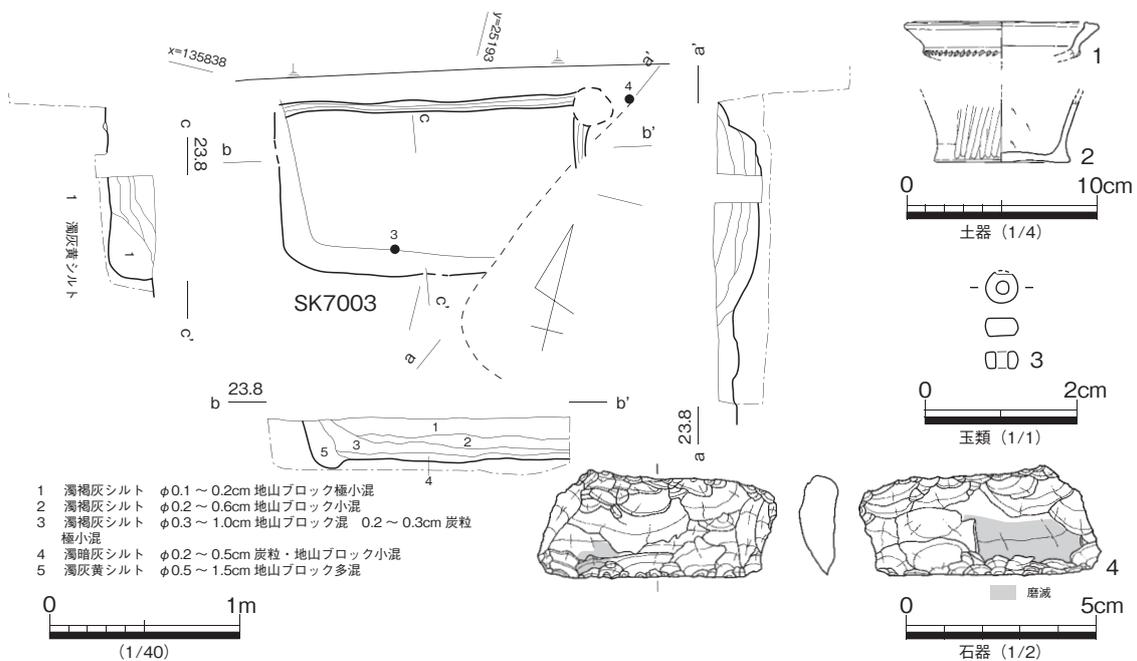


図 97 Z 区 SK7003 平・断面・出土遺物

多く含まれることなど、掘立柱建物の裏込土の状況に類似するものがある。

出土遺物はサヌカイト製石鏃のみであり、詳細な時期決定に課題を残すが、遺構の切り合い関係や埋没土の特徴からみて弥生中期後半期の所産と推定しておきたい。また、組み合わせる柱穴を確認できなかったが、掘立柱建物を構成する柱穴となる可能性が高い。

#### **W 区 SK4003 (図 94)**

W 区西部で検出した遺構であり、古墳前期の SH4010 に切られる。攪乱坑によって詳細な平面形や規模は不明であるが、小規模な土坑と考えられる。図 94-1～5 は出土遺物であるが、弥生中期後半中段階の資料(図 94-3.4)と弥生中期後半新段階の資料(図 94-1.2)が混在した状態を示す。ここでは、時間的に後出する一群の資料を重視し、本遺構は弥生中期後半新段階に廃絶したものと考えたい。

広口壺(図 94-2)は、口縁部内面に焼成破裂痕が確認でき、O 区を中心に想定される土器焼成遺構に関係した資料と考えられる。

#### **W 区 SK4005 (図 95)**

W 区西部で検出した土坑である。長軸約 0.7m 短軸約 0.7 残存深度約 0.2m の円形土坑である。規模や深度からみて、竪穴住居の中央土坑の可能性もあるが、埋没土中に炭化物を含んでいない。

小規模な遺構であるが、図 95-1～4 に示す弥生中期後半新段階の一定量の土器片が出土している。

#### **W 区 SK4007 (図 96)**

W 区西部で検出した土坑であり、弥生中期後半期の SH4013 に切られる。現状で長さ約 1m 幅 0.7m 残存深度約 0.3m を測る。埋没土は黄灰色粘土ブロックを多く含む単一層であり、弥生中期後半新段階とみられる壺底部(図 96-1)が出土した。

出土遺物が少量であるが、SH4013 との切り合い関係などからみて、弥生中期後半期に帰属する遺構とみて差し支えない。

#### **Z 区 SK7003 (図 97)**

Z 区南西部で検出した土坑である。北・東辺を攪乱坑で滅失するが、長軸約 2m 短軸約 1m の隅丸長方形土坑と考えられる。残存深度は約 2.5m であり、断面形は箱形に近い。埋没土は数層に細分されているが基本層序Ⅳ層起源の黄褐色シルトのブロックを多量に含む単一層であり、掘削後の早期の埋め戻しが想定できる。また、これらの埋め戻し土を除去した北・東側の床面上において、幅約 0.1m 深さ約 0.05m の小溝を検出した。板材を据え付けための小溝にも見えるが、その上面を覆う均一な埋め戻し土との齟齬があり、小溝の機能は不明とせざるを得ない。

埋め戻し土から出土した細頸壺(図 97-1)や甕底部(図 97-2)の形態から、本土坑は、弥生中期後半中段階に廃絶したと考えられる。また、南側の床面から滑石製白玉(図 97-3)が出土しているが、埋没土と特徴と出土土器との隔たりが大きく、混入遺物と考えるのが妥当であろう。

#### **Z 区 SK7005 (図 98)**

Z 区南西部で検出した土坑である。大部分を攪乱坑で滅失するため、北東隅部のみ残存する。残存部

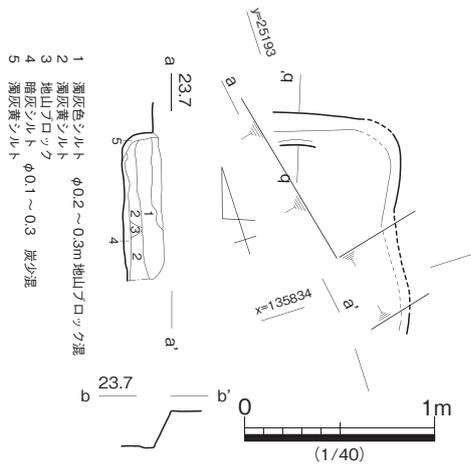


図 98 Z 区 SK7005 平・断面

分からの推定で隅丸長方形の土坑となる可能性が高い。残存深度は約 0.2m を測り、埋没土は基本層序Ⅳ層に由来した黄褐色粘土ブロックを多量に含む埋め戻し土で満たされる。

図化可能な出土遺物はみられないが、形態や埋没土の特徴が SK7003 と類似していることから、弥生中期後半中段階に帰属する遺構と考えておきたい。

### ○区 SX8207 (図 99)

○区北東部で検出した土坑であり、弥生後期前半期の SH8203 に切られる。東端部が攪乱坑によって滅失するが、

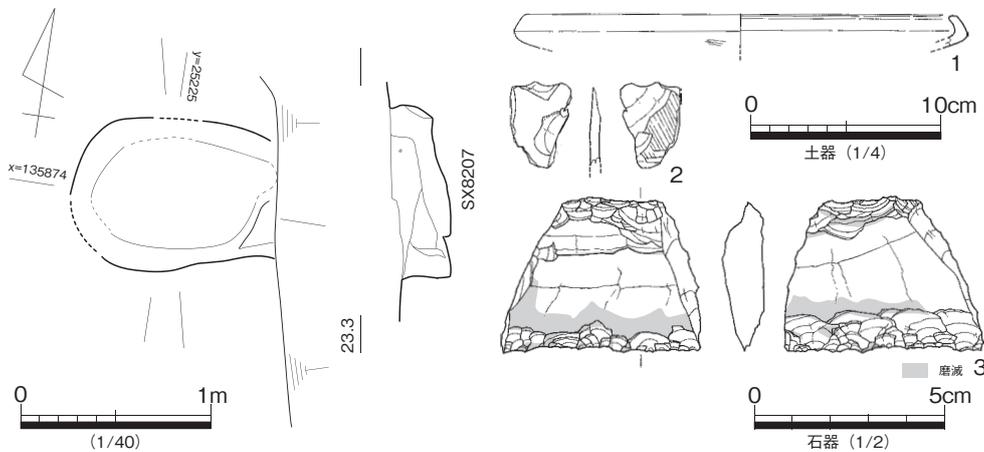


図 99 ○区 SX8207 平・断面・出土遺物

長軸約 1.2m 短軸約 0.8m の楕円形を呈する土坑と考えられる。埋没土は数層に細分されているが、いずれも黒褐色の粘土ブロックを主体としており、一括して埋め戻された可能性が高い。

出土遺物には、弥生中期後半期の高杯 (図 99-1) に加えて、壺あるいは甕の胴部の一部を構成すると見られる焼成破裂土器片が含まれる。近接する ○区 SD8001.SK8001 などとともに弥生中期後半期における土器焼成遺構の存在を示唆するものと考えられる。

### V区 SX6008 (図 100)

V区東部で検出した遺構であり、弥生後期前半期の SH1030 に切られる。南部を攪乱坑で滅失するが、直径約 1.4m の円形土坑であり、残存深度は約 0.3m を測る。断面は凸状に窪む。3層に区分した埋没土はⅣ層起源の黄灰色粘土ブロックを多く含むことで共通している。掘立柱建物の裏込土に類似するもの

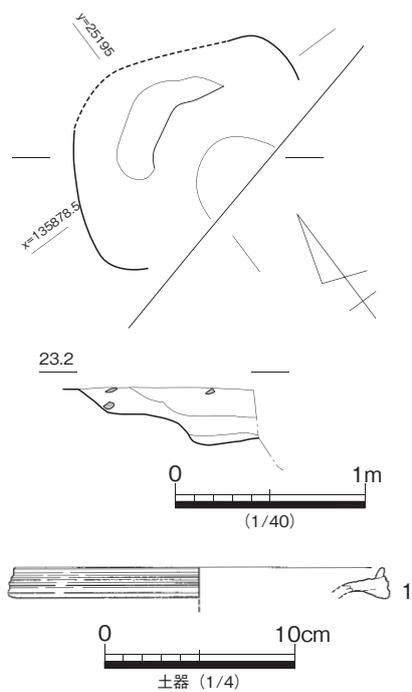


図 100 V 区 SX6008 平・断面・出土遺物

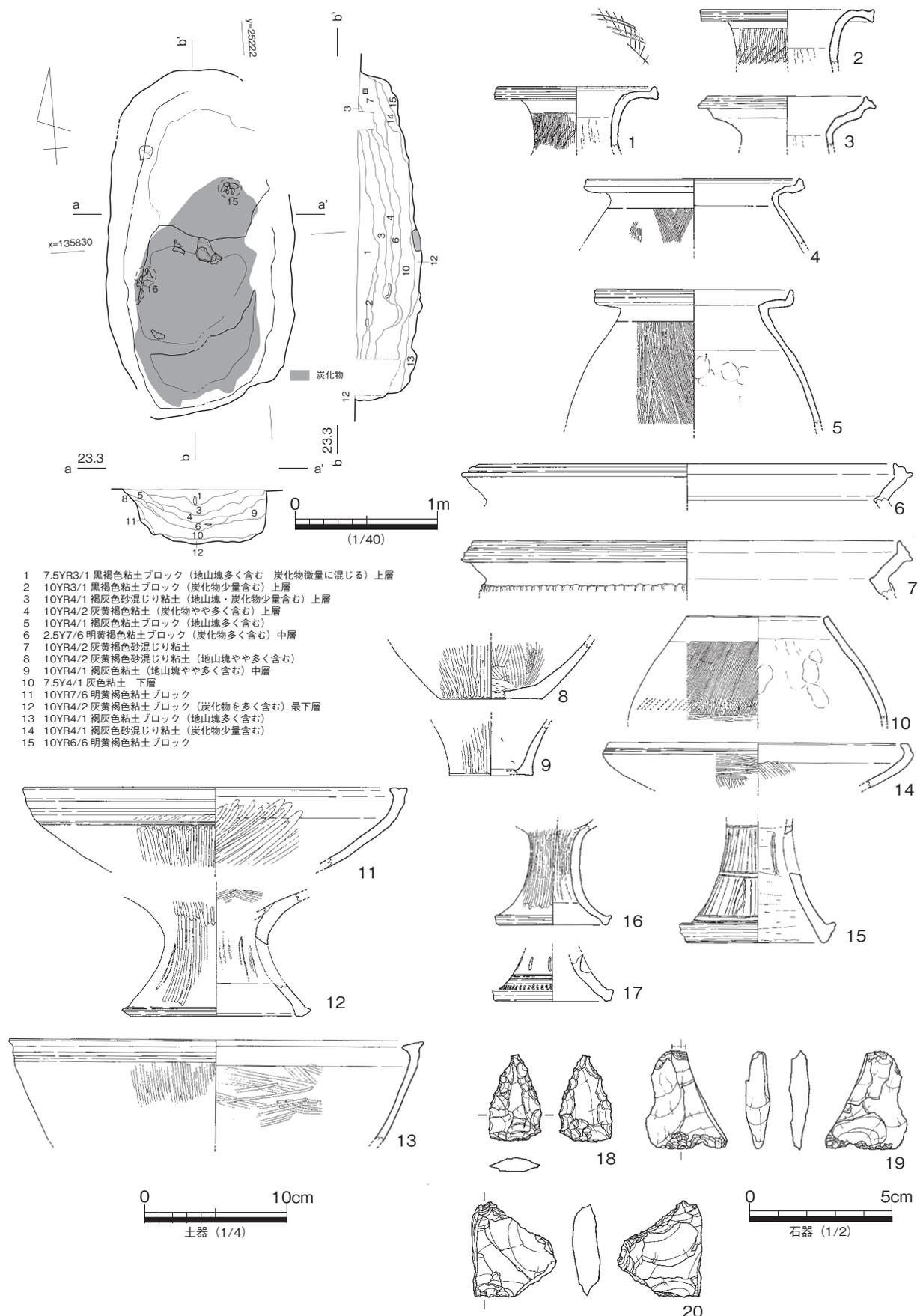


図 101 I -4 区 SK4010 平・断面・出土遺物

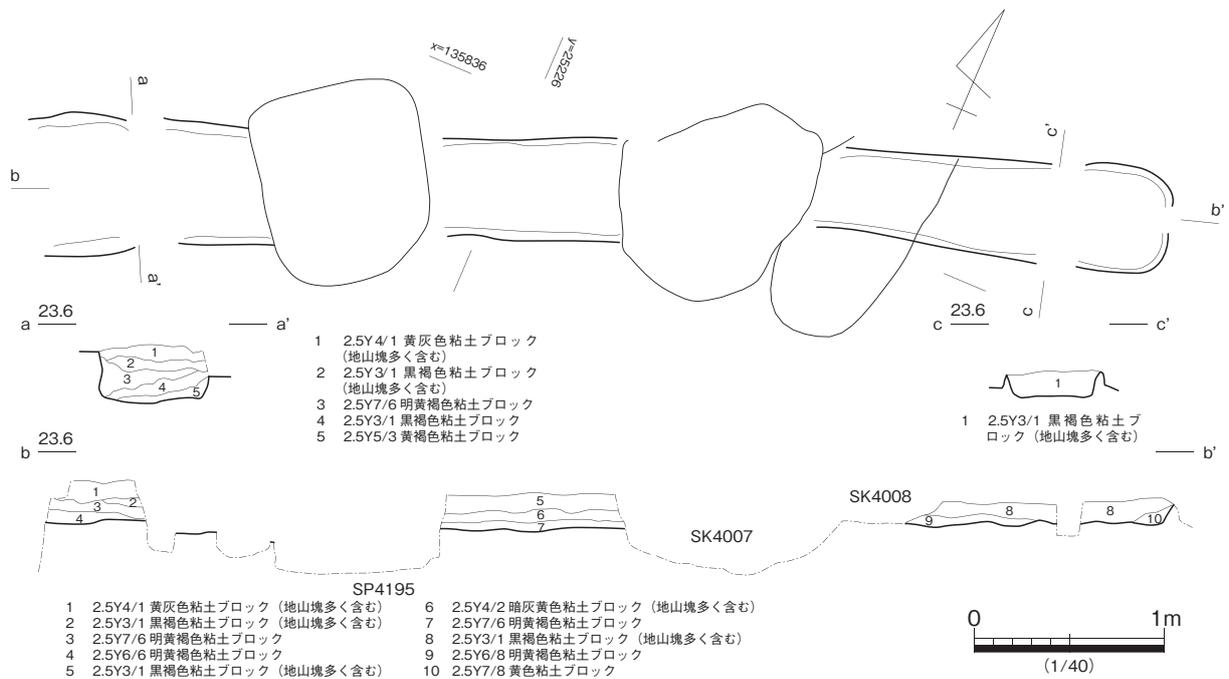


図 102 I -4 区 SX4003 平・断面

であるが、柱痕をもたず周辺に組み合う柱穴がみられないことから、単体で報告する。

図 100-1 は出土遺物であり、弥生時代中期後半新段階の広口壺の口縁である。

#### I -4 区 SK4010 (図 101)

I -4 区中央部で検出した土坑である。弥生終末期の SH4007、弥生中期後半期の SB4003 に切られる。長軸 2.3m 短軸 1.3m の隅丸長方形を呈し、箱形の断面に 0.5m の残存深度を測る。炭化物を多く含む最下層より上位は、IV層に起源の黄褐色シルトブロックを多く含む埋め戻し土である。埋め戻し土中位には、遺物片をやや多く含む。出土遺物(図 101-1 ~ 20)は、人為的な埋没状況からみて一括資料と評価できよう。規模・断面形からみて、貯蔵穴としての機能が推定できる。

広口壺(図 101-1 ~ 3)や甕(図 101-4.5)、台付鉢(図 101-11.12)の形態からみて、本土坑は弥生中期後半中段階に帰属すると考えられる。

#### I -4 区 SX4003 (図 102)

I -4 区北部で検出した土坑である。西端部を攪乱坑で滅失するが、弥生後期前半期の SH4002、同中期後半期の SB4004 に切られる。また、西半部が SB4004 の桁行に合致するように検出されたため、同建物の柱据付に伴う布掘状の掘り方を考慮したが、遺構東端部で同建物の柱穴が検出されなかったことから、性格不明の大型土坑として報告したい。断面形は箱形を呈し、約 0.2m の残存深度を測り、底面は極めて平坦である。埋没土は、IV層起源の黄褐色シルトのブロックを多く含むもので、掘削後に丁寧に埋め戻されている。

出土遺物には、断面が薄手の弥生中期後半期の土器碎片があるが、図化まで至っていない。SB4004 に切られることや埋没土の特徴からみて、具体的な性格は不明ながら弥生中期後半期の遺構として報告しておきたい。



図 103 溝の分布 (弥生中期後半)

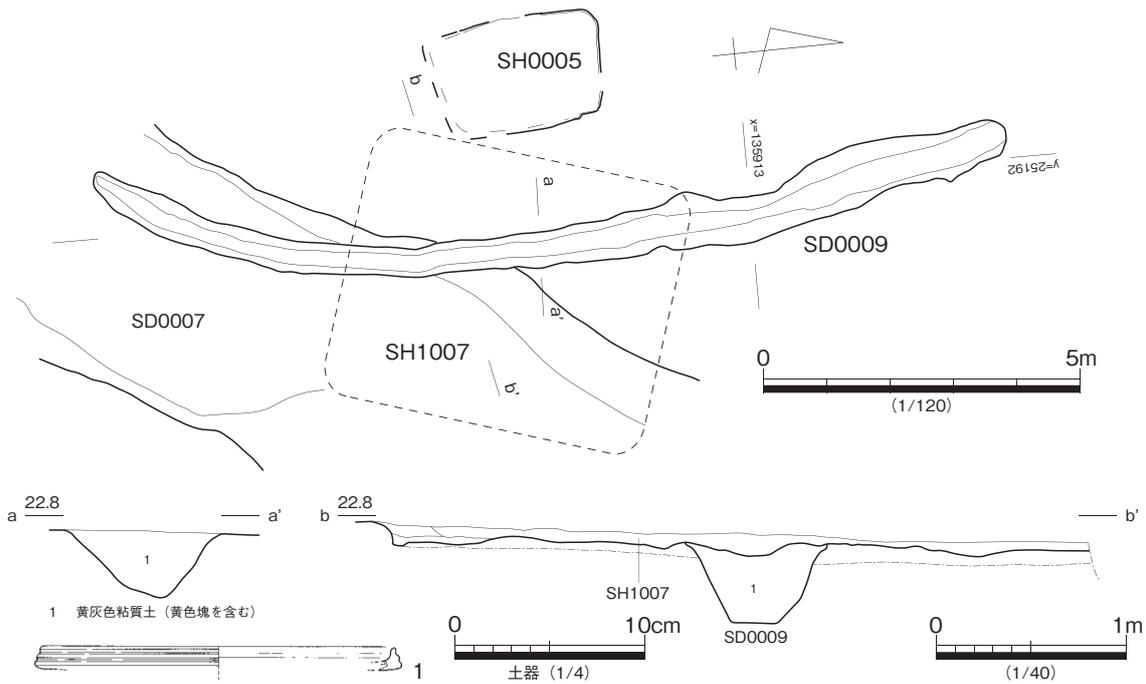


図 104 G 区 SD0009 平・断面

### G 区 SD0009 (図 104)

G.H 区中央部から西より部分において検出した溝である。弥生後期以降の遺構に切られ、弥生前期埋没の SD0007 を切り込む。上面幅約 0.8m 残存深度約 0.35m を測り、やや弧状を描きながら南から北へ流下する。埋没土の観察からは恒常的な流水状態は想定できず、穏やかな埋没状態にあったものと考えられる。延長約 5m に亘り検出しているが、他の同時代との溝との連絡関係は不明となるが、弧状を描く平面形や周辺の同時期の遺構を避けるように流下するようにもみえることから、複数の竪穴住居の周溝が合流する排水溝の可能性も考えられる。

図化可能な出土遺物は、弥生中期後半期の甕口縁 (図 104-1) のみである。

### N 区 SD7303 (図 105)

N 区北部で検出した溝である。上面幅約 1.2m 残存深度約 0.45m を測り、逆台形の断面形状をもつ。東西方向で約 1.2m に亘って検出しているが、断面形状から土坑となる可能性もある。埋没土は基盤の IV 層のブロック土で一度に埋め戻されており、埋土中に土器片や焼土・炭化物、動物遺存体を含む。埋没土や断面形状から O 区 SD8001 の延長部分とも考えられるが、出土遺物内容から住居などの建物に

地区	遺構名	時期	上面幅 (m)	下面幅 (m)	深度 (m)	断面形	備考
G 区	SD0009	弥生中期後半中段階	0.8	0.2	0.35	逆台形	
N 区	SD7303	弥生中期後半中段階	1.2		0.45	逆台形	
O 区	SD8001	弥生中期後半新段階	0.6 ~ 0.8	0.7 ~ 0.2	0.7	逆台形・V 字形	焼成破裂土器多数
O 区	SD8002	弥生中期後半新段階	0.4 ~ 0.5	0.2 ~ 0.3	0.1 ~ 0.25	逆台形・U 字形	
T 区	SD1023	弥生中期後半新段階	0.5 ~ 0.6	0.2	0.1	U 字形	
U 区	SD5005	弥生中期後半新段階	3	1	0.4	U 字形	
V 区	SD6005	弥生中期後半新段階 ~ 後期前半古段階	0.4 ~ 0.6	0.2 ~ 0.3	0.2	逆台形・U 字形	
Z 区	SD7001	弥生中期後半中段階	0.7	0.3	0.2	逆台形	

表 8 溝状遺構一覧

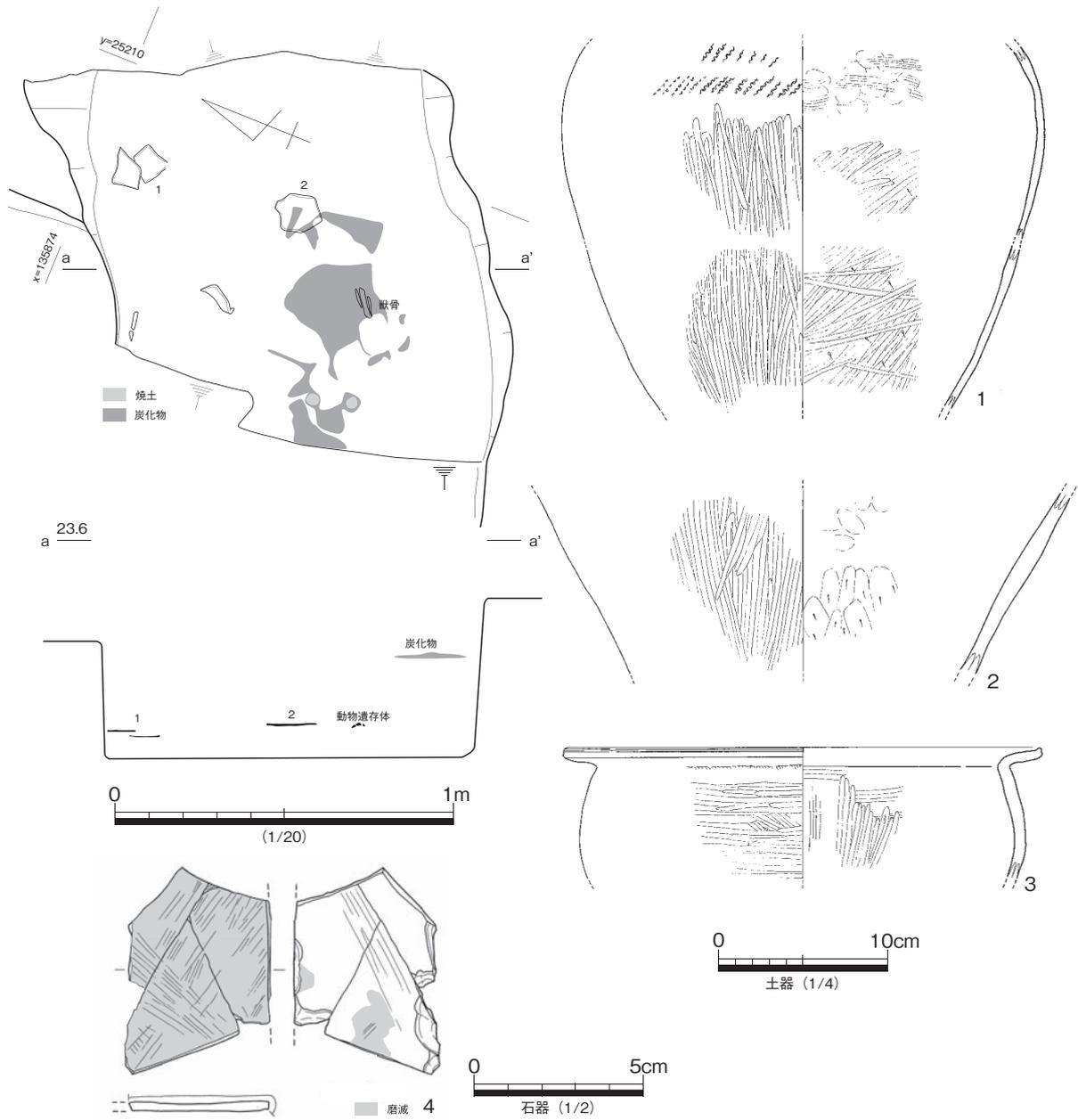


図 105 N 区 SD7303 平・断面・出土遺物

隣接するエリアに構築された貯蔵穴の機能をもつ可能性が高い。

出土遺物(図 105-1～3)から弥生中期後半中段階に廃絶したものと考えられる。図 105-4 は流紋岩製の砥石であり、片面を中心に研磨に伴う強い摩滅痕と線状痕が観察される。

### ○ 区 SD8001 (図 106～110)

○ 区南西部で検出した東西方向の溝である。上面幅約 0.6～0.8m、残存深度約 0.7m を測り断面形は逆台形を基本とし、延長約 3.5m に亘って検出している。検出範囲の西側では、断面 V 字形に掘り直された形跡が認められ、平面的には舟形の土坑状を呈する。この掘り直しが行われた箇所には、焼土塊や炭化物とともに土器溜りが形成されている。埋没土は数層に細分されるが、IV 層起源のブロック土を多



図 106 O区 SD8001 平・断面

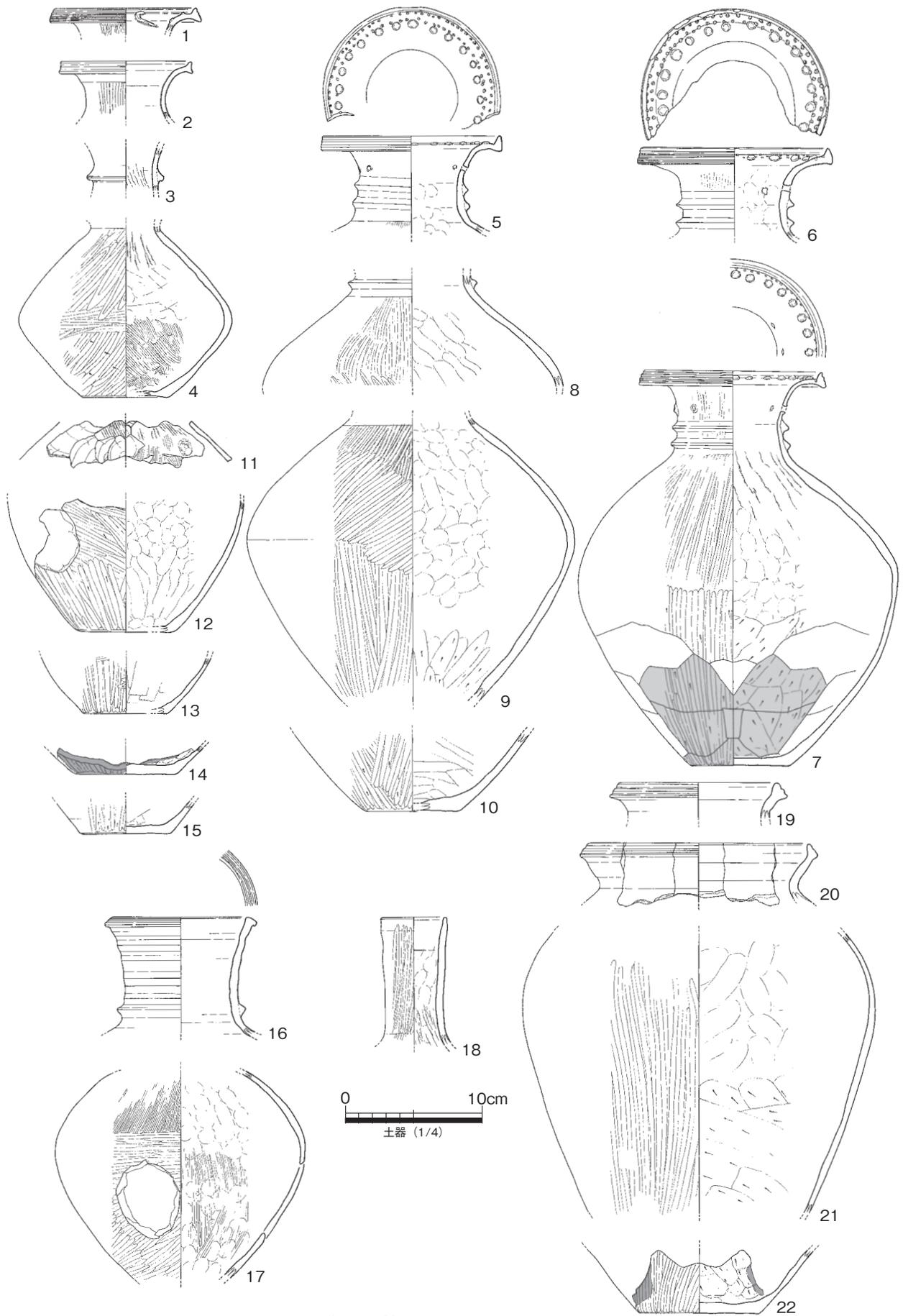


图 107 O 区 SD8001 出土遺物 (1)

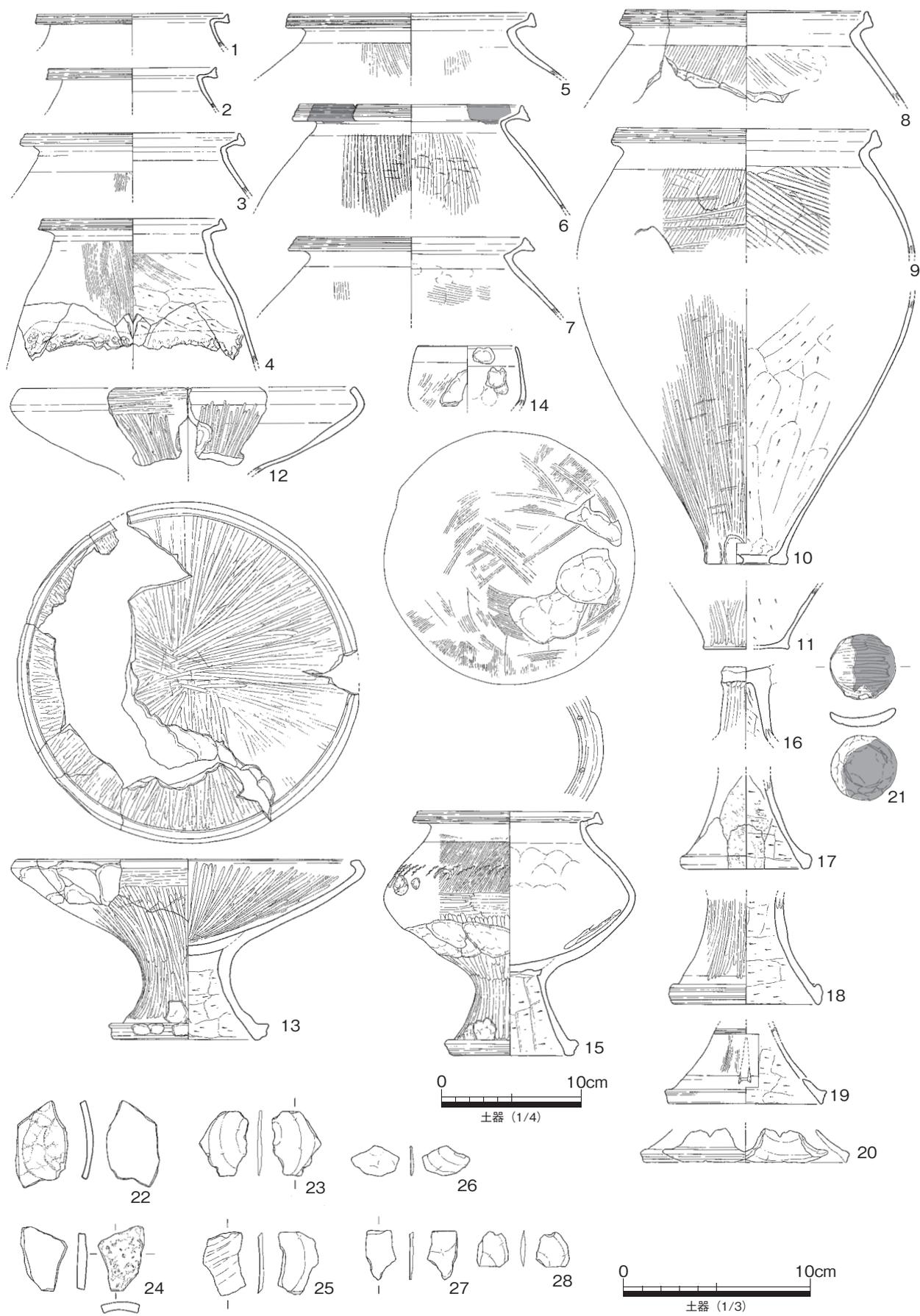


图 108 O 区 SD8001 出土遺物 (2)

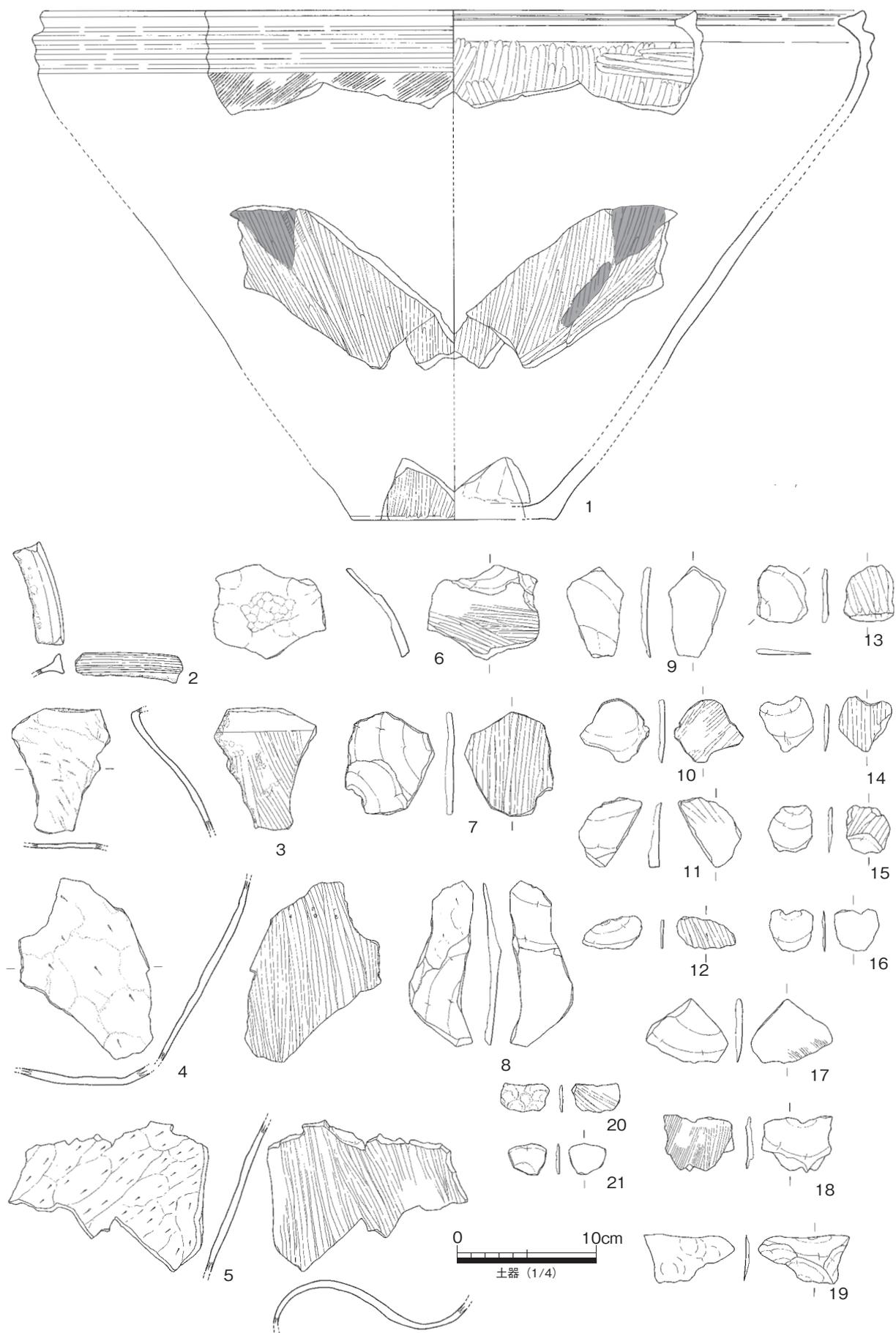


图 109 O区 SD8001 出土遺物 (3)

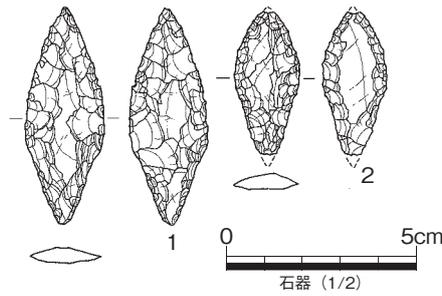


図 110 O区 SD8001 出土遺物 (4)

く含む点で共通しており、一括して埋め戻された可能性が高い。掘削当初から掘り直しを経た最終埋没までの期間に恒常的な流水状態を示す堆積状況は見られず、居住域内の区画あるいは住居周溝などを繋ぐ排水溝である可能性が高い。出土遺物の多くは掘り直し部分の土器溜りから出土しており、先に見た埋没状況からみて一括性の高い資料と評価することができる。

また、焼成破裂土器及び焼成破裂土器片、被熱変形土器が多く含まれていることや、埋め戻し土の中に焼土塊や炭化物が含まれることを合わせて考えると、土器焼成遺構が近接した位置にあり、それに伴う残滓を一括して廃棄したものと推定できる。また、本遺構周辺には、焼成破裂土器及び焼成破裂土器片が出土する遺構が集中しており、これらは弥生中期後半期における土器焼成を集中的に行うエリアの存在を示すものと考えられる。

図 107 から図 110 は出土遺物である。壺底部 (図 110-14.22) は破断面を越えて黒斑が広がり、破片化した状態で焼成を受けた資料と考えられる。壺胴部 (図 107-11) は、外面に鱗状の連続した焼成破裂痕が確認できる。広口壺 (図 107-7)、甕 (図 108-6)、大型鉢 (図 109-1) は、破片間で黒斑が途切れる資料であり、破片化したのち黒斑が生じた資料と考えられる。

甕 (図 108-4、図 109-2.3.4.5)、高杯脚 (図 108-17)、甕或いは壺胴部片 (図 108-22.24) は発泡土器であり、高杯脚 (図 108-17) は発泡した破片と通常の破片が接合し、甕 (図 109-4.5) は被熱による変形が著しい。高杯又は台付鉢の円盤充填部の破片 (図 108-21) は、擬口縁部を跨いで黒斑がみられる。図 108-23 ~ 28、図 109-7 ~ 19 は、焼成破裂土器片である。図 108-23.28 は両面が破裂面となるが、他の資料は内外

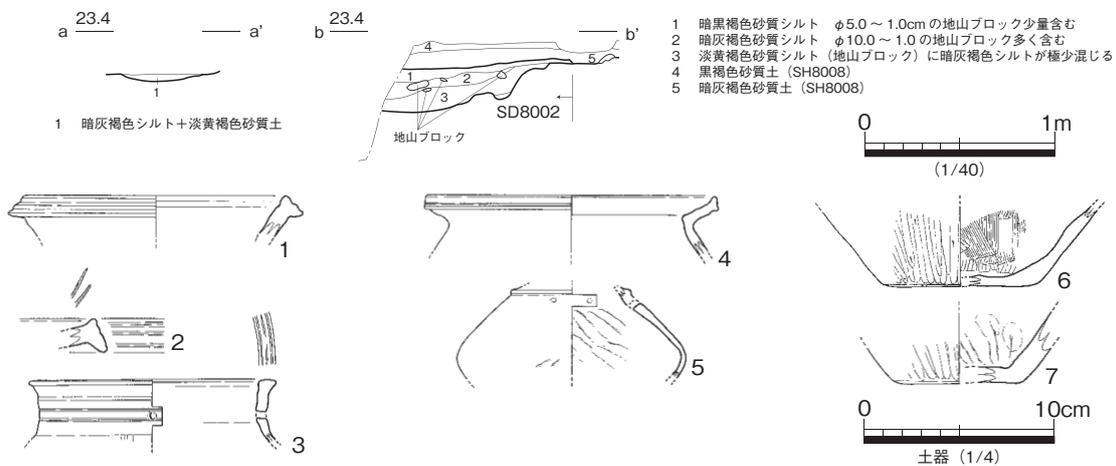


図 111 O区 SD8002 断面・出土遺物

面のどちらかが破裂面となる。いずれも、エッジが尖り、土器焼成時に薄く層状に破裂した様子が窺える。

これらの土器群は、弥生中期後半新段階に比定されるが、ほぼ全ての器種で土器焼成に関係した痕跡を留めており、本遺構周辺での土器生産は、ほぼ全ての器種に亘って行われていたと考えられる。

### O 区 SD8002 (図 111)

O 区北西部で検出した溝である。SH8008 を切り込み、北へ直線的に約 8m 延びた後、西へ 90° 屈曲する。攪乱坑によって分断されるため、SD8001 等の周辺の溝との連絡関係を掴むことが困難である。断面形及び深度は一様ではなく、北部の屈曲部分へ向かうにつれて深くなる。埋没土の様相からみて恒常的な流水は想定できない。90° 屈曲する平面形は、住居や掘立柱建物を避ける意図があったことや、建物に伴う雨落溝としての機能を想起させるものである。

図 111-1 ~ 7 は出土遺物であり、主に無頸壺 (図 111-3) の形態から、弥生中期後半新段階を下限とする時期に比定できる。

### T 区 SD1023 (図 112)

T 区南西部で検出した溝である。東西方向の延長約 3m に亘り検出しており、上面幅約 0.5m 残存深度約 0.1m を測る。周辺に位置する G 区 SD0009 や V 区 SD6005 に接続する可能性があるが、弥生後期以降の竪穴住居や攪乱坑の影響もあり確定はできない。北東端の平面形が北へ屈曲することから、周囲の同時期の建物に規制を受けていた可能性もあり、竪穴住居の周溝等建物に伴う小規模な溝と想定しておきたい。

出土遺物には、長頸壺口縁 (図 112-1) や広口壺口縁 (図 112-2) いずれも弥生中期後半期に納まるものである。

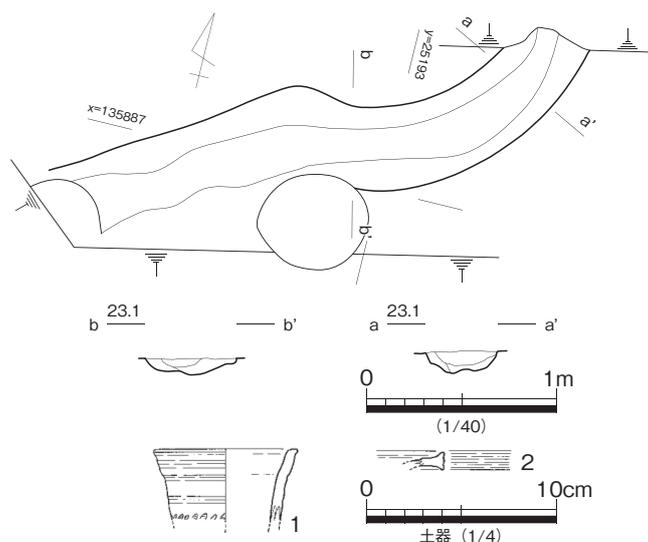


図 112 T 区 SD1023 平・断面・出土遺物

### U区 SD5005 (図 113)

U区南部のSH5011下層で検出した遺構である。溝としての略号を与えているが、形態から土坑と考えられる。長軸約3m短軸約1mの長楕円形を呈し、残存深度は約0.4m断面形はU字形を呈する。埋没土に基盤層の黄色粘土ブロックが多く含まれることから、掘削直後に埋め戻された可能性が高い。また、平面形が整わないことから、貯蔵穴とは想定し難く、機能は不明とせざるをえない。

図 113-1～7は本遺構からの出土遺物であり、埋没状況を考慮すれば一括資料として評価できる。これらの土器群の特徴から、本遺構は弥生中期後半新段階に帰属すると考えられる。高杯(図 113-6)は下方に拡張する脚端部をもち、外面に綾杉文を施すもので、備後地域からの搬入・模倣土器とみられる。

### V区 SD6005 (図 114)

V区西部の古墳中・後期の住居群の下位で検出した溝である。南東方向から北西方向に直線的に伸びる延長約7mに亘って検出しており、断面形はU字形あるいは逆台形を呈しており、埋没土は概ね上

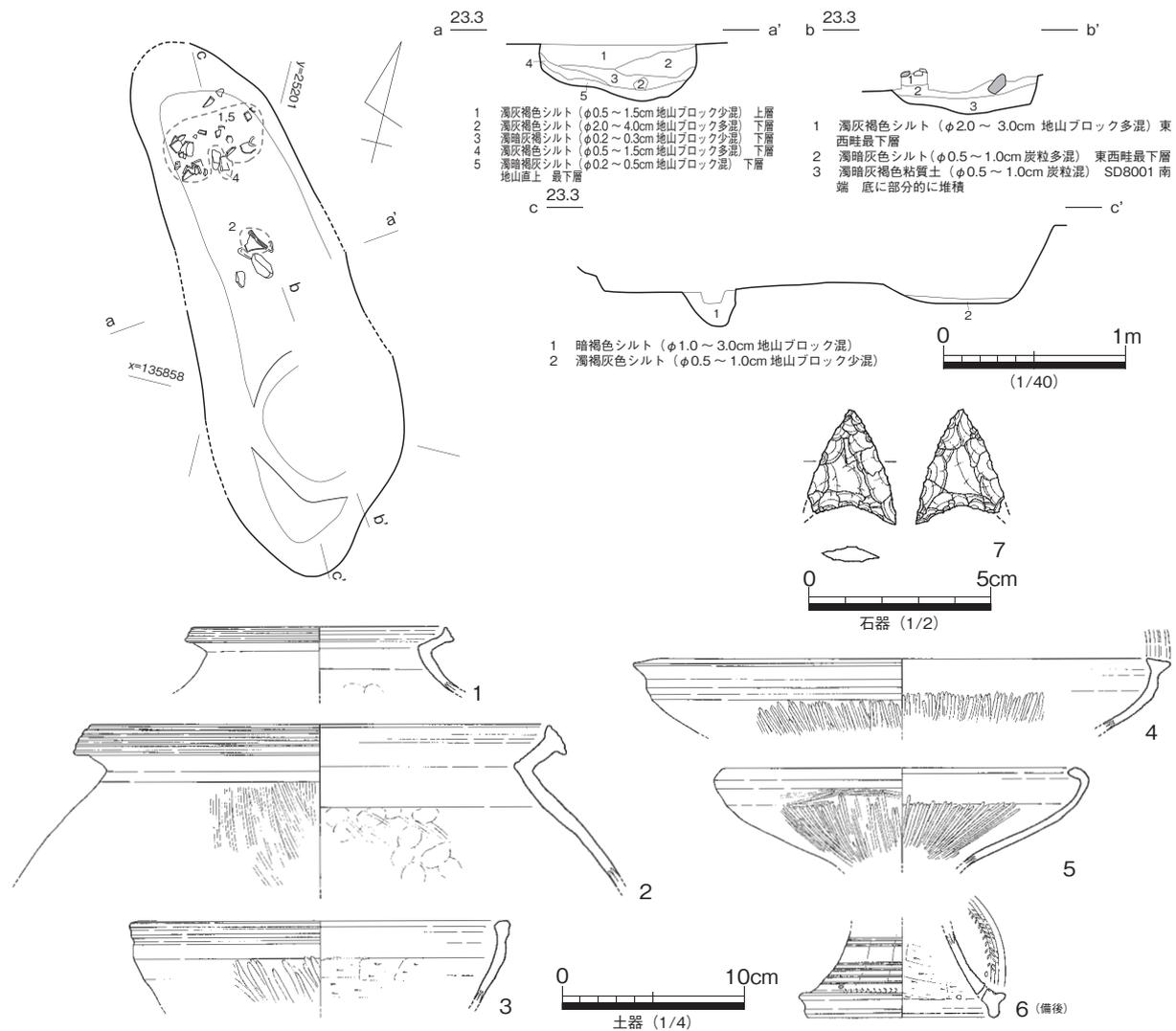


図 113 U区 SD5005 平・断面・出土遺物

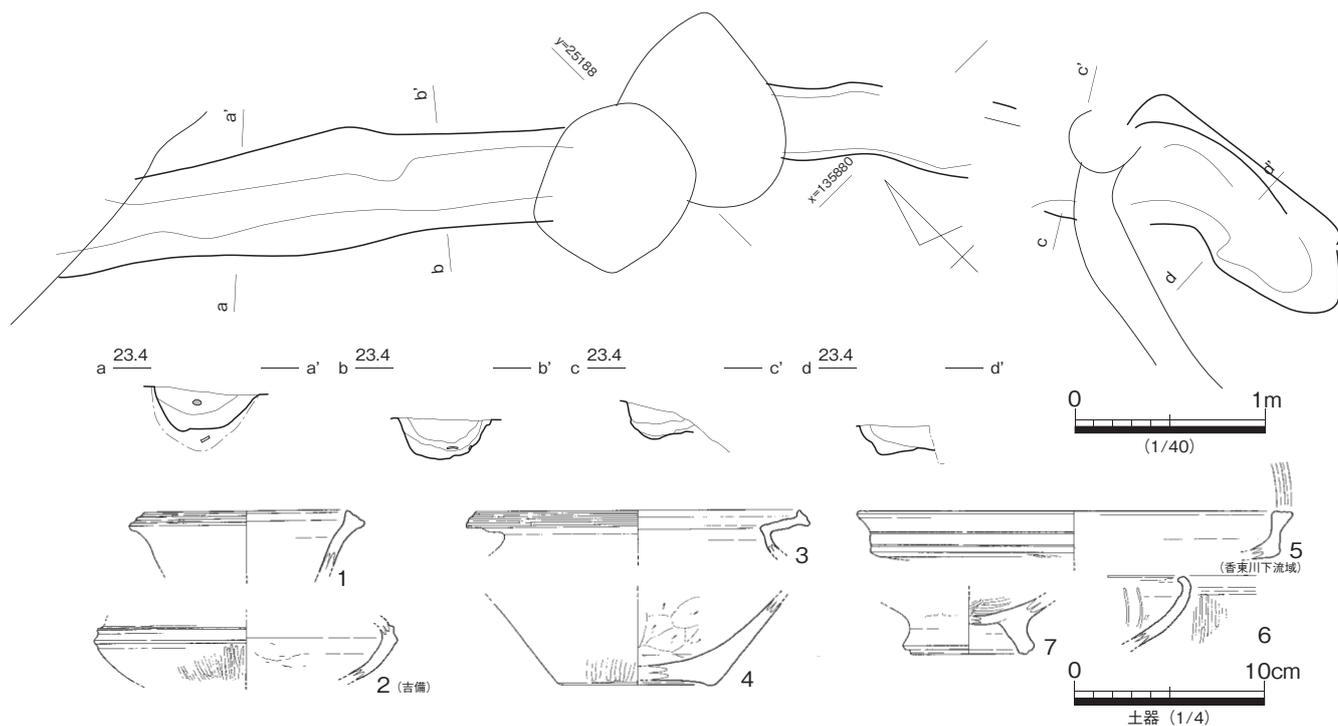


図 114 V区 SD6005 平・断面・出土遺物

下2層に分かれる。下層は細かな黄色粘土ブロック含む崩落・流入土であり、上層は黒褐色粘土ブロックから成る埋め戻し土である。後世遺構や攪乱坑に分断されるため、他の同時期の溝との連絡関係が不明であるが、埋め戻しの様相から流水状態が想定できないため、居住域内の建物に伴う溝である可能性が高い。

出土遺物の中で図 114.2.5 は弥生後期前半期まで下るとみられるが、他のものは弥生中期後半期のもので占められる。古相を示すものは掘開時期を示し、新相を示すものは埋め戻し等の最終埋没時期を示すものと考えたい。

### Z区 SD7001 (図 115)

Z区南西部で検出した溝であり、古墳中期末葉のSH7004に切られる。南西から北東方向へ向かう延長約2mのみ検出しており、上面幅約0.7m 残存深度約0.2mを測り、断面形は逆台形に近い。埋め戻しは黄色粘土ブロックを多く含む単一層に近く、一括して埋め戻された可能性が高い。延長方向など不明な点が多く残るが、竪穴住居の周溝等の機能をもつ可能性が高い。

出土遺物(図 115-1 ~ 12)は弥生中期後半中段階に位置付けられるものであり、埋没状況から当該期の一括資料と考えることができる。

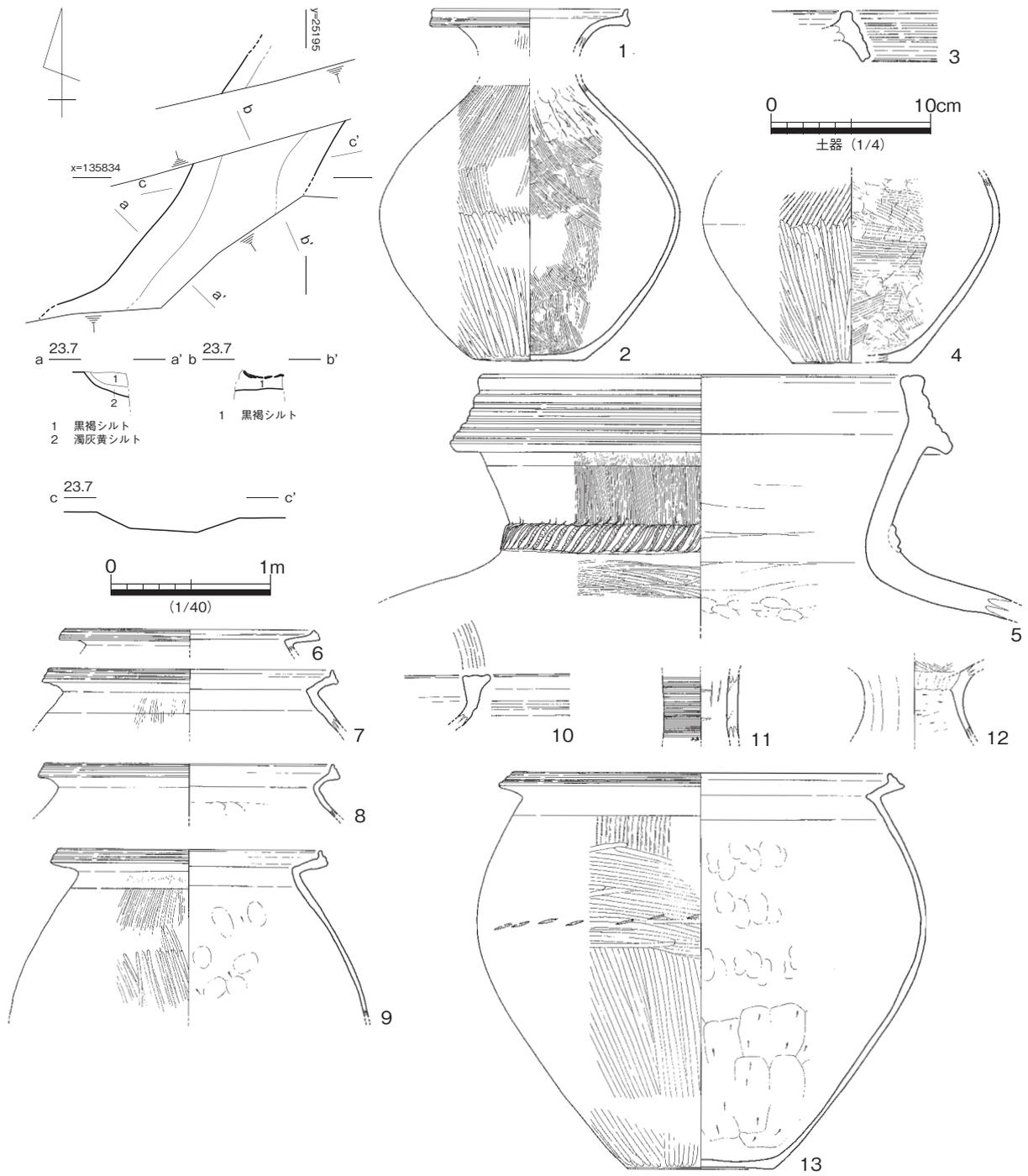


図115 Z区 SD7001 平・断面・出土遺物

#### 第4節 弥生後期前半期から古墳前期前半期の遺構・遺物

本節では、弥生後期前半期から古墳前期前半期の遺構・遺物を報告している。本節で紹介する遺構群は、竪穴住居を中心として形成されており、本遺跡において最も遺構・遺物が多く認められる時期となる。図116.117に示す本節の遺構全体図は、一見、竪穴住居が密集するようにみえるが、細別時期毎では分散した遺構分布を示す。後期前半期には、中期後半期にみられた掘立柱建物集中域や土器焼成等の機能分掌を背景とした単位は解体し、竪穴住居と掘立柱建物から構成される小単位は、S.T.U区を中心として穏やかに集合を始める。竪穴住居は直径約8mを超える大型円形住居と直径約5～6mの円形住居を基本として、掘立柱建物が付随する構成となる。また、掘立柱建物では、総柱建物(T区SB1114)や布掘建物(L区SB5007)が新たに出現するなど、前段階にみられない建物構成を採る。

後期後半期から終末期にかけては、円形と方形住居、多角形住居の三者が混在した状況を示すが、多角形住居の中には多数の張り出し部をもつ異系統(O区SH8005)住居や、8次調査地の終末期における大型方形住居の集中など、住居単位によっては異なる様相を示す。これらの住居群は、古墳前期前半期にも継続して営まれるが構築位置の移動が認められ、より分散して分布する状況となるが、続く古墳前期後半期には完全に消滅する。

注目される遺物には、弥生後期前半中段階を境として出現する、銅鏃がある。銅鏃の多くの個体は、古墳中期以降の遺構に混入した状態で確認されているが、時期が判明した個体数は弥生後期後半から終末期に多くみられる傾向がある。連鑄式の鑄放し状態を一部にとどめる資料(図336-1)も存在するものの、青銅器生産に関係した遺構・遺物は確認されていない。装身具では、ガラス小玉の出土量や希少品となるガラス製管玉、長さ約5.5cmの蛇紋岩大型勾玉など弥生後期前半期に集中してみられる状況がある。弥生終末期から古墳前期前半期には、舶載鏡片や小型倣製鏡片が出土するようになる。これらは竪穴住居の埋め戻しに伴い土器類とともに廃棄されており、本書において取り扱う22.23.25次調査区内において分布上の偏りはみられないものの、遺跡全体においては集中域として捉えても差し支えない状況にあるといえる。他地域からの搬入・模倣土器については、量的にみて19次調査のSR02上層溝に及ぶものではないが、弥生後期前半期に集中して出土する傾向は一致している。

以上の遺構と遺物の状況からは、一見、弥生中期後半期から継続するようにみえる居住遺構の形成も、弥生後期前半期にその構成や分布状態を違えており、大きな変化があったこと窺える。また、弥生後期前半期を境にした他地域からの搬入・模倣土器の流入や銅鏃の出現など、出土遺物の面でも大きな変化を指摘できる。

以下、主な遺構・遺物について、調査区・遺構種別毎に順次報告していくこととしたい。

##### G区SH0001(図118)

G区中央で確認した住居である。住居西側の輪郭は遺構検出が十分に行えず歪な方形となるが、炉跡(SP194)及び支柱穴の配置から、一辺が約3.5～4mの方形住居として復元した。4基の支柱穴の中央にSP194があり、焼土・炭化物を含む埋没土から、中央土坑と考える。南東隅の支柱穴SP165は、後世のSB0003と重複するため、平面形に乱れが生じているが、当初の形状が柱底面に残存している。

床面や炉内からの出土遺物の内、鉢(図118-12.18)の形態から、本住居は弥生終末期中段階の所産と推定しておく。



図 116 遺構配置 (弥生後期)

